

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

にしひらない

西平内I遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2017

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

西平内I遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して、平成26・27年度に発掘調査を行った九戸郡洋野町西平内I遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって、本遺跡からは縄文時代後期初頭から前葉にかけての大規模な配石遺構とその内側に列石が確認され、さらにそれらを覆う2枚の整地土の存在も明らかとなりました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成29年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野 洋樹

例 言

- 1 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内に所在する西平内 I 遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡番号は「IF48-0041」、遺跡略号は「NH I - 14・15」である。
- 4 野外調査・室内整理に関わる期間等は、以下のとおりである。

野外調査…期 間：平成26年6月2日～11月28日 対象面積：5,500㎡ 終了面積3,250㎡
平成27年4月20日～10月2日 終了面積：2,250㎡

担当者：平成26年度 濱田 宏、宮内勝巳、藤田崇志
平成27年度 濱田 宏、高木 晃、村上 拓、米田 寛、川村 均、藤田崇志、
南野龍太郎、中浜洋介、伊東 格

室内整理…期 間：平成26年10月1日～10月31日、12月1日～平成27年3月31日
平成27年11月1日～平成28年3月31日

担当者：平成26年度 濱田 宏、宮内勝巳
平成27年度 濱田 宏、川村 均、藤田崇志
- 5 報告書は、第 I 章を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、第 II 章以下を濱田が執筆した。本書の構成・編集は濱田・川村が行った。
- 6 野外調査時には青森県階上町、岩手県久慈市・洋野町の野外作業員、室内整理では当センターの期限付職員が諸作業に従事した。
- 7 試料の分析・鑑定は次の機関に依頼した。

放射性炭素年代測定 (AMS) …株式会社加速器分析研究所
石質鑑定…花崗岩研究会
ヒスイの成分分析…糸魚川市フォッサマグナミュージアム
- 8 調査および報告書作成にあたり、次の方々からご指導をいただいた(順不同・敬称略)。

小林達雄(國學院大学)、富樫泰時(秋田県在住)、小林克(秋田県埋蔵文化財センター)、菊池徹夫(早稲田大学)、岡村道雄(東京都在住)、山本暉久(昭和女子大学)、鈴木保彦(日本大学)、戸田哲也(株式会社玉川文化財研究所)、熊谷常正(盛岡大学)、高田和徳(御所野遺跡博物館) 成田滋彦・永瀬史人(ともに青森県埋蔵文化財調査センター)、関根達人・上條信彦(ともに弘前大学)、古谷涉(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)、植田真・秋本雅彦(株式会社パスコ)、山田しょう(株式会社加速器分析研究所)、長内和則(岩手県久慈市在住)、中澤秀男(岩手県一関市在住)、井上雅孝(滝沢市教育委員会)、小保内裕之(八戸市博物館)、千田政博(洋野町教育委員会)、中澤秀男(一関市在住)。
- 9 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 2カ年の調査成果は、それぞれ当センターホームページ、現地説明会資料、概報に公表しているが、記載が異なる場合は本書の報告がすべてに優先する。

凡 例

- 1 遺構図の縮尺は1/40を原則としたが、焼土遺構および埋設土器は1/20、陥し穴状遺構は1/60で掲載した。これに依らないものについては、それぞれにスケール等を示している。
- 2 層位の表記は、基本層序にローマ数字を、遺構の埋土に算用数字を用いた。
- 3 遺構図版中の石器は「S」と表記した。
- 4 遺物図は、土器と石器のうち礫石器が1/3、土製品・制片石器・石製品が1/2、石皿などの大形の礫石器は1/4および1/5の縮尺で掲載した。
- 5 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に基づいている。
- 6 国土地理院発行の地形図は、図中に図幅名と縮尺を付して掲載した。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	2
1	周辺の地形	2
2	地質	2
3	基本層序	2
4	周辺の遺跡	4
III	野外調査と室内整理の方法	8
1	野外調査	8
(1)	グリッドの設定	8
(2)	試掘・表土除去	8
(3)	遺構の検出と精査	8
(4)	写真撮影	8
(5)	調査経過	9
2	室内整理	10
(1)	作業経過	10
(2)	遺物整理の方法	10
(3)	遺構図面の整理	10
(4)	写真撮影と整理	10
IV	検出遺構と出土遺物	11
1	検出遺構	11
(1)	竪穴住居跡	11
(2)	竪穴状遺構	13
(3)	土坑	13
(4)	陥し穴状遺構	21
(5)	炉跡	24
(6)	焼土遺構	26
(7)	埋設土器	28
(8)	掘立柱建物跡と柱穴	29
(9)	配石遺構	30
(10)	整地層	49
2	出土遺物	50

V	自然科学分析	185
1	平成26年度西平内I遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	185
2	平成27年度西平内I遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	191
3	ヒスイ製垂飾品の鑑定結果	195
VI	総括	198
1	調査経過のまとめ	198
2	各種遺物の出土状況	198
3	配石遺構群構成礫の石質	199
4	遺構の重複関係とその内容	203
	報告書抄録	295

表目次

第1表	周辺の縄文時代後期の遺跡	6	第4表	土製品観察表	180
第2表	柱穴状土坑一覧表	50	第5表	石器・石製品観察表	182
第3表	土器観察表	174			

図版目次

第1図	遺跡位置図	1	第19図	25～27号土坑	65
第2図	周辺の地形区分図	3	第20図	28～30号土坑	66
第3図	土層概念図	3	第21図	31～34号土坑	67
第4図	周辺の遺跡	5	第22図	35～37号土坑	68
第5図	グリッド配置図	7	第23図	1～3号陥し穴状遺構	69
第6図	1号堅穴住居跡	52	第24図	4・5号陥し穴状遺構	70
第7図	2号堅穴住居跡	53	第25図	6・7号陥し穴状遺構	71
第8図	3号堅穴住居跡	54	第26図	8～10号陥し穴状遺構	72
第9図	4号堅穴住居跡	55	第27図	11～13号陥し穴状遺構	73
第10図	5号堅穴住居跡	56	第28図	14～16号陥し穴状遺構	74
第11図	1号堅穴状遺構	57	第29図	1～3号炉跡	75
第12図	1～4号土坑	58	第30図	4・5号炉跡	76
第13図	5～8号土坑	59	第31図	6～8号炉跡	77
第14図	9～11号土坑	60	第32図	9・10号炉跡	78
第15図	12～14号土坑	61	第33図	1～4号焼土遺構	79
第16図	15～18号土坑	62	第34図	5～8号焼土遺構	80
第17図	19～21号土坑	63	第35図	9～12号焼土遺構	81
第18図	22～24号土坑	64	第36図	13・14号焼土遺構	82

第37図	1～4号埋設土器	83	第84図	出土遺物(8)	130
第38図	1・2号掘立柱建物跡	84	第85図	出土遺物(9)	131
第39図	3・4号掘立柱建物跡	85	第86図	出土遺物(10)	132
第40図	5号掘立柱建物跡	86	第87図	出土遺物(11)	133
第41図	柱穴位置図	87	第88図	出土遺物(12)	134
第42図	1・2号集石	88	第89図	出土遺物(13)	135
第43図	3・4号集石	89	第90図	出土遺物(14)	136
第44図	5・6号集石	90	第91図	出土遺物(15)	137
第45図	7号集石	91	第92図	出土遺物(16)	138
第46図	8・9号集石	92	第93図	出土遺物(17)	139
第47図	10・11号集石	93	第94図	出土遺物(18)	140
第48図	12・13号集石	94	第95図	出土遺物(19)	141
第49図	14・15号集石	95	第96図	出土遺物(20)	142
第50図	16・17号集石	96	第97図	出土遺物(21)	143
第51図	18・19号集石	97	第98図	出土遺物(22)	144
第52図	20・21号集石	98	第99図	出土遺物(23)	145
第53図	22・23号集石	99	第100図	出土遺物(24)	146
第54図	24・25号集石	100	第101図	出土遺物(25)	147
第55図	26・27-1・2号集石	101	第102図	出土遺物(26)	148
第56図	28・29号集石	102	第103図	出土遺物(27)	149
第57図	30・31号集石	103	第104図	出土遺物(28)	150
第58図	32・33-1・2号集石	104	第105図	出土遺物(29)	151
第59図	34・35号集石	105	第106図	出土遺物(30)	152
第60図	36-1・2号集石	106	第107図	出土遺物(31)	153
第61図	37・38号集石	107	第108図	出土遺物(32)	154
第62図	39・40号集石	108	第109図	出土遺物(33)	155
第63図	41・42号集石	109	第110図	出土遺物(34)	156
第64図	43・44号集石	110	第111図	出土遺物(35)	157
第65図	45・46号集石	111	第112図	出土遺物(36)	158
第66図	47・48号集石	112	第113図	出土遺物(37)	159
第67図	49・50号集石	113	第114図	出土遺物(38)	160
第68図	51～53号集石	114	第115図	出土遺物(39)	161
第69図	54・55号集石	115	第116図	出土遺物(40)	162
第70図	56・57号集石	116	第117図	出土遺物(41)	163
第71図	58号集石(1)	117	第118図	出土遺物(42)	164
第72図	58号集石(2)・59号集石	118	第119図	出土遺物(43)	165
第73図	内帯の石列	119	第120図	出土遺物(44)	166
第74図	整地層断面図A・C	120	第121図	出土遺物(45)	167
第75図	整地層断面図B	121	第122図	出土遺物(46)	168
第76図	整地層断面図D	122	第123図	出土遺物(47)	169
第77図	出土遺物(1)	123	第124図	出土遺物(48)	170
第78図	出土遺物(2)	124	第125図	出土遺物(49)	171
第79図	出土遺物(3)	125	第126図	出土遺物(50)	172
第80図	出土遺物(4)	126	第127図	出土遺物(51)	173
第81図	出土遺物(5)	127	第128図	遺物毎の出土分布(1)	200
第82図	出土遺物(6)	128	第129図	遺物毎の出土分布(2)	201
第83図	出土遺物(7)	129	第130図	遺物毎の出土分布(3)	202

写真図版目次

写真図版1	平成26年度調査 航空写真……………209	写真図版38	1～4号集石……………246
写真図版2	調査区近景……………210	写真図版39	5～7号集石……………247
写真図版3	基本層序・整地層の堆積(1)……………211	写真図版40	8～10号集石・作業風景……………248
写真図版4	整地層の堆積(2)……………212	写真図版41	11～13号集石……………249
写真図版5	1～4号土坑……………213	写真図版42	14～17号集石……………250
写真図版6	5～8号土坑……………214	写真図版43	18～22号集石・作業風景……………251
写真図版7	9～12号土坑……………215	写真図版44	23～26号集石・作業風景……………252
写真図版8	1～4号陥し穴状遺構……………216	写真図版45	27～30号集石……………253
写真図版9	5～8号陥し穴状遺構……………217	写真図版46	31～34号集石……………254
写真図版10	9～12号陥し穴状遺構……………218	写真図版47	35～38号集石・作業風景……………255
写真図版11	13～16号陥し穴状遺構……………219	写真図版48	39～42号集石・実測作業……………256
写真図版12	1号埋設土器、 1～3号焼土遺構……………220	写真図版49	43～45号集石……………257
写真図版13	4～7号焼土遺構……………221	写真図版50	46～49号集石……………258
写真図版14	平成27年度調査 調査区近景……………222	写真図版51	50～54号集石・現地説明会……………259
写真図版15	内帯全景・外帯の状況ほか……………223	写真図版52	55～58号集石……………260
写真図版16	1号竪穴住居跡……………224	写真図版53	59号集石・遺物出土状況……………261
写真図版17	2号竪穴住居跡……………225	写真図版54	出土遺物(1)……………262
写真図版18	3号竪穴住居跡……………226	写真図版55	出土遺物(2)……………263
写真図版19	4号竪穴住居跡……………227	写真図版56	出土遺物(3)……………264
写真図版20	5号竪穴住居跡・作業風景……………228	写真図版57	出土遺物(4)……………265
写真図版21	1号竪穴状遺構・作業風景……………229	写真図版58	出土遺物(5)……………266
写真図版22	13～16号土坑……………230	写真図版59	出土遺物(6)……………267
写真図版23	17～20号土坑……………231	写真図版60	出土遺物(7)……………268
写真図版24	21・22号土坑・作業風景……………232	写真図版61	出土遺物(8)……………269
写真図版25	23～26号土坑……………233	写真図版62	出土遺物(9)……………270
写真図版26	27～30号土坑……………234	写真図版63	出土遺物(10)……………271
写真図版27	31～34号土坑……………235	写真図版64	出土遺物(11)……………272
写真図版28	35～37号土坑、1・2号炉跡……………236	写真図版65	出土遺物(12)……………273
写真図版29	3～6号炉跡……………237	写真図版66	出土遺物(13)……………274
写真図版30	7～10号炉跡・作業風景……………238	写真図版67	出土遺物(14)……………275
写真図版31	8～11号焼土遺構……………239	写真図版68	出土遺物(15)……………276
写真図版32	12～14号焼土遺構、 2号埋設土器……………240	写真図版69	出土遺物(16)……………277
写真図版33	3・4号埋設土器・ 調査区からの眺望……………241	写真図版70	出土遺物(17)……………278
写真図版34	1・2号掘立柱建物跡……………242	写真図版71	出土遺物(18)……………279
写真図版35	2号掘立柱建物跡・現地公開……………243	写真図版72	出土遺物(19)……………280
写真図版36	3号掘立柱建物跡……………244	写真図版73	出土遺物(20)……………281
写真図版37	4号掘立柱建物跡……………245	写真図版74	出土遺物(21)……………282
		写真図版75	出土遺物(22)……………283
		写真図版76	出土遺物(23)……………284
		写真図版77	出土遺物(24)……………285

写真図版78	出土遺物 (25)	286	写真図版83	出土遺物 (30)	291
写真図版79	出土遺物 (26)	287	写真図版84	出土遺物 (31)	292
写真図版80	出土遺物 (27)	288	写真図版85	出土遺物 (32)	293
写真図版81	出土遺物 (28)	289	写真図版86	出土遺物 (33)	294
写真図版82	出土遺物 (29)	290				

I 調査に至る経過

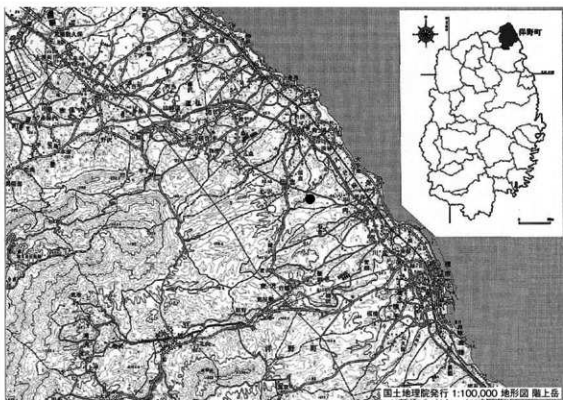
西平内I遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業(洋野～階上)の事業区域内に存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年2月6日付け国東整陸一調第1027号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年2月13日に試掘調査を行い、平成25年3月22日付け教生第1776号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成26年は4月1日付け、平成27年は4月10日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)



第1図 遺跡位置図

II 遺跡の立地と環境

1 周辺の地形（第2図）

九戸郡洋野町は岩手県北沿岸、青森県境に位置し、北は青森県階上町、南は久慈市、西は九戸郡軽米町・九戸村などの市町村、東は太平洋に面している。西平内I遺跡は、最寄りの太平洋岸からおよそ2km、青森県境からも同程度の距離をもつ北向きの丘陵上に立地する。

従来この地域の段丘・丘陵は、高位から九戸段丘、白前段丘、種市段丘、玉川段丘に分けられてきたが、松山力氏は種市段丘を種市段丘と川尻段丘に細分（松山：2004）し、その後更にこの川尻段丘を白前段丘の低位面に組み入れ、高位の白前段丘とともに白前段丘として区分し直している（松山：2013）。

本遺跡は、遺跡の西側を北流する渋谷川と20mほどの比高をもち、白前段丘高位面から低位の川尻段丘にかけて広がる。今回の調査範囲における標高は61.4～63.2mで、配石遺構群北側の調査区域外は北向きの広い緩斜面となる。また、調査区西側は段丘崖の急傾斜面となっており、遺跡範囲は確実に渋谷川で区切られている。

2 地 質

洋野町（旧種市町）の地質は、町東側のJR八戸線と海岸線の間を除き花崗閃緑岩で占められ、それ以外の上述した地区は、角浜から渋谷川河口付近までがデイサイト～流紋岩質溶岩や火山砕屑岩、その地域から有家川河口付近までは礫岩や凝灰岩を伴う砂岩（種市層）を基盤とする。これら基盤岩上には、段丘堆積物の砂礫層・砂層・泥層などがのり、さらにこの上を火山灰や軽石起源の褐色火山灰層群と黒色土（クロボク）が覆う。

褐色火山灰層群は、下位から九戸火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層の3つに区分される。九戸火山灰層は、旧種市町域では2m以上の厚さをもつが、軽石層の分布や層序は明らかでない。高館火山灰は、後期更新世の火山砕屑物などから構成された地層で、主に十和田火山起源のものから構成される。

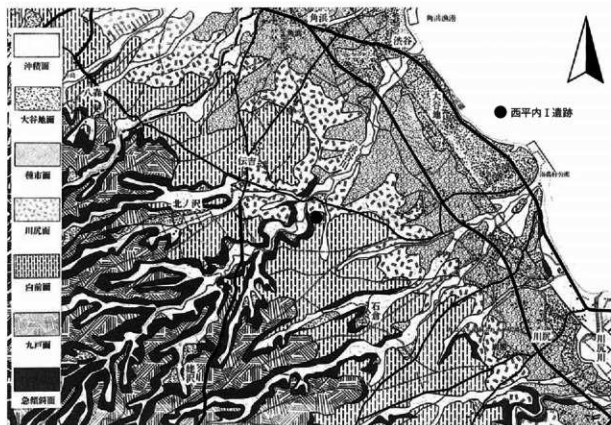
八戸火山灰層は、火山砕屑物層とその上の火砕流堆積物の2つから構成され、従来12,000～13,000年前に噴出した火山砕屑層と言われてきたが、最近では約15,000年前とされる。青森県南東部では、火山灰層と軽石層が互層となり、下位から6層に区分されるが本遺跡での対比は出来ていない。

岩手県北から青森県南東部にかけたの完新世火山砕屑物の状況については、下位から南部軽石層、小国軽石層、中振軽石層、十和田b降下火山灰層、十和田a降下火山灰層などの十和田火山起源のものと、それより新しい苫小牧火山灰層（従来白頭山苫小牧と言われたもの）がある。

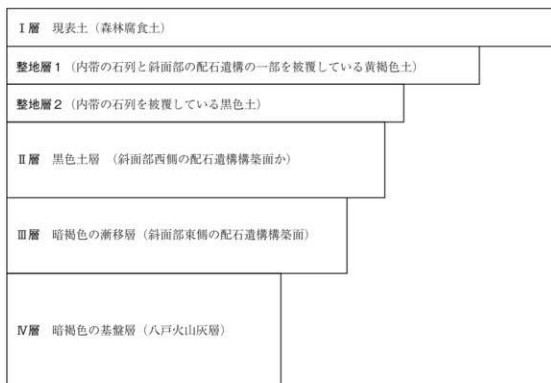
3 基本層序（第3図）

調査前の調査区の状況は、昭和に入り植林された杉林と雑木の生い茂る山林で、地権者によると地形を大きく変えるような土地造成は行っていないとのことである。

小さな尾根状をなす当初の調査区中央部と東側ないし南端付近では、整地層の有無により若干層位に違いがあるが、概ね以下のような層序をなしている。なお、整地層1・2は、基本層序IとIIの間で介在し、上に間層を挟んでいない。



第2図 周辺の地形区分図



第3図 土層概念図

第Ⅰ層：10YR2/3	黒褐色	シルト	現表土及び森林腐食土で層厚15～20cm。
(整地層1：10YR4/4)	褐色	粘土質シルト)	
(整地層2：10YR3/2)	黒褐色	粘土質シルト	これを基調とするが上面は黄褐色との混合土に見える)
第Ⅱ層：10YR2/1	黒色	シルト	橙色の火山噴出物を全体的に含む。層厚20～25cm。
第Ⅲ層：10YR3/3	暗褐色	シルト	漸移層で層厚10～20cm。本層上面が配石遺構構築面。
第Ⅳ層：10YR3/4	暗褐色	シルト	八戸火山灰層で層厚は50cm以上。

整地層1については、第Ⅳ層以下のいわゆる浮石粒を含む地山(暗褐色土)とは異なり、まったくそれを含まないという点から、人手により持ち込まれた土壌と解釈した。また、整地層2は、第Ⅱ層の黒褐色土が平らに造成され、その部分が整地された土壌のように見えている可能性があるが、調査時には判断をつけられなかった。

4 周辺の遺跡(第4図・第1表)

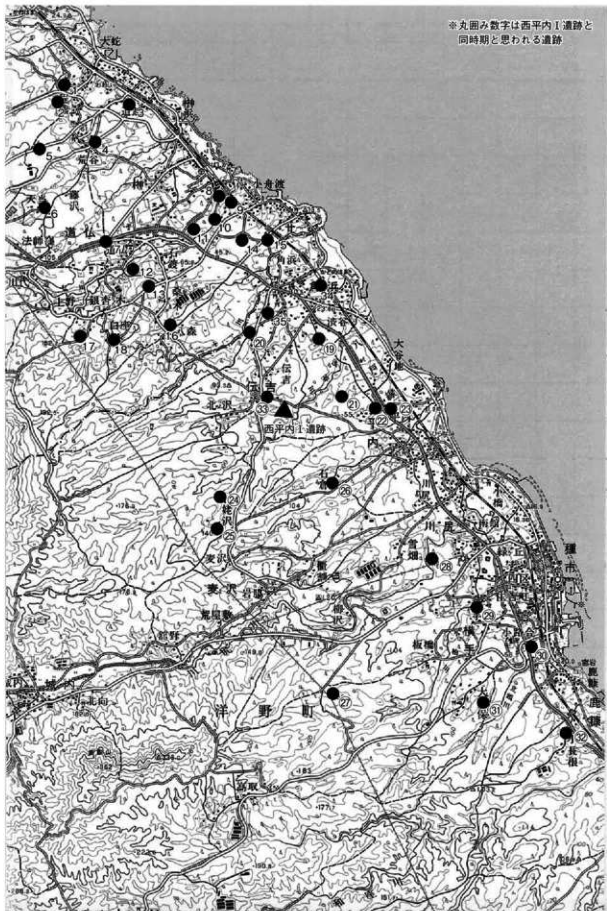
平成27年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録される洋野町内の遺跡は207箇所、平成16年度には、現洋野町教育委員会により角浜・伝吉・平内・麦沢(姥沢)地区を対象とした詳細分布調査が行われ、その際に43箇所もの遺跡が追加登録された。それ以後、町内をいくつかの地区に分け分布調査を実施する予定だったが、実施されていない。この中では特に、旧大野町に未発見の遺跡が多く存在するものと考えられている。以下、時代毎に町内の遺跡について記載する。

旧石器時代では、鉄山遺跡・有家遺跡が紹介され、いずれからも石刃・剥片が出土しているという。ともに高館火山灰層から出土したと言われる。

縄文時代の遺跡は143箇所を数えるが、草創期のものは確認されていない。早期には大平遺跡・ゴッソー遺跡・大宮Ⅰ遺跡などがあり、当埋蔵文化財センターが調査したゴッソー遺跡からは日計式・寺の沢式土器の他、魚骨回転文を有するものも出土している。また、当時岩手大学の草間教授によって調査された大宮遺跡からは貝殻土器が多く出土し、中でも貝殻文が施文される尖底土器が復元されたことは大きな成果とされた。前期では、上のマッカ・平内Ⅰ・藤好沢などの他、上述のゴッソー遺跡からは前期初頭の遺物が多く出土した。中期では、千敷平・北ノ沢Ⅰなどが挙げられる。

本遺跡と同時期となる後期の遺跡は、平内Ⅱ・たけの子・上岡谷・長坂・上のマッカ・石倉・上水沢Ⅱなどの遺跡があり、当センターが調査した上水沢Ⅱ遺跡からは後期中葉を主体とする住居跡が1棟見つかった。本遺跡の周辺2km圏内において後期の遺物が採取できる遺跡には、田ノ端(後期前葉?)・笹花Ⅱ(後期初～前葉)・伝吉Ⅰ(後期前葉)・平内Ⅱ(後期前葉)・北平内Ⅴ(?)・姥沢Ⅰ(後期初～前葉)・姥沢Ⅲ(後期前～中葉)など7遺跡がある。晩期では、たけの子・大平・戸類家などがあり、中でもたけの子遺跡は町内を代表する晩期の遺跡として有名である。また、戸類家遺跡は、昭和32年当時慶応大学の江坂教授によって発掘調査された遺跡である。

弥生時代の遺跡では、上水沢Ⅱ遺跡からは弥生時代後期の住居跡1棟が見つかっており、この他に荒巻・大平・大宮Ⅰ・大宮Ⅱ遺跡などある。洋野町内の貝塚としては、ホッキリ貝塚・八木貝塚・小子内貝塚・黒マッカ貝塚の4遺跡があり、また製塩関連と目されるものには、4遺跡に加えゴッソー・たけの子遺跡などが挙げられよう。また、古代の製塩遺跡として、二十一平遺跡からは製塩土器とともに土製支脚片が多く出土しており、一連の作業場であったことを窺わせる。



第4図 周辺の遺跡（縄文時代後期の遺跡）

4 周辺の遺跡

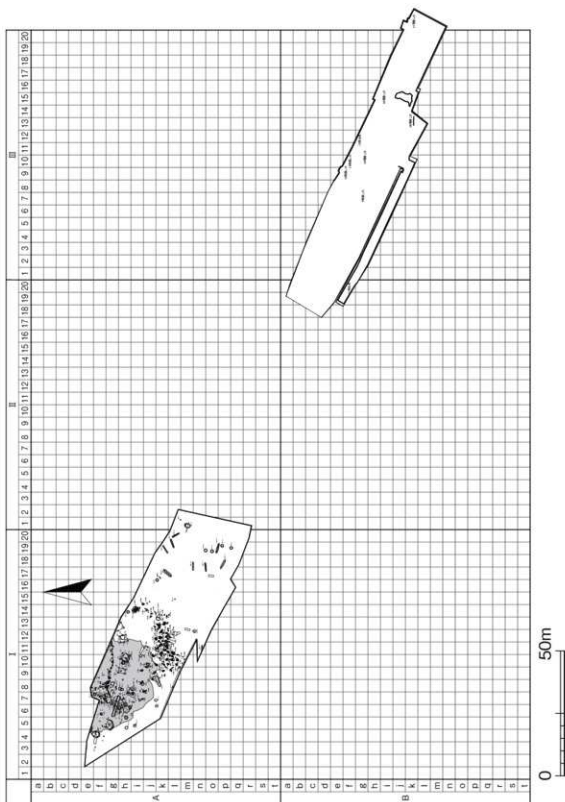
古墳時代以降については、「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集に詳しいので参照されたい。

洋野町の北側には青森県階上町が隣接するが、若干こちらの遺跡の状況について触れておく。

なお、縄文時代後期の祭祀に関わるであろう本遺跡の性格・内容から、周辺における同時期の遺跡について、第4図・第1表に掲載した(洋野町教育委員会提供)。洋野町内に限らず青森県階上町内の遺跡も加えたが、丸囲み数字は後期初頭から前葉の遺物が出土している遺跡を示している。近年、当センターが実施したこの地区の復興調査では、当該期の遺跡が複数確認されているが、サンニヤⅠ遺跡からは「コ」の字形に組まれた石囲炉が設置される後期初頭の堅穴住居3棟が確認されており、本遺跡との関連が強く窺われる。また、平成26年の階上町下天摩遺跡の発掘調査では、本遺跡の事例よりも小規模ではあるが、海側に向く尾根の緩斜面から同時期の集石遺構が7基確認されており、同種の遺構が検出された遺跡として注目されよう。

第1表 周辺の縄文時代後期の遺跡

No	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	446010	碧熊(2)	ほどくまかっこに	散布地	縄文(前・後)	階上町	
2	446009	碧熊(1)	ほどくまかっこいち	散布地	縄文(前・後)	階上町	
3	446070	浜久保(2)	はまくはかっこに	散布地	縄文(後)	階上町	
4	446027	浜久保(1)	はまくはかっこいち	散布地	縄文(早・前・後)	階上町	
5	446075	荒谷	あらか	散布地	縄文(後)	階上町	
6	446083	藤沢(1)	ふじさわかっこいち	散布地	縄文(早・前・後)	階上町	
7	446078	道仏龍機	どうぶつかぬか	散布地	縄文(前・後・晩)	階上町	
8	446025	柳山	さききやま	散布地	縄文(後・晩)	階上町	
9	446014	鹿蔵窪(2)	かくらくぼかっこに	散布地	縄文(後)	階上町	
10	446013	鹿蔵窪(1)	かくらくぼかっこいち	散布地	縄文(後・晩)	階上町	
11	446019	横沢	よこさわ	散布地	縄文(中・後)	階上町	
12	446088	大草里窪	おおぐらうりくぼ	散布地	縄文(中・後)	階上町	
13	446081	下天摩	しもてんま	散布地	縄文(後・晩)	階上町	H26調査
14	446004	泉田窪(2)	いずみたくぼかっこに	散布地	縄文(後)	階上町	
15	446003	泉田窪(1)	いずみたくぼかっこいち	散布地	縄文(早・前・後)	階上町	
16	446089	下平窪	したたいくぼ	散布地	縄文(中・後)	階上町	
17	446068	上野前	うえのまえ	散布地	縄文(後)	階上町	
18	446021	白崖	はくざ	集落跡	縄文(早・前・中・後)	階上町	
19	IF38-2053	世花Ⅱ	さきはなに	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新視
20	IF37-2343	田ノ福	たのふた	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新視
21	IF48-0017	平内Ⅱ	ひらなにい	散布地	縄文土器(中期末～後前期前葉)	洋野町	H11-13・H23-25調査
22	IF48-0110	北平内V	きたひらないご	散布地	縄文土器(後・晩期)	洋野町	H23新視
23	IF48-0121	北平内IV	きたひらないよん	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新視
24	IF47-1360	総沢Ⅲ	うばさわさん	散布地	縄文土器(前・後期)	洋野町	H23新視
25	IF47-1390	総沢Ⅰ	うばさわいち	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H23新視
26	IF48-1025	石倉	いしくら	集落跡	縄文土器(後期)	洋野町	
27	IF58-1006	たけの子	たけのこ	散布地	縄文土器(後・晩期)	洋野町	
28	IF48-2128	サンニヤⅠ	さんにいやいち	散布地	縄文土器(後期)	洋野町	H27・28調査
29	IF48-2283	トチの木	とちのき	散布地	縄文土器(後・晩期)	洋野町	
30	IF58-0341	ゴッソー	ごっそー	集落跡	縄文土器(早～晩期)	洋野町	F8・12調査
31	IF58-1305	大久保	おおくぼ	散布地	縄文土器(前・後・晩期)	洋野町	
32	IF58-1354	鹿糠浜Ⅱ	かぬかまに	集落跡	縄文土器(後期)	洋野町	H25新視
33	IF37-2386	伝吉Ⅰ	でんきちいち	散布地	縄文土器(早・前・後期)	洋野町	H23縄文変更



第5図 グリッド配置図

Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

1 野 外 調 査

(1) グリッドの設定

調査では、3級基準点2点と区画付杭4点の打設（世界測地系）を測量業者に委託し、その成果を使用した。以下に成果値を記載する。

基準点1	X = 47,781.729m	Y = 71,792.544m	H = 62.228m
基準点2	X = 47,750.172m	Y = 71,860.005m	H = 62.148m
付 杭 1	X = 47,790.000m	Y = 71,800.000m	H = 62.736m
付 杭 2	X = 47,780.000m	Y = 71,820.000m	H = 62.977m
付 杭 3	X = 47,780.000m	Y = 71,840.000m	H = 63.118m
付 杭 4	X = 47,750.000m	Y = 71,840.000m	H = 61.415m

(2) 試掘・表土除去

調査は、県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘調査結果に基づいて、その箇所をあらためて人力で掘削し、遺構が検出される層位や土層の堆積状況を観察した。その後、試掘トレンチを新設し、遺構の分布状況を確認した。その後の表土除去については、大まかには重機を稼働して行い、部分的には人手も用いながら進めた。

(3) 遺構の検出と精査

今回の調査における遺構検出作業だが、配石遺構と整地層に関する区域では、表土直下の造成土である整地層1（黄褐色土）、その下の整地層2（黒色土）、その下層に基本層序第Ⅲ層の暗褐色土、基盤層である第Ⅳ層暗褐色土の各上面で都合4回実施した。また、それ以外の整地層1・2が認められない地点では、第Ⅲ層下位もしくは第Ⅳ層上面で1回行い、この箇所では土坑や土墳墓、陥し穴状遺構などが検出された。

遺構の精査は、二分法・四分法を使い分けたが、陥し穴状遺構については、土層断面を横断面で、遺構の縦方向はエレベーション図を作製した。個々の遺構は、堆積状況を観察後に遺構の全景を撮影し土層断面図は人手によって、平面図は電子平板で作製した。

なお、配石遺構については、対象となる遺構にポイントを入れて写真を撮影し、その後電子平板でその座標を計測、写真上で重ね合わせてデジタルトレースを行った。撮影の際は、礫の稜線を白チョークで描き、明瞭に写るよう心がけた。

(4) 写 真 撮 影

野外調査時の写真撮影には、平成26年度は6×7判モノクロームフィルムカメラ1台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D）1台を、平成27年度にはマミヤ645なども使用した。撮影では、日付や遺構名、方角などを記したカードを写し込み、室内整理時の作業に活用した。

なお、平成26年7月17日（木）にはセスナ機による航空写真撮影を、同年8月8日の現地説明会の

際には、無人撮影機ドローンによる当センターホームページ掲載用の空中写真撮影を行った。

(5) 調査経過

平成26年6月2日(月) プレハブ・駐車場用地の整地工事を行い、調査開始。次週9日(月)より作業員稼働。

- 6月9日(月) 登録作業員33名で資材を搬入。
- 6月11日(水) 重機による表土掘削作業と環境整備を実施。
- 6月11日(水) 基準点設置作業開始(株式会社ダイヤ)
- 7月17日(木) 空中写真撮影実施(東邦航空)
- 8月8日(金) 現地説明会開催(午前11時から)参加者約80名。
- 9月2日(火) 東日本大震災復旧作業労災防止センター所長小林豊氏による安全衛生教育受講(於:洋野町役場の一施設)
- 9月3日(水) 登録作業員20名に減る。
- 9月17日(水) 調査区域外の工事施工箇所にて陥し穴状遺構2基確認。試掘調査を行うこととなる。
- 9月24日(木) 試掘調査実施。
- 9月26日(金) 事業地内に工事が入ることから、プレハブ・駐車場用地を平内駅隣接地に移設する。
- 10月2日(木) 調査面積の増加について委託者・県生涯学習文化課・埋蔵文化財センターによる協議。
- 11月4日(火) 勤務時間が冬時間となる。
- 11月21日(金) 終了確認。
- 11月26日(水) 資材の積み込み・撤収。
- 11月27日(木) 地権者並びに洋野町教育委員会に終了の挨拶、調査終了。

平成27年4月20日(月) 登録作業員20名で資材を搬入し、調査開始。

- 5月11日(月) 業者による切り株処理作業開始。
- 6月11日(木) 県生涯学習文化課・埋蔵文化財センターによる現地協議。
- 8月3日(月) 県生涯学習文化課との現地協議。
- 8月18日(火) 外部委託による配石遺構群の三次元計測実施。
- 8月25日(火) 東日本大震災復旧作業労災防止センター所長小林豊氏による安全指導。
- 9月2日(水) 現地公開日(午後1時30分から)参加者約80名。
- 9月14日(水) 花崗岩研究会による石質鑑定作業。
- 9月15日(火) 当センター室内作業員研修(午前11時から)。
- 9月18日(金) 国外の地震による津波注意報発令。影響なし。
- 9月29日(火) 終了確認。
- 10月2日(金) 搬出準備・資材整理・積み込みを行い、すべての調査を終了。

2 室内整理

(1) 作業経過

平成26年12月1日（月）平成26年度室内整理作業開始。1月31日まで作業員1名、それ以降3月31日まで2名体制で実施。調査員は1月中旬より2名体制となる。当該年度の作業を実施。

3月31日（金）平成26年度の室内整理作業を終了。

平成27年12月1日（火）平成27年度室内整理作業開始。3月31日まで調査員3名、作業員5名体制で実施。

3月30日（金）平成27年度の室内整理作業を終了。

(2) 遺物整理の方法

出土した遺物は、年度毎に現場の段階で水洗と大まかな仕分けを完了し、室内では更に土器類と石器類に分類、その後重量計測を行った。掲載遺物は、登録作業後に実測、点検・修正、トレースを行い、それらをスキャナーで読み込んでデジタルデータとし編集した。

(3) 遺構図面の整理

遺構図は、電子平板で作製した平面図と作業員が人力で作製した断面図（縮尺1/20）をデジタルデータ化して、修整を加えた後にデジタル編集した。

(4) 写真撮影と整理

野外調査時に撮影した遺構写真のうち、6×9判モノクローム写真はネガフィルムとともに紙焼きをアルバムに貼付し、デジタルカメラで撮影したRAWデータは、遺構ごとに個別のフォルダーにまとめ収納要綱に従って収納した。

遺物の写真撮影は、当センターの撮影技師がデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS1 Mark II）を使用し撮影している。なお、平成26年度分の遺物撮影は27年度にあわせて実施した。

IV 検出遺構と出土遺物

1 検出遺構

(1) 竪穴住居跡

平成27年度調査により、調査区西側の平坦部から緩斜面に5棟検出した。調査区外に延びる1棟を除く4棟は石囲炉をもつ。住居の共存遺物や内帯の石列との重複関係から、いずれも縄文時代後期前葉かその直前期に属するものと思われる。今回炉跡として報告する遺構も竪穴住居であった可能性は高く、これらも含め、内帯の構築とそれ以前の住居群との時期的な様相も明らかとなった。

1号竪穴住居跡

遺構（第6図、写真図版16）

〔位置・検出状況〕 調査区中央部北西寄りのI A 6g・6f・7g・7fグリッドに跨がる。第Ⅲ層下～Ⅳ層上面において、本遺構の南壁で重複する14号土坑とともに検出した。

〔重複関係〕 上述の14号土坑との新旧関係は、土坑の方が新しい。また、28号・32号・37号土坑とも重複するが、32号土坑は本遺構より新しく、トレンチ北側にある他の2基は新旧が不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は北東-南西方向に長い楕円形状で、想定される規模は400×520cmである。

〔埋土〕 焼土ブロックや黄褐色土浮石粒をまばらに含む暗褐色土が主体である。

〔床面・壁〕 第Ⅳ層を床面とし、概ね平坦である。壁は壁溝から外反しつつ立ち上がる。

〔炉〕 南側に礎が置かれないうの字形の石囲炉がある。石囲いの外側にまで明赤褐色の焼土が形成され、内部にある燃焼部焼土も発色の良い赤褐色をなす。32×43cmの不整形円形、厚さは10cmを測る。

〔その他の付属施設〕 柱穴や土坑は確認出来なかった。

遺物（第77・78・83図ほか、写真図版54・55・58ほか）

縄文時代後期初頭から前葉の土器が7,901g出土したほか、土製円盤、鐸形土製品、石器類では石筥、石錐、石斧、磨石、石錘のほか、有孔石製品などが出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

2号竪穴住居跡

遺構（第7図、写真図版17）

〔位置・検出状況〕 平坦部の西端付近I A 5gグリッドに位置する。2号炉跡とともに第Ⅳ層上面で検出した。最寄りの遺構は、北西側にある3号竪穴住居跡で、2.5mほどの距離を置く。

〔重複関係〕 上述のとおり、本遺構の埋土中に2号炉跡が確認された。本遺構が古い。

〔平面形・規模〕 円形ないし楕円形をなす。円形と想定しての推定規模は、直径400cm前後である。

〔埋土〕 炭化物粒を含む黒褐色土の単層。炭化物粒は10mm前後と大きく、また混入量が多かった。

〔床面・壁〕 第Ⅳ層を床面とし平坦である。壁は低い。床面南西側に石皿が見られた。

〔炉〕 床面中央付近に3個の炉石がコの字形に配される石囲炉を確認した。炉の西側が開く。燃焼部焼土は21×30cmの不整形円形で厚さは最大6cm、明褐色の焼けの良い焼土である。

〔その他の付属施設〕 柱穴や土坑類は検出されない。

遺物（第62・104図ほか、写真図版72・89ほか）

1. 検出遺構

縄文時代後期の土器片786gと石斧が1点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の堅穴住居跡である。

3号堅穴住居跡

遺構（第8図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕調査区西端部のI A 4 e・4 fにあり、第Ⅲ層下～Ⅳ層上面で確認した。

〔重複関係〕重複は認められないが、整地層1の広がり端部が本遺構の東側の一部を覆う。

〔平面形・規模〕平面形は不整楕円形で、壁の凸凹が激しい。規模は252×346cmを測る。

〔埋土〕浮石粒をまばらに含む暗褐色土の単層で、黄褐色のブロックを部分的に含む。

〔床面・壁〕床面は第Ⅳ層の傾斜方向に下がり平坦である。壁はいずれも緩やかに立つ。

〔炉〕床面中央に燃焼部焼土と炉石4個が出土した。焼土は27×31cmの不整円形をなす。

〔その他の付属施設〕Pit 1～8が壁際に巡る。規模は直径20～40cm、深さは6～60cmと幅がある。

遺物（第83・112図、写真図版58・76）

369gの縄文土器と2点の敲石が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の堅穴住居跡である。

4号堅穴住居跡

遺構（第9図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕調査区北西隅のI A 4 e・5 eに跨がり、遺構の北側2/3以上は調査区外に延びる。

検出面はⅣ層上面で、本来はⅢ層からそれに相当する層で確認出来る。〔重複関係〕認められない。

〔平面形・規模〕不整円形あるいは楕円形をなし、計測可能な規模は直径252cmと標準より小さい。

〔埋土〕上位は炭化物粒や焼土粒を含む黒褐色土、下位も黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。

〔床面・壁〕床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。東壁は途中段状をなす。

〔炉〕確認出来なかった。

〔その他の付属施設〕精査できた箇所にはなし。

遺物（第83図、写真図版58）

縄文時代後期の土器片782gが出土した。土製品、石器類は出土していない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の堅穴住居跡である。

5号堅穴住居跡

遺構（第10図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕調査区北西部、内帯から延びるヒゲ状の石列下でプランが確認出来たもので、I A 7 f・7 gに跨がって位置する。検出面は配石遺構構築面相当、第Ⅲ層である。

〔重複関係〕複数の柱穴（P032など）・トゲ状の石列と重複する。石列より古いことは確実である。

〔平面形・規模〕円形基調であるが不整で、東西方向の規模は直径380cmを測る。

〔埋土〕褐色土ブロックを含む暗褐色土の単層である。焼土粒や炭化物粒は混入しない。

〔床面・壁〕床面は細かな凹凸をもつ。西壁のみ緩やかに立ち上がる。

〔炉〕東寄りに石囲炉を確認した。10×30cmあまりの細長い礫二個の間に厚さ6cmの燃焼部がある。

〔その他の付属施設〕貯蔵穴と考えられるPit 1（60×94cm）を床面で検出した。深さは26cm。

遺物（第58・62・110図、写真図版75・83・89）

縄文中期末から後期前葉の土器片282.5gが、石器類では石皿が床面から出土した。

時期 出土遺物と重複する石列から、縄文時代後期初頭から前葉を含むそれ以前の住居跡である。

(2) 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構

遺構 (第11図、写真図版21)

〔位置・検出状況〕 調査区中央部西側の I A 6 h グリッドに位置し、1号竪穴住居跡とは北東側で隣接する。整地層の土層観察ベルトで確認した。検出面は第Ⅲ層下位～Ⅳ層上面である。

〔重複関係〕 本遺構の南東側で33号土坑と重複するが、新旧関係が定かでない。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形、規模は238×300cm、壁高は29cmを測る。

〔埋土〕 上～中位は炭化物粒を含む暗褐色土、下位は黒褐色土と黄褐色土が自然堆積している。

〔床面・壁〕 床面は極めて平坦で、そこからの壁の立ち上がりは緩やかである。

〔付属施設〕 確認されない。

遺物 縄文後期の土器片97gが出土したが、石器類、土製品は見られない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に属する遺構と思われる。

(3) 土 坑

平成26年度に検出した土坑の総数は12基で、当初分と拡張部箇所には10基、追加箇所には2基確認した。土墳墓と考えられるものが1基ある。平成27年度の総数は25基(13～37号)で、平面形は円形と楕円形が主体、断面形はフラスコ形、浅皿形、円筒形などがある。土墳墓と思しき15号土坑からは、海岸付近から持ち込まれたと思われる夥しい量の小円礫が出土した。これに似た円礫は、調査区の中央部から西側と南側に分布(第129図)しているが、これらの出土状況等は別記する。

1号土坑 (第12図、写真図版5)

〔位置・検出状況〕 当初の調査区中央部南端 I A 8 1 グリッドに位置し、遺構の南側ほぼ半分は調査区域外に延びる。第Ⅲ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなすか。規模は開口部径107×?cm、底部径81×?cmである。

〔埋土〕 自然堆積で2層に分層される。上位が浮石粒を含む黒褐色土、下位は暗褐色土が基調となる。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもつ。断面形は逆台形状をなし、検出面からの深さは最大で44cmを測る。

〔時期〕 出土遺物がなく詳細な時期は不明であるが、縄文時代後期前葉に属するものであろう。

2号土坑 (第12図、写真図版5)

〔位置・検出状況〕 当初の調査区南緩斜面 I A 6 k グリッドに位置する。第Ⅳ層上面で確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形。規模は開口部径81×98cm、底部径75×80cm。深さは19cm。

〔埋土〕 上～下位は浮石粒を含む褐色砂質シルトが、その両端には黄褐色の地山崩落土が入る。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で細かな凹凸を有する。断面形は皿状をなし、深さは最大で19cmを測る。

〔遺物〕 埋土から縄文土器が3.5g出土している。

〔時期〕 縄文時代後期前葉頃に機能していた可能性があるが、断定できない。

3号土坑（第12図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A19 o グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形はほぼ円形を呈し、規模は開口部径112cm×底部径109cm、深さは105cm。

〔埋土〕 軟質でしまりの無い黒色土やロームブロックとその粒子を多く含む暗褐色土が見られる。壁周辺には崩落土が入り、下位には黒色土が堆積する。人為的な埋戻しであると考えられる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で中央部がやや深くなる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

4号土坑（第12図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A19 p グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈し、規模は開口部径107cm×底面径107cm、深さは52cmである。

〔埋土〕 1～3層はほぼ水平な堆積状況であることから、人為的な埋戻しと考えられる。壁周辺には崩落土を含む黒褐色土が堆積。

〔底面・壁〕 底面は平坦で壁の近くで緩やかに立ち上がる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

5号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 2号土坑の東側に隣接し、第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 不整楕円形をなし、規模は開口部径86×120cm、底部径69×112cmほどである。

〔埋土〕 浮石が混入する暗褐色土の単層であるが、人為的に埋め戻されたような感じを受ける。

〔底面・壁〕 底面は平坦で断面形は皿状をなす。深さは最大で11cmである。

〔遺物〕 縄文土器の破片約13gが出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前葉頃に属する可能性がある。形状から土壘であった可能性も否定できない。

6号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 I A5 i グリッドに位置し、北側3mには7号土坑がある。第IV層上面で検出。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形で、断面形はいわゆるフラスコ形をなす。遺構上部は削られており、当時の形状、深さは残っていない。開口部径100×110cm、底部径113×119cmの規模をもつ。

〔埋土〕 上～中位は浮石粒を含むいぶいぶ黄褐色土、下位は地山崩落土主体の黄褐色土に分類した。

〔底面・壁〕 底面は平坦で壁は若干反る。深さ27cm。底面には10～15cmの角礫6個が散在する。

〔遺物〕 敲石と思われる石器1点と、縄文土器の破片102gが出土した。

〔時期〕 埋土に礫を含んでいるほか、堆積状況が人為的であることから、土壘墓に転用された可能性がある。機能していた時期は、縄文時代後期前葉頃の可能性があるが断定できない。

7号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 6号土坑の北側3m、I A5 h グリッド西端に位置する。第IV層上面で確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形で、断面形はフラスコ形を呈する。これも遺構の上部は大きく削られているものと思われる。規模は、開口部径99×100cm、底部径123×132cm。

〔埋土〕 ボサボサとしまりが無い人為堆積を思わせる明黄褐色土の単層で、浮石粒を疎らに含む。

〔底面・壁〕 底面は平坦だが、壁は丸みを持ちながら立ち上がる。深さは最大62cmである。

〔時期〕人為的堆積であり、土壌墓に転用されたフラスコ土坑と思われる。縄文時代後期前葉頃か。

8号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕追加調査区傾斜面。I A19q グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈し、開口部径127cm×底面径109cm、深さは23cm。

〔埋土〕上位にローム粒を含む黒褐色土、下位には黒褐色土が堆積する。人為的に埋戻される。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

〔時期〕縄文時代後期前葉か。

9号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕追加調査区傾斜部のI A1mに位置する。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈し、開口部径247cm×底面径113cm、深さは67cm。

〔埋土〕上位から黒色土と黒褐色土が堆積し、1層の下には焼土が形成される。人為的な埋戻しか。

〔底面・壁〕底面中央部はほぼ平坦だが、丸底になり壁の立ち上がりは不明瞭である。

〔遺物〕土器片3.4gのほか、敲石と磨石、石斧の未製品がそれぞれ1点ずつ出土した。

〔時期〕縄文時代後期前葉か。

10号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕追加調査区傾斜面。I A19m グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈し、開口部径118cm×底面径104cm、深さは100cm。

〔埋土〕上位から暗褐色土、黒褐色土、黒色土が堆積し、壁の近くに崩落土がみられる。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で、中央に直径15cmの小ピットがある。壁は内傾しながら立ち上がる。

〔時期〕縄文時代後期前葉か。

11号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕II B20f グリッドに位置し、南側半分は調査区域外にある。III層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は円形。規模は開口部径211×?cm、底部径63×?cm。

〔埋土〕上～中位は浮石粒を含む黒褐色土、下位は暗褐色土小ブロックを含む褐色土が自然堆積する。

〔底面・壁〕底面は大きく波打ち、壁は丸みをもつ。検出面からの深さは最大で82cmを測る。

〔時期〕出土遺物がなく詳細な時期は不明である。

12号土坑（第15図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕III B12g グリッドに位置する。第IV層上面で検出した。西側は攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸長方形をなす。規模は開口部径72×135cm、底部径61×133cmである。長軸方向はN-22°-Wである。

〔埋土〕3層に分層したが、いずれも人為堆積層と思われる。上位は浮石粒を含む黒色土、上～中位は黒褐色土、下位は1層よりも黒味の強い黒色土からなる。

〔底面・壁〕底面は全体に平坦である。断面形は逆台形状をなし、検出面からの深さは40cmを測る。

〔時期〕出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代の土壌墓と思われる遺構である。

13号土坑（第15図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 I A 5 h グリッドに位置し、第Ⅲ層下上面～Ⅳ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径136×151cm、底部径82×91cmである。

〔埋土〕 上～中位は浮石粒を含む暗褐色土が、下位は地山の崩落ブロックを含む暗褐色土からなる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は直立気味に底面から立ち上がる。断面形は円筒形で深さ95cm。

〔時期〕 詳細な時期は不明であるが、縄文時代後期前葉に属する貯蔵用と思われる土坑である。

14号土坑（第15図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 I A 6 h グリッドに位置する。検出面は第Ⅳ層上面である。

〔遺構間の重複〕 1号竪穴住居跡より本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形はほぼ円形をなし、規模は開口部径138×158cm、底部径140×159cmである。

〔埋土〕 6層以上に分層される自然堆積層であるが、下位の堆積状況は不明である。上位は浮石粒をわずかに含む黒褐色土と壁際に暗褐色の地山崩落土が、中位は地山の崩落ブロックを含む褐色土が主体である。3層の上部には長さ50cm、幅20cmあまりの礫が1個入れ込まれる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内湾して立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは165cmを測る。

〔遺物〕 土器片1265gのほか、石鏝と搔削器が1点ずつ出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前葉の土坑と思われるが、礫が入ることから墓に転用された可能性がある。

15号土坑（第16図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 調査区西側 I A 8 h グリッドにあり、北側には23号土坑が重複する。いずれも検出面は第Ⅳ層上面であるが、23号土坑は本遺構の底面を精査中にプランの一部を確認した。

〔遺構間の重複〕 本遺構の方が23号土坑よりも新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は四隅が角張る楕円形。規模は開口部径、底部径とも90×127cm。

〔埋土〕 7層に分層される人為堆積層である。上～中位は先述した小礫を含む暗褐色土、下位は地山のブロックを含む暗褐色土が壁際に堆積、他は浮石粒を全体に含む黒褐色土である。小礫は、粒径0.4～7cm、総重量1,865g、総数1,058個を数える。海岸付近から持ち込んだものと思われるが、本遺構を主体とし、第129図に示した範囲に満遍なく出土した。これらがこの土坑を供給元となるとすれば、ここから小礫を振りまくなど、何らかの儀礼に使われた可能性がある。

〔底面・壁〕 底面は凹凸を有し、壁は内湾する。断面形は台形、検出面からの深さは44cmである。

〔遺物〕 上述した小礫のほか、土器片が100gほど出土した。土製円盤も1点見られる。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する特殊な用途をもつ遺構であろう。

16号土坑（第16図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 I A 12 n グリッド、第Ⅳ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形か楕円形、規模は開口部径94×120cm前後、底部径49×82cmを測る。

〔埋土〕 8層に分層される自然堆積層で、上～中位は浮石粒を含む黒褐色土、壁際に地山崩落土の褐色土、中～下位は浮石粒を含む暗褐色土が主体となる。最下部には厚さ5cm程度の黒色土が堆積。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は深い円筒形、深さは110cmである。

〔時期〕 縄文時代に属する土坑と思われるが、用途は不明である。

17号土坑（第16図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 I A 8 k グリッドにあり、検出面は第IV層上面。〔遺構間の重複〕 炭窟に切られる。
 〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部径95×140cm前後、底部径64×110cm前後。
 〔埋土〕 炭化物粒を含む暗褐色の自然堆積層の単層である。
 〔底面・壁〕 底面には凹凸をもち、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿形、深さは60cmである。
 〔遺物〕 土器片が207g出土した。
 〔時期〕 縄文時代に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

18号土坑（第16図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 I A 9 j グリッドに位置、第IV層上面で検出。〔遺構間の重複〕 炭窟に切られる。
 〔平面形・規模〕 平面形は楕円形基調の不整形、規模は開口部径90×151cm、底部径62×111cm。
 〔埋土〕 17号土坑と同じ、炭化物粒を含む暗褐色土の単層である。
 〔底面・壁〕 底面には多くの凹凸をもつ。壁も同様である。断面形は浅皿形、深さは30cmである。
 〔遺物〕 土器片が175gと土製円盤1点出土した。
 〔時期〕 縄文時代に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

19号土坑（第17図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 I A 12 h グリッドで、2号掘立柱建物を構成する柱穴とともに第IV層上面で検出。
 〔遺構間の重複〕 2号掘立柱建物跡のP002と重複する。本遺構が古い。
 〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径191×202cm、底部径158×180cmを測る。
 〔埋土〕 4層に分層した。上位は浮石粒を含む黒褐色土、中～下位は褐色土が堆積する。
 〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿形で、深さは32cmである。
 〔時期〕 2号掘立柱建物跡との重複関係から、縄文時代後期前葉以前の土坑と思われる。

20号土坑（第17図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 I A 14 h グリッド、58号集石の北側1mに隣接する。第IV層上面で検出した。
 〔平面形・規模〕 平面形は略円形をなし、規模は開口部径117×120cm、底部径69×93cmを測る。
 〔埋土〕 上位は浮石粒を含む黒褐色土、中位は炭化物粒を含む暗褐色土、下位には褐色土が見られる。
 〔底面・壁〕 底面は壁際が高く壁は直立気味に立ち上がる。断面形は円筒形、深さは83cmである。
 〔遺物〕 土器片4gと石斧が1点出土した。
 〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものと思われる。

21号土坑（第17図、写真図版24）

〔位置・検出状況〕 I A 10 h グリッド、柱穴P021の北西側に隣接する。第IV層上面で検出した。
 〔遺構間の重複〕 P021とは重複関係にない。
 〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径110×116cm、底部径138×145cmである。
 〔埋土〕 8層に分層したが、人為堆積の様相をみせる。上～中位は、浮石粒や地山のブロックを含む黒褐色土と壁際に暗褐色土が、下位は黄褐色土や褐色土などの明るい色調の土壌が堆積している。
 〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形はフラスコ状、深さは115cm。
 〔遺物〕 底面直上には一括土器があり、総量で1.042g出土した。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものであろう。

22号土坑（第18図、写真図版24）

〔位置・検出状況〕 I A 16 k グリッドにある。第IV層上面で検出できた。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径90×95cm、底部径117×125cmを測る。

〔埋土〕 上位は暗褐色土、中位は褐色土、中～下位は浮石や炭化物を含む暗褐色土が主体である。

〔底面・壁〕 底面は北側に傾斜し北壁は内湾気味に立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは76cm。

〔遺物〕 土器片等16 gが出土し、石斧も1点見られる。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものと考えられる。

23号土坑（第18図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 8 h グリッドに位置する。前述のとおり15号土坑を精査中に検出した。

〔遺構間の重複〕 15号土坑と重複するが、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形状で、規模は開口部径115×142cm、底部径97×131cmを測る。

〔埋土〕 上位は浮石粒を含むにぶい黄褐色土、下位はしまりのある褐色土が自然堆積している。

〔底面・壁〕 底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿状、深さは45cmである。

〔時期〕 重複関係・検出面の検討から、縄文時代後期初頭～前葉以前、早期に属する可能性がある。

24号土坑（第18図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i のグリッド杭を中心に土坑3基が集中する I A 7 i に位置する。第IV層上面で確認した。土坑内に入るための施設なのか、足をかけるステップ状の掘り込みを有する。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、規模は開口部径84×97cm、底部径は209×222cmである。

〔埋土〕 自然堆積と思われる。上位は浮石粒や炭化物粒を含む暗褐色土、中～下位は地山の崩落ブロックや浮石粒を含む黒色土主体、最下部には暗褐色や褐色のブロックが薄く堆積している。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾し立ち上がる。断面形はフラスコ形で、壁の崩落も少なく形が整っている。深さは174cmほど、括れる部分は底面から120cm、その箇所直径は50cmである。

〔遺物〕 土器片等1,492 gのほか、ミニチュア土器と棒状の石製品、敲石が1点ずつ出土した。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴として機能した土坑と思われる。

25号土坑（第19図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 7 h グリッドに位置し24号土坑同様、第IV層上面でプランを確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部径98×116cm、底部径は150×153cm。

〔埋土〕 概ね5層に分層した。上位はしまりのある暗褐色土、中位は浮石粒を含む黒褐色土で人為堆積の様相、下位には炭化物粒を含む黒褐色土が見られ、最下部には黒色土が薄く堆積している。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる。断面形はフラスコ形状、上下が対称形で砂時計のようにも見える。検出面からの深さは162cm。これも最小径は50cmと狭い。

〔遺物〕 土器片252 gが出土した。他に、土製円盤と敲石が1点ずつある。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴として機能した土坑と思われる。

26号土坑（第19図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i グリッドに位置し、第IV層上面で確認。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、規模は開口部径100×117cm、底部径は172×182cmを測る。

〔埋土〕 炭化物粒を含む黒褐色土と北側の壁際から浮石粒を含む暗褐色土が入り込む。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がり窄まる。そこからは若干開きながら開口部に続く。断面形はいわゆるフラスコ形で、検出面からの深さは115cmを測る。

〔遺物〕 土器片が776g出土した。石器類は、石鏃1点である。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴もしくは墓に転用された可能性がある。

27号土坑（第19図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i グリッド、3号集石の南西側に位置する。第III層下面で検出した。

〔遺構間の重複〕 3号集石と重複するが、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径117×118cm、底部径90×100cmである。

〔埋土〕 4層に分層、自然堆積と思われる。浮石粒の混入割合が異なるにぶい黄褐色土2層からなる。

〔底面・壁〕 底面は傾斜し、北壁は凹凸を持つ。断面形は浅い円筒状で、深さは最大で50cmを測る。

〔遺物〕 土器片が60gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉以前に属する土坑であるが、3号集石の下部土坑の可能性もある。

28号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 I A 7 g グリッドに位置、1号竪穴住居跡床面の第IV層上面で検出した。

〔遺構間の重複〕 1号竪穴住居跡との重複関係は、検出状況から本遺構のほうが古い。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径183×207cm、底部径73×87cmである。

〔埋土〕 上～中位は、黒色土の混入割合の異なる黒褐色土2枚、下位は暗褐色土が堆積する。

〔底面・壁〕 平坦な底面から壁が立ち上がり開口部で開く。断面形は逆台形状で、深さは110cm。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉以前に属する土坑である。

29号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 I A 14 k グリッドに位置し、30号土坑とともに50～54号集石に囲まれる。

〔遺構間の重複〕 30号土坑とわずかに重複するが、本遺構のほうが古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形。規模は開口部径90×120cm前後、底部径84×110cm前後。

〔埋土〕 2層に分層したが、浮石粒をわずかに含む黒褐色土の単層で自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿状をなす。深さ25cm。

〔遺物〕 土器片が48gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

30号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 29号土坑で記載のとおり。〔遺構間の重複〕 29号土坑と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形、規模は開口部径124×184cm、底部径97×154cmである。

〔埋土〕 29号土坑に同じ。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿状で、深さは35cm。

〔遺物〕 土器片が30gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

31号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 I A 10 i グリッドにあり、14号焼土遺構に隣接する。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径111×120cm、底部径96×109cmを測る。

〔埋土〕 人為堆積か。上～中位は褐色土ブロックを含む黒褐色土、下位は褐色土が堆積。

〔底面・壁〕 底面には凹凸をもち、壁は直立気味。断面形は浅皿状、深さは44cmである。

〔遺物〕 土器片が92gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

32号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 I A 6 h グリッドに位置し、1号竪穴住居跡の西側でそれと重複する。当初はこれに伴う柱穴を想定し精査したが土坑規模となった。検出面は住居床面の第IV層上面である。

〔遺構間の重複〕 検出状況から、本遺構の方が1号竪穴状遺構よりも新しいか。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径146×154cm、底部径150×183cmである。

〔埋土〕 土層図を作製し忘れたため不明。自然堆積だったと思われる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは145cmを測る。

〔遺物〕 土器片等が732g程度出土した。

〔時期〕 重複関係から縄文時代後期以降に属する土坑と思われる。

33号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 1号竪穴状遺構とともにI A 6 h グリッドにある。第IV層上面で検出した。

〔遺構間の重複〕 本遺構の方が1号竪穴状遺構よりも新しいか。

〔平面形・規模〕 平面形は円形基調で、規模は開口部径123×125cm前後、底部径96×100cm前後。

〔埋土〕 2層に分層したが人為堆積と思われる。褐色土ブロックを含む黒褐色土が見られる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は直立気味に開く。断面形は浅い円筒状、深さは47cmを測る。

〔遺物〕 土器片38gのほか、1号集石出土の破片と接合した石製円盤が1点出土した。

〔時期〕 重複関係から縄文時代後期以降に属する土坑だが、詳細は不明である。

34号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 I A 8 g グリッドに位置し、6号・13号焼土遺構に隣接。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径136×150cm、底部径145×158cmを測る。

〔埋土〕 上位は褐色土ブロックを含む黒色土、中位は褐色土、下位は炭化物を含む黒色土が堆積する。

〔底面・壁〕 底面は平坦、壁はオーバーハングする。断面形はフラスコ形、深さは47cmである。

〔遺物〕 土器片等が265g出土した。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

35号土坑（第22図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 I A 7 f グリッドに位置し、36号土坑が北側に隣接する。第IV層上面で検出した。

- 〔平面形・規模〕平面形は崩落のため不整。規模は開口部径104×114cm、底部径103×111cm。
 〔埋土〕3層に分層される自然堆積層で、粘性の弱い黒褐色土が主体である。
 〔底面・壁〕底面は平坦、壁はいったん括れて広がる。断面形はフラスコ形、深さは70cmを測る。
 〔遺物〕土器片がおよそ100g出土した。
 〔時期〕縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

36号土坑（第22図、写真図版28）

- 〔位置・検出状況〕IA7eグリッドにあるが調査区外に延びる。第IV層上面で検出した。
 〔平面形・規模〕平面形は円形か隅丸の長方形。規模は開口部径?×74cm、底部径?×46cm。
 〔埋土〕4層に分層される自然堆積層で、上部の黒色土より下は3枚の黒褐色土が主体となる。
 〔底面・壁〕底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がり大きく開く。断面形はラッパ形、深さ72cm。
 〔時期〕縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

37号土坑（第22図、写真図版28）

- 〔位置・検出状況〕IA6gグリッドに位置し、精査時に床面（第IV層上面）で検出した。
 〔遺構間の重複〕本遺構が1号竪穴住居より新しいか、それに付属する土坑である。
 〔平面形・規模〕平面形は不整な円形、規模は開口部径89×106cm、底部径56×60cmを測る。
 〔埋土〕黒褐色土の単層（自然堆積）で、壁際に地山のブロックを含んでいる。
 〔底面・壁〕底面は丸みをもち、壁は直立して立ち上がる。断面形は円筒形、深さは52cmである。
 〔時期〕縄文時代後期に属する土坑と思われるが、1号竪穴住居跡に付属する可能性もある。

(4) 陥し穴状遺構

遺構名		1号陥し穴状遺構	2号陥し穴状遺構	3号陥し穴状遺構
位置		IA19k	IA18n	IA18o付近
検出状況		第III層下面	第III層下面	第III層下面
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	V字形	V字形	V字形
規模	開口部径 (cm)	40～52×362	42～52×334	64～66×333
	底部径 (cm)	4～10×368	4～10×336	4～12×358
	深さ (cm)	137	101	139
長軸方向		N-57°-E	W-E0°	N-84°-E
埋土		上位は白色粒子を含む黒色土。上～中位にかけては黄褐色小ブロックを含む黒褐色土。下位にも地山崩落小ブロックを含む黒褐色土が見られる	上～中位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土。中～下位には浮石含む暗黄褐色土と黒褐色土が堆積する	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土。中位は浮石粒が目立つ黒褐色土。下位は暗褐色土主が体で、最下部にははまりの少ない黒褐色土が見られる
底面		緩やかな凹凸あり	ほぼ平坦	東側に傾斜する
図		23	23	23
写真図版		8	8	8
特記事項		・埋土より縄文土器片21.5g出土	・遺物なし	・遺物なし

1 検出遺構

遺構名	4号陥し穴状遺構	5号陥し穴状遺構	6号陥し穴状遺構	
位置	I A17p・18pに跨る	I A11n	I A17k・17lに跨る	
検出状況	第Ⅲ層下面	第Ⅲ層下面	第Ⅲ層上面	
重複関係	なし	なし	なし	
形状	平面形	溝状	溝状	
	断面形	V字形	V字形	
規模	開口部径 (cm)	56~73×372	250前後	106~117×403
	底部径 (cm)	13~31×419	4~10×190	10~19×413
	深さ (cm)	141	124	166
長軸方向	N-58°-W	N-89°-W	N-40°-E	
埋土	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中位は浮石粒を含む暗褐色土と地山崩落土の明黄褐色土、下位には暗褐色土、最下部にはフカフカとしまりのない黒褐色土が堆積する	上位は白色粒子を含む黒色土や浮石粒の混じる黒褐色土、中位は暗褐色土と黒褐色土、下位フカフカとしまりのない黒色土である	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中位は地山崩落土を含む暗褐色土と黄褐色土、中～下位にはしまりのない褐色土が堆積	
底面	若干凹凸があるがほぼ平坦	平坦だが、東壁は段あり	平坦	
図	24	24	25	
写真図版	8	9	9	
特記事項	・底面直上付近から器台が1点出土しており配石遺構群と同じ時期と思われる ・民風とは異なる用途の可能性あり	・埋土より縄文土器片85g出土	・17基中最大規模の陥し穴で当初は2基の重複に見えた ・埋土より縄文土器片85g出土	

7号陥し穴状遺構	8号陥し穴状遺構	9号陥し穴状遺構	10号陥し穴状遺構
ⅡB7g・8gに跨る	I A19o	I A19l	I A20l
第Ⅲ層上面	第Ⅲ層	第Ⅲ層	第Ⅲ層
なし	なし	なし	なし
溝状	溝状	溝状	溝状
V字形	V字形	V字形	V字形
38~44×376	65~73×404	44~59×366	45~53×300
9~13×397	3~13×342	5~9×375	5~11×340
86	124	124	103
N-88°-W	N-72°-W	N-70°-W	N-29°-W
上位は浮石粒を含む黒褐色土、上位の壁際から暗褐色土が入る	上部の浮石が混入する暗褐色土が入り、以下黒褐色土・暗褐色土なども見られる	上位に黒色土や黒褐色土が入り、底面近くにも黒色土が堆積	上位には黒色土と黒褐色土が、底面近くにも黒色土が堆積
平坦	東側にわずかに傾斜する	ほぼ平坦	平坦で中央部やや深い
25	26	26	26
9	9	10	10
・遺物なし ・遺構上部に崩平及ぶ	・遺物なし	・縄文時代後期前葉の土器片が117.58g出土	・遺物なし

遺構名	11号陥し穴状遺構	12号陥し穴状遺構	13号陥し穴状遺構	
位置	ⅣB1k	ⅢB15a	ⅢB9c	
検出状況	第Ⅲ層	第Ⅲ層	第Ⅲ層	
重複関係	なし	なし	なし	
形状	平面形	溝状	溝状	
	断面形	Y字形	Y字形	
規模	開口部径 (cm)	69~81×331	90~102×271	98~117×402
	底部径 (cm)	10~13×340	20~23×269	10~26×412
	深さ (cm)	130	147	146
長軸方向	N-68°-E	N-45°-E	N-89°-W	
埋土	上位は黒色~黒褐色土。上位の堺階から中位には暗褐色土、下位には地山崩落土であるにふい黄褐色土が堆積する	上位は褐色土粒を含む黒褐色土が、上~中位は地山崩落土である明黄褐色土主体	上位は混入物のない黒色土、中位は地山崩落土の黄褐色土、下位も黄褐色土などがみられる。最下部にはフカフカしたしまりのない黒褐色土が堆積する	
底面	細かい凹凸あるもほぼ平坦	北側が下がり気味だが平坦	西側わずかに持ち上がる	
図	27	27	27	
写真図版	10	10	11	
特記事項	・縄文時代後期前葉の土器片が76.4g出土 ・本遺構北側に後期前葉の土器集中区あるが関連不明	・遺物なし	・遺物なし	
14号陥し穴状遺構-1・2	15号陥し穴状遺構	16号陥し穴状遺構		
ⅢB10g・10h・11hに跨る	ⅢB10f・10g	ⅢB13a・14k		
第Ⅳ層上面	第Ⅳ層上面	第Ⅳ層上面		
陥し穴間の重複あり	なし	なし		
溝状	溝状	溝状		
U字形	V字形	V字形		
60×?	37~67×348	58~103×386		
11~17×166	4~9×367	6~12×339		
50	87	130		
N-73°-W	N-6°-W	W-E0°		
上位は浮石粒を含む黒色土、中位は地山崩落土主体の暗褐色土。下位は褐色土ブロックを含む黒色土。最下部に暗褐色土が自然堆積する	上~中位は混入物のない黒色土が堆積し、その下には地山崩落ブロックを含む暗褐色土が主体となる	上位中央部は黄褐色土粒を含む黒色土が、上位堺階は褐色土や暗褐色土のブロックが、中位には黒褐色土、下位には地山崩落土が堆積している		
西側で持ち上がる	ほぼ平坦	ほぼ平坦		
28	28	28		
11	11	11		
・遺物なし	・遺物なし	・遺物なし		

(5) 炉 跡

平成27年調査で10基を精査した。本来堅穴住居に付属したものが大半であろうが、周辺に柱穴等は確認できず単独の炉跡として扱う。石囲炉と土器埋設炉の2種があり、8基確認された前者には、炉石が全周するものとコの字形などに配されるものの2種がある。土器埋設炉はともに焼土を伴う。

1号炉跡

遺構（第29図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 I A 17 k グリッドにあり、IV層上面で検出した。

〔形態・規模〕 コの字形をなす石囲炉である。大小6個余りの炉石があるが、使用時の状況が保たれているかは不明。礫の抜き取り痕はない。焼土は20cmほどの不整形をなすが、不明瞭。

〔焼土の様相・厚さ〕 明褐色焼土粒を含む黒褐色土で、焼け具合は極めて悪い。厚さは8cmである。

遺物 炉跡周辺から55gの縄文土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期に属するものと思われるが、詳細な時期は不明である。

2号炉跡

遺構（第29図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 I A 5 g グリッドに位置する2号堅穴住居跡内にある。その炉跡の北東側で確認。

〔重複関係〕 上述のとおり、2号堅穴住居跡と重複する。検出状況から住居よりも新しい遺構である。

〔形態・規模〕 北側を開けるコの字形の石囲炉で4個の炉石からなる。最大の炉石は13×34cm。焼土は20×30cmの不整形をなす。規模は45×47cmである。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼成の良い明褐色の焼土であるが脆い。厚さは10cmである。

遺物 炉内から土器片17.5gが出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われる。

3号炉跡

遺構（第29図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 I A 6 f グリッドに位置し、2号炉跡の北東側5m付近に位置する。

〔形態・規模〕 小さめの炉石15個あまりが全周する石囲炉で、最大の炉石は10×25cm。焼土は円形に配される炉石の内側に30×43cmの不整形をなす。全体規模は66×70cmを測る。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼け具合は良いがやわらかい、褐色のものが厚さ20cmほど形成されていた。

遺物 周辺から11gの縄文土器が出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われる。

4号炉跡

遺構（第30図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 I A 6 h グリッドに位置し、堅穴住居跡や土坑に囲まれるようにある。

〔重複関係〕 本遺構が住居跡に付属する炉と仮定すれば、上述した各種遺構とは大半が重複する。

〔形態・規模〕 これも北側の礫を欠くコの字形の石囲炉で5個の炉石からなる。最大の炉石は18×40cmほど、焼土は25×40cmの広がりをもつ。全体規模は62×68cmである。

〔焼土の様相・厚さ〕 燃焼部で厚さは5cmほど、形状は不整な菱形で、規模は45×47cmを測る。

遺物 炉内から10gの土器片が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉に属するものと考えられる。

5号炉跡

遺構 (第30図、写真図版29)

〔位置・検出状況〕 1号竪穴状遺構の南西2mあまり、IA6iグリッドの北西隅に位置する。

〔形態・規模〕 L字状にある残存する炉石2個と燃焼部焼土からなる石囲炉で、炉石はそれぞれ16×28cm、5×28cmを計る。本来は炉石が全周するかこの字をなすものであろう。焼土は直径22cmあまりの円形基調で、全体規模は40×40cm前後か。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼成が極めて良好な明褐色焼土が、厚さ14cmほど形成される。

遺物 55gの縄文土器片が出土した。

時期 周辺の状況等から、縄文時代後期初頭～前葉に属するものと考えられる。

6号炉跡

遺構 (第31図、写真図版29)

〔位置・検出状況〕 IA7hグリッドに位置、1号竪穴住居跡の南東側に接する。

〔重複関係〕 住居に伴うとすれば、1号竪穴住居跡など周辺の遺構と重複するが、新旧は不明である。

〔形態・規模〕 全体規模62×67cm、炉石13個あまりがコの字状に配される石囲炉で、南東側が開く。長さ20cm、幅15cm前後の炉石が多いが、それらが組まれる中に燃焼部焼土は形成されない。

遺物 出土していない。

時期 遺物は出土していないが、縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性が高い。

7号炉跡

遺構 (第31図、写真図版30)

〔位置・検出状況〕 当初調査区西端部のIA7iグリッド中央、24号土坑南側に隣接する位置にある。

〔形態・規模〕 炉石6個が二の字状になる石囲炉で、遺構の東西側には礎が配置されない。燃焼部焼土の発達が悪い。全体規模は60cm前後、炉石は最大で13×26cm、最小は6cm角である。

〔焼土の様相・厚さ〕 断面では焼土ブロックを含む褐色土が厚さ5cmあまり観察出来た。

遺物 この周辺から縄文土器が35g出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われるが、詳細な時期は不明である。

8号炉跡

遺構 (第31図、写真図版30)

〔位置・検出状況〕 IA10hグリッドの3号掘立柱建物跡内に位置する。整地層2下暗褐色土で検出。

〔重複関係〕 上述のとおり、掘立柱建物の中にあるが新旧は不明である。

〔形態・規模〕 全体規模は直径75cmあまり、形状はコの字状で東側の礎を欠く。全体としてみれば円形をなす石囲炉である。礎の抜き取り痕はない。炉石は最大13×30cm、最小は長さ10cmほどである。

〔焼土の様相・厚さ〕 30×40cmの不整形の燃焼部がある。厚さは12cm、焼け具合は良好である。

遺物 130gほどの縄文土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属すると考えられる。重複関係は不明である。

1 検出遺構

9号炉跡

遺構（第32図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕 I A 8 g グリッドに位置する。埋設される土器はその東隅に斜位に置かれる。

〔重複関係〕 本遺構の位置づけによるが、検出状況では重複が認められない。

〔形態・規模〕 全体規模は56×77cmの円形基調で、炉石はなく抜き取られたような痕跡もない。

〔焼土の様相・厚さ〕 土器周辺から中央部は明赤褐色を呈し、厚さは10～18cmである。

遺物 炉内の埋設土器を含み、722gの土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する。住居付属の炉というよりは祭祀に関わるか。

10号炉跡

遺構（第32図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕 I A 7 f グリッドに位置し、焼土内に粗製の深鉢形土器が斜位に設置される。

〔重複関係〕 これも本遺構の解釈によるが、検出状況では新旧関係のある遺構はない。

〔形態・規模〕 埋設土器を含む規模は55×97cmで、形状は長楕円形基調である。

〔焼土の様相・厚さ〕 土器の胴部に沿う焼土が形成される。厚さは10cmほどである。

遺物 1個体の埋設土器とその他の土器片、総量3,338g出土した。粗製深鉢（111）を掲載した。

時期 出土遺物と炉の形態などから、縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものとしておく。

（6）焼土遺構

平成26・27年度とも7基ずつ検出した。それらの遺構確認面と検出数は、整地層1上面2基、整地層2で2基、基本層序Ⅲ層面が3基、Ⅳ層上面が7基である。

1号焼土遺構（第33図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 調査区西端の緩斜面部、I A 3 f グリッド第Ⅲ層上面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は37×48cmの不整形。燃焼部は明褐色をなし、厚さは7cmを測る。

〔遺物〕 縄文土器の破片13gが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

2号焼土遺構（第33図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 整地層1の中央部、I A 7 g・7 h グリッドで3号焼土遺構とともに検出された。

〔平面形・規模・厚さ〕 57×74cmの不整形をなし、燃焼部焼土は最大9cm。色調は2種に分かれる。

〔遺物〕 土器片16gが出土した。

時期 ¹⁴C年代測定（AMS）の結果は180±20yrBPであり、近世以降の新しい焼土遺構と判断した。

3号焼土遺構（第33図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 整地層1の中央部、I A 19 o グリッドで検出された。

〔平面形・規模・厚さ〕 38×43cmの不整形で、燃焼部焼土の厚さは6cm。炭化物粒を多く含む。

時期 ¹⁴C年代測定（AMS）を行ったが、結果は80±20yrBPで近世以降の焼土遺構と思われる。

4号焼土遺構（第33図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 I A 15 l グリッド第Ⅲ層上面で検出。付近に柱穴等を探したが検出できなかった。

〔平面形・規模・厚さ〕平面形は35×56cmほどの不整形、最大厚は9cmを測る。

〔遺物〕縄文土器片24.1gが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

5号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕IA8hグリッドの整地層1除去後、同2の上面で検出。付近に柱穴等は未確認。

〔平面形・規模・厚さ〕平面形は28×58cmの不整形、燃焼部の厚さは4cmである。

時期 ¹⁴C年代測定（AMS）で、測定値は870±20yrBP。古代末から中世初頭と判断される。

6号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕整地層2の上面、IA8gグリッドに位置する。

〔平面形・規模・厚さ〕平面形は40×66cmの不整形楕円形、燃焼部焼土の厚さは8cmである。

時期 年代測定（AMS）値は3,630±30yrBPで、縄文時代後期前葉頃と判断される焼土遺構である。

7号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕IIA11グリッドにおいて、9号土坑の北側第Ⅱ層下面～Ⅲ層上面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕平面形は33×64cmの不整形長楕円形で、燃焼部焼土は厚さ5cmを測る。

時期 検出面から縄文時代に属すると思われるが、後期前葉に属する可能性が高い。

8号焼土遺構（第34図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕IA9hグリッドに位置し、本遺構自体は4号掘立柱建物跡内にある。

〔形状・規模・厚さ〕平面形は不整形楕円形で33×65cmの範囲に広がる。最大厚は8cmである。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

9号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕IA8hグリッドで26号土坑とともに、第Ⅲ層面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕36×60cmの不整形楕円形で、燃焼部は最大17cmほど形成される。燃焼良好。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

10号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕IA9fグリッドにある数少ない内帯内側の遺構。検出面は第Ⅲ層中である。

〔平面形・規模・厚さ〕平面形は25×33cmの不整形楕円形、燃焼部は最大13cm。焼けは良くない。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

11号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕IA9gグリッドに位置する。検出面は第Ⅲ層である。礫の抜き取り痕はない。

〔平面形・規模・厚さ〕25×30cmを測る台形状で、燃焼部は最大7cmの厚さで形成されている。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

12号焼土遺構（第35図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕IA7iグリッド北西に位置し、検出面は整地層2下の暗褐色土上面である。

1. 検出遺構

〔平面形・規模・厚さ〕平面形は34×93cmの不整形、厚さは最大7cm。〔遺物〕土器片34g。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

13号焼土遺構（第36図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕I A 7 f グリッドにあり、第Ⅲ層面で検出されるべき遺構である。

〔平面形・規模・厚さ〕40×?cmの円形をなすものか。燃焼部は最大12cmの厚さをもつ。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

14号焼土遺構（第36図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕I A 10 i グリッドの、31号土坑の南側に隣接する。整地層2下暗褐色土中に検出。

〔平面形・規模・厚さ〕36×48cmの不整形で、燃焼部は9cmの厚さに形成。燃焼部は締まっている。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

（7）埋設土器

1号埋設土器

遺構（第37図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕I A 5 h グリッドに位置し、整地層1の広がりとともに、第Ⅳ層上面で検出。

〔規模〕検出時に確認出来た土器の大きさは直径42cmほどで、これよりも若干大きめの掘り方をもっていた。検出時には欠損しているように思えた口縁部だったがこれも復元できた。

時期 遺物の特徴から、縄文時代後期初頭～前葉に属すると思われる。

2号埋設土器

遺構（第37図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕I A 8 i グリッドにあり、26号土坑が隣接する。整地層2下の暗褐色土で検出。

〔規模〕埋設される土器は全周しない。この土器よりも10cmほど大きめの掘り方をもつ。

時期 出土した土器から、縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

3号埋設土器

遺構（第37図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕I A 8 g グリッドで、内帯から南西方向に延びるトゲ状の石列の付け根付近にある。整地層2下の暗褐色土上面に相当する層（Ⅲ層相当）で確認された。

〔規模〕埋設土器の大きさは直径48cmでこれも全周しない。両側に10cmほどの掘り方をもつ。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

4号埋設土器

遺構（第37図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕I A 12 k・12 l グリッドに跨がる付近、38号集石と40号集石の中間に位置する。

〔規模〕埋設土器は直径30cmあまりで全周する。両側に10～20cmの掘り方をもつが、これは土坑状をなす。この規模は開口部で36×50cm、底部で19×24cm、深さは30cmを測る。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

(8) 掘立柱建物跡と柱穴

内帯の石列が環状に巡ると仮定して、それに沿うように、かつその中心方向に軸を描いて並ぶ掘立柱建物跡が5棟見つかった。これらは4ないし6個の柱穴を使用するが、縄文時代の土器片が出土するものもあり、5棟とも配石遺構（内帯とした石列）に何らかの形で関わる遺構と考えられる。これらを構成する柱穴内から出土した炭化物のAMS年代測定を行ったが、その結果からみても配石遺構と同様、縄文時代後期初頭から前葉に属するものであることはほぼ間違いなからう。

柱穴は総数で35個確認されたが、掘立柱建物を構成するもの23個、それ以外のもの12個である。これらについては、第3表に一覧を掲載した。

1号掘立柱建物跡

遺構（第38図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I A12h・12g・13hの各グリッドに跨る。柱穴群は第VI層上面で検出した。

〔建物方位〕 1間×1間の掘立柱建物で柱穴は4個使用する。長軸方向はN-29°-Wである。

〔柱間距離〕 短軸P005-P009 237cm、長軸P001-P005 254cm。

〔面積〕 9.3㎡前後。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

2号掘立柱建物跡

遺構（第38図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I A11h・12hに位置し、1号掘立柱建物に隣接する。第VI層上面で検出。

〔重複〕 19号土坑とP002が重複するが、後者が新しい。

〔建物方位〕 1間×2間の柱穴を6個使用する建物で、中間の柱穴が外に張り出す所謂亀甲形、あるいは六角形タイプと呼ばれるものである。長軸方向はN-18°-Wである。

〔柱間距離〕 P004-P007 221cm、P003-P006 252cm、P004-P008 142cm、P008-P003 148cm、P007-P002 140cm、P002-P006 136cm。

〔面積〕 10.5㎡前後。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

3号掘立柱建物跡

遺構（第39図、写真図版36）

〔位置・検出状況〕 I A10h・11hグリッドに跨る。6個の柱穴はいずれも第VI層上面で検出した。

〔重複〕 8号跡は付属するものではない。他に柱穴が見られるが、いずれも新旧は不明である。

〔建物方位〕 2号掘立柱建物跡と同じ、1間×2間の六角形タイプである。長軸方向はN-21°-E。

〔柱間距離〕 P012-P015 258cm、P013-P026 248cm、P012-P021 173cm、P021-P013 164cm、P015-P016 162cm、P016-P026 168cm。

〔面積〕 13.3㎡前後。

遺物 P021から土器片が15.3g出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

4号掘立柱建物跡

遺構（第39図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕 I A 9 g・9 h グリッドに跨る。3号掘立柱建物に隣りあう。第VI層上面で検出。

〔重複〕 本遺構内に8号焼土があるが、伴う可能性もある。P017は本遺構には絡まない。

〔建物方位〕 1間×1間柱穴4個使用の建物で、長軸方向はN-15°-Eである。

〔柱間距離〕 長軸P019-P028 253cm、P022-P018 255cm、単軸P019-P022 196cm、P028-P018 177cm。〔面積〕 7.3㎡前後。

〔付属施設〕 上述のとおり8号焼土が炬となるか。

遺物 P022から土器片が10.6g出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

5号掘立柱建物跡

遺構（第40図）

〔位置・検出状況〕 I A 7 f グリッドの礫群が散乱する付近に位置する。

〔重複〕 5号竪穴住居跡と重複するが、本遺構のあり方から住居よりも新しい。

〔建物方位〕 1間×1間、柱穴4個使用の建物である。長軸方向は1号・4号掘立柱建物と逆となり、その方向はN-72°-Eである。

〔柱間距離〕 長軸P033-P035 270cm、P031-P034 240cm、単軸P033-P031 200cm、P035-P034 220cm。

〔面積〕 6.6㎡前後。

〔付属施設〕 柱穴などが周辺にあるが、本遺構には伴うものではない。

遺物 P031から7.8g、P033から5.1g、P034から33.1g、それぞれ土器片が出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

（9）配石遺構

平成26年度調査の開始直後から大量の礫が確認され、日を追うごとにその広がりも拡大した。調査の中ほどにはその全貌が明らかとなり、最終的に確認できた礫の総数は1,000個以上を数えた。この礫群の性格については、これらとともに出土する土器が縄文時代後期初頭から前葉を主体とすることから、いわゆる「縄文時代の配石遺構」の可能性が高いことが明らかとなった。礫が配列される状況の違いから、60基あまりの石の集合体と捉えられる外帯と、弧状をなす石の列とみられる内帯という二重構造をとることを確認したが、初年度の調査はその時点で終了を迎える。

平成27年度は、これら内帯・外帯からなる配石遺構の詳細を調査すべく「三次元計測」なる方法も用いながら、「配石遺構の一部移設・復元」を念頭に置いた調査を実施した。対象とした配石遺構は、内帯の礫700個あまりと外帯の配石遺構5基の礫群で、調査の終盤に洋野町立角の浜小学校の旧校舎の校庭に運び込んでいるが、これら実物の礫と三次元計測時の位置データにより、内帯のすべてと外帯の集石5基については復元が可能な状況にある。それ以外の礫については、石質鑑定のみを行った。

外帯の集石群

配石遺構のうち、外帯を構成する礫群に対しては「石の集合体」という意味合いで「集石」と呼称し、全体で62基を登録した。他の遺構名に付け替える案として、「集石」と「配石墓」を区別する、

あるいはすべてを「配石遺構」と変更するなど考慮したが、墓である証拠として人骨が確認されなかったことなどもあり、ここでは調査時の遺構名をそのまま用いることとした。

外帯の集石群は、石が配置される状況によって二つに大別される。いわゆる「配石墓」のように石の集合体として捉えられるものとそうでないものの二種である。さらに前者には、下部土坑を伴うものと伴わないものがあるが、これらの別については、それぞれの遺構の記載項目の中に示す。

1号集石

遺構（第42図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 I A 7 i グリッドに位置し、他の集石とともにⅢ層暗褐色土で検出した。

〔規模等〕 長さ220cm、幅75cmに大小9個の礫からなる。北西から南東方向に直線状に延びる。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で、花崗岩・花崗閃緑岩が数個混じる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑等は確認できない。

〔性格〕 下部土坑は伴わない。外帯の南西端にあり、その一部を構成するものと思われる。

遺物 土器片が647g出土したほか、33号土坑出土の破片と接合した石製円盤が1点ある。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

2号集石

遺構（第42図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 1号集石の東側、I A 7 j・8 j グリッドなどに跨がる。Ⅲ層で検出した。

〔規模等〕 およそ2m四方の範囲に30個強の礫が検出された。このうち、集合体として捉えられる礫はS 9～27で、長さ170cm、幅100cmほどの規模をもつ。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩が主体で、他にデイサイト・ハンレイ岩が見られる。円礫は全体の1～2割程度混じる。

〔下部土坑〕 礫の配置に沿って61×109cmの下部土坑が検出された。底面には凹凸があって、北側と南側の2箇所は深く大きい。埋土は褐色土としまりのない暗褐色土である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから、埋葬施設の可能性も否定できない。いずれ、外帯の一部を構成する集石である。

遺物 土器片2,735gのほか、ミニチュア土器や土製円盤、石器類では砥石と石製円盤が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

3号集石

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 I A 8 i グリッド南東隅に位置する。他の集石とともにⅢ層で検出した。27号土坑と重複するが、本遺構の方が新しい。

〔規模等〕 長さ170cm、幅110cmあまりの範囲に大小20個弱の礫からなる。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で、花崗岩・花崗閃緑岩が数個混じる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できないが、上述のとおり27号土坑と切り合う。

〔性格〕 下部土坑は伴わず墓とは認められない。外帯の一部を構成する集石である。

遺物 土器片2,840gとミニチュア土器が2点出土した。石器は出土していない。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

4号集石

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 I A 9 i グリッドの南東隅に位置し、Ⅲ層下面で検出した。本遺構の上には整地層1は被らない。斜面方向である南北側が長い。

〔規模等〕 10個の礫が楕円形に配され、長さ122cm、幅60cmほどの広がりをもつ。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩が主体で、角閃石ヒン岩が混じる。円礫は全体の2割混入する。

〔下部土坑〕 礫の広がりに沿って55×122cmの下部土坑が検出された。これも底面の凹凸が著しい。埋土はしまりのない暗褐色土である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは言い切れない。下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が1,937g出土した。石斧の未製品も1点見られる。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

5号集石

遺構（第44図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 I A 8 j・9 j グリッドに跨がって位置し、18号土坑と重複する。いずれも本遺構の方が新しい。Ⅲ層あるいはその相当層で検出したが、斜面の上方は整地層1ないし2が被っていた。

〔規模等〕 80×140cmの範囲に7個の礫があり南北方向に長い。いずれの礫も検出面より浮く。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩からなる。

〔下部土坑〕 重複するとして18号土坑が、これに伴う下部施設であった可能性は否定できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する集石としておく。

遺物 土器片635gのほか、異形石器が1点出土している。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

6号集石

遺構（第44図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 I A 9 j グリッドに位置し、整地層1の広がりを挟む。Ⅲ層下面で検出した。

〔規模等〕 10個の礫が長さ192cm、幅90cmの範囲に配される。立石と思える細長い礫も観察される。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗閃緑岩・デイサイトが見られ、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 礫の広がりと異なる向きに84×98cmの円形基調の土坑が見つかった。埋土は暗褐色土の単層で、ブロック状の黄褐色土を含む。底面には凹凸が目立つ。深さは最大32cmである。

〔性格〕 人骨は出土せず墓とは断定できないが、土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片2,742gのほか、ミニチュア土器と土製円盤が、石器類では石鏃と小形の石斧未製品が1点ずつ出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

7号集石

遺構（第45図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 I A 9 j・10 j グリッドに跨がって位置する。Ⅲ層で検出した。

〔規模等〕 90×285cmほどの範囲に30個あまりの礫が検出された。集合体をなす礫は6個あまりで、長さ150cm、幅90cmの規模である。

〔構成礫の石質〕 砂岩主体で花崗岩・花崗閃緑岩・デイサイト・凝灰岩がある。円礫は全体の1割。
 〔下部土坑〕 6個からなる礫の周辺に85×148cmの南北に細長い土坑を1基確認した。底面の凹凸が目立つ。埋土はしまりのない黒褐色土の単層で、深さは31～40cmである。
 〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できない。下部土坑を伴うことから、墓の可能性もある。
 遺物 土器片7,634gのほか、ミニチュア土器や不明土製品、石器は孫削器、敲石、磨石が見られる。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

8号集石

遺構（第46図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 I A 9 k グリッド中央付近に位置し、検出面はⅢ層上面である。礫とともにその外側に楕円形の暗褐色土のプランを確認した。下部土坑内にも数個（S14・15など）礫が混入する。前者の礫群のうち中央に並ぶものは、長辺側を東西に向けて置いているように見える。
 〔規模等〕 検出時の広がりには84×102cmほどの規模で南北に長い。
 〔構成礫の石質〕 砂岩を主体とし、他は花崗岩・花崗閃緑岩がある。角礫がほとんどである。
 〔下部土坑〕 ほば検出プランどおり、114×140cmの土坑を確認した。礫の下部と底面が密着しており凹凸が目立つ。礫はいずれも土坑内に落ち込むように入り込んでいる。埋土は上位がしまりのない暗褐色土、下位は第Ⅳ層に似る褐色土が人為堆積している。深さは35cmほどである。
 〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、埋葬施設を下部に残す配石墓の可能性はある。
 遺物 土器片が824g出土した。石器は見られない。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

9号集石

遺構（第46図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 I A 9 k グリッド、8号集石の西側1mに位置する。Ⅲ層で検出した。
 〔規模等〕 50×90cmほどの範囲に5個の礫を検出、S2～4の下に小さい土坑を確認した。
 〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩からなり、すべて角礫である。
 〔下部土坑〕 上述のとおり42×66cmほどの小規模な土坑を有する。
 〔性格〕 埋葬部の土坑とするには小規模であり、他の下部土坑とは性格が異なるだろう。
 遺物 土器片は611g、石器では孫削器などが出土した。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

10号集石

遺構（第47図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 I A 9 l グリッドの北東側に位置し、Ⅲ層面で検出。整地層1には覆われない。
 〔規模等〕 110×215cmの範囲に11個の礫を検出、構成礫6個は長さ90cm、幅100cmに広がる。
 〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩からなる。円礫はS9のみである。
 〔下部土坑〕 構成礫の下に、70×76cmの隅丸方形の土坑を確認した。これらはいずれも土坑内に落ち込むように入るが、底面には届いていない。埋土は暗褐色土の単層で、深さは20cmを測る。
 〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。
 遺物 土器片が229g出土したのみで、石器は見られない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

11号集石

遺構（第47図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A10k グリッドの南西側に位置し、これもⅢ層上面で検出した。18個の礫うち、配石と見なせるものはS1～3を除く15個である。S5は長さ1mを計る巨礫で立石であったか。

〔規模等〕 15個の礫は60×160cmの範囲に広がる。S5が立石であったとすれば若干小規模となる。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で花崗閃緑岩・花崗岩・ハンレイ岩などからなる。円礫は2割混じる。

〔下部土坑〕 S5が立っていたと思われる掘り方を伴う楕円形の土坑を検出した。礫の並びと同じ方向を長軸としている。規模は85×138cm、深さは40cm弱で、埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 下部土坑を伴い遺物も含まれることから、配石墓の可能性もある遺構である。

遺物 土器片636gのほか、下部土坑から土製円盤と石斧の未製品、この他には石鏃が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

12号集石

遺構（第48図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A9k・10k グリッドに跨がる。集石の外側に楕円形のプランを伴いながら、すべてⅢ層上面で検出した。本遺構は大小7個の礫からなり、一部は整地層1に覆われる。

〔規模等〕 55×92cmほどの規模をもつ。S1は立石であった可能性もある。

〔構成礫の石質〕 S1が花崗閃緑岩で、他は砂岩である。円礫は1個含まれる。

〔下部土坑〕 楕円形土坑1基を検出した。規模は76×106cm、深さは20cm。埋土は暗褐色土の単層。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから、配石墓の可能性もある。

遺物 土器片437gと石製円盤などが出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

13号集石

遺構（第48図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A10k・10l グリッドの西側に跨がっており、12号集石同様これも礫の外側に楕円形の黒褐色土プランが確認できた。検出面はⅢ層の暗褐色土である。

〔規模等〕 8個の礫があるが、大きめのS1～5・7の5個で配石を構成する。斜面に対して上下左右に礫が埋め込まれ、その中央の隙間にも礫が入る。規模は70×105cmを測る。

〔構成礫の石質〕 S3が花崗閃緑岩で他は砂岩である。円礫はS2・8、ハンレイ岩である。

〔下部土坑〕 検出プランと異なり、不整な楕円形に掘りあがった。規模は92×118cm、深さは15cmあまりと浅い。底面には細かな凹凸がある。埋土はやわらかい黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある遺構である。

遺物 土器片484gと石製円盤が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

14号集石

遺構（第49図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A 101 グリッドの北西端に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ160cm、幅60cmほどの範囲に4個の礫が散乱する。一連のものとは捉えにくい。

〔構成礫の石質〕 すべて砂岩である。〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片84gのみ出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものであろう。

15号集石

遺構（第49図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A 101 グリッドの南西隅に位置する。III層上面において、礫の外側に黒褐色の楕円形プランも確認した。14個の礫のうちS10以外で配石をなすが、整然と組まれている。

〔規模等〕 13個の礫は74×108cmの範囲に広がる。長軸は南北方向からは若干ずれている。

〔構成礫の石質〕 13個の礫は砂岩とアイサイト2個からなる。円礫は1個のみである。

〔下部土坑〕 礫の並びと同方向に長軸をもつ下部土坑が確認できた。規模は70×124cm、深さは25cm。それぞれの礫は底面まで届いておらず、底面の凹凸は小さい。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片355gと石鏃が1点出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

16号集石

遺構（第50図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A 91・101 グリッドの南端に位置する。III層下～IV層上面で、下部土坑の円形プランとともに検出した。この4個の礫だけで集石をなしていたかは不明である。

〔規模等〕 48×75cmの範囲にあり南北方向に長い。

〔構成礫の石質〕 砂岩1個、花崗閃緑岩3個。

〔下部土坑〕 不整形の土坑を検出した。規模50×74cm、深さ30cm。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、小規模ながら下部土坑を伴うことから、配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が63g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

17号集石

遺構（第50図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A 101 グリッド中央の南寄りにあり、III層～IV層上面で礫11個とその周りに土坑のプランを確認した。長軸方向は西側に振れる。配石と見なせる礫はS1・2を除く9個であろう。

〔規模等〕 9個の礫は90×115cmほどにあり、楕円形をなしてまとまる。S5は立石であったか。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で花崗閃緑岩・花崗岩・ヒン岩・凝灰岩が見られる。角礫が主である。

〔下部土坑〕 立石状のS5が埋まる土坑を確認した。不整楕円形をなし、規模は80×115cm、深さは10～35cmを測る。底面は礫の掘り方と思われる大きな凹凸をもつ。埋土は暗褐色土が主体である。

1. 検出遺構

〔性格〕墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が454g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

18号集石

遺構（第51図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A10 l グリッドの南東隅に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕長さ150cm、幅65cmの範囲に5個の礫があり、中でも2個の細長い円礫は並列する。

〔礫の石質〕3個の砂岩、花崗岩、花崗閃緑岩1個ずつからなる。

〔下部土坑〕構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が218g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

19号集石

遺構（第51図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A10 m グリッド北側に位置する。Ⅲ層下～IV層上面で検出した。

〔規模等〕長さ330cm、幅150cmあまりの範囲に7個の礫が散在する。まとまりはない。

〔礫の石質〕砂岩、花崗岩、花崗閃緑岩からなる。

〔下部土坑〕構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片486gのほか、石器類は、2種の敲石計2点と石製円盤1点などが出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

20号集石

遺構（第52図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A10 j グリッド南東隅に位置する。Ⅲ層面で礫26個とともに、外側に不明瞭な楕円形のプランも確認できた。長軸方向は東側に振れる。配石と見なせる礫は大小20個あまりか。

〔規模等〕配石をなす礫は85×155cmの範囲にあり、他の配石よりも小礫が多く密集した状態である。

〔構成礫の石質〕砂岩・花崗閃緑岩・花崗岩にデイスサイトや凝灰岩が見られ、うち円礫は3個である。

〔下部土坑〕 S 3～8、21～26などの下部に、楕円形の土坑を確認した。礫の広がりよりは小さく、規模は55×94cm、深さは12～15cmを測る。底面には大きな凹凸がない。埋土は黒褐色土の単層。

〔性格〕墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片2,418gと石斧の未製品1点が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

21号集石

遺構（第52図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A11 j グリッド北側に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕およそ180cm四方に4個の礫が散在する。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩や珪質頁岩からなる。

〔下部土坑〕 確認できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群であるが、まともには認められない。

遺物 土器片が58g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

22号集石

遺構（第53図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 I A 11 k グリッド北側に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。長軸を北西-南東方向にもつ。12個の礫を確認したが、原位置を保っていないS 3～8は集石から外れる。

〔規模等〕 塊をなす6個の礫は80×142cmの範囲にあり、特にS 2は深く差し込まれている。

〔構成礫の石質〕 花崗岩とヒン岩からなり、円礫はS 7のみである。

〔下部土坑〕 不整形の細長い土坑状の掘り込みを伴う。規模は64×115cm、深さは35～40cmを測る。底面は丸みを帯び比較的平坦である。埋土は土器片を含む黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が1283g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

23号集石

遺構（第53図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A 10 k・11 k グリッドに跨って位置し、Ⅲ層上面で円形に確認できた。

〔規模等〕 130×164cmの範囲に丸く広がる。礫間には適度な隙間が保たれている。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩で、デイサイトが1個混じる。赤みをもつ礫が多い。

〔下部土坑〕 礫の広がりに沿うように、円形の土坑が確認された。規模は94×136cm、深さは30cm前後である。いずれの礫も底面には達しておらず、比較的平坦である。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土していないが、土坑を伴う配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片649gと敲石が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

24号集石

遺構（第54図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 23号集石の南西側、I A 10 k・11 k グリッドに跨がる。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 礫は120×240cmの範囲に散らばる。S 11と他の2つの礫で70×100cmの広がりをもつ。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩から構成され、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 規模75×104cm、深さ20cmあまりの不整形円形をなす土坑が1基確認された。埋土は粘性のある暗褐色土で浮石粒を含む。底面は礫の凹凸もなく平坦である。

〔性格〕 まともでない礫の配置だが、土坑を伴うことから墓として機能した可能性がある。

遺物 土器片503gのほか、ミニチュア土器が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

25号集石

遺構（第54図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A10k グリッド南端に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。15個ほどの礫は、木根に若干押されているものもある。検出時には石刀の欠損品もこの周辺から出土した。

〔規模等〕 礫は90×95cmの範囲に三角形に広がり、そのまわりは比較的密である。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・ヒン岩などからなる。円礫はS8のみである。

〔下部土坑〕 長方形の土坑が1基確認され、規模は70×94cm、深さは30cm強である。埋土はしまりのない黒褐色土の単層で底面には凹凸がある。長軸方向は西側に45度前後振れている。

〔性格〕 人骨は出土していないが、土坑を伴う配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が869g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

26号集石

遺構（第55図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A10l グリッド中央からわずかに北東側に位置し、Ⅲ層上面で黒褐色土のプランとともに集石を検出した。S8～10を除く15個あまりの礫の集まりは極めて密である。

〔規模等〕 15個の礫は110×115cmの楕円形に広がる。S11は最も大きく目立つ礫である。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩が主体で頁岩を数個含む。円礫は1個だけであった。

〔下部土坑〕 楕円形基調の土坑状の掘り込みが認められた。規模は107×130cm、深さは15～32cmを測る。底面は、礫の掘り方なのか凹凸が著しい。埋土は土器片を含む褐色土の単層でしまりが無い。

〔性格〕 人骨は出土しておらず断定できないが、墓として機能した可能性がある。

遺物 土器片が546g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

27号集石-1

遺構（第55図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A10l グリッド北東隅に位置し、20個以上の礫の集合をⅢ層上面で検出した。当初は長さ2m、幅70cmに及ぶ1基の集石としたが、後日中央から二つの集合体に分けた。

〔規模等〕 S1～6・16～19など10個あまりの礫からなり、85×87cmほどの範囲に広がる。S6はまわりに入らない。S19は磨石である。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗閃緑岩・デイサイトなどで、円礫は数個混入する。赤化した礫も混じる。

〔下部土坑〕 楕円形基調の不整な土坑が見つかった。規模は112×63cm、深さは10～30cmである。底面は凹凸があり、埋土は黒褐色土～暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 土器片が1,576g出土した。27号集石として取り上げたもので、2との区別は出来ない。また、土製円盤が1点出土したが、土器片同様いずれかは分からない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

27号集石-2

遺構（第55図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 上述のとおり、I A 10 I グリッドの27号集石-1北東側に隣接する。

〔規模等〕 S 7~14など10個あまりの礫からなり、55×116cmの範囲に広がる。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩の3種がある。これにも赤みのある礫を含む。

〔下部土坑〕 掘り込みがあるが、規模は55×110cmで、深さは1030cm弱である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 上述のとおり。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

28号集石

遺構（第56図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A 10 I・11 I グリッドに跨がる。周りの集石とともに、Ⅲ層上面で30個以上の礫と土坑状の楕円形プランを検出した。S 8・17~22・37などはその塊から外れる。

〔規模等〕 礫は110×176cmの楕円形に広がり礫間の隙間は小さい。長軸は北東から南西方向にある。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩を主体にデイサイトなどが見られ、円礫は全体の1~2割ほど混入する。赤化した礫も数個あるが、置かれる前に被熱したものか。

〔下部土坑〕 不明瞭ではあるが、不整な楕円形の土坑が確認された。礫は底面に至らず、そこに凹凸は少ない。埋土はしまりのない黒褐色土の単層である。

〔性格〕 断定はできないが墓の可能性ある。残存状態が良いため、移設対象とした遺構である。

遺物 土器片が666g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

29号集石

遺構（第56図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A 11 k・11 I グリッドに跨がり、Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 礫は72×164cmの範囲に広がり、長軸は北東-南西方向にある。S 1・2は墓標や目印か。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩・砂岩が主体で、デイサイト・アプライトが混じる。円礫は2割程度。

〔下部土坑〕 台形基調の不整な土坑が1基確認できた。規模は80×118cm、深さは18~25cmである。底面は礫の形状にあわせて凹凸をもつ。埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が253g出土した。石器は出土していない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

30号集石

遺構（第57図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A 11 k グリッド中央からわずかに南寄りに位置する。Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。20個あまりの礫を確認したが、S 1・13~17などはまともから外れている。

〔規模等〕 塊をなす礫は70×140cmほどの範囲にあって、中央部は礫が密集している。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩を主体とし、閃緑岩やはんれい岩が1個ずつ入る。円礫は混入しない。

1 検出遺構

〔下部土坑〕不整形の土坑が確認された。規模は82×101cm、深さは10～42cmを測る。底面は斜面下方に深くなり、礫の凹凸も若干認められる。埋土は黒褐色土の単層でしまりに欠ける。

〔性格〕下部土坑の状況から埋葬に関わる遺構とは考えにくいですが、墓であった可能性も残る。

遺物 土器片430gと敲石が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

31号集石

遺構（第57図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕I A11kグリッドの北東寄りにあり、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。30個以上の礫からなるが、S1～3などの大きい礫は墓標であったか。S5はまとまりから外れる。

〔規模等〕礫は120×160cmの範囲にあり、その中央部は小さめの礫で占められる。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩を主体に、デイサイト・凝灰岩・はんれい岩・頁岩などが1つずつ入る。円礫は全体の2割ほどである。赤化した礫が数個混入しているが、被熱したものか。

〔下部土坑〕不明瞭ではあるが、不整形な楕円形の土坑が確認された。規模は106×158cm、深さは5～25cmを測る。礫は底面に至らず、そこに凹凸は少ない。埋土はしまりのない黒褐色土の単層である。

〔性格〕人骨等は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が273g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

32号集石

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕I A11kグリッド南端に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出。礫が落ち込む様相。

〔規模等〕礫は85×90cmの範囲に密集している。礫同士が重なる箇所も見られる。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩・はんれい岩の4種があり、うち円礫は3個である。

〔下部土坑〕円形基調の土坑が1基検出された。規模は81×98cm、深さは最大30cmを測る。底面はわずかに波打つが礫の凹凸は見られない。埋土は単層でしまりが無い。

〔性格〕人骨は出土していないが、下部施設を伴うことから墓となる可能性がある。

遺物 土器片がわずか35g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

33号集石-1

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕I A11kグリッドの南西隅に位置し、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。全体規模等が不明確であったが、木根を境として東西二つに分かれる集石と判断した。ここでは33号集石-1・2として記載する。本遺構は15個あまりの礫からなる。

〔規模等〕S5～8、10～14など95×132cmの範囲にあり、うちS7は立石と思われる。

〔構成礫の石質〕砂岩と花崗閃緑岩を主体に花崗岩やハンレイ岩が入る。円礫は1～2割程度混入。

〔下部土坑〕楕円形基調の不整形な土坑が確認出来た。規模は72×100cm、深さは10～30cmを測る。底面には細かな凹凸がある。埋土は黒褐色土～暗褐色土の単層で、ほぼしまりは無い。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 土器片が322g出土したが、2とは区別できない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

33号集石-2

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I A11k グリッドの南西隅、上述のとおり、33号集石-1の東側にある。

〔規模等〕 礫はS1・2のほか、15~22・26~28などからなる。これらは94×180cmの範囲にある。

〔構成礫の石質〕 砂岩を主体に花崗斑岩などが入る。円礫は認められない。赤化した礫が目立つ。

〔下部土坑〕 楕円形基調の掘り込みがあるが、規模は55×110cm、深さは数cm~最大40cm弱である。底面は礫の掘り方の細かな凹凸がある。埋土は黒褐色土~暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 322g土器片が出土したが、1と区別できない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

34号集石

遺構（第59図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッドの北西隅にあり、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。

〔規模等〕 70×82cmに広がる。大きめの礫4個が長方形をなし、その中は2つの礫で充填される。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩で、ホルンフェルスが1個入る。すべて角礫である。

〔下部土坑〕 円形基調の土坑が検出された。規模は79×100cm、深さは15~34cmを測る。礫の形状に合う凹凸が見られる。埋土は黒褐色土の単層でフカフカとやわらかい。

〔性格〕 人骨等は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片がわずか40g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

35号集石

遺構（第59図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッド西端に位置する。Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 45×100cmの範囲に4個の角礫があり、2個は上下に重なる。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩2個と砂岩2個からなる。

〔下部土坑〕 確認できない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が110g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

36号集石-1

遺構（第60図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 当初は幅70~80cm、長さ250~280cmに広がる14個の礫から構成される1基の集石として登録したが、途中S1~7、S8~13の2基の集石に分けることとした。本遺構はI A12k グリッド南西隅に位置、Ⅲ層上面で検出した。集石内を区切るように配置される礫がある。

1 検出遺構

〔規模等〕90×122cmに広がり、S7は若干外れる。S1は目印的な使われ方か。

〔構成礫の石質〕花崗岩・花崗閃緑岩・閃緑岩からなる。円礫はS6のみである。

〔下部土坑〕不整な楕円形の土坑を検出した。規模は64×112cm、深さは最大30cmである。底面は礫の凹凸が目立ち、斜面方向に傾く。埋土は黒褐～暗褐色土の単層である。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が50g出土したが、2との区別はできていない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

36号集石-2

遺構（第60図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕IA121グリッドの基点杭を遺構の中心に置く。これもⅢ層上面で検出した。

〔規模等〕6個の礫が50×94cmの範囲に重なるようにある。

〔構成礫の石質〕花崗岩・花崗閃緑岩・ヒン岩などで、すべて角礫である。

〔下部土坑〕礫の掘り方が残る箇所があるが、下部施設は認められない。

〔性格〕埋葬施設は持たないが、配石墓に類する配石遺構の可能性はある。

遺物 上述のとおり。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

37号集石

遺構（第61図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕IA12k・121グリッド、Ⅲ層上面で検出した。10個の礫が楕円形に密集する。

〔規模等〕礫は58×70cmほどの範囲にあって、礫間は密集している。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩を主体とし花崗斑岩がひとつ入る。円礫は2個である。

〔下部土坑〕円形基調の土坑で、規模は74×78cm、深さは10～18cm。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が40g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

38号集石

遺構（第61図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕IA121グリッド北端に位置し、これもⅢ層上面で土坑プランとともに確認した。

〔規模等〕長軸方向を北東-南西にもつ集石で、74×114cmの範囲に広がる。礫は密集していない。

〔構成礫の石質〕花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・石英斑岩などからなり、円礫は2個混じる。

〔下部土坑〕楕円形の土坑を検出した。規模は82×88cm、深さは最大35cmである。底面は小さく波打ちいずれの礫も底面には届かない。埋土は黒褐色土の単層でやわらかい。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片のみ、105g出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

39号集石

遺構（第62図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッドの南端に位置し、Ⅲ層上面で検出した。三角形に配置されるか。

〔規模等〕 礫は一辺が120cmの三角形に広がり、礫間は密集した箇所とそうでない箇所がある。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・ハンレイ岩などからなる。円礫は見られない。

〔下部土坑〕 方形基調の不整な土坑を礫下に伴う。規模は90×92cm、深さは10～40cmを測る。底面は地形面に沿って傾斜し、部分的に礫の凹凸を有する。埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片107gのほか、石斧の未製品が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

40号集石

遺構（第62図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッド南東側、Ⅲ層上面で礫と楕円形のプランを確認した。

〔規模等〕 62×117cmの範囲にあり、他はその中を区切るように配されている。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗岩がほぼ半数で、他に花崗閃緑岩や閃緑岩がある。円礫はS12のみ。

〔下部土坑〕 85×111cmの楕円形の下部土坑を検出した。細長い礫が縦に埋め込まれる部分の底面には、その形状に伴う凹凸が見られる。埋土はやわらかい暗褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部に土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片は79g出土し、石器は異形石器が1点見られた。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

41号集石

遺構（第63図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k・13k グリッドに跨がってある。Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ135cm、幅50cmあまりの範囲に6個の礫があり、二つの塊をなす。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩とアブライトからなる。〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が370g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

42号集石

遺構（第63図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッド東寄りに位置し、Ⅲ層上面の暗褐色土で検出した。

〔規模等〕 礫が155×188cmの範囲に広がる。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩とアブライトが主体で、花崗岩・砂岩・ハンレイ岩などが見られる。

〔下部土坑〕 掘り上がりが不整な楕円形をなす土坑を確認した。規模は125×210cm、深さは14～28cmである。底面は大きく波打つが凹凸は少ない。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨等が出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片が828g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

43号集石

遺構（第64図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕 I A12j・12k グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 比較的大きめの礫が直径120cmほどの範囲にあるが、集合体として捉えやすい。

〔構成礫の石質〕 花崗岩と花崗閃緑岩がほぼ半数で、これらはすべて角礫である。

〔下部土坑〕 集合体の外周に沿う不整形ななす土坑を確認した。規模は直径130cm前後、深さは25cmを測り、底面には大きな凹凸がない箇所もある。いずれの礫も周囲から落ち込んでいる。

〔性格〕 墓とは断定できないが、円形の下部土坑を伴う配石墓の可能性はある。

遺物 土器片がわずか12g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

44号集石

遺構（第64図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕 I A12k グリッドに位置し、これもⅢ層上面の暗褐色土で検出した。南北に長い。

〔規模等〕 楕円形をなす礫12個は70×94cmほどの範囲に広がり、S1・13・14はそれから外れる。

〔構成礫の石質〕 花崗岩を主体に、砂岩・花崗閃緑岩・デイサイト・ひん岩・アブライトがあり、円礫が全体の1割程度含まれる。S4～7などは赤みの強い色調を見せる。

〔下部土坑〕 楕円形をなす土坑が確認された。規模は100×130cm、深さは25cm前後で、底面は皿状をなす。礫が底面に至らないためか、凹凸は見られない。埋土は炭化物粒を含む暗褐色土の単層。

〔性格〕 人骨や副葬品と思われる遺物は出土していないが、下部土坑を有する配石墓の可能性はある。

遺物 土器片73gのほか、ここでは数少ない石匙が1点出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

45号集石

遺構（第65図、写真図版49）

〔位置・検出状況〕 I A13k グリッドの中央から南寄りに位置する。Ⅲ層上面およびそれに相当する層で検出した。礫20個強の礫を確認したが、S20・21は集石部分から若干距離を置く。

〔規模等〕 それらを除く広がりには110×180cmになるが、礫どうしが重なり合っている。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩とアブライト・デイサイトが主体で、円礫は1割ほど混じる。

〔下部土坑〕 集合体よりも小さめの楕円形土坑を1基確認した。規模は100×172cm、深さは最大で20cmを測る。底面には目立つ凹凸がない。埋土は黒褐色土の単層でやはりしまりが無い。

〔性格〕 下部土坑を伴う配石墓の可能性のある遺構である。

遺物 土器片661gと石斧の未製品1点が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

46号集石

遺構（第65図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕 I A12l グリッドに位置し、Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 礫2個からなる。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩と花崗岩である。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が204g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

47号集石

遺構（第66図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕 I A13k グリッドの北側に位置し、検出面はⅢ層上面の暗褐色土である。礫17個とその周辺に円形のプランも確認した。軸方向は斜面に沿うが不明瞭である。

〔規模等〕 比較的大きめの礫は140×140cmの範囲にあるが、密集した感じではない。

〔構成礫の石質〕 花崗岩が主体で、花崗閃緑岩と砂岩が1個ずつ混じる。円礫は1個である。

〔下部土坑〕 S9～12を除く箇所に、不整な楕円形をなす土坑を1基確認した。規模は95×130cm、深さは10～15cmを測る。底面には大きな凹凸が認められず、比較的平坦である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が1,328g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

48号集石

遺構（第66図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕 I A13k グリッド北西隅に位置し、検出面はⅢ層上面である。S4など立石状か。

〔規模等〕 残り7個の礫は74×82cmの範囲に円形に密集している。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩のほか、溶岩と閃緑岩が混じる。円礫は3個程度。

〔下部土坑〕 幅80×長さ100cmの既ね台形をなす土坑を検出した。深さは10～25cmで、底面には礫が埋まる深さの凹凸が認められる。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片が411g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

49号集石

遺構（第67図、写真図版50）

〔位置・検出状況〕 I A12j・13j グリッドに跨がりⅢ層上面で検出。S2は台石からの転用である。

〔規模等〕 4個の礫は60×100cmの範囲にあり、S6とS7は重なる。

〔構成礫の石質〕 花崗岩が4個、アブライトが1個で、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 S6・7の外側に、幅75×長さ85cmの不整円形の掘り込みを確認した。礫の据え方に関わるもので、埋葬施設とは思われない。深さは30cm前後で、底面には凹凸が見られる。

〔性格〕 この状況から埋葬に関わる集石ではないと思われる。外帯の一部を構成する集石である。

遺物 土器片が314g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

50号集石

遺構（第67図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A14 l グリッド杭付近にある。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 110×150cmの範囲に礫7個が散乱している。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩とアブライトの他、風化の進んだ蛇紋岩（石斧の未製品）が見られる。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片398g、石器では石斧の未製品が1点出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

51号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A14 k グリッドにある。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ150cmに礫2個のみ。

〔礫の石質〕 2個とも花崗閃緑岩である。

〔下部土坑〕 なし。

〔性格〕 外帯の一部を構成する礫群としておく。

遺物 わずか4gの土器片が出土したのみである。

時期 縄文時代後期に属するものである。

52号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A14 j グリッドの南西端に位置する。Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 70×140cmあまりの範囲に大きめの礫が2個。

〔礫の石質〕 ともに花崗閃緑岩である。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帯の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片375gと敲石が1点出土した。

時期 縄文時代後期に属するものである。

53号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 I A13 j・14 j グリッドに跨がり、Ⅲ層上面で検出した。8個の礫を確認した。

〔規模等〕 6個の礫は40×70cmの範囲に広がる。礫間には隙間が見られる。

〔構成礫の石質〕 すべてアブライトであったが、石質が1種類であるのは本遺構の礫群だけである。

〔下部土坑〕 不整形の土坑を検出したが、礫の形状に伴う凹凸はその掘り方そのものと言える。深さは最大で45cmで、埋土はやわらかい黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できない。

遺物 土器片が464g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

54号集石

遺構（第69図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕53号集石の東側、I A14 j グリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕50×92cmの範囲に細長く並ぶ。S1・6は配石からは外れるか。

〔構成礫の石質〕アブライト主体で、花崗岩・ホルンフェルスが混じる。すべて角礫で赤く変色する。

〔下部土坑〕幅48cm×長さ92cmの長方形をなす土坑を1基検出した。深さは15cm程度で、底面には礫の形に沿う凹凸が認められる。埋土は黒褐色土の単層でしまりが無い。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片197gのほか、石斧が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

55号集石

遺構（第69図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕I A14 j グリッドに位置し、これもⅢ層上面で検出した。9個の礫を確認した。

〔規模等〕4個の大きめの礫は82×96cmの範囲にあり、S7にS2が重なる。S2は墓標のか。

〔構成礫の石質〕アブライト・花崗岩・花崗閃緑岩・デイサイトなどがあるが、円礫は2個である。

〔下部土坑〕幅56cmほどの掘り込みを確認した。深さは最大で33cmを測る。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片が457g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

56号集石

遺構（第70図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕I A15 j グリッドにあり、Ⅲ～Ⅳ層で検出した。

〔規模等〕小礫1個を含む礫3個が散乱している。

〔礫の石質〕花崗閃緑岩とアブライトの他、蛇紋岩（石斧の未製品）あり。

〔下部土坑〕認められない。

〔性格〕規模は小さいが、外帯を構成する礫群の一部である。

遺物 土器片が294g出土した。石器は石籠が1点見られた。

時期 出土遺物から縄文時代後期に属するものである。

57号集石

遺構（第70図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕I A15 j グリッド杭を中心に4つのグリッドに跨がる。Ⅲ層上面で検出した。9個の礫を確認しているが、S1・6以外は小さめの礫が並ぶ。

〔規模等〕85×120cmの範囲に広がる。いずれの礫も構築面より高い位置にある。

〔構成礫の石質〕花崗閃緑岩1点と他はすべてアブライトで、いずれも角礫である。

〔下部土坑〕なし。

〔性格〕下部土坑を伴わず、配石墓とは言えない。外帯を構成する礫群の一部である。

遺物 土器片592gと異形石器が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

58号集石

遺構 (第71・72図、写真図版52)

〔位置・検出状況〕本遺構は、数多くある集石の中で最大規模をもち、かつ調査区内で最も標高の高い地点につくられたもので、当初の調査区北東側 I A14 i グリッドに位置する。これもⅢ層上面で、50個以上の大小の礫の広がりを確認した。S 1 は30～65cm×120cmほどある巨礫であるが、途中で折れ原位置は保っていない。検出時、周辺には土坑等のプランは確認されなかった。

〔規模等〕50以上を数える礫は300×370cmあまりの範囲にあるが、上述の密集した箇所は130×185cm前後で、最終的に検出できた下部土坑もほぼこの広がり重なっている。

〔構成礫の石質〕花崗閃緑岩とアプライトを主体とし、ホルンフェルスやチャートが含まれる。円礫は全体の1～2割混入し、赤みを帯びる礫も中央部に目立つ。

〔下部土坑〕礫を除去後、不整形円形をなす幅1.8m×長さ2.5m、深さ35～40cmの下部土坑を検出した。一見2つの土坑に見えたが、上段部底面の堆積土と下段部北西側の底面に同じ堆積土が分布していることから、掘り込みが2段となる1基の土坑と判断した。1～3層はしまりがなく、他の下部土坑堆積土と状況は同じである。ブロック状の黄褐色土がモザイク状に分布し、人為堆積と考えられる。

〔性格〕下部土坑は、土壙墓としては規模が大きすぎるようであり、また埋土は重複と捉えられるような堆積状況ではなかった。このことだけから埋葬行為があったかどうかは判断できない。敢えて墓と捉えるならば、主体部が下段部となり、配石設置に関わる範囲が上段部と捉えるのが適当か。

遺物 土器片1,021gと錐形土製品、土製円盤、石器類では砥石、敲石がそれぞれ1点ずつ出土した。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構である。大形の下部土坑を伴う最大規模の配石遺構であり、外帯の中でも特別な遺構であったものと考えられる。

59号集石

遺構 (第72図、写真図版53)

〔位置・検出状況〕I A10 j・10k グリッドの西側に跨がって位置する。整地層1が施される範囲の境界付近にあるが、それを除去後にⅢ層上面で検出した。下部土坑のプランは不明瞭であった。

〔規模等〕礫は50×150cmの範囲に広がる。S 2 は立石であった可能性がある。

〔構成礫の石質〕砂岩に花崗閃緑岩が1つずつ混入する。S 9のみ円礫である。

〔下部土坑〕幅94×長さ112cmの楕円形をなす土坑を検出した。深さは最大で40cmを超える。埋土は、土器片をわずかに含む黒褐色土の単層でしまりが無い。底面には大小の凹凸をもつ。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性はある。

遺物 土器片2,241gと土製円盤1点、石器類では石皿からの転用品、有孔石製品が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

内帯の石列 (第73図、写真図版15)

本遺構は、調査区北側の中央部に確認された総数180個の礫からなる石の列で、整地層1の除去作業を開始したところ、第Ⅲ層からⅣ層上面あるいは整地層2の上面で徐々に多数の礫が顔を出し、最終的にはその数を数えることとなった。全体規模は不明であるが、階上丘のある西南西方向にトゲ状の石列が4mほどまっすぐに延び、弧状をなす本体は、北側の調査区域外に広がる 것이予想される。

構成礫の石質は、花崗岩がおおよそ65%を占め、次いで花崗閃緑岩が10%弱、花崗斑岩・デイサイトが3%ずつで、他にはハンレイ岩・ベグマタイト・斑岩などが見られる。全体としてみれば環状ないし弧状に配されているが、途切れ途切れの箇所も見受けられる。重なり合う礫もあるが、あまり密集した感じは受けない。礫の大きさは、拳大より小さいものから直径80cmほどの巨礫もあり、角礫・亜角礫が主体ながらも、2～3割ほど円礫が混じる。重複する遺構に5号竪穴住居跡があるが、確実に本遺構の方が新しい。また、3号埋設土器とは隣接するが重複関係にはない。本遺構の内側に検出された遺構には、P010・011の二つの柱穴と10号焼土遺構があるが、本遺構との関連は掴めていない。

この遺構全体を、弧状あるいは環状の円環をなすものとして線形を描いてみたが、直径は約25～30m前後と想定され、平面図からは多少いびつな楕円形を呈するものと考えられる。これから判断して、調査区域内では全体の約1/4～1/5程度が調査できたことになるが、予測の域を出ない。地形的に見ると、南側から北側に向けて緩く傾斜している様子がわかるが、自然地形がそうであったのか、あるいは人の手による土地造成によるものかは判断が付けられなかった。

(10) 整地層

整地層1・2

遺構(第74～76図、写真図版3・4)

〔位置・検出状況〕調査区北西部の東西方向I A 4 f～I A 14 h グリッド、南側はI A 8 k グリッド付近にまで広がる約750m²の2枚の整地層で、調査開始直後、表土掘削時にその直下で黄褐色土の広がり確認された。その面には黒褐色土が見え隠れする部分があり、当初はこの二つの上下関係がよく掴めなかった。

〔精査の状況〕上述したように、整地層1は黄褐色、2は黒色から黒褐色をなす。いずれも調査区外の北側にも延びることは断面観察から明らかである。前者は内帯の石列を完全に覆うが、後者は石列の構築面との区別がつきにくく、これも人為的な造成によるものと判断はしたが確証はない。しかし、整地層1・2とも施されている範囲は概ね同じように広がり、厚さも10～20cm程度とこれにほとんど差が見られないことから、造成作業時には土壌の色調の別や土量などが当然意識されていたものと考えたい。また、整地層1については、平面的に掘んだ範囲と調査区北側の南面向きセクションで観察される範囲が異なり、断面で見ると東側への広がり、58号集石の直前までであった可能性が高い。このことは、集石内で最大規模をもつ58号集石が整地層1で被覆されず、これだけが地表に露出していたことを示すのではないかと考える。

〔重複関係〕整地層1・2とも、内帯の石列すべてと外帯の集石遺構のほとんどを覆う。すべての集石が被覆されたか否かは不明である。

〔平面形・規模〕検出した平面形状は円形基調で、推定される直径は50m前後である。内帯の石列および独立柱建物の曲線状の並びとも同心円状をなす。石列と整地層間の間隔は15～18mほどで、各種遺構が集中している。上述のとおり、いずれもこれよりは古い遺構群である。

遺物 ともに縄文時代の土器片等を数点ずつ含んでいた。このことから、整地造成作業は縄文時代後期前葉以降に行われたと思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

時期 集石遺構群を覆うことから、縄文時代後期初頭から前葉以降に何らかの意図で行われた人為的作業である。3点行った年代測定だが、縄文時代晩期中葉(2790±30yrBP)が最も古い値である。

第2表 柱穴状土坑一覧表

柱穴名	グリッド	開口部(cm)	断面円深さ(cm)	平面円深さ(cm)	検出面標高(m)	遺物	備考
P001	I A12g	51×47	65	65	62.4		1号掘立柱
P002	I A12h	56×52	35	26	62.5		2号掘立柱
P003	I A12h	58×49	42	38	62.5		2号掘立柱
P004	I A11h	54×46	30	31	62.4		2号掘立柱
P005	I A13h	60×57	53	59	62.4		1号掘立柱
P006	I A12h	46×38	60	60	62.5		2号掘立柱
P007	I A12h	45×40	30	33	62.4		2号掘立柱
P008	I A11h	38×37	-	22	-		2号掘立柱
P009	I A13h	52×48	56	55	62.5		1号掘立柱
P010	I A8f	44×39	27	33	61.8	有り	
P011	I A9f	39×34	20	31	61.8	有り	
P012	I A10h	57×46	22	26	62.4		3号掘立柱
P013	I A10h	71×62	45	51	62.4		3号掘立柱
P014	I A10h	69×56	40	42	62.4		
P015	I A11h	52×43	15	16	62.4		3号掘立柱
P016	I A11h	44×42	76	77	62.4		3号掘立柱
P017	I A9h	34×33	17	21	62.4		
P018	I A9h	64×60	56	60	62.4		4号掘立柱
P019	I A9g	46×41	53	56	-		4号掘立柱
P020	I A10h	53×48	-	39	62.4	有り	
P021	I A10h	50×35	88	92	-	有り	3号掘立柱
P022	I A9h	44×41	50	51	62.4	有り	4号掘立柱
P023	I A8g	63×35	-	57	-		
P024	I A10h	61×58	-	31	-	有り	
P025	I A10h	50×47	48	58	62.4		
P026	I A10h	53×46	46	53	62.4		3号掘立柱
P027	I A9g	51×43	46	49	62.4		
P028	I A9h	57×53	60	66	62.4		4号掘立柱
P029	I A8g	50×46	-	58	62.2		
P030	I A7f	36×33	-	66	-		
P031	I A7g	68×51	90	96	-	有り	5号掘立柱
P032	I A7f	45×40	92	35	62.2		
P033	I A7f	64×53	-	69	62.2	有り	5号掘立柱
P034	I A7f	66×60	-	52	62.1	有り	5号掘立柱
P035	I A7f	67×57	-	15	62.0		5号掘立柱

2 出土遺物

(1) 土器の分類と土製品について

平成26・27年度調査で出土した土器・土製品の総重量は260kg弱を計る。縄文時代後期初頭から前葉にかけての遺物がそのほとんどを占め、他は縄文時代早期の貝殻文、早期末から前期初頭、中期末から後期初頭、弥生時代後期の交互刺突文をもつ一群に限られる。器種には、深鉢・鉢・浅鉢・大小の壺・釣手土器などがあり、特に後期の土器は器種のバリエーションが豊富である。

土器については、遺構内外とも以下のように分類し、主体をなす後期初頭から前葉の土器群は、榎本(2008)の当該期の編年に拠り細分した。なお、土器観察表への掲載は、それぞれの群(類)にお

いて、遺構内→遺構外の順としている。

- A群→縄文時代早期中葉に属する貝殻腹縁文が施文される一群（白浜式・寺の沢式相当）
 B群→縄文時代早期末葉から前期初頭に属する胎土に植物繊維を含む一群（赤御堂式相当）
 C群→縄文時代中期末葉から後期初頭に属する一群（大木10式→門前式相当）
 D群→縄文時代後期初頭から前葉に属する一群（前十腰内式および十腰内I～II式）
 * I～VI類の6つに細分。土器観察表にはDを省略、ローマ数字のみを記載
 I類…前十腰内I式「牛ヶ沢式」など、隆帯による文様主体のもの
 II類…「湯舟沢A式」など、方形区画文等の沈線文主体のもの
 III類…「薬師前・小牧野3期」など、巴状入組文主体の十腰内I式直前段階
 IV類…連結する円環状の入組文など、十腰内I式古段階
 V類…種類豊富な入組文や帯縄文が見られる十腰内I式新段階
 VI類…複数の沈線からなる多重沈線文が見られる段階
 E類→弥生時代後期に属する一群（天王山式もしくは赤穴式）
 F類→縄文時代後期と思われる無文土器
 G類→縄文時代後期を主体とする粗製土器

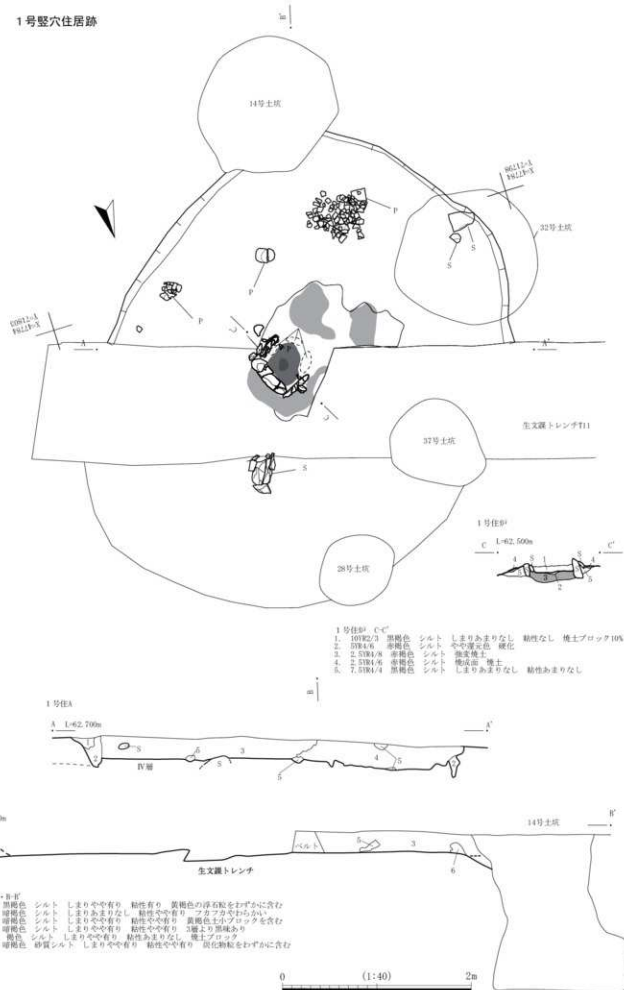
土製品は、土偶（4点）、土版？（1点）、鐙形土製品（15点）、ミニチュア土器（22点）、土製円盤（86点）、耳飾り（1点）、紐状土製品（1点）、不明土製品（2点）を掲載した。この他に、鐙形土製品やミニチュア土器の破片など約80点の不掲載遺物があるが、図化できない細片であった。

（2）石器・石製品について

2カ年の調査で出土した石器・石製品の総重量はおおよそ170kg、点数は500点弱を数える。全体における器種毎の出土点数等の詳細は、第128～130図に示したとおりである。薄片石器の種類には、石鏃・石匙・石筥・異形石器・搔削器などが、礫石器には石斧およびその未製品・砥石・石皿台石類・敲磨器類があり、前者の特徴としては石匙が少なく、異形石器が比較的多いことが挙げられる。後者では石斧とその未製品および敲石が多いという傾向が見られたが、石斧の未製品については、須原の分類（2014）に拠り、1～4段階の別を第4表の備考欄に記載した。敲石は渋谷川流域から得られるハンレイ岩を素材とし、円形のものと同形状のものがある。いずれも素材縁辺の一部あるいは全周が使われ、円形のものでは側面が薬研状をなすものも見られる。ハンマー的な使用が想定されるが、石斧製作工程の研磨以前の作業に関わる遺物と考えられる。

石製品（括弧内は掲載点数）には、石製円盤（18点）、有孔石製品（5点）、ヒスイ製垂飾品（1点）、石刀・石剣（6点）、石斧のミニチュア製品（2点）とその未製品（4点）、棒状石製品（1点）があり、全点掲載した。

第129図右上の石器類出土分布から分かるように、これらは外帯の集石遺構周辺からの出土が多く、このことは土器・土製品類にも同様に認められる。また、第15号土坑からまとまって出土した小礫についても、第129図左下に見るように分布傾向は変わらないようである。



第6図 1号竪穴住居跡

2号竪穴住居跡



- 2号住居跡 1-5
- 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
浮石散在わずかに含む
 - 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
 - 10YR2/2 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
1, 2層より部破を削げる
 - 7.5YR5/4 明褐色 シルト しまり有り 粘性なし
ガリガリに砕く破る砂地層境土
 - 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
縦の崩り方理土

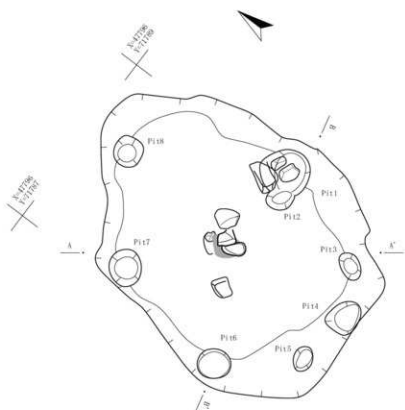


- 2号住居 A-A'
- 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 炭化物(φ10mm大)を多く含む
 - 7.5YR5/4 明褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り ガリガリに砕ける砂地層境土

0 (1:40) 2m

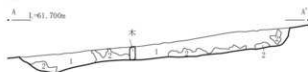
第7図 2号竪穴住居跡

3号竪穴住居跡



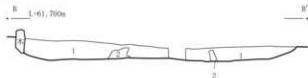
3号住A

A 1=61.700m



3号住B

B 1=61.700m



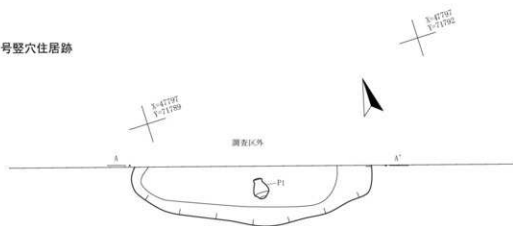
3号住 A-A' B-B'

1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石粒をまばらに含む
 2. 101R5/6 黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 全体に浮石粒を含むブロック状の土

0 (1:40) 2m

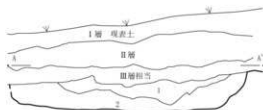
第8図 3号竪穴住居跡

4号竪穴住居跡



4号住居

L=61.700m



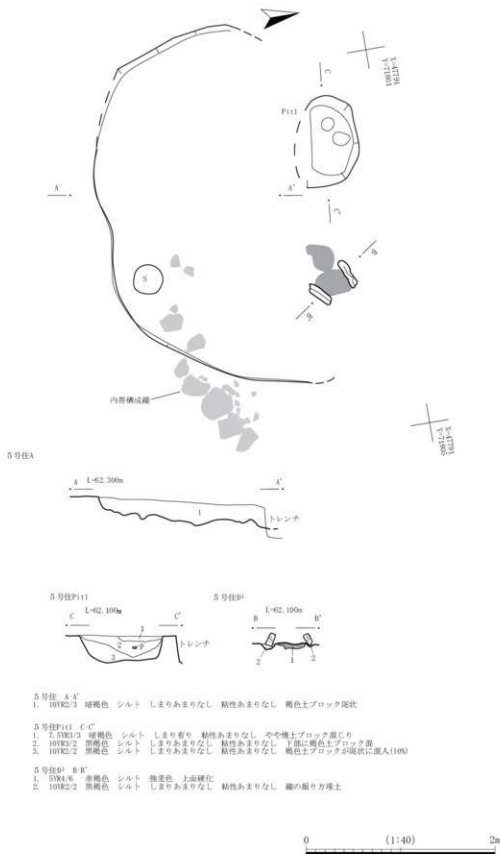
4号住 A-A'

1. 7.01K2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 炭化物粒・焼土粒を全体に含む
 2. 10IK3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性有り 黄褐色土粒をまばらに含む

0 (1:40) 2m

第9図 4号竪穴住居跡

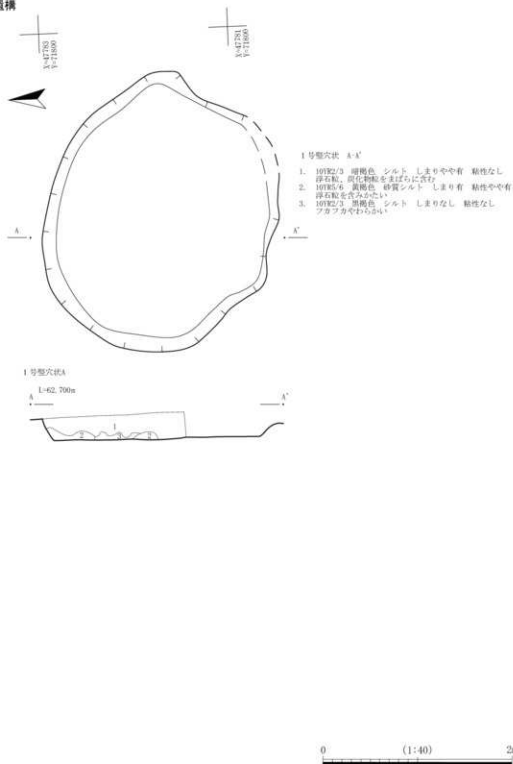
5号竪穴住居跡



- 5号住居 A-A'
1. 101K2/2 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし 褐色土ブロック底状
- 5号住居P111 C-C'
1. 7.51R3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし やや機土ブロック底じり
2. 101K3/2 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし 下部に褐色土ブロック遺
3. 101K2/2 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし 褐色土ブロックが底状に混入(10%)
- 5号住居B-B'
1. 51K4/W 赤褐色 シルト 強度色 上面硬化
2. 101K2/2 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし 礫の入り方理土

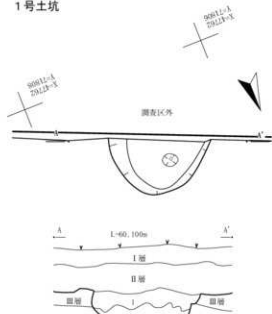
第10図 5号竪穴住居跡

1号竖穴状遺構



第11図 1号竖穴状遺構

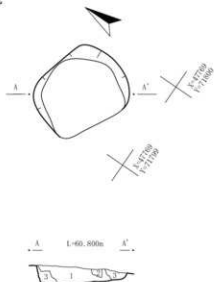
1号土坑



1号土坑

- 101K2/2 黒褐色 シルト しまりや有り 粘性や有り
 ϕ 1~5mm大の浮石断を含む
- 101K3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりや有り 粘性有り
 黒褐色土と黄褐色土の混在土

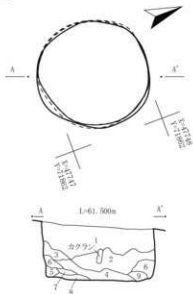
2号土坑



2号土坑

- 101B4/4 褐色 砂質シルト しまりや有り 粘性や有り
 浮石粒を全体に含む 検出面はIV層上面であり最も古い土坑
- 101B4/6 褐色 砂質シルト しまりや有り 粘性や有り
 I層より浮石粒目立つ ブロック状の硬質土
- 101B5/6 黄褐色 砂質シルト しまりや有り 粘性有り
 硬質土のみ層層する

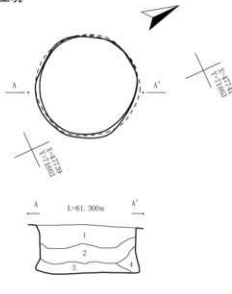
3号土坑



3号土坑

- 101K2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子は少なく軟質
- 101K2/3 暗褐色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色ブロック、粒子を多量に含む
- 101K2/4 暗褐色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子を多く含むが、ブロックは少ない
- 101K2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子を僅かに含むソフトな軟質
- 101B5/6 黄褐色 しまりなし 粘性や有り
 黄褐色ブロック(硬体崩壊土)を多く含む
- 101B5/6 黄褐色 しまりなし 粘性や有り
 黄褐色ブロック、粒子を多く含む軟質
- 101K2/1 黒色 しまりなし 粘性や有り
 黄褐色ブロックを全体に含む 軟質
- 101K2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 4層と類似し黄褐色粒子は少ない
- 101K2/3 暗褐色 しまりなし 粘性や有り
 黄褐色ブロック、ローM粒子を含む軟質

4号土坑



4号土坑

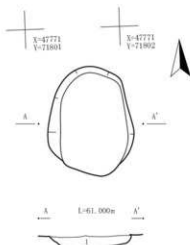
- 101K2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色ブロックを僅かに含む軟質
- 101K2/1 黄褐色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色ブロック、粒子を多く含む軟質
- 101K2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
 黄褐色粒子を僅かに含む軟質
- 101K2/1 黄褐色 しまりなし 粘性や有り
 黄褐色ブロック(硬体崩壊土)、ローM粒子を多く含む軟質

※3号土坑と同様に埋土は軟質

0 (1:40) 2m

第12図 1~4号土坑

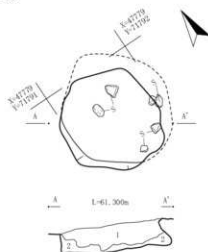
5号土坑



5号土坑

1. 10183(3) 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
人為的埋め戻し? 1~30mm 大の浮石が散在

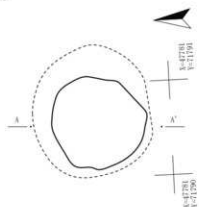
6号土坑



6号土坑

1. 10184(2) に近い黄褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
浮石粒をわずかに含む人為堆積層
2. 10185(6) 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り (他)
埋山崩壊上

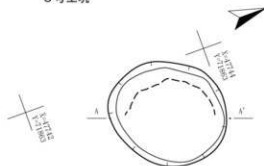
7号土坑



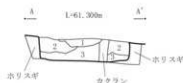
7号土坑

1. 10186(6) 明黄褐色 シルト しまり有り 粘性有り
人為堆積層でボロボロする

8号土坑



完全に陥りすぎている。

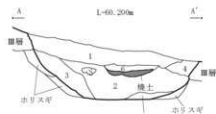


8号土坑

1. 10187(6) 黄褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色ブロック層に黄褐色土が混在
2. 10183(1) 黒褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色ブロック 粘土を少量含む
3. 10182(2) 黒褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色土と黄褐色粘土が2層より多い
堆積土は全体に広くしまり、10号土坑と同様に
上部にローム状 (ブロック) 層がみられる

0 (1:40) 2m

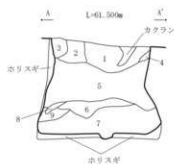
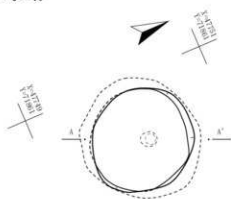
9号土坑



9号土坑

- 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
II層の黒土に黄褐色粒子を少量含む
サラツとして
- 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
I層と類似するが黄褐色粒子が少なくなる
- 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性なし
II層の黄褐色粒子、ブロックを多く含む
- 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性なし
I層と類似するがやや明るく黄褐色粒子が多くなる
- 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
II層と類似するが黄褐色粒子、ブロックを多く含む
- 10YR2/4 暗褐色 しまりなし 粘性なし
塊土化した黄褐色粒子を多く含む
※堆土は全体にしまりなし、ブロックと粒子は基盤層の
III層に含まれるもので、中位までは自然降積か

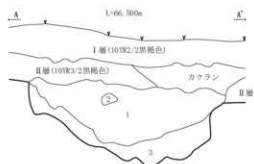
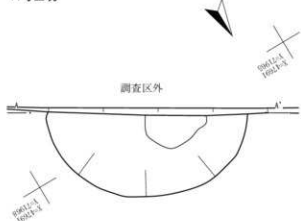
10号土坑



10号土坑

- 10YR3/4 暗褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色ブロック、粒子を多く含む硬くしまる (黄質)
- 10YR2/2 黒褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色ブロック、粒子は非常に少なく硬くしまる
- 10YR3/3 暗褐色 しまりなし 粘性なし
黄褐色ブロック、粒子と多く含む硬質土小
- 10YR3/6 黄褐色 しまりなし 粘性なし
黄褐色土 (硬体崩壊土)
- 10YR3/4 暗褐色 しまり有り 粘性なし
I層とはほぼ同 中でやや硬くしまるが等近くは軟弱
- 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし
僅かに黄褐色粒子を含む サラツとして基盤層の
II層のように軟質
- 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性やや有り
II層と類似するが黄褐色ブロック、粒子が多くなる
- 10YR3/6 黄褐色 しまりなし 粘性やや有り
黄褐色土 (硬体崩壊土)
- 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性やや有り
黄褐色粒子を多く含む軟質

11号土坑



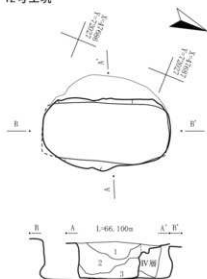
11号土坑

- 10YR3/2 黒褐色 シルト、しまりやや有り 粘性あまりなし
暗褐色土ブロックとの混合土で厚石粒をまばらに含む
- 10YR4/6 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
暗褐色土小ブロック含む
- 10YR2/2 黒褐色 シルト、しまりやや有り 粘性やや有り
ブロック状

0 (1:40) 2m

第14図 9～11号土坑

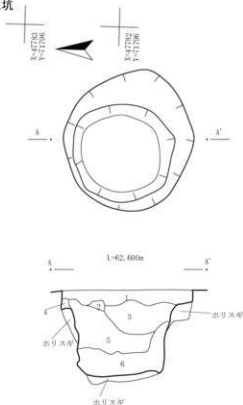
12号土坑



12号土坑

1. 10YR2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石粒を全体に含む
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より黒味が強い
3. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より浮石粒の混入多く黒味が強い

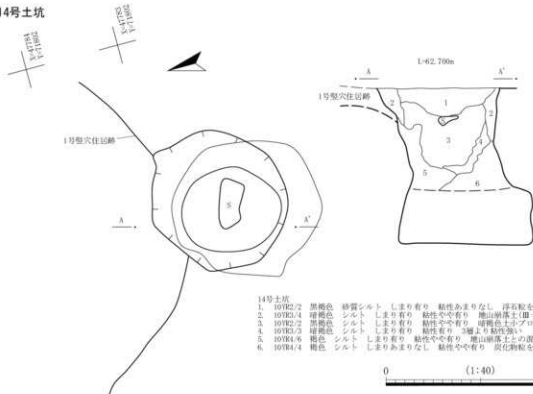
13号土坑



13号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし ϕ 5mmの浮石微量含む
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り ϕ 1~5mmの浮石10%含む
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り ϕ 2~3mmの浮石20%含む
4. 10YR3/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
5. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 3層と類似するが浮石の混入率が3層より少ない
6. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 黄褐色土ブロック(ϕ 2~3cm)を3%含む

14号土坑

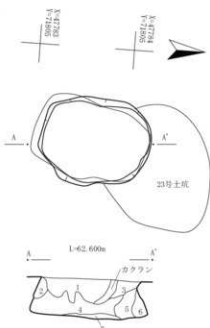


14号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性あまりなし 浮石粒をわずかに含む
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 焼山赤土(層IV層粘質)
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 暗褐色土小ブロックとの混入土
4. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性有り 3層より粘性強い
5. 10YR4/6 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 焼山赤土との混入
6. 10YR4/4 褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 炭化物粒をわずかに含む

第15図 12~14号土坑

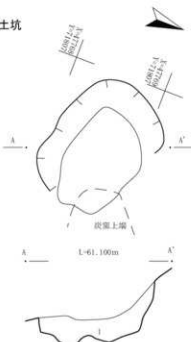
15号土坑



15号土坑

1. 10R3/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
小礫(礫石状のもの)を含む
2. 10R4/4 褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
堆山跡土
3. 10R2/4 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
白色の浮石を全体に含む
4. 10R3/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
黄色浮石を全体に含む
5. 10R3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
黄色浮石、黄褐色土粒を含む
6. 10R3/4 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
堆山跡土ブロック
7. 10R3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
フカフカやわらかい

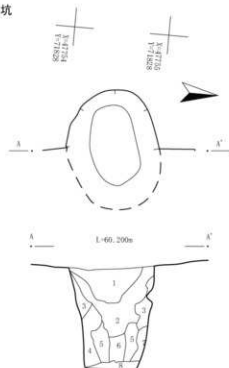
17号土坑



17号土坑

1. 10R2/4 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性あまりなし
炭化物粒をまばらに含む

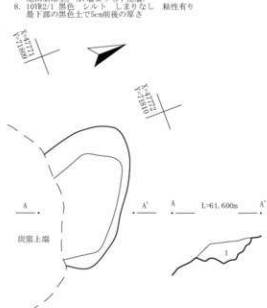
16号土坑



16号土坑

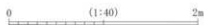
1. 10R3/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
黄褐色浮石を全体に含む
2. 10R2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
1層より黒味を帯びる 浮石の混入は1層より多い
3. 10R3/4 褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
堆山跡土で粒径の大きい浮石を含む
4. 10R4/3 濃い黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
黄褐色浮石をまばらに含む
5. 10R3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
粒径のごく小さい浮石粒と5~10mm程度のものを全体に含む
6. 10R3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
粗礫と見られる 若干フカフカしている 細い浮石混入
7. 10R5/6 黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
堆山跡土上 (序層より7層目)
8. 10R2/1 黒色 シルト しまりなし 粘性有り
最下部の黒色土で5cm前後の厚さ

18号土坑



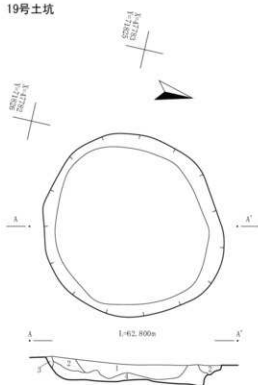
18号土坑

1. 10R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色浮石粒と炭化物を含む



第16図 15~18号土坑

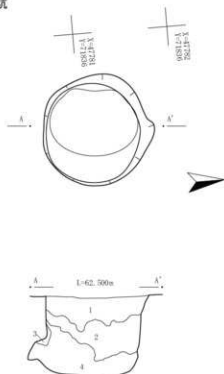
19号土坑



19号土坑

- 109K2/2 黒褐色 砂質シルト しまりや有り 粘性なし
浮石をまばらに含む 中央部分に暗褐色土層入
- 109K2/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石を多く含む
- 109K2/3 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
地山崩落土
- 109K4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石を全体に含む

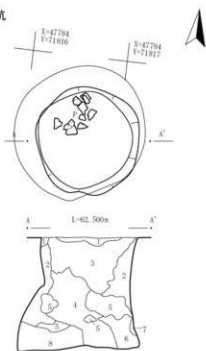
20号土坑



20号土坑

- 109K2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
黄褐色土浮石を全体に含む
- 109K2/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし
1層より黒地を掘ける 炭化物を多く含む
- 109K4/3 濃い黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
地山崩落ブロック
- 109K4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
1~3層と異なり炭化物が少ない

21号土坑

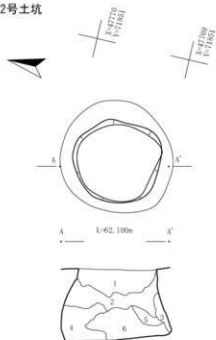


21号土坑

- 109K2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
炭化物をまばらに含む
- 109K2/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性有り
浮石を全体に含む
- 109K2/3 黒褐色 シルト しまり有り 粘性有り
粘性の小さい浮石を全体に含む
- 109K2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
ロームブロックなど
- 109K5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
ロームブロックで丸小あり
- 109K2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
数枚黒味を帯びる
- 109K5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
地山崩落ブロック(浮石層下30cm程度)
- 109K2/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
明黄褐色土の小ブロックを全体に含む

0 (1:40) 2m

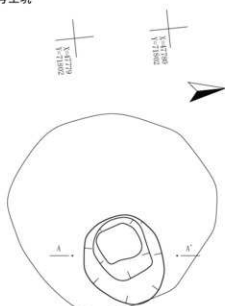
22号土坑



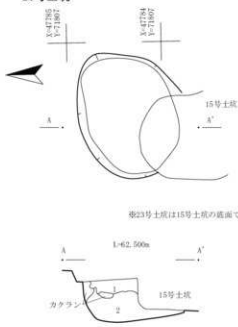
22号土坑

- 109R3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
黄褐色浮石粒を全体に含む
- 109R4/4 褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
浮石粒、炭化物粒をまばらに含む
- 109R5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
地山崩落ブロック
- 109R2/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
炭化物粒をまばらに含む
- 109R4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
ブロッコ型の黄土
- 109R1/4 暗褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
浮石粒(細径小)を全体に含む

24号土坑



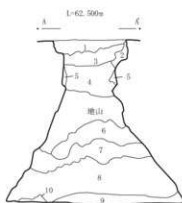
23号土坑



※23号土坑は15号土坑の裏面で検出したもの。

23号土坑

- 109R5/4 に近い黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
黄褐色浮石粒をまばらに含む
- 109R1/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
1層より炭粒を析びる 炭化物はいずれも細く締まる



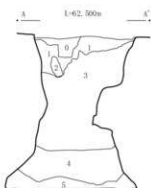
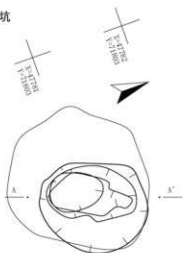
24号土坑

- 109R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
粒径の小さい浮石粒を含む
- 109R2/4 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
炭化物粒をむずらに含む
- 109R3/2 暗褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
全層に5mm以下の浮石粒を含む
- 109R2/2 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
他より粘性が強く浮石粒の炭人も多い
- 109R2/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
ロームの小ブロックを含む
- 109R3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性なし
浮石粒の黄褐色土ブロックあり
- 109R2/1 黄褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
層間に黄褐色土ブロックあり
- 109R2/1 黄褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
- 109R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
- 109R4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
崩落ブロック



第18図 22～24号土坑

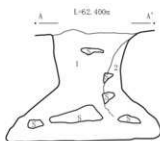
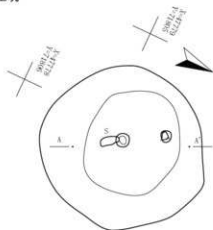
25号土坑



25号土坑

0. 10183/4 暗褐色 カクラン
 1. 10183/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 浮石粒をまばらに含む
 2. 10183/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
 ブロック状
 3. 10183/2 黄褐色 シルト しまり有り 粘性有り
 浮石粒を含む人為的堆積層
 4. 10182/2 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 炭化物粒と全体に含む
 5. 10182/1 灰色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 水平に堆積する最下部の黒色土

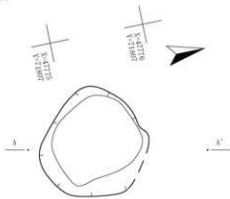
26号土坑



26号土坑

1. 10182/2 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
 炭化物層
 2. 10183/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
 浮石配混

27号土坑



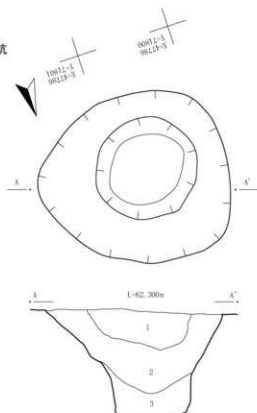
27号土坑

1. 10183/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
 2. 10184/3 に近い黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 黄褐色土粒混入
 3. 10184/3 に近い黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 黄褐色土粒7%
 4. 10184/3 に近い黄褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
 黄褐色土粒10%

0 (1:40) 2m

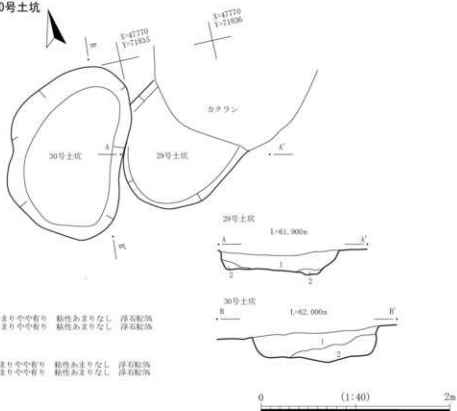
第19図 25~27号土坑

28号土坑



- 28号土坑
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|----------|---------|------------|
| 1. | 101R2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし | |
| 2. | 101R2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし | 黒色土ブロック20% |
| 3. | 101R3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石配% |

29号・30号土坑

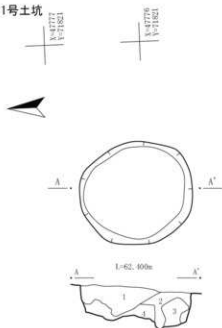


- 29号土坑
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---------|---------|------|
| 1. | 101R2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石配% |
| 2. | 101R3/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石配% |

- 30号土坑
- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---------|---------|------|
| 1. | 101R2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石配% |
| 2. | 101R3/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし | 浮石配% |

第20図 28~30号土坑

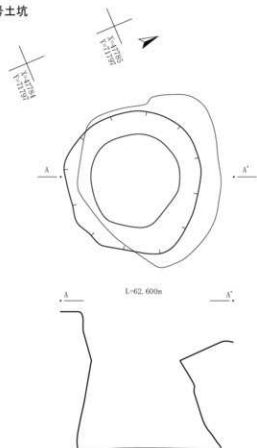
31号土坑



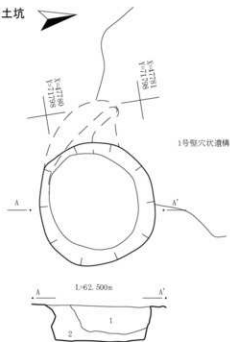
31号土坑

- 10922/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
褐色土ブロック2%
- 10922/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
高質
- 10922/3 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
浮石10.5%
- 10922/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性あまりなし

32号土坑



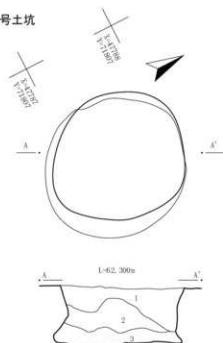
33号土坑



33号土坑

- 10922/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
褐色土、黒色土ブロック含む
- 7,10922/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし

34号土坑



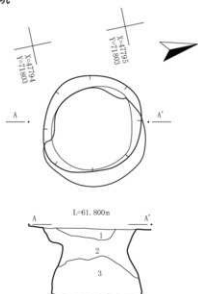
34号土坑

- 10922/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
下半分に褐色土ブロック20%
- 10922/1 褐色 粘土質シルト しまりやや有り
粘性やや有り 脱落ブロック
- 10922/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
炭化物含む



第21図 31～34号土坑

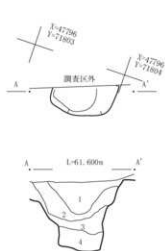
35号土坑



35号土坑

- | | | | | | |
|----|----------|-----|-----|----------|---------|
| 1. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし |
| 2. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
| 3. | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
- 均質

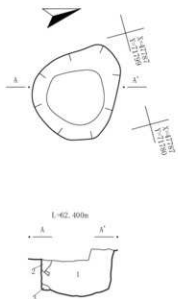
36号土坑



36号土坑

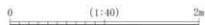
- | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|----------|---------|
| 1. | 10YR2/1 | 黒色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
| 2. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |
| 3. | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性あまりなし |
| 4. | 10YR2/2 | 黒褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性あまりなし |

37号土坑

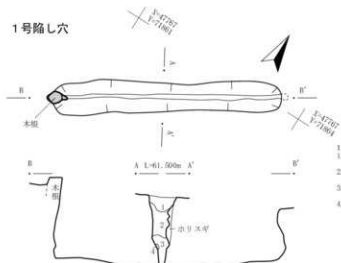


37号土坑

- | | | | | | |
|----|---------|-------|-----|----------|--------|
| 1. | 10YR2/3 | 黒褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性やや有り |
| 2. | 10YR3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりあまりなし | 粘性やや有り |
| 3. | 10YR4/3 | 濃い黄褐色 | シルト | しまり有り | 粘性有り |



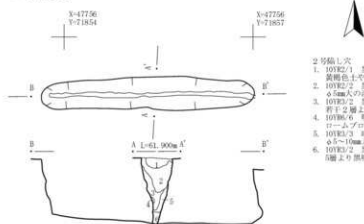
1号陥し穴



1号陥し穴

- 10YK2/1 黒色 シルト しまりやや有り
- 粘性有り白色粘土含む
- 10YK2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土小ブロック含む
- 10YK3/2 黒褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
黄褐色土小ブロックを全体に含む
- 10YK5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り
粘性有りロームブロック

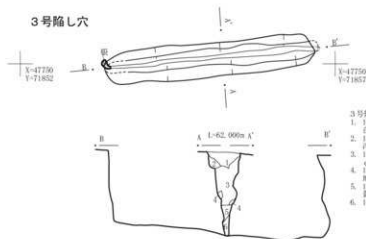
2号陥し穴



2号陥し穴

- 10YK2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性なし
黄褐色土や白色粘土含む
- 10YK2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
φ5mm程度の浮石を全体に含む
- 10YK3/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
若干の層より黒味が出る
- 10YK6/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
ロームブロック
- 10YK3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
φ5~10mm程度の粘土含む
- 10YK3/2 黒褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
5層より黒味帯びる

3号陥し穴



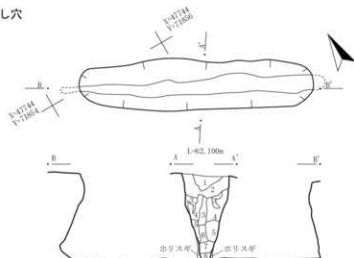
3号陥し穴

- 10YK2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性なし
白色粘土と細かい浮石を含む
- 10YK3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
浮石の粗大部は層々を穿つ
- 10YK2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
φ5~10mm程度の浮石が自立つ
- 10YK5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
堆山崩落ブロック
- 10YK3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土小ブロックを全体に含む
- 10YK2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性有り 黒味強い

0 (1:60) 2m

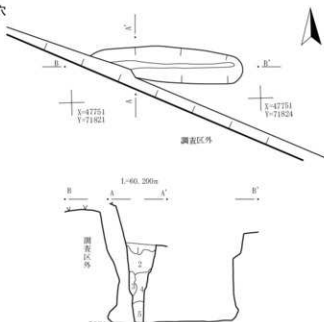
第23図 1～3号陥し穴状遺構

4号陥し穴



- 4号陥し穴
1. 101K2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性なし 白色粘土をまばらに含む
 2. 101K3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色土粒 黒色土小ブロックを全体に含む
 3. 101K2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 2層よりしまりなく黄褐色土の混入多い
 4. 101K5/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 層山崩落土で明褐色の浮石粒を含む
 5. 101K6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り ミルクチョコレート色の層山崩落土で浮石粒を(φ5mm大)もわずらに含む
 6. 101K8/6 明黄褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 棒状になる部分で色調が明るめ
 7. 101K2/3 黒褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り フラフカ含むが、浮石粒わずらに含む
 8. 101K2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性やや有り 最下部の黒褐色土

5号陥し穴

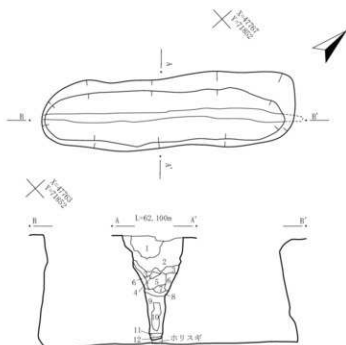


- 5号陥し穴
1. 101K2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色の粘土を全体に含む
 2. 101K2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り φ1~3mm大 浮石粒を含む
 3. 101K2/3 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石粒の混入が3層より多い
 4. 101K2/2 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り 3層より黒味を帯びる
 5. 101K2/1 黒色 シルト しまりなし 粘性やや有り しまりのないフラフカした最下部の黒褐色土

0 (1:60) 2m

第24図 4・5号陥し穴状遺構

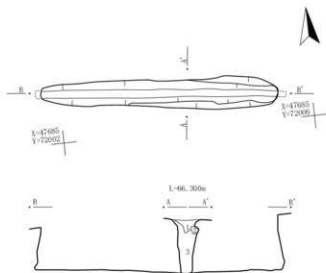
6号随し穴



6号随し穴

1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 白色粒子、黄褐色土粒をまばらに含む
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし $\phi 2\sim 3\text{mm}$ の浮石粒を含む
3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り $\phi 2\sim 3\text{mm}$ の浮石粒を含む 浮石粒主体の層 IV層崩落土
4. 10YR2/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り ブロック状
5. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 浮石粒 ($\phi 5\sim 10\text{mm}$)を全体に含む
6. 10YR5/6 黄褐色 粘土 しまり有り 粘性有り (強) 地山崩落土、ミルチョッコ色の崩落土
7. 10YR6/8 明黄褐色 浮石粒のブロック しまり有り 粘性有り (強) 地山崩落土の浮石粒主体
8. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り ツツカカやわらかい 層状をなす
9. 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 地山崩落土
10. 10YR4/6 褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 塊状 (形状)にツツカカやわらかい
11. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り しまりなくやわらかい
12. 10YR4/6 褐色 粘土 しまり有り 粘性有り 最下部の地山崩落土

7号随し穴

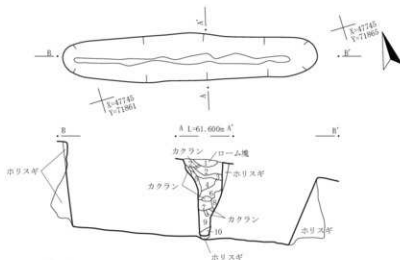


7号随し穴

1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色土粒 (浮石粒)まばらに含む
2. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石粒を含むブロック状の地山崩落土
3. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 浮石粒を全体に含む

0 (1:60) 2m

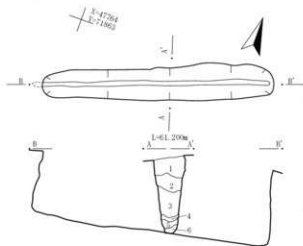
8号陥し穴



8号陥し穴

1. 10YR6/9 黄褐色 しまり有り 粘性なし 黄褐色ブロック層
2. 10YR2/1 黒色 しまり有り 粘性なし 黄褐色ブロックを少量
3. 10YR3/3 暗褐色 しまり有り 粘性やや有り 黄褐色粘土を少量に多く含む
4. 10YR2/2 暗褐色 しまり有り 粘性なし 黄褐色粘土を僅かに含む
5. 10YR3/3 暗褐色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色粘土を多く含むがブロックは少ない
6. 10YR3/3 暗褐色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色ブロックが多く、粘土は少ない
7. 10YR3/3 暗褐色 しまりなし 粘性やや有り 粘りと類似するが黒色土が混在する
8. 10YR6/8 黄褐色 しまりなし 粘性有り 黄褐色ブロック層 (膠体崩落土)
9. 10YR6/8 黄褐色 しまりなし 粘性有り 黄褐色ブロック層 (膠体崩落土)
10. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性有り 黄褐色ブロックを多く含む

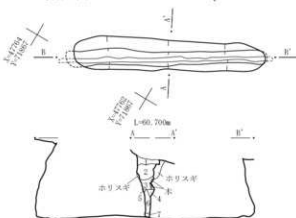
9号陥し穴



9号陥し穴

1. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし 黄褐色ブロックを僅かに含む
2. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや有り 粘性なし 黄褐色ブロックと粘土を少量含む1層に比べるとしまる
3. 10YR3/3 暗褐色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色を多く含む、ブロックと粘土は2層に比べると多い
4. 10YR3/1 暗褐色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色を多く含む
5. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色ブロックと粘土を多く含む
6. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性有り 黄褐色土を多く含む (底面近くの膠体崩落土)

10号陥し穴



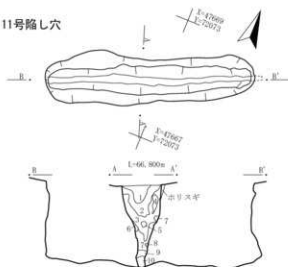
10号陥し穴

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性なし 黄褐色粘土を少量含む
2. 10YR2/2 黒褐色 しまりなし 粘性なし 黄褐色ブロックを多く含む、粘土は1層より少ない
3. 10YR2/2 暗褐色 しまりなし 粘性なし 黄褐色粘土を僅かに含む
4. 10YR2/2 暗褐色 しまりなし 粘性有り 黄褐色粘土が主体、黄褐色粘土が少い
5. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性なし 黄褐色粘土を僅かに含む
6. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色土を塊状に含む
7. 10YR2/1 黒色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色ブロックを多く含む (膠体崩落土)

0 (1:60) 2m

第26図 8～10号陥し穴状遺構

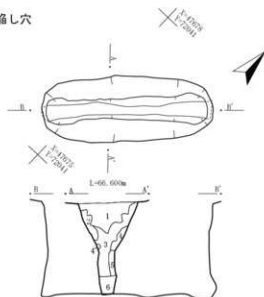
11号陥し穴



11号陥し穴

- 10YK2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性あまりなし 混人物なく残少量
- 10YK2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り 4~5mm大の浮石和を全体に含む
- 10YK3/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り 堆山崩落ブロックを穴下2層より色調明るい
- 10YK5/6 黄褐色 粘質シルト しまり有り 粘性有り 堆山崩落ブロック
- 10YK4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り ブロック状
- 10YK3/4 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り 3層より堆山崩落ブロックの混入少ない
- 10YK6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 堆山崩落土
- 10YK2/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り ブロック状
- 10YK6/6 に近い黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り (強) 粘性の強めて強い硬結土
- 10YK3/4 暗褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 最下部の堆結土でフカフカやわらか

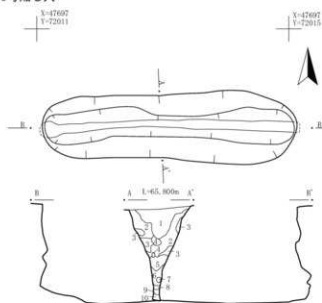
12号陥し穴



12号陥し穴

- 10YK2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り 褐色土粒を全体にまばらに含む
- 10YK2/3 暗褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り 浮石の小ブロック等崩落土混入する
- 10YK2/3 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り 2層に似るが厚味が無い
- 10YK6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 堆山崩落ブロック (ロームブロック)
- 10YK2/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 黄褐色土小ブロック含む
- 10YK6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り フカフカした最下部の土 最下部にあるはずの黒色土は不明瞭

13号陥し穴



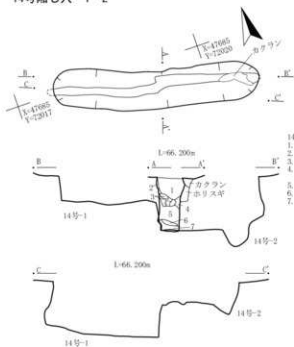
13号陥し穴

- 10YK2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 混人物ほとんどなし
- 10YK2/2 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 1層より厚味がぬける
- 10YK4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り ロームブロックで浮石和を含む
- 10YK4/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り ロームブロック 3層より緑い色調
- 10YK2/3 暗褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り 浮石和をまばらに含む 黄褐色土と褐色土の混合土
- 10YK5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 堆山崩落土
- 10YK2/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り ブロック状
- 10YK5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 堆山崩落土で暗褐色土小ブロック含む
- 10YK2/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
- 記載なし

0 (1:60) 2m

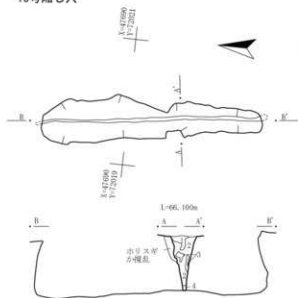
第27図 11~13号陥し穴状遺構

14号縮し穴 - 1・2



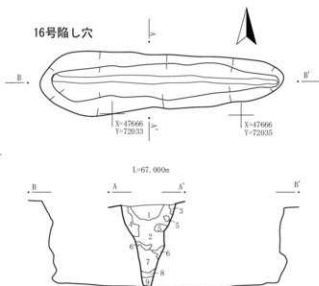
- 14号縮し穴
1. 101K2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色土浮石散まばらに含む
 2. 101K3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落土
 3. 101K3/4 黄褐色 シルト しまり有り 粘性有り ロームブロック
 4. 101K3/3 緑褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 5. 101K2/2 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り 浮石散を全体に含む
 6. 101K4/6 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り 地山崩落ブロック
 7. 101K3/4 緑褐色 シルト しまり有り 粘性有り 最下層の黒色土

15号縮し穴



- 15号縮し穴
1. 101K2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り 崩入物なし
 2. 101K3/3 緑褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落ブロック含む
 3. 101K4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り ロームブロック
 4. 101K2/2 黒褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 最下層の黒色土があまりなくフカフカ

16号縮し穴

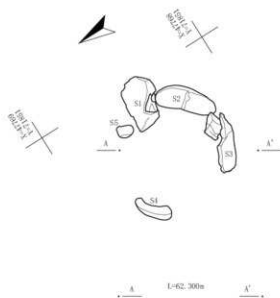


- 16号縮し穴
1. 101K2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 黄褐色浮石散をまばらに含む
 2. 101K3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 1層より浮石散の崩入多く崩れぬける
 3. 101K4/4 褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 地山崩落土
 4. 101K3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 2層に広がるが若干より崩れぬける
 5. 101K3/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 地山崩落ブロック
 6. 101K3/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り 下位層の基礎層 崩落ブロック
 7. 101K3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り しまりのない黄褐色土と黒褐色土の混合土
 8. 101K3/6 明黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 浮石散を多量含む地山崩落土
 9. 101K3/4 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 最下層の黒味のある土が崩れは強くない

0 (1:60) 2m

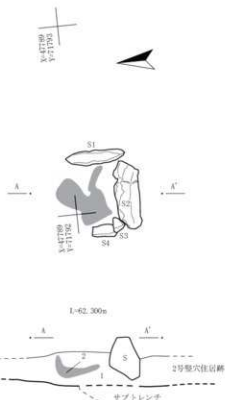
第28図 14-1~16号縮し穴状遺構

1号炉跡



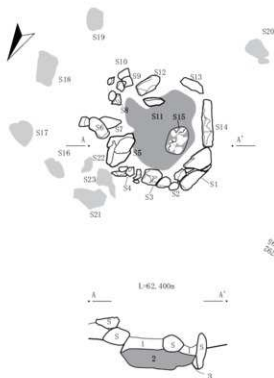
- 1号炉跡
- 103K3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性なし
焼土粒をわずかに含む
 - 103K2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性なし
明褐色焼土粒を全体に含む
 - 103K3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
煎焼層2層下層褐色上下層

2号炉跡



- 2号炉跡
- 103K2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
団化物(φ10mm大)を多く含む
 - 103K3/6 明褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
焼けのり焼土

3号炉跡

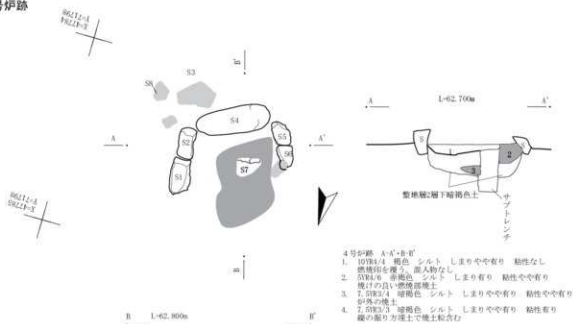


- 3号炉跡
- 103K3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
白色灰子を全体に含む
 - 7.5314/A 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
焼土の多い焼土で、アサガクが交じらぬ
 - 103K2/3 黒褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
縁の面り方焼土

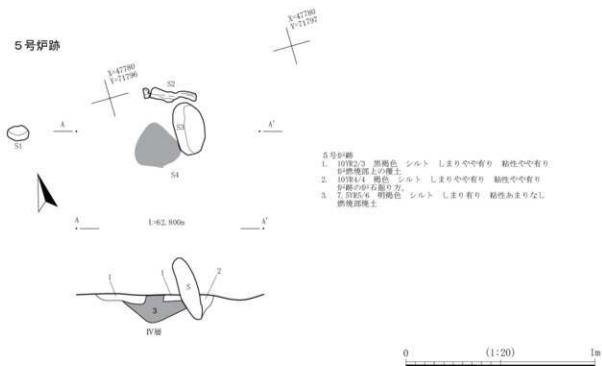
0 (1:20) 1m

第29図 1～3号炉跡

4号炉跡

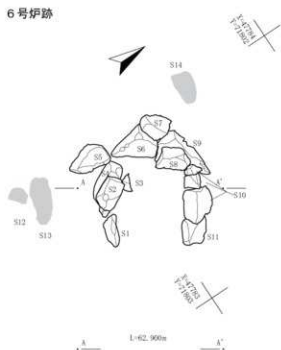


5号炉跡



第30図 4・5号炉跡

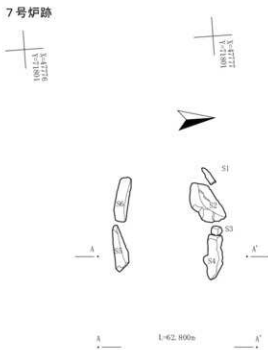
6号炉跡



6号炉跡

- 10段3.2 黒褐色 シルト しまりや有り 粘性やや有り
高化物較。炭の粒をまばらに含む

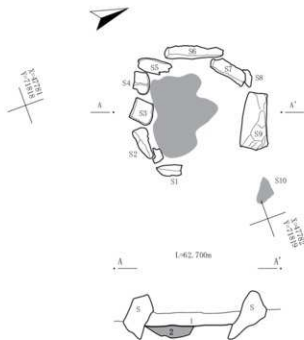
7号炉跡



7号炉跡

- 10段3.3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
炉跡の掘り方で不明瞭ではある。
- 7.5段4.4 褐色 シルト しまり有り 粘性なし
機土ブロックで焼残跡と思われるが規模は小さい。

8号炉跡

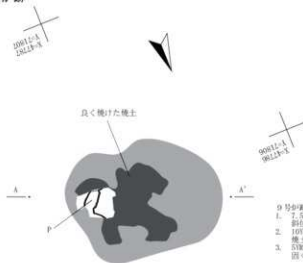


8号炉跡

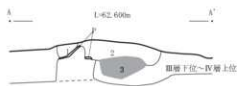
- 10段3.4 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石粒含み。機土粒は含まず
- 7.5段5.6 明褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
焼残跡焼土で固く編まり塊けは中々良好

第31図 6～8号炉跡

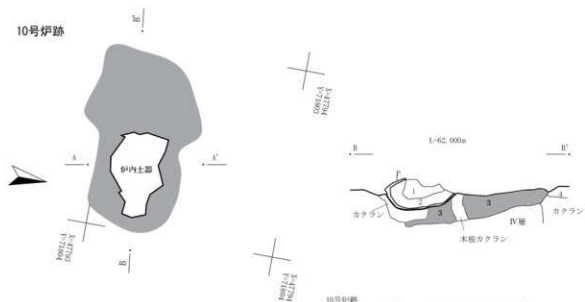
9号炉跡



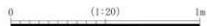
- 9号炉跡
1. 55B4/4 暗褐色 粘土質シルト、しまり有り 粘性有り
斜位にある土器を覆う土で灰色を帯びる。焼けた粘土層で焼土と結合
 2. 100K3/4 暗褐色 粘土質シルト、しまりやや有り 粘性あまりなし
焼土と結合をまばらに含む
 3. 55B5/6 明赤褐色 粘土質シルト、しまり有り 粘性やや有り
固く焼けた良い焼土で厚みがある



10号炉跡

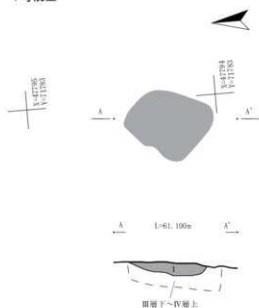


- 10号炉跡
1. 100K2/3 暗褐色 シルト、しまり有り 粘性やや有り
土器内の土で焼土と結合をまばらに含む
 2. 7.03K3/4 暗褐色 シルト、しまりやや有り 粘性有り
 3. 7.03K4/6 赤褐色 シルト、しまり有り 粘性やや有り
極めて焼けた良い焼土
 4. 100K1/2 暗褐色 粘土質シルト、しまり有り 粘性有り
器・器蓋に付着。焼土と結合をまばらに含む
 5. 100K2/2 暗褐色 シルト、しまりやや有り 粘性有り
土器を被覆している土



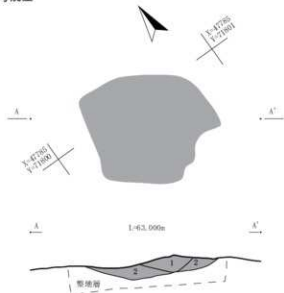
第32図 9・10号炉跡

1号焼土



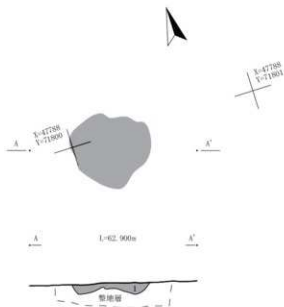
- 1号焼土
1. 5385/6 明褐色 シルト しまりや有り 粘性やや有り
焼けの悪い焼成層焼土

2号焼土



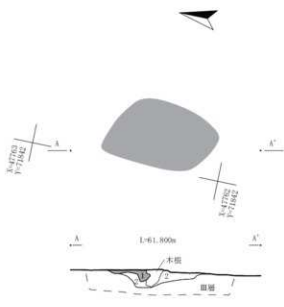
- 2号焼土
1. 5385/8 明赤褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
焼けは良好な焼成層焼土
2. 5384/6 褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
焼成層の褐色土が液化した状況 ぐすんだ色調

3号焼土

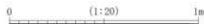


- 3号焼土
1. 5384/4 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
焼成層が液熱 炭化物を多く含む 焼けは良好

4号焼土

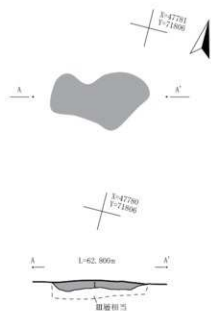


- 4号焼土
1. 5384/6 赤褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
比較的焼けの良好な焼土
2. 10382/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
III層層が液熱した部分 1層に比べ焼け方が極めて弱い



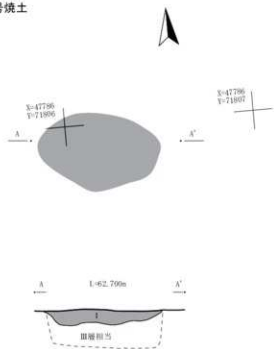
第33図 1～4号焼土遺構

5号焼土



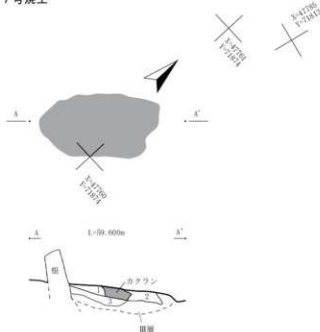
5号焼土
1. 7.5YR2/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
部分的に粘土粒含むが少ない

6号焼土



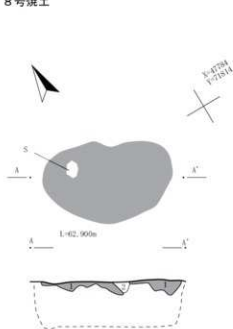
6号焼土
1. 7.5YR4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
焼けの強い焼土で部分的に褐色焼土を含む

7号焼土

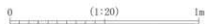


7号焼土
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
浮石粒を多少に含む
2. 10YR4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性有り
3. 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り

8号焼土

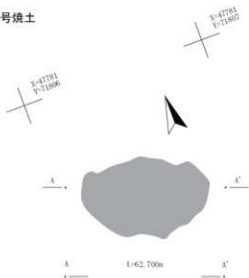


8号焼土
1. 2.5YR4/8 赤褐色 焼土 しまり有り 粘性なし
窪み部分がある
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
木根によるカクランが



第34図 5～8号焼土遺構

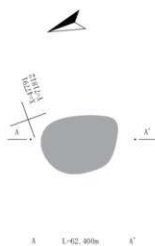
9号焼土



9号焼土

1. 2.5R4/8 赤褐色 焼土 しまり有り 粘性なし 固く締まっている
2. 10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 本板による検出?

10号焼土

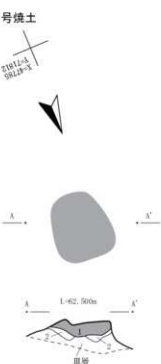


10号焼土

1. 2.5R5/4 に近い黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし

ブロック状の焼土

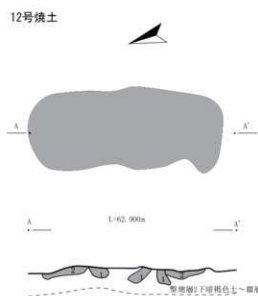
11号焼土



11号焼土

1. 7.5R4/6 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 焼けの締めて良い焼土
2. 7.5R3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし 土層の変化したもの

12号焼土



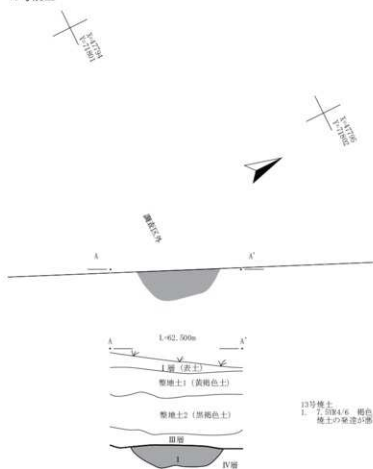
12号焼土

1. 7.5R5/6 明褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り ブロック状の焼土
2. 10YR3/2 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 褐色焼土板をわずかに含む

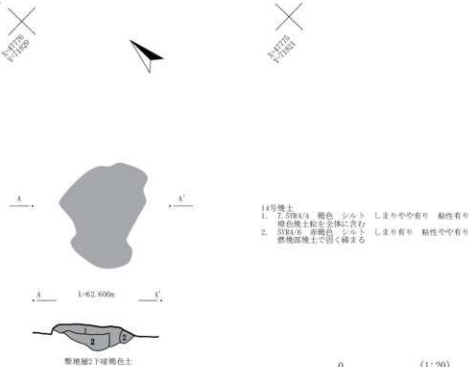
0 (1:20) 1m

第35図 9～12号焼土遺構

13号焼土

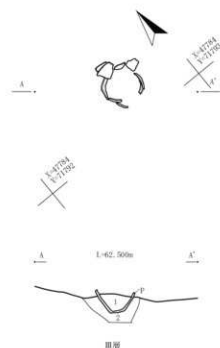


14号焼土



第36図 13・14号焼土遺構

1号埋設土器



1号埋設土器

- 10YK1/3 ぶい黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
土壌内に炭化物 焼土粒等認められぬ
- 10YK1/4 褐色 シルト しまりあまりなし 粘性なし
籠り方埋土でフカクとしている

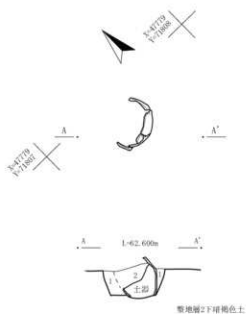
3号埋設土器



3号埋設土器

- 10YK2/1 褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
褐色土に暗褐色土混入
- 10YK2/2 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
- 10YK2/3 黄褐色 シルト 腐層相当

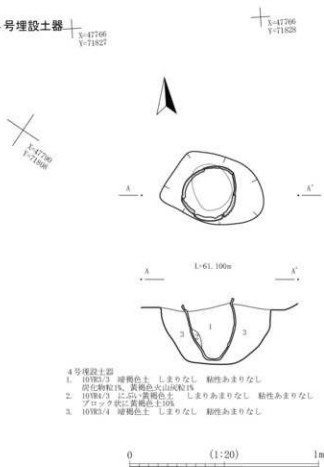
2号埋設土器



2号埋設土器

- 10YK3/4 褐色 シルト しまり有り 粘性なし
土器の籠り方埋土
- 10YK3/2 黄褐色 シルト しまり有り 粘性なし
土器内の土壌

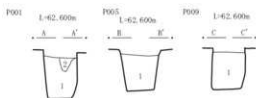
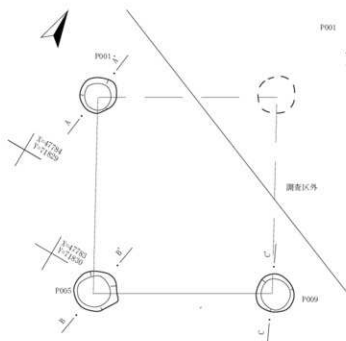
4号埋設土器



4号埋設土器

- 10YK3/3 暗褐色土 しまりなし 粘性あまりなし
炭化物粒状、黄褐色火山灰粒
- 10YK3/3 ぶい黄褐色土 しまりあまりなし 粘性あまりなし
ブロンク状に黄褐色土混入
- 10YK3/4 暗褐色土 しまりなし 粘性あまりなし

1号掘立柱建物跡

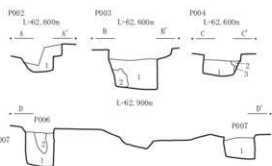
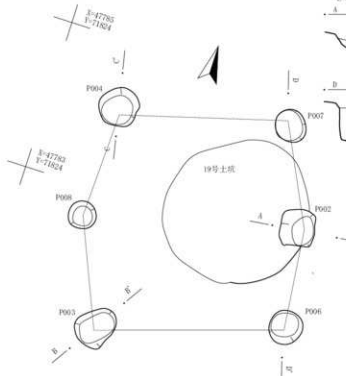


- P001**
1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石をまばらに含む
 2. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石を全体に含む

- P005**
1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石をまばらに含む

- P009**
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石を全体に含む

2号掘立柱建物跡



- P002**
1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石をまばらに含む

- P003**
1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石をまばらに含む
 2. 10YR5/6 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
ブロック状

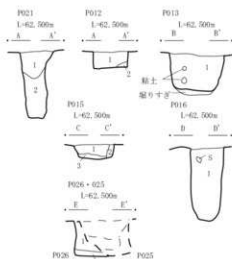
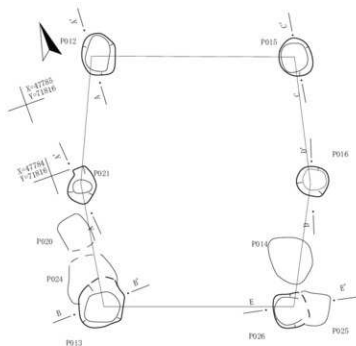
- P004**
1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石をまばらに含む
 2. 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石を全体に含む
 3. 10YR5/6 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
ブロック状

- P006・007**
1. 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮石をまばらに含む
 2. 10YR2/1 黒 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より黒味あり

0 (1:50) 2m

第38図 1・2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡



P011
1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 101R5/6 黄褐色 粘土質土 しまり有り 粘性有り

P012
1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 101R5/6 黄褐色 粘土質土 しまり有り 粘性有り

P013
1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 101R4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし
3. 101R3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし

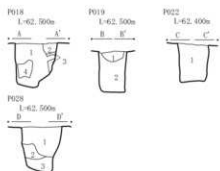
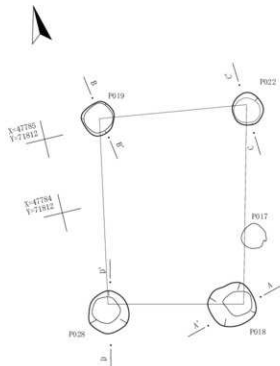
P015
1. 101R4/4 褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
2. 101R4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし
3. 101R3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし

P016
1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 101R5/6 黄褐色 粘土質土 20%混入

P021
1. 101R2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
炭化物少量

P023
1. 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 101R2/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
炭化物含む

4号掘立柱建物跡



P018
1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
2. 101R4/3 にふい黄褐色土粒10% シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
3. 101R4/3 にふい黄褐色土粒50% シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
4. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り

P019
1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
炭化物混入
2. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土粒混入

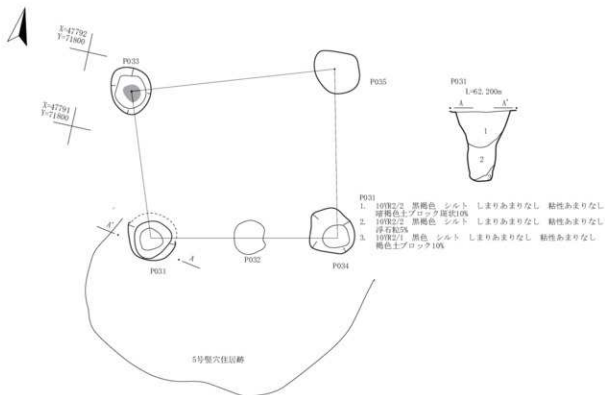
P022
1. 101R2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし

P028
1. 101R2/3 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
2. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
3. 101R2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし

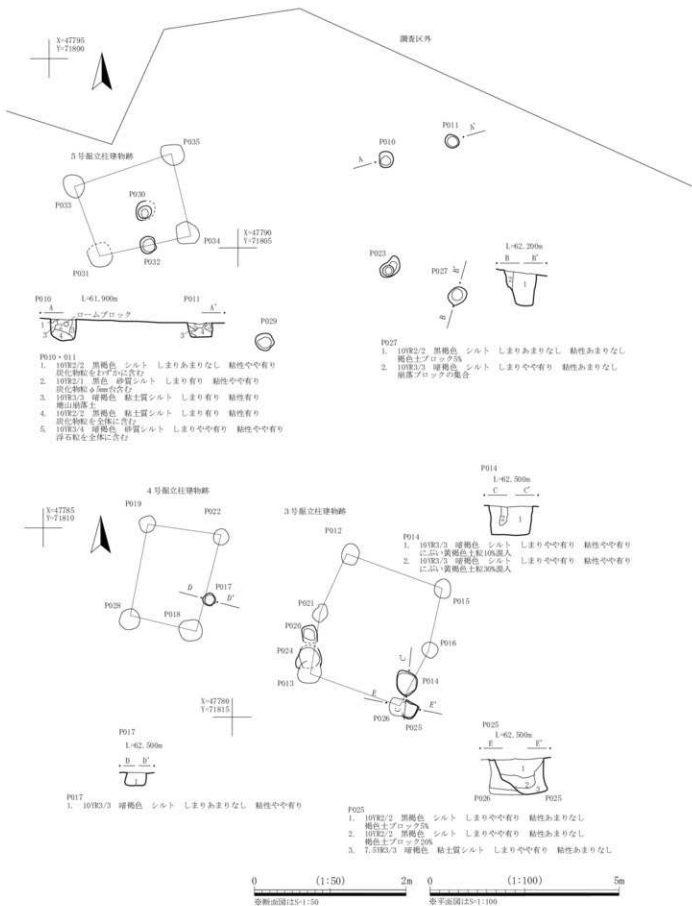
0 (1:50) 2m

第39図 3・4号掘立柱建物跡

5号掘立柱建物跡

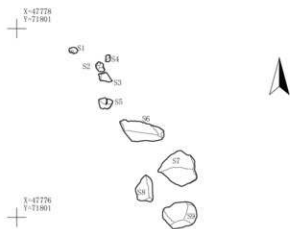


第40図 5号掘立柱建物跡

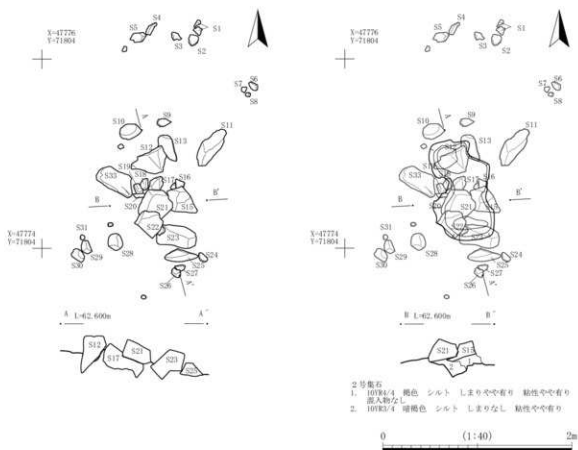


第41図 柱穴位置図 (建物構成柱穴以外)

1号集石

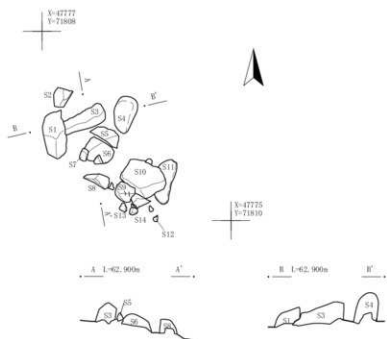


2号集石

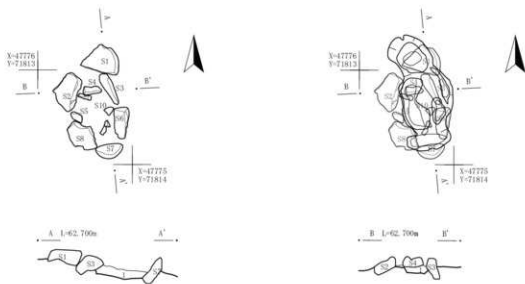


第42図 1・2号集石

3号集石



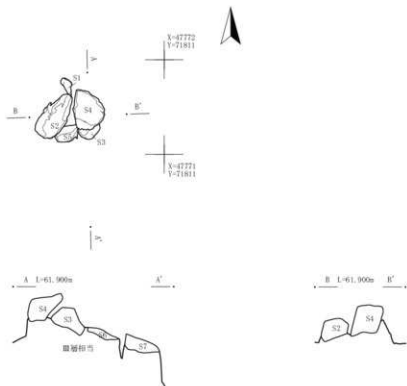
4号集石



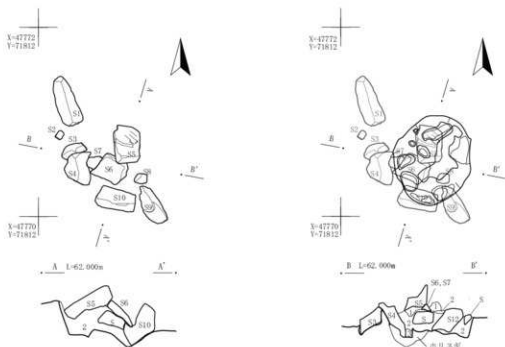
4号集石
 L 109K33 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘りやや有り フカフカやむらさや。

0 (1:40) 2m

5号集石



6号集石

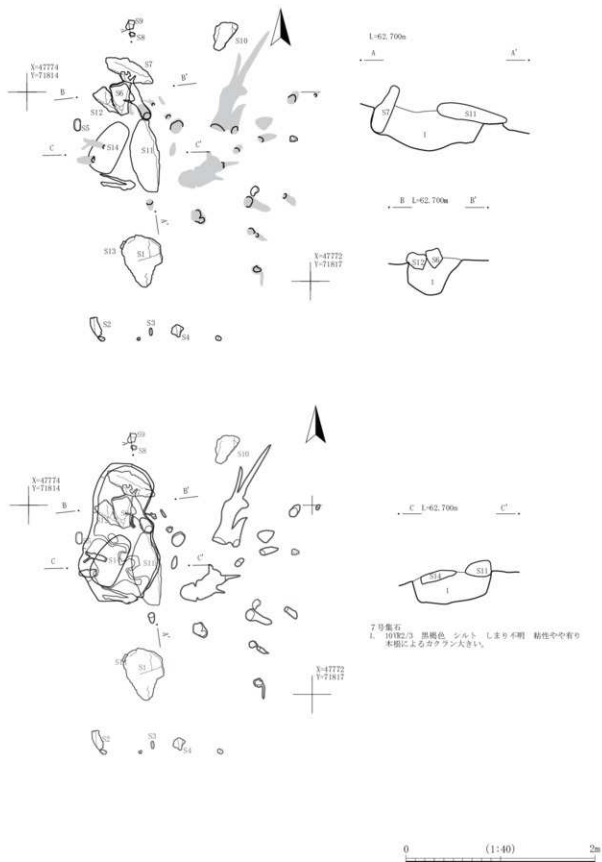


- 6号集石
 1. 101K5/4 灰色-黄褐色 シルト しまりなし 粘性なし
 砂礫層中に散在
 2. 101K3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 3. 101R1/3 灰色-黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 赤土層部～下部(散らす?)

0 (1:40) 2m

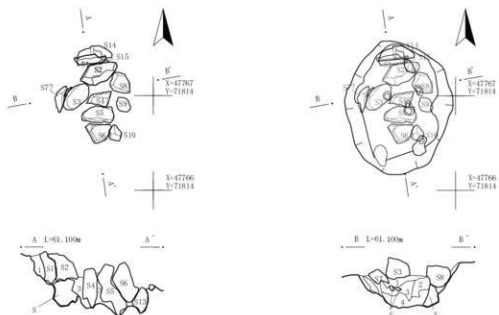
第44図 5・6号集石

7号集石



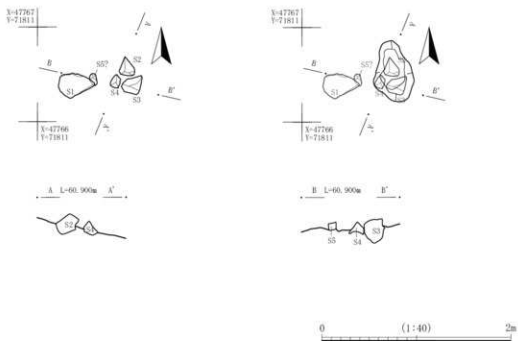
第45図 7号集石

8号集石



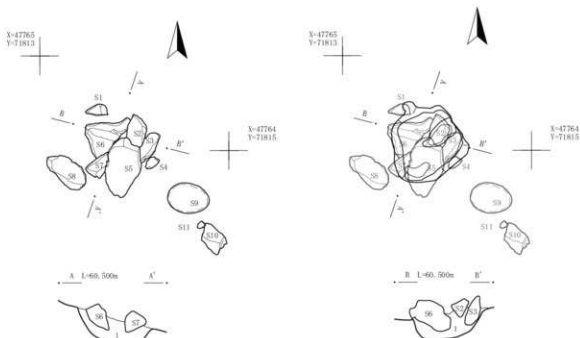
- 8号集石
1. 10YK3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
あまりしまりなくフカフカ
 2. 10YK3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
黄褐色土粒をまばらに含む
 3. 10YK3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
小礫を含む。最層より厚くない
 4. 10YK4/6 褐色 粗土シルト しまり有り 粘性やや有り
礫orIV層に混る

9号集石



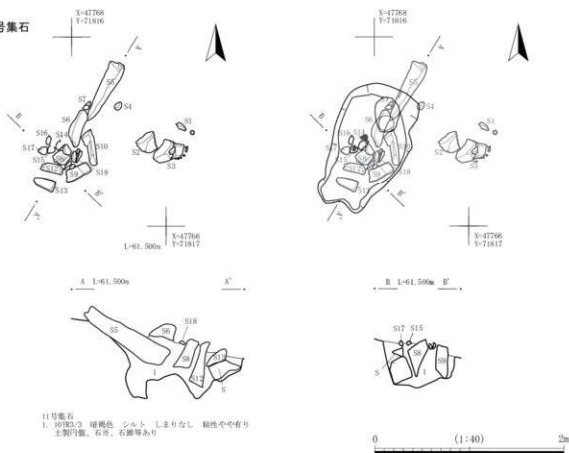
第46図 8・9号集石

10号集石



10号集石
 L: 10YR2/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 炭人物なし

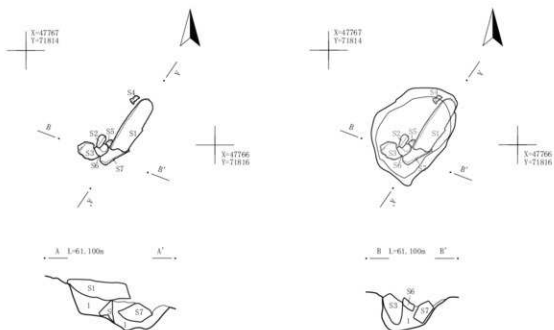
11号集石



11号集石
 L: 10YR2/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
 土製円錐、石舟、石鏝等あり

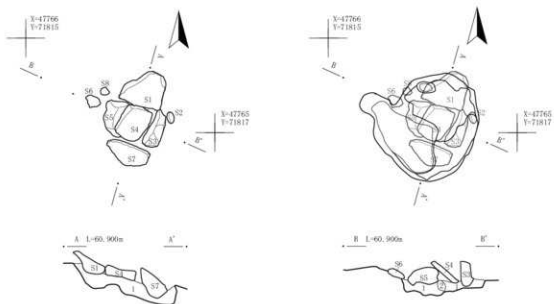
第47図 10・11号集石

12号集石

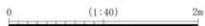


12号集石
1. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り

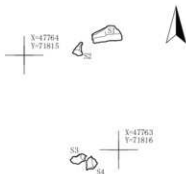
13号集石



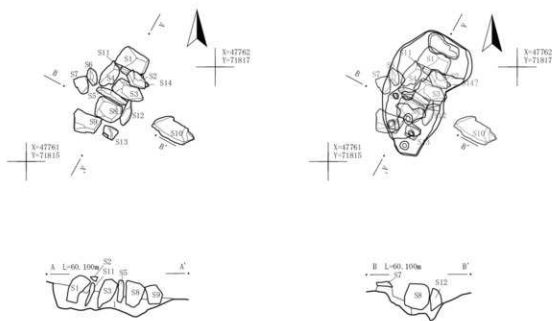
13号集石
1. 101R3/2 黒褐色 シルト しまりなし 粘性なし
0.1~3mm程度の浮石を含む、フカフカしている
2. 101R3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし



14号集石



15号集石

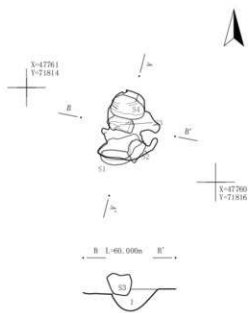
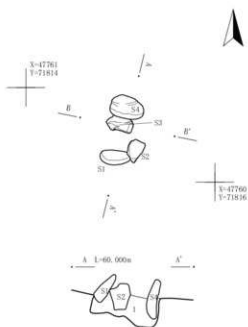


15号集石

1. 101K3/2 黒褐色、砂質シルト。しまりやや有り 粘性やや有り
 混人物なし

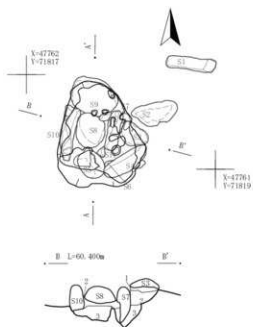
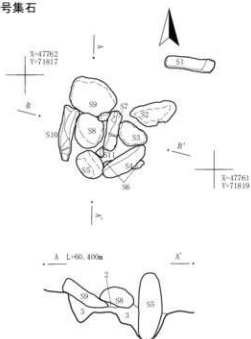
0 (1:40) 2m

16号集石



16号集石
1. 10192/3 黒褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
アガフヤやむらさか

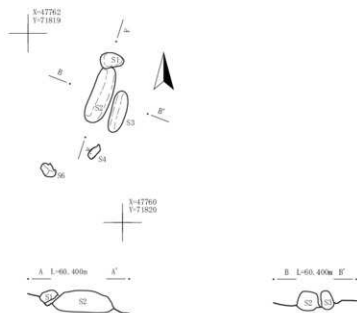
17号集石



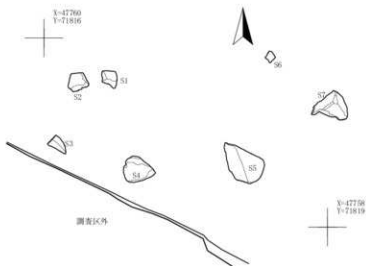
17号集石
1. 10193/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 10193/3 暗褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性なし
褐色の厚層粘土層に似る
3. 10193/2 暗褐色 砂質シルト しまりなし 粘性やや有り

0 (1:40) 2m

18号集石



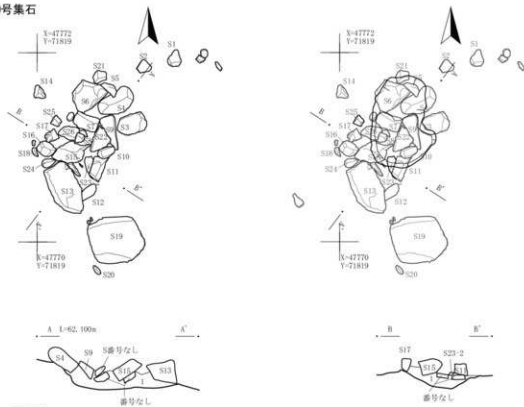
19号集石



0 (1:40) 2m

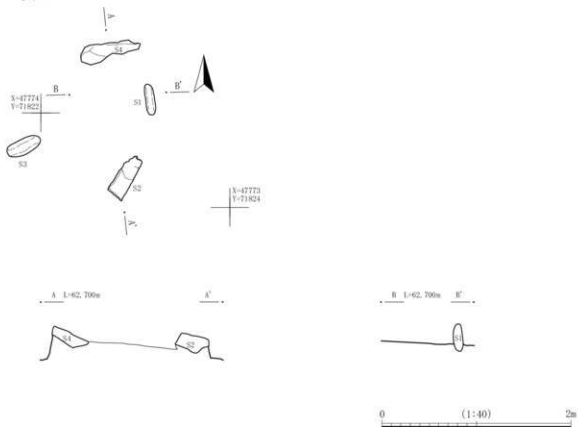
第51図 18・19号集石

20号集石



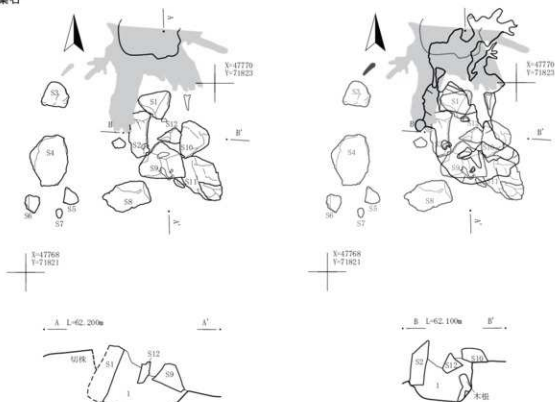
20号集石
 L. 100X3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 フカフカでなく若干しまった感触

21号集石



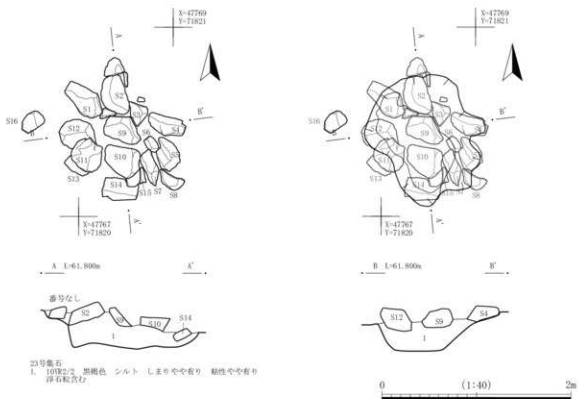
第52図 20・21号集石

22号集石



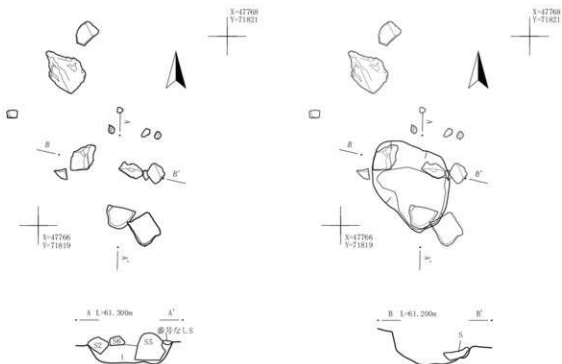
22号集石
1. 10192/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 遺物含む

23号集石



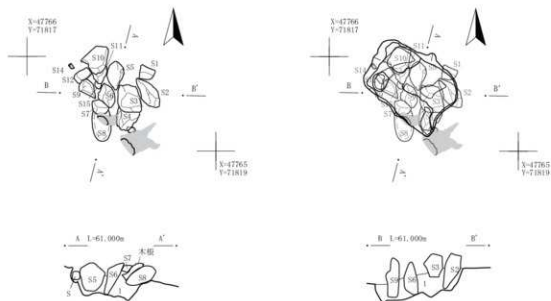
23号集石
1. 10192/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石を含む

24号集石



24号集石
 1. 10183/3 緑褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 浮石転まばらに含む

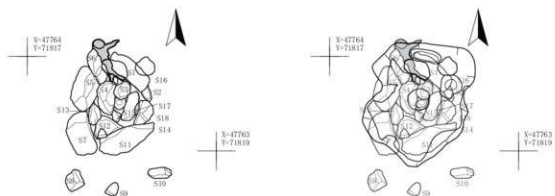
25号集石



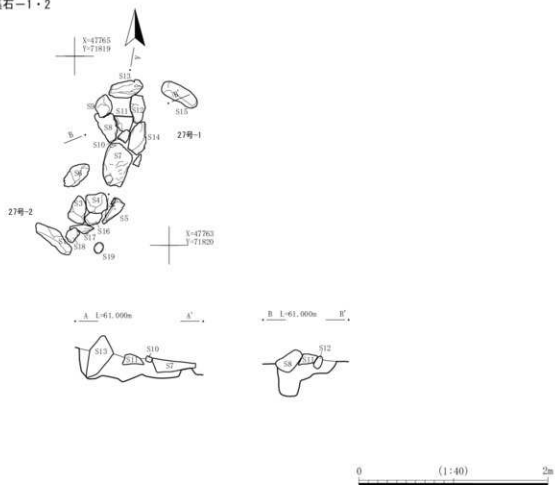
25号集石
 1. 10183/3 緑褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 しまりなくアガマ

0 (1:40) 2m

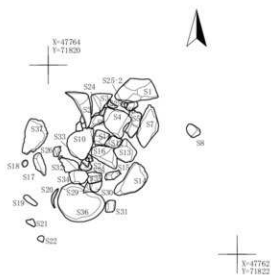
26号集石



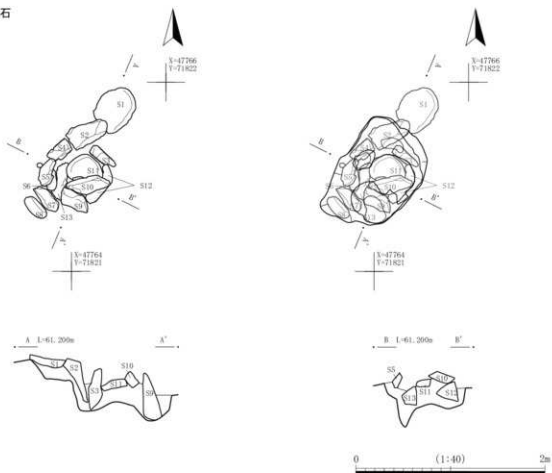
27号集石-1・2



28号集石

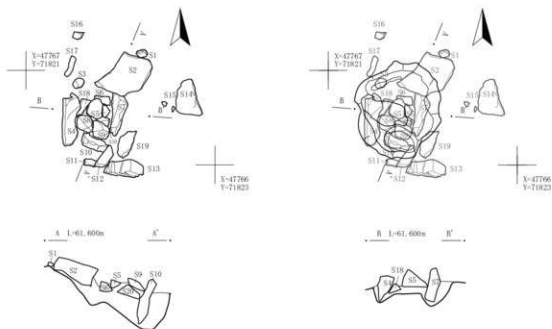


29号集石

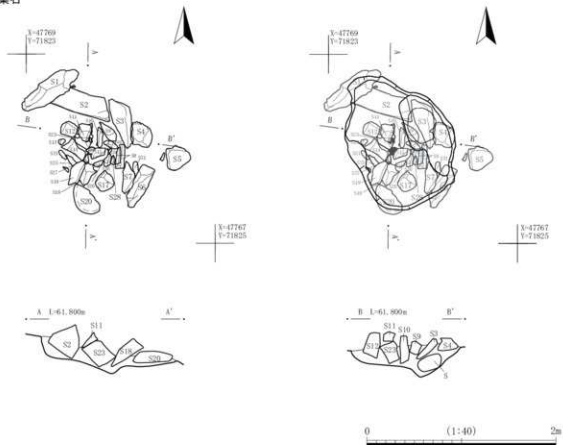


第56図 28・29号集石

30号集石

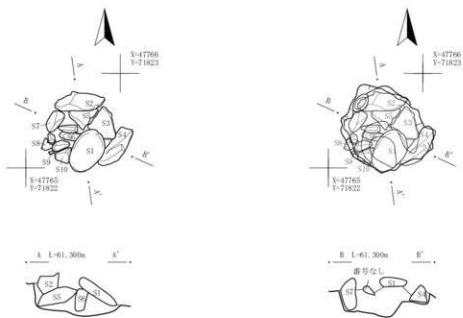


31号集石

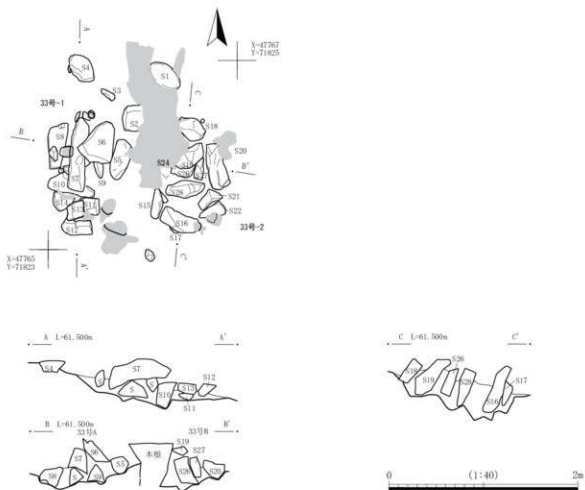


第57図 30・31号集石

32号集石

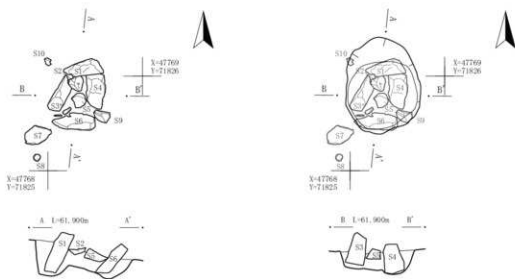


33号集石-1・2

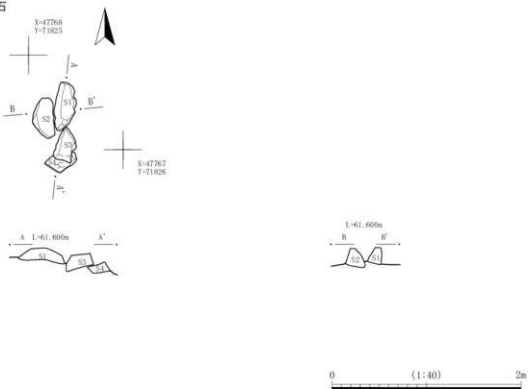


第58图 32・33-1・2号集石

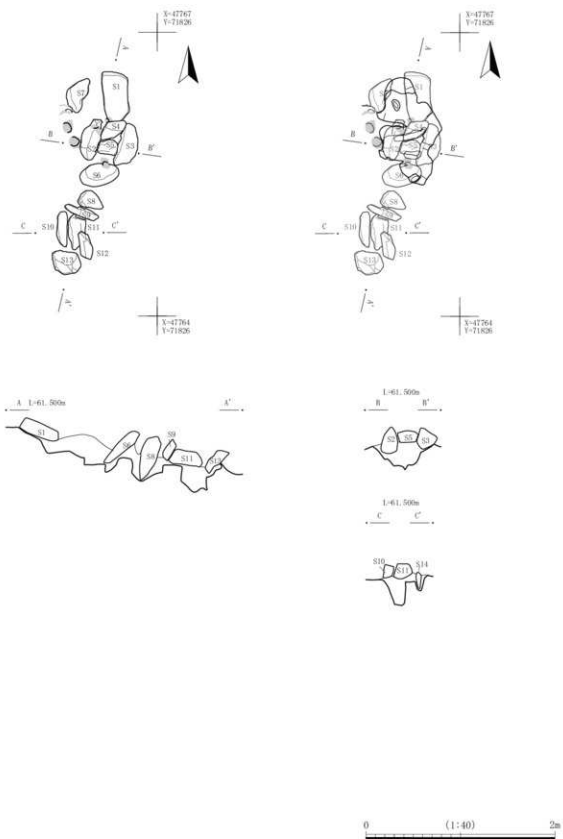
34号集石



35号集石

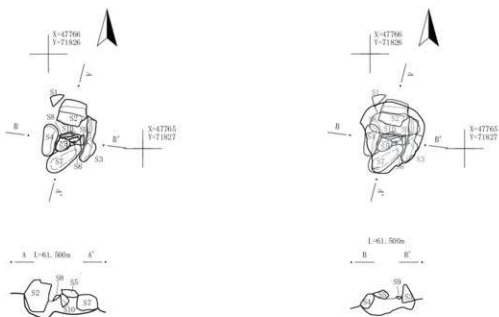


0 (1:40) 2m

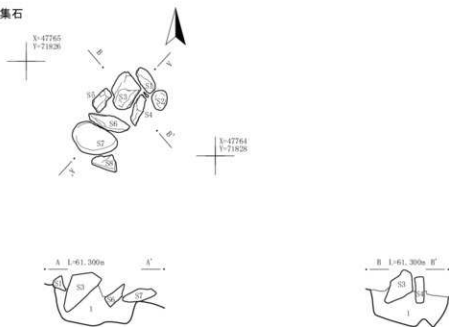


第60図 36-1・2号集石

37号集石



38号集石

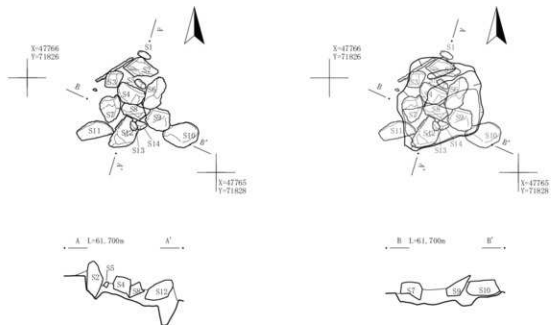


38号集石

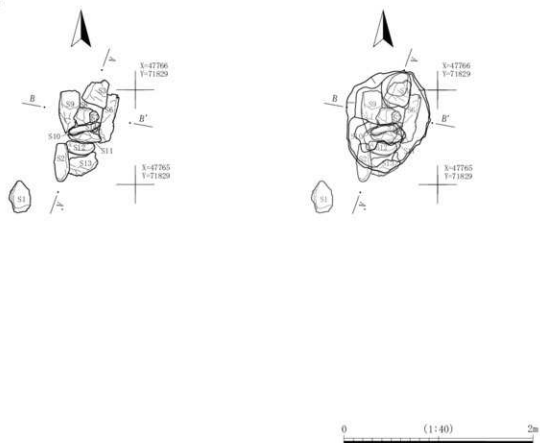
1. 10192/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 フカフカ、かなりやわらかい

0 (1:40) 2m

39号集石

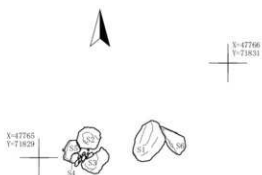


40号集石

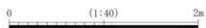
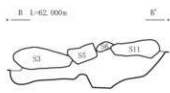
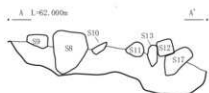
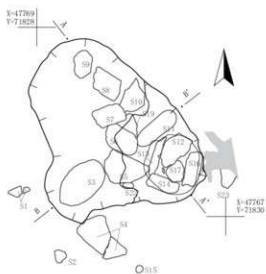
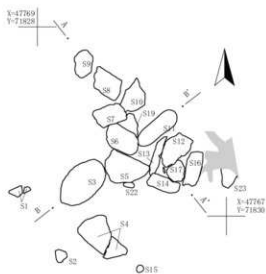


第62図 39・40号集石

41号集石

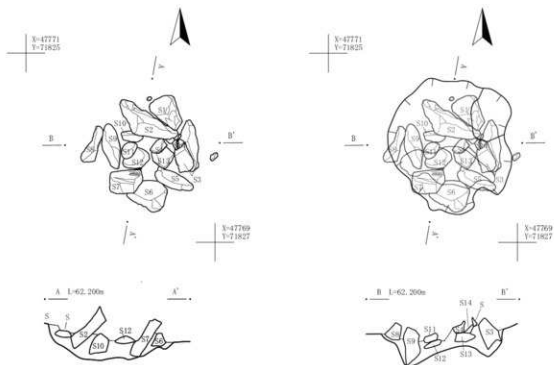


42号集石

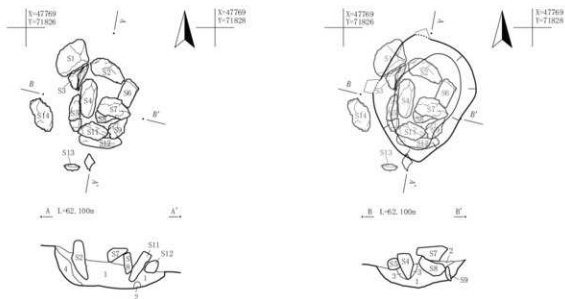


第63図 41・42号集石

43号集石



44号集石



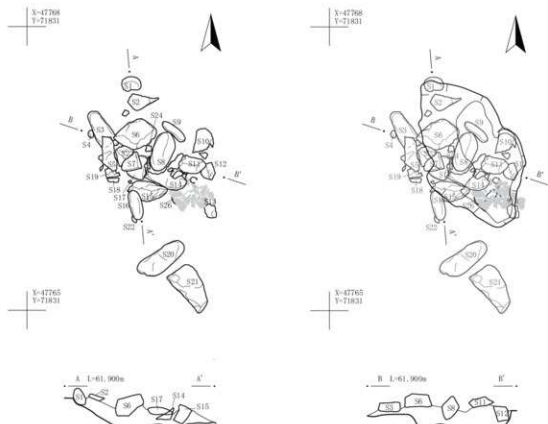
44号集石

- | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---------|---------|--------------|
| 1. | 101E3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性やや有り | ごくわずかに炭化物を含む |
| 2. | 101E3/4 | 暗褐色 | シルト | しまり有り | 粘性あまりなし | ブロック状 |
| 3. | 101E2/2 | 暗褐色 | シルト | しまりなし | 粘性やや有り | 8,4の層の下部土 |
| 4. | 101E3/3 | 暗褐色 | シルト | しまりやや有り | 粘性やや有り | 地山(田圃)によく似る |

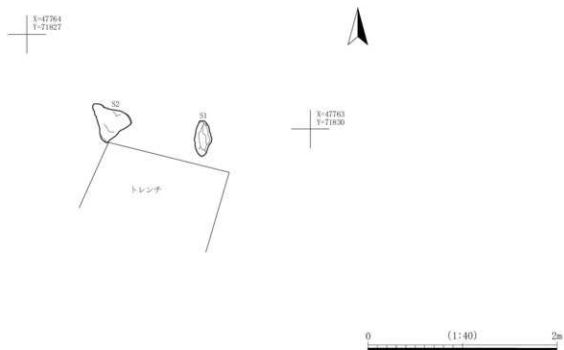


第64図 43・44号集石

45号集石

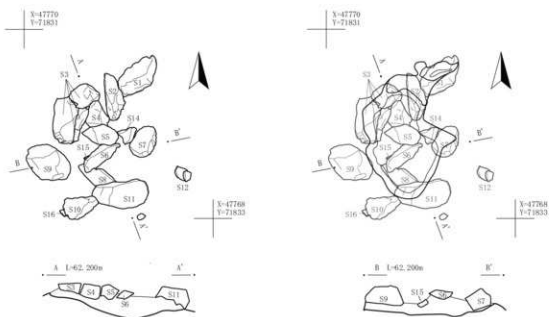


46号集石

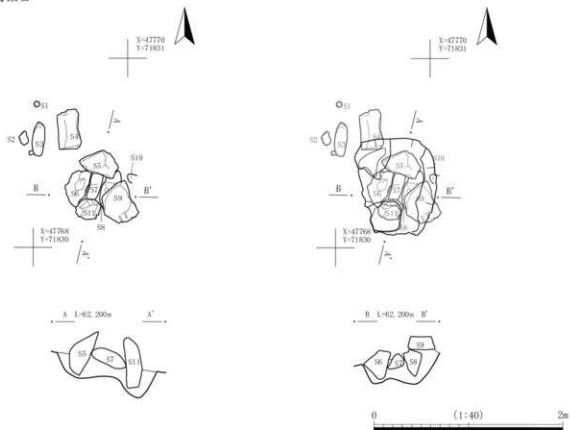


第65図 45・46号集石

47号集石

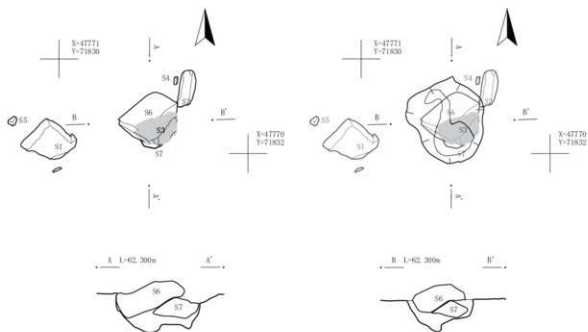


48号集石

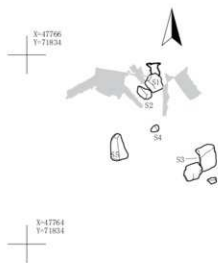


第66图 47·48号集石

49号集石

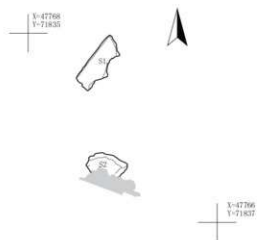


50号集石

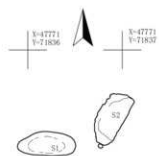


0 (1:40) 2m

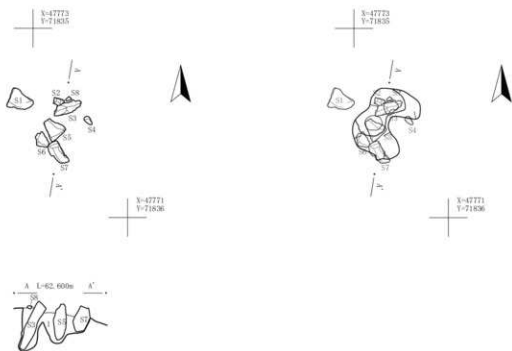
51号集石



52号集石



53号集石

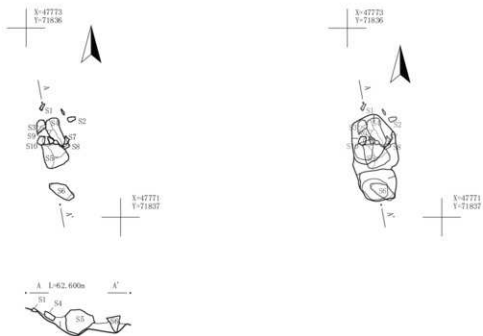


53号集石
 1. 10192/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り フカフカやわらび

0 (1:40) 2m

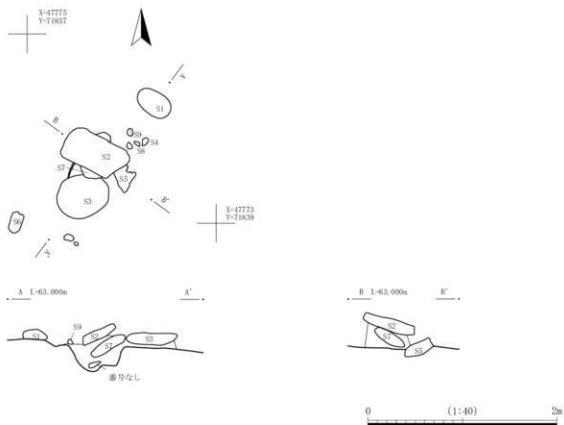
第68図 51～53号集石

54号集石



54号集石
 1. 10/82/3 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 部分的に固い箇所あり

55号集石

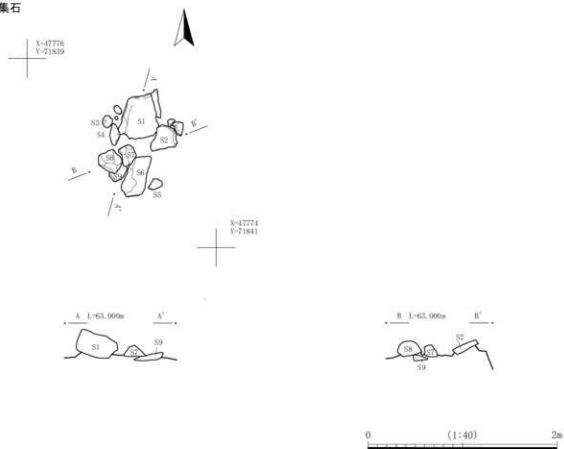


第69図 54・55号集石

56号集石

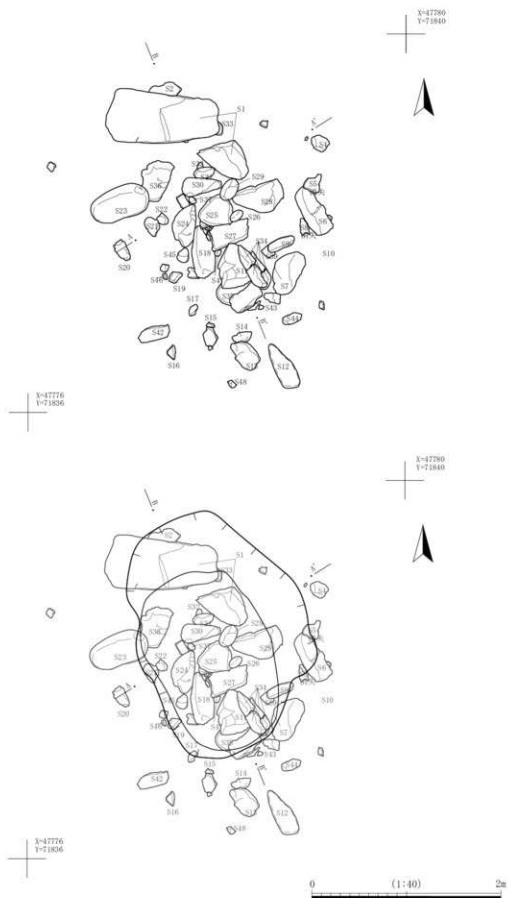


57号集石



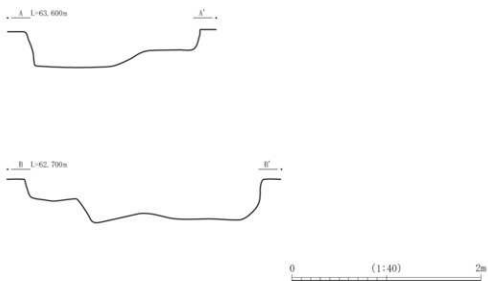
第70図 56・57号集石

58号集石

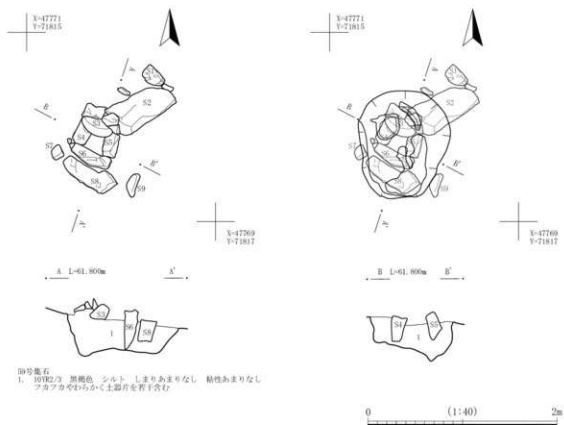


第71図 58号集石(1)

58号集石 A-A'・B-B'断面



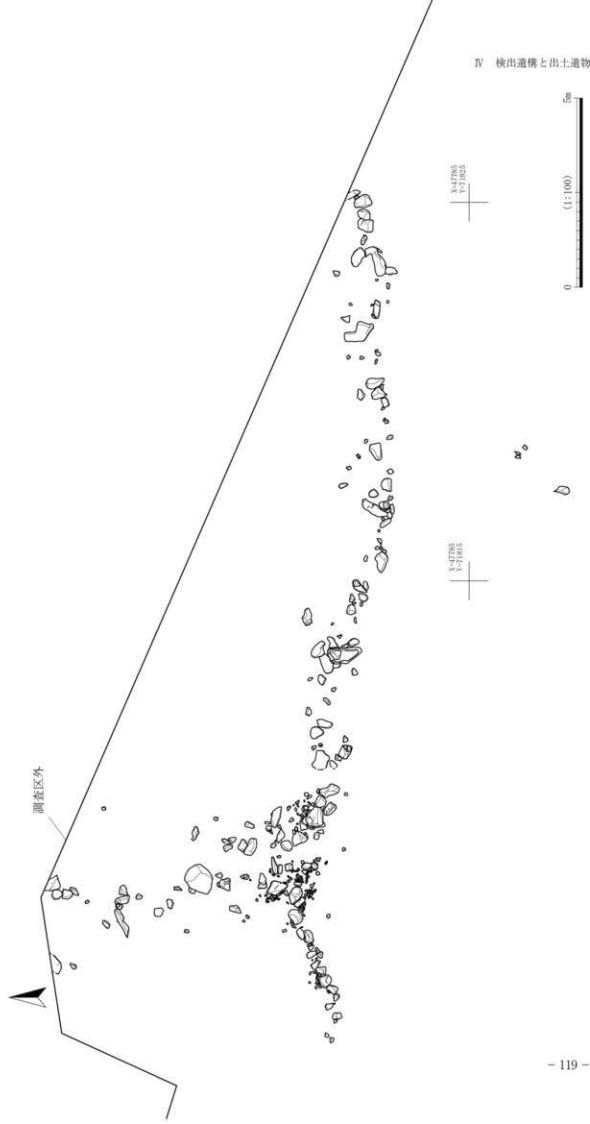
59号集石



59号集石

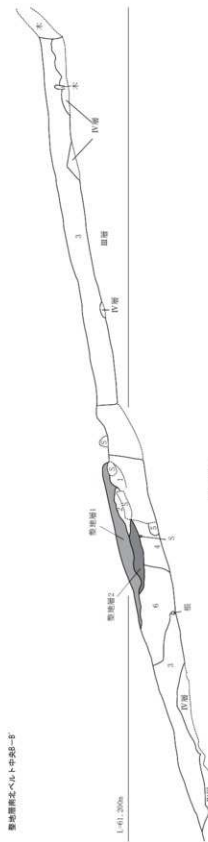
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
 フカフカやわらかく土層片を若干含む

第72図 58号集石(2)・59号集石

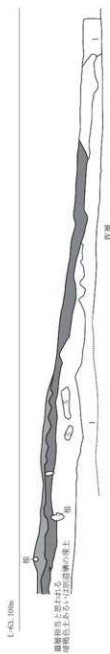
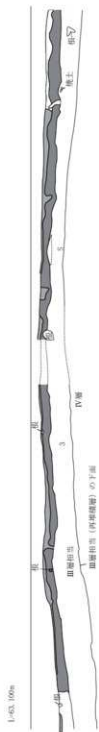


第73図 内帯の石列

0 (1:50) 3m



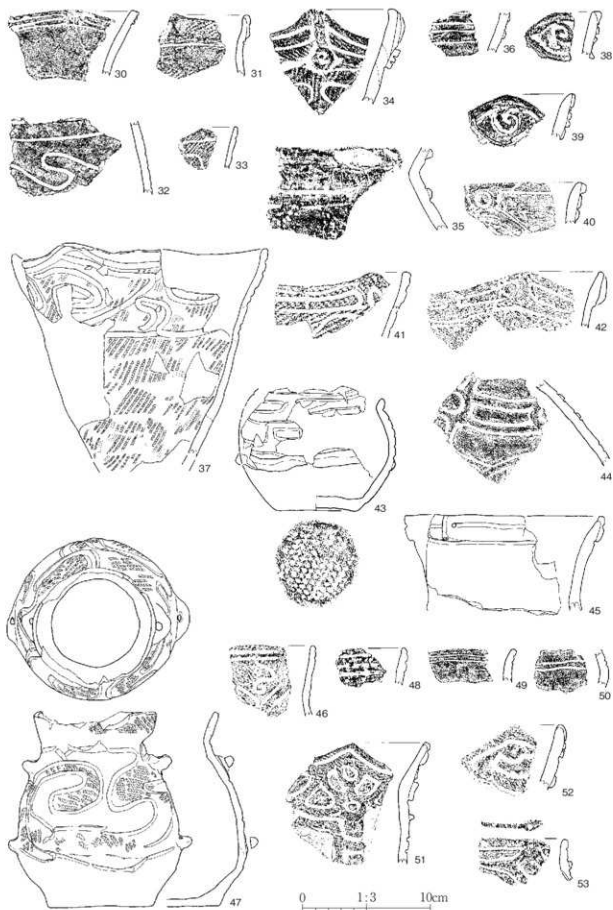
1. 101Kx.1 緑褐色 シルト しまりや有り 粘性や有り
 2. 5号墓石の下段、土間層の厚土土心、土心は赤褐色2
 3. 101Kx.2 赤褐色 シルト しまりや有り 粘性有り
 4. 101Kx.3 赤褐色 シルト しまりや有り 粘性有り
 5. コーミングロツク
 6. 新圃と思はれる段家の構土



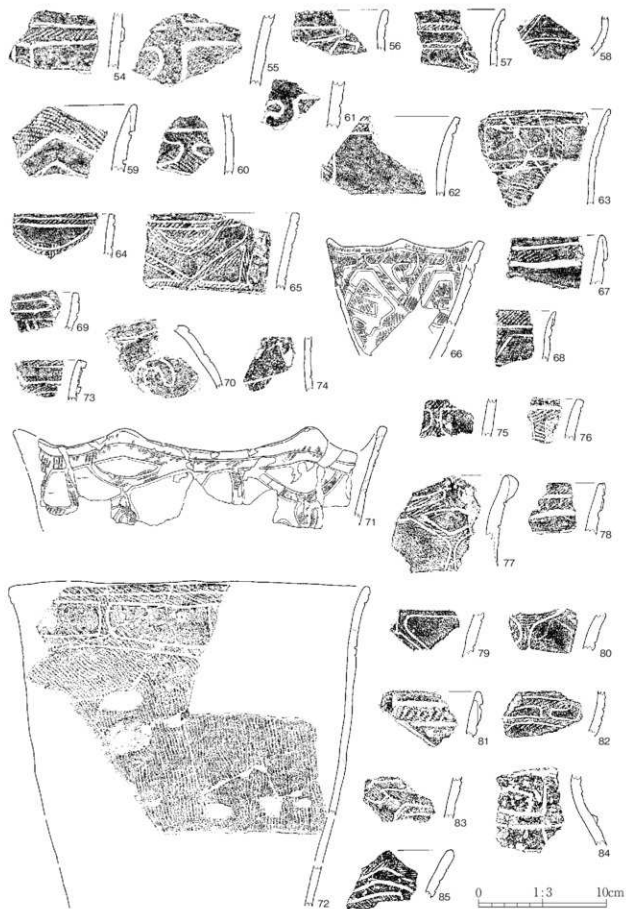
第75図 整地層断面図 B



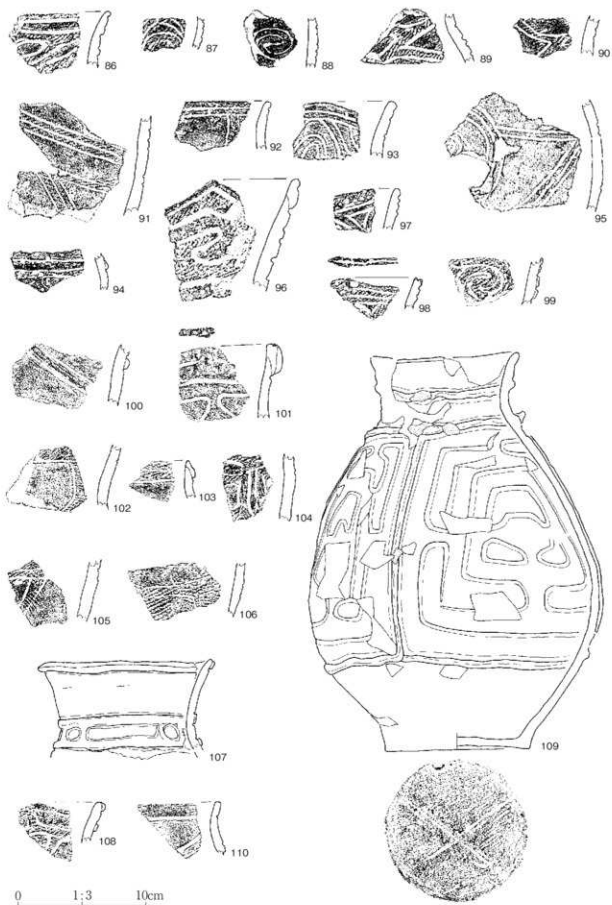
第77図 出土遺物(1)



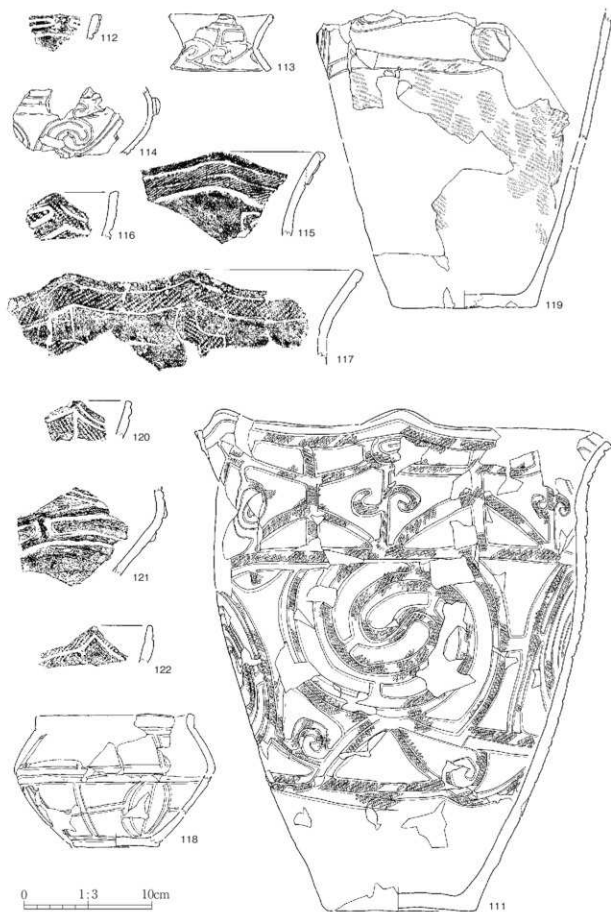
第78図 出土遺物(2)



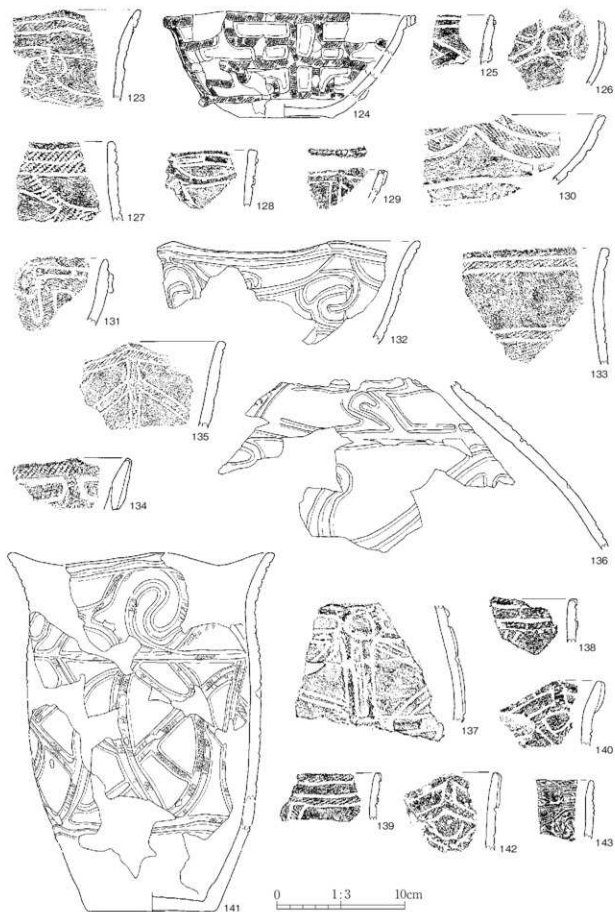
第79図 出土遺物(3)



第80回 出土遺物(4)



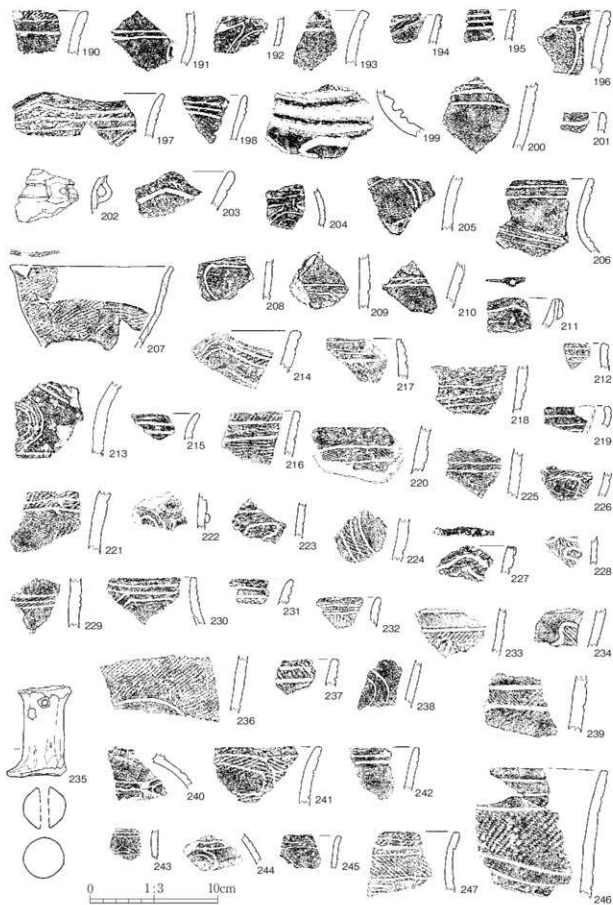
第81図 出土遺物(5)



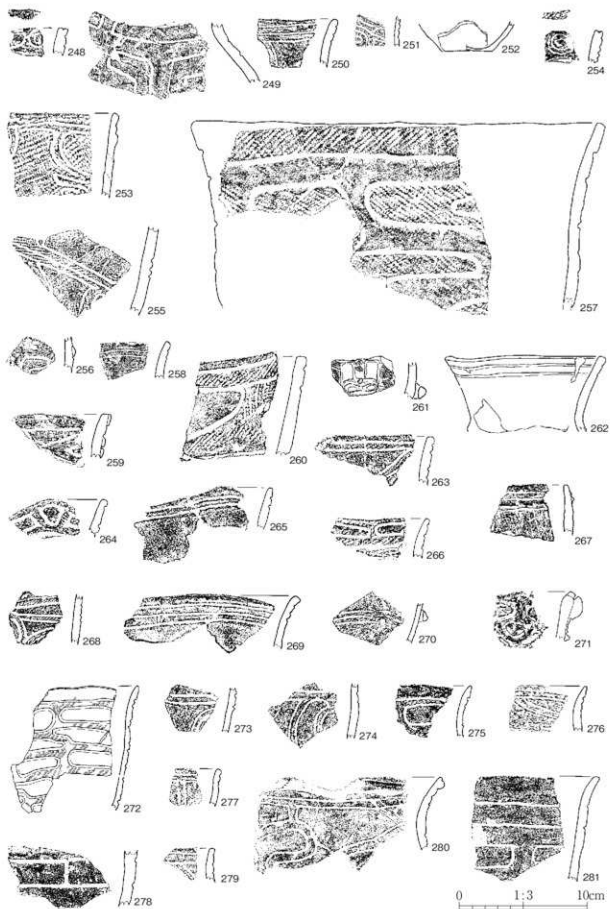
第82図 出土遺物(6)



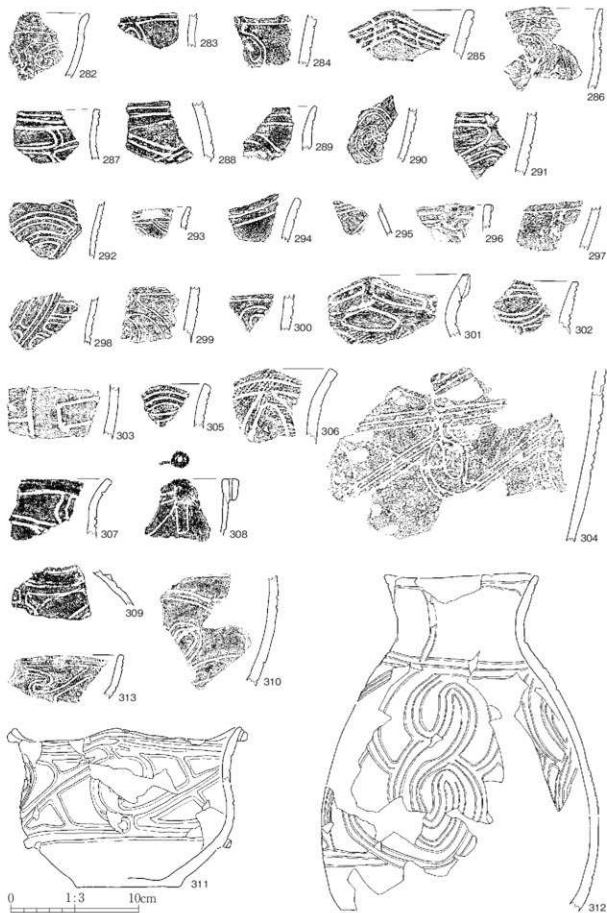
第83図 出土遺物(7)



第84図 出土遺物(8)



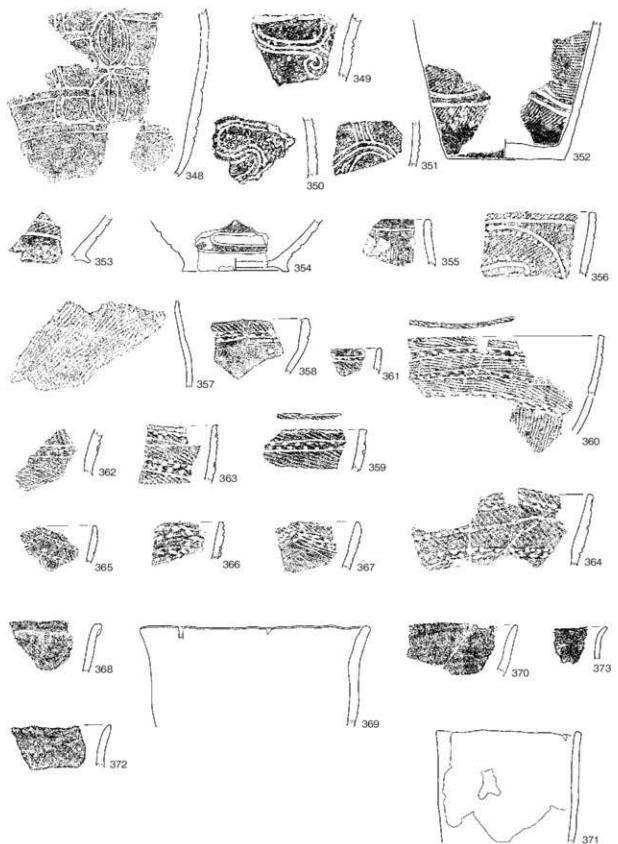
第85図 出土遺物(9)



第86図 出土遺物(10)

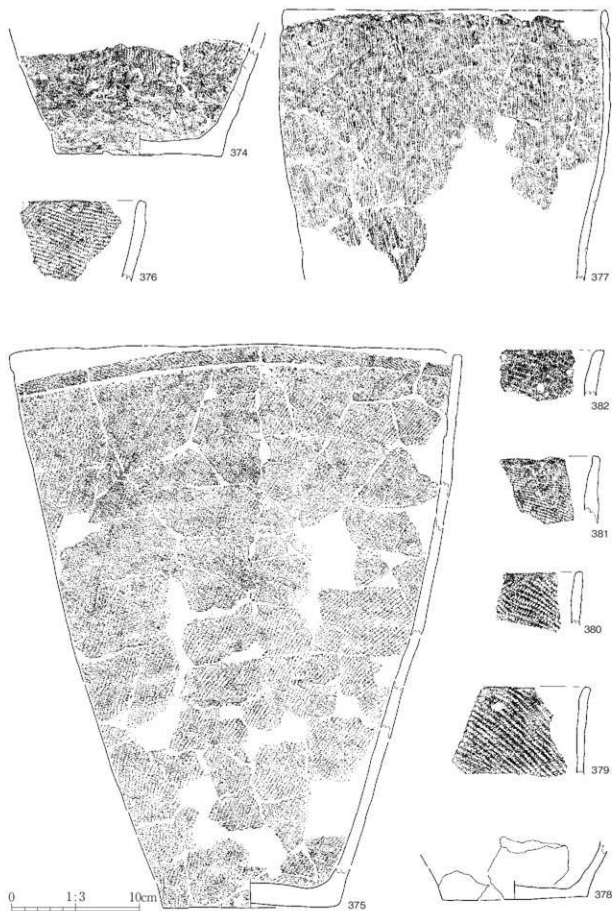


第87図 出土遺物(11)

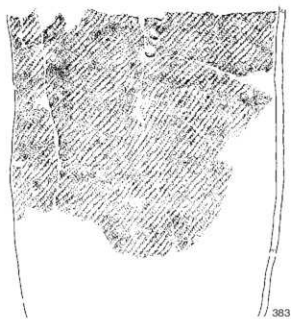


0 1:3 10cm

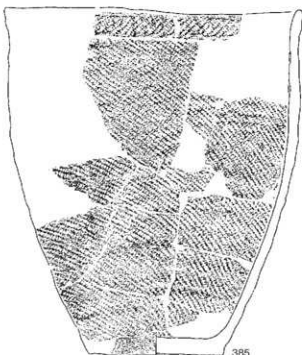
第88図 出土遺物(12)



第89図 出土遺物(13)



383



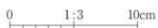
385



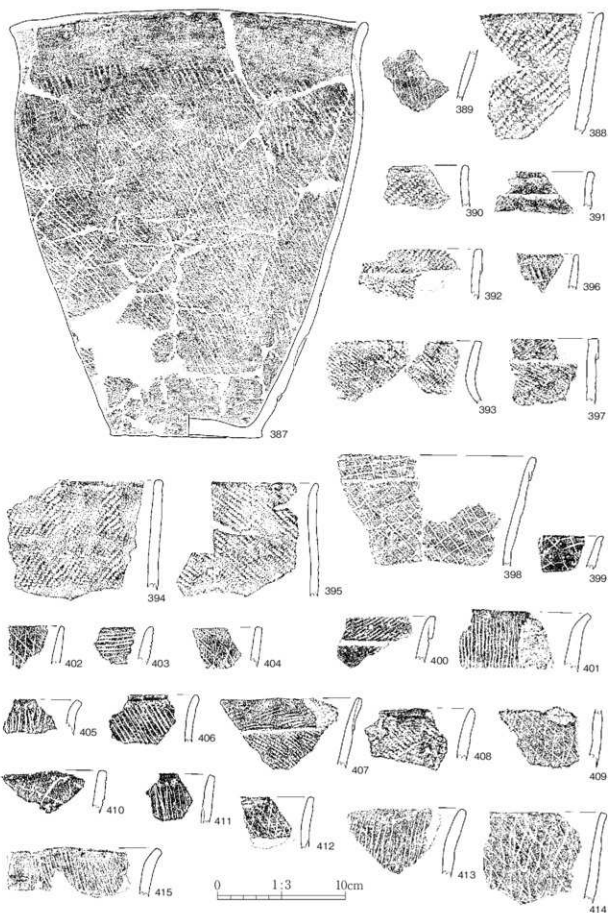
386



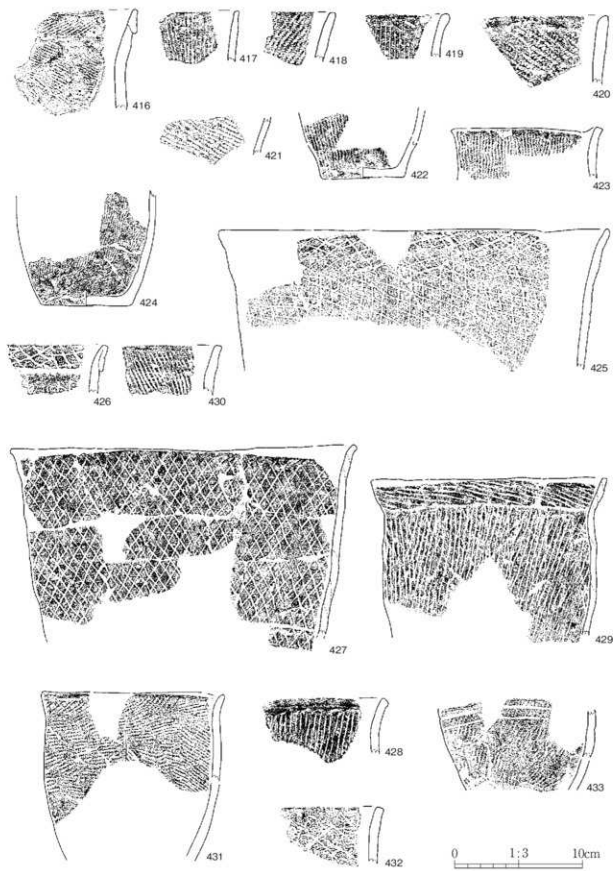
384



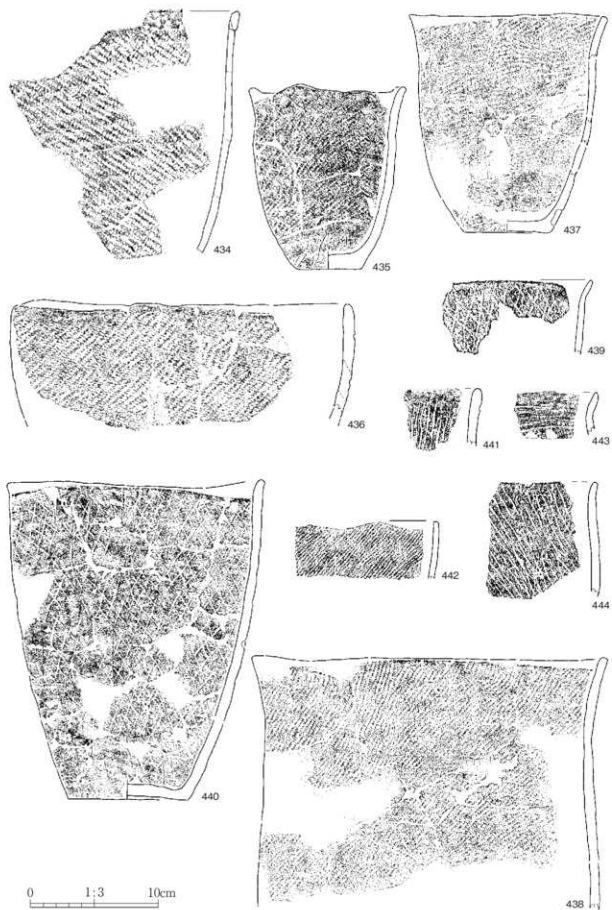
第90図 出土遺物(14)



第91図 出土遺物(15)



第92図 出土遺物(16)



第93図 出土遺物(17)



447



445



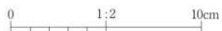
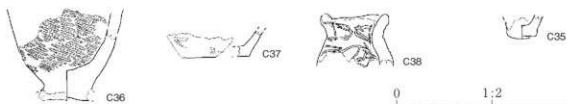
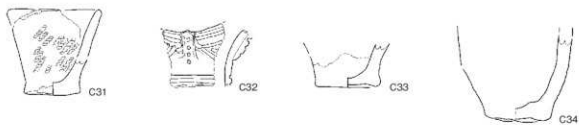
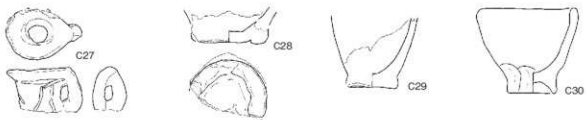
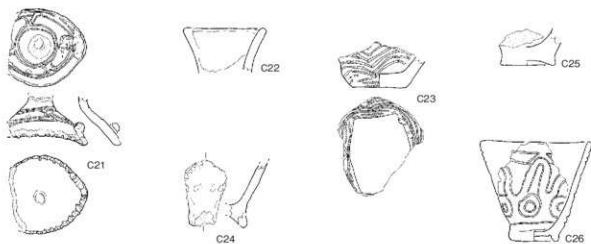
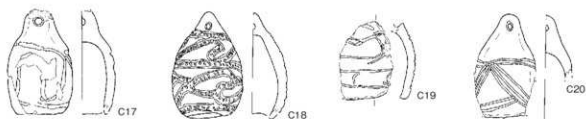
446



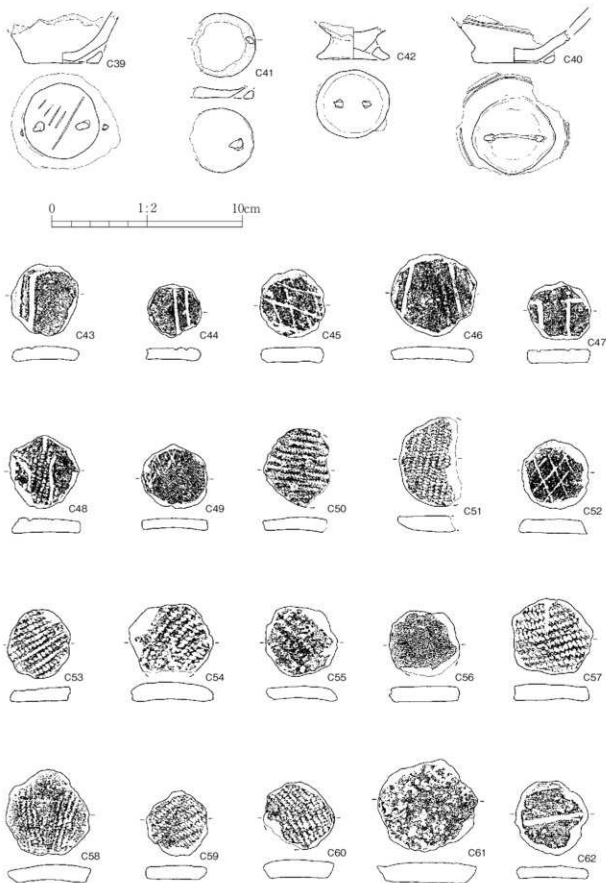
第94図 出土遺物(18)



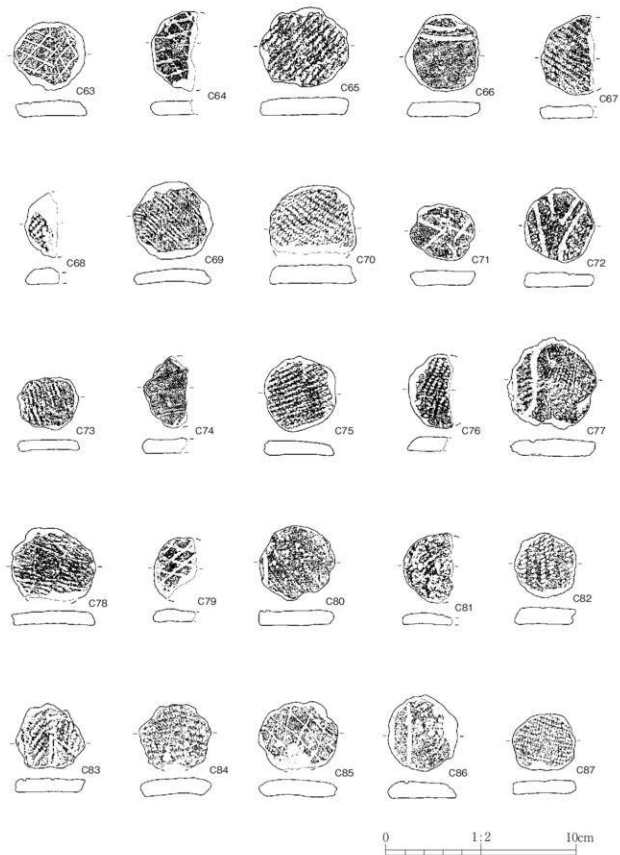
第95図 出土遺物(19)



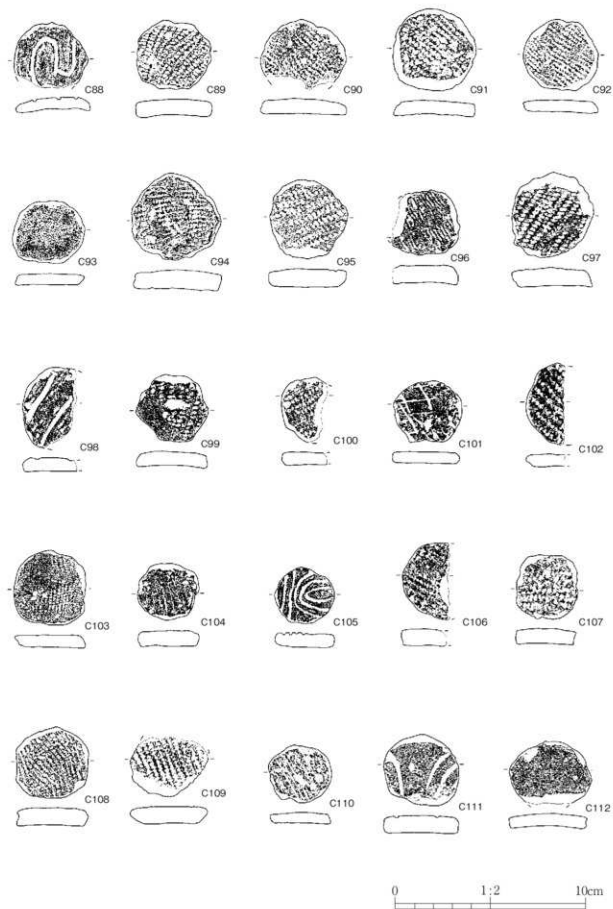
第96図 出土遺物(20)



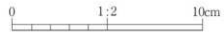
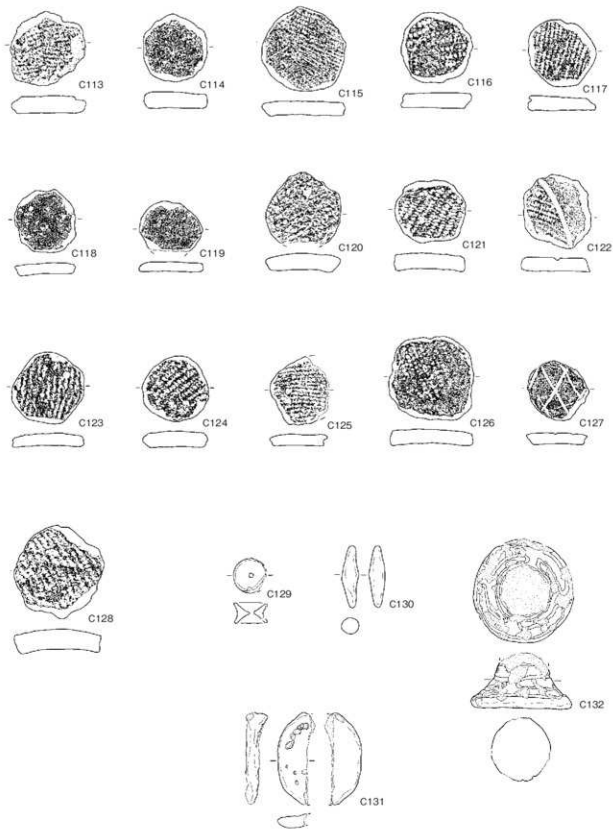
第97図 出土遺物(21)



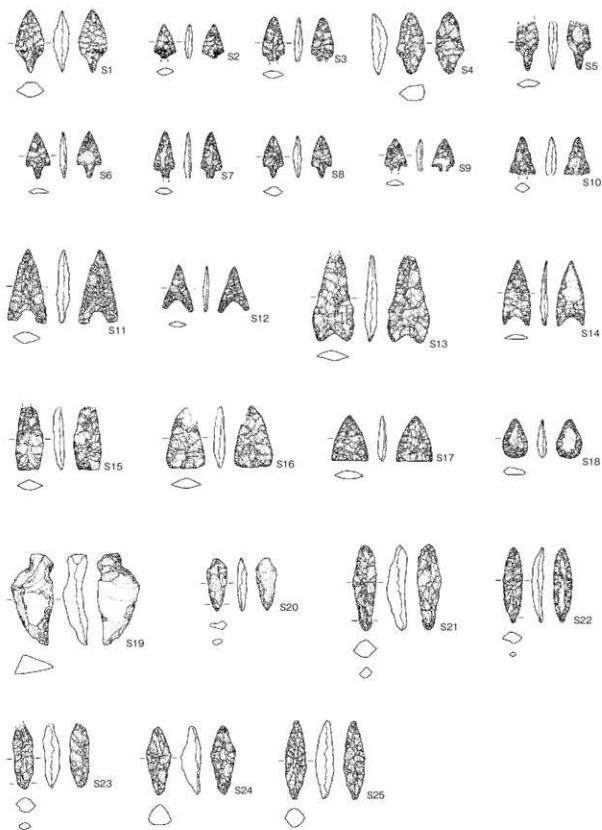
第98図 出土遺物(22)



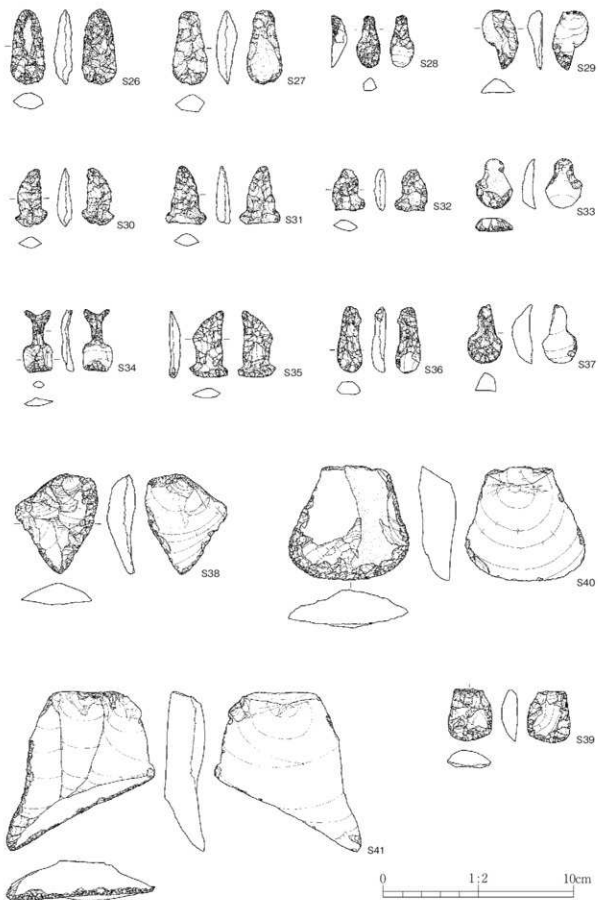
第99図 出土遺物(23)



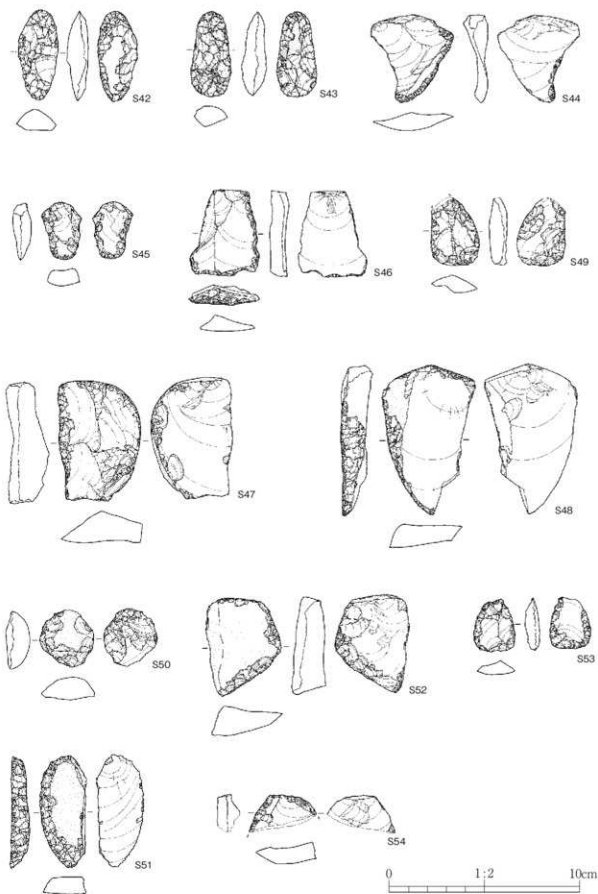
第100回 出土遺物(24)



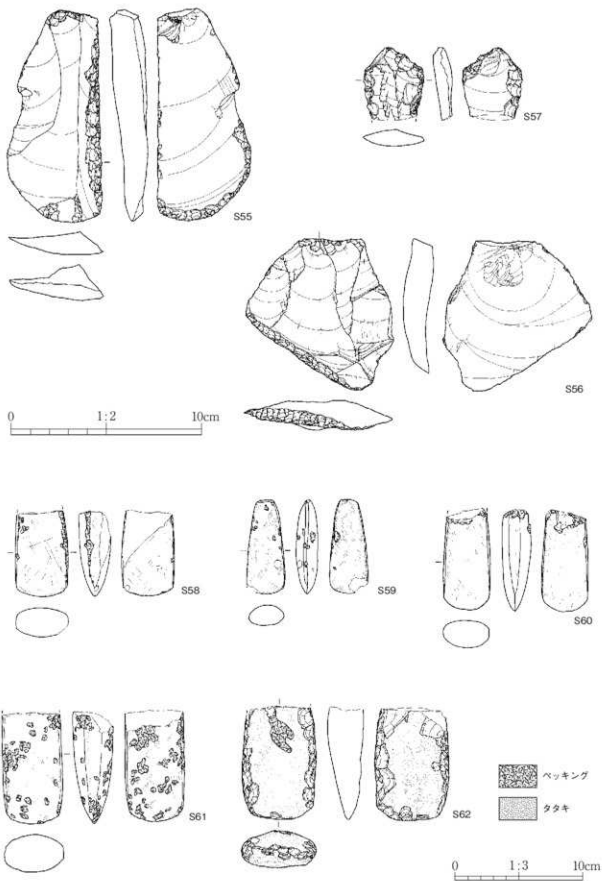
第101図 出土遺物(25)



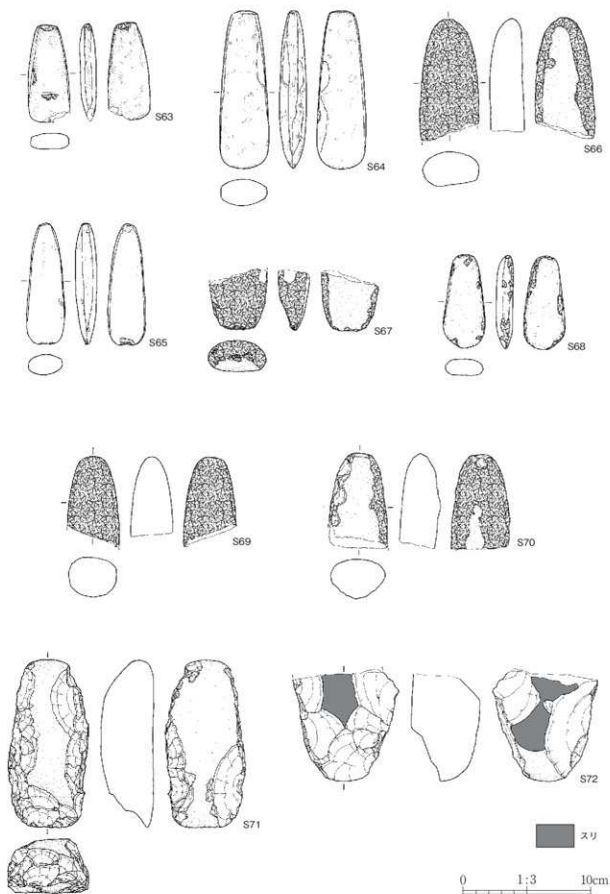
第102回 出土遺物(26)



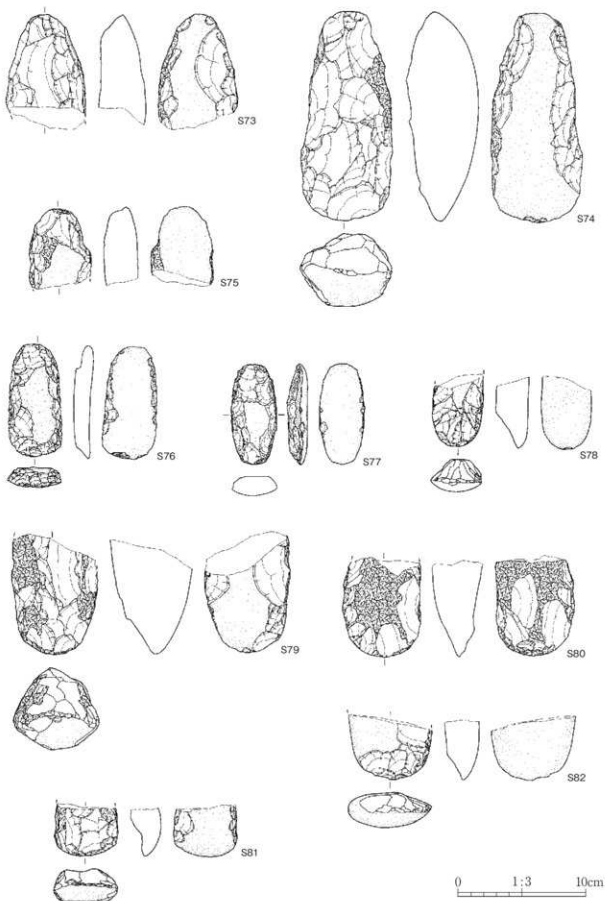
第103図 出土遺物(27)



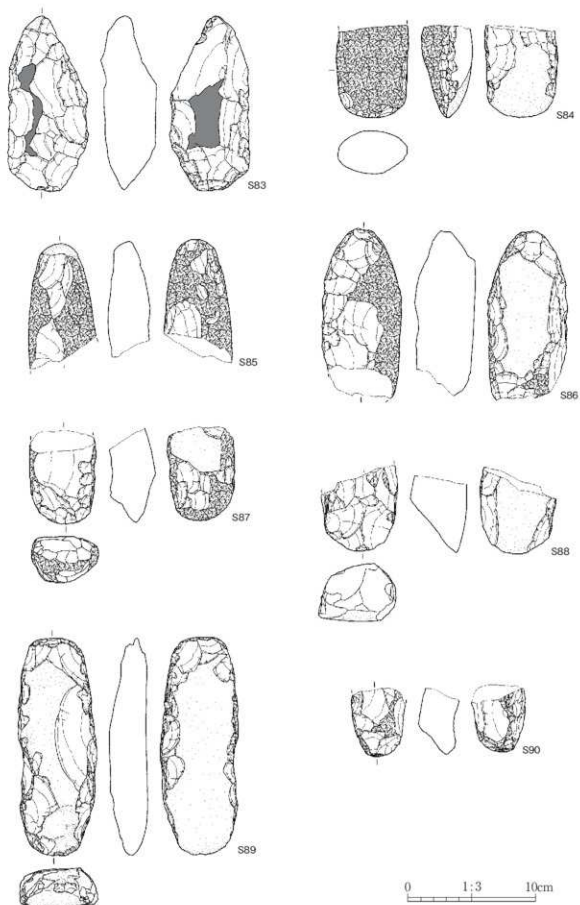
第104図 出土遺物(28)



第105図 出土遺物(29)



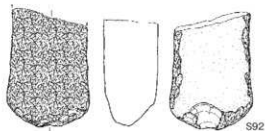
第106团 出土遺物(30)



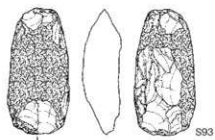
第107図 出土遺物(31)



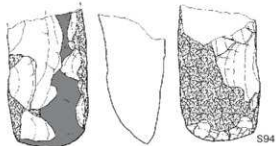
S91



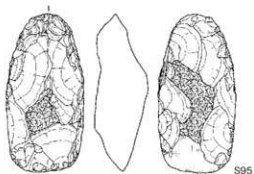
S92



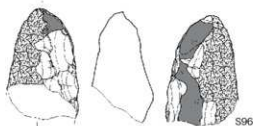
S93



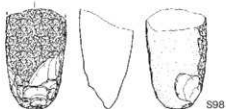
S94



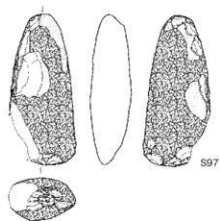
S95



S96

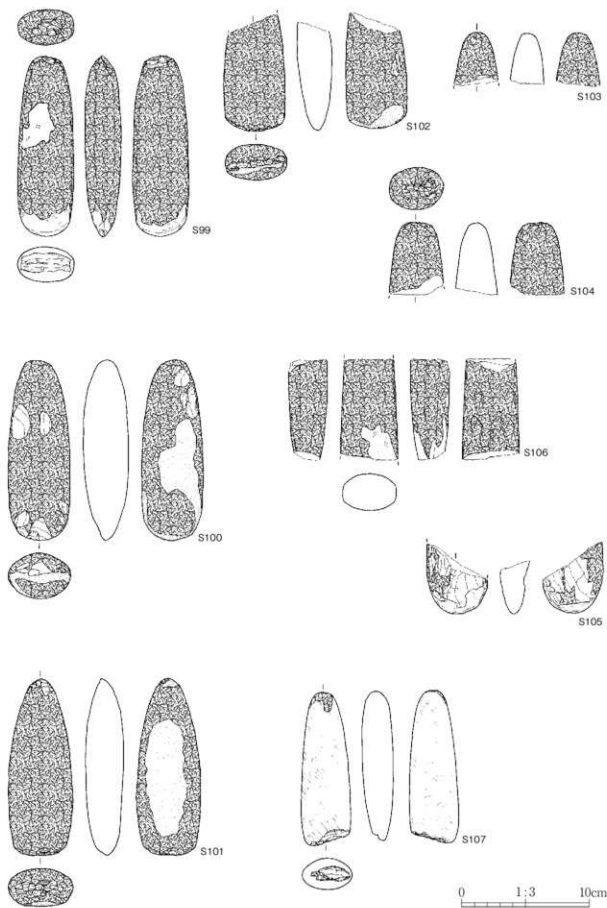


S98

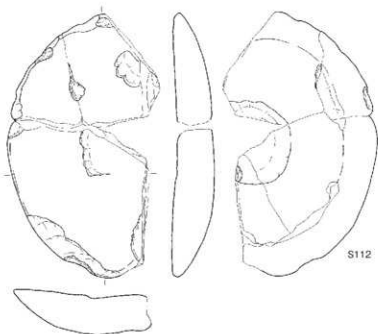
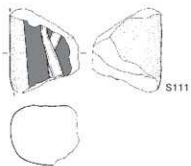
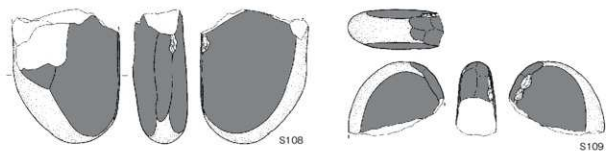


S97

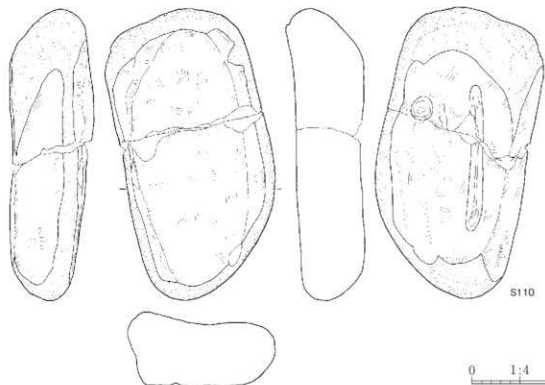
0 1:3 10cm



第109図 出土遺物(33)

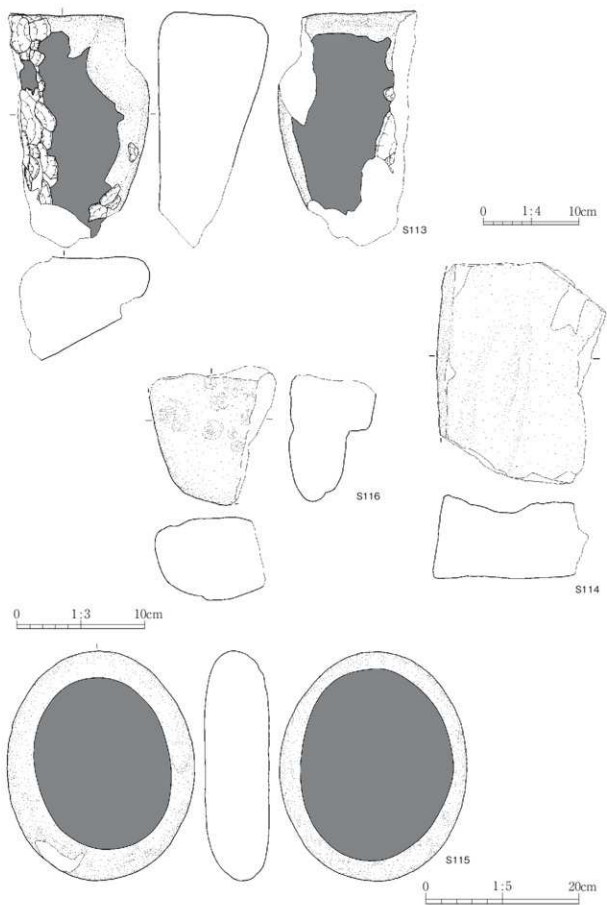


0 1:3 10cm

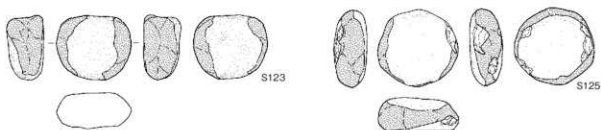
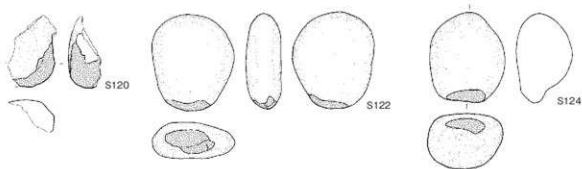
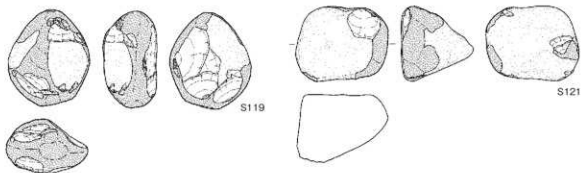
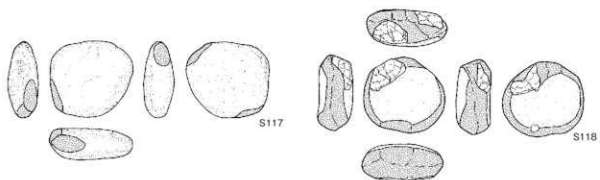


0 1:4 10cm

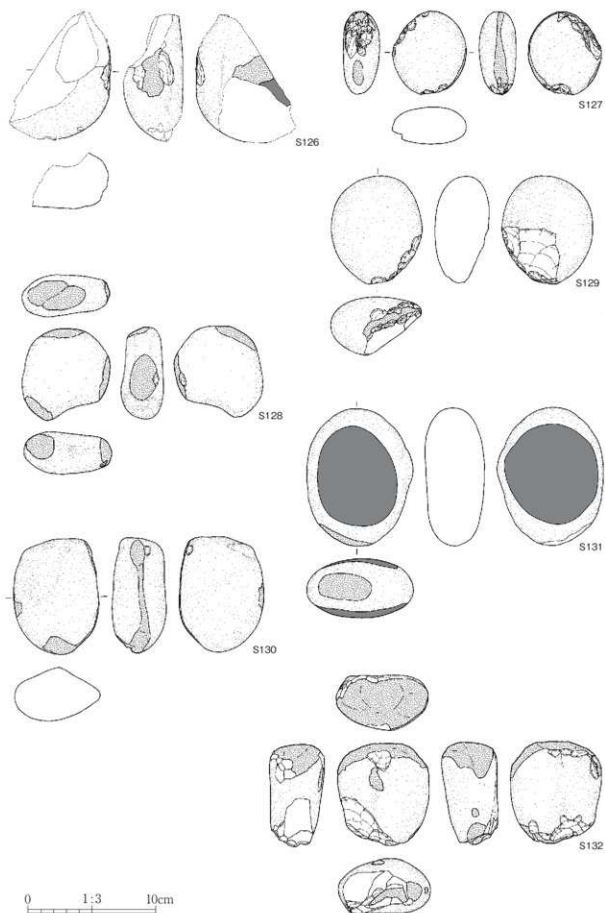
第110図 出土遺物(34)



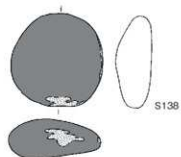
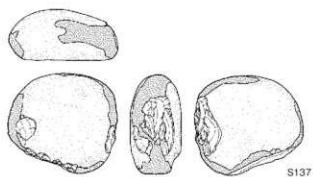
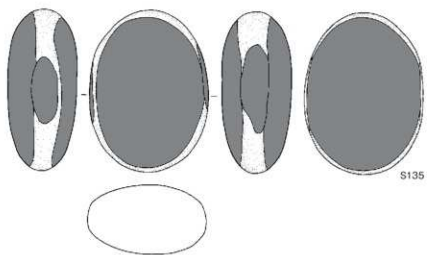
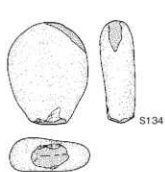
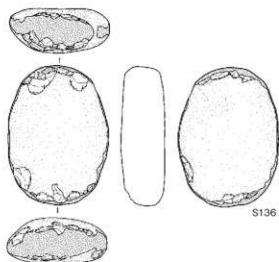
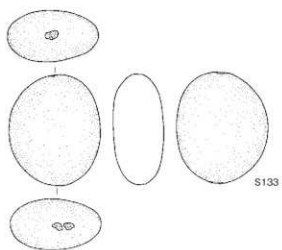
第111図 出土遺物(35)



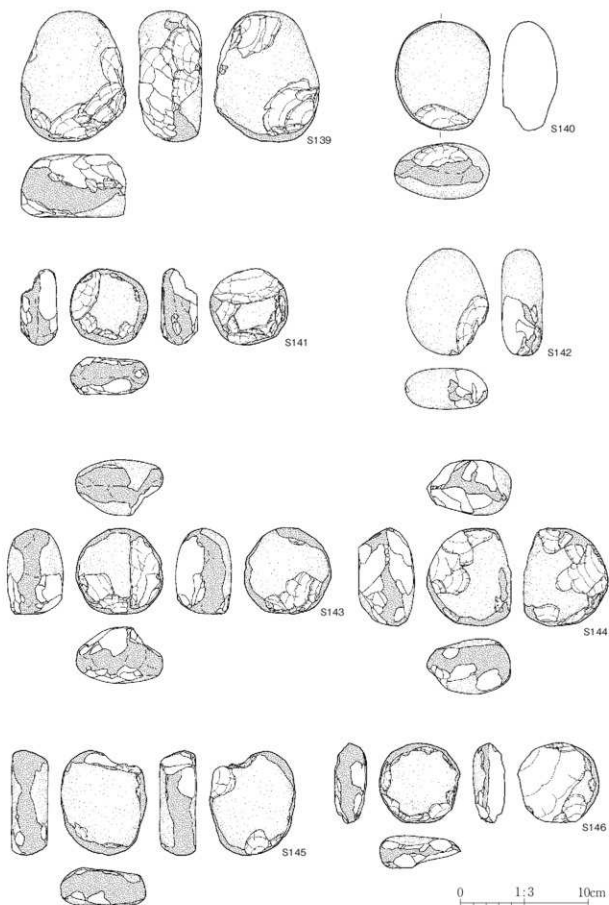
第112回 出土遺物(36)



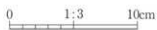
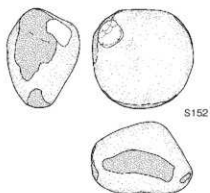
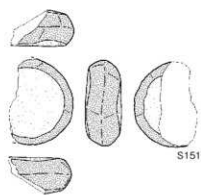
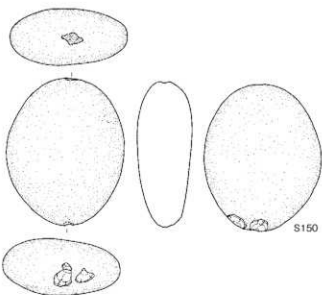
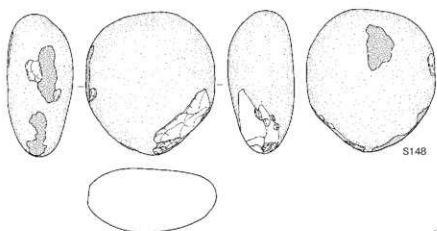
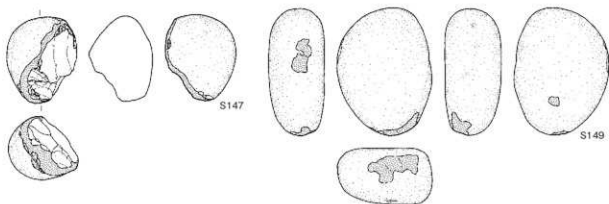
第113図 出土遺物(37)



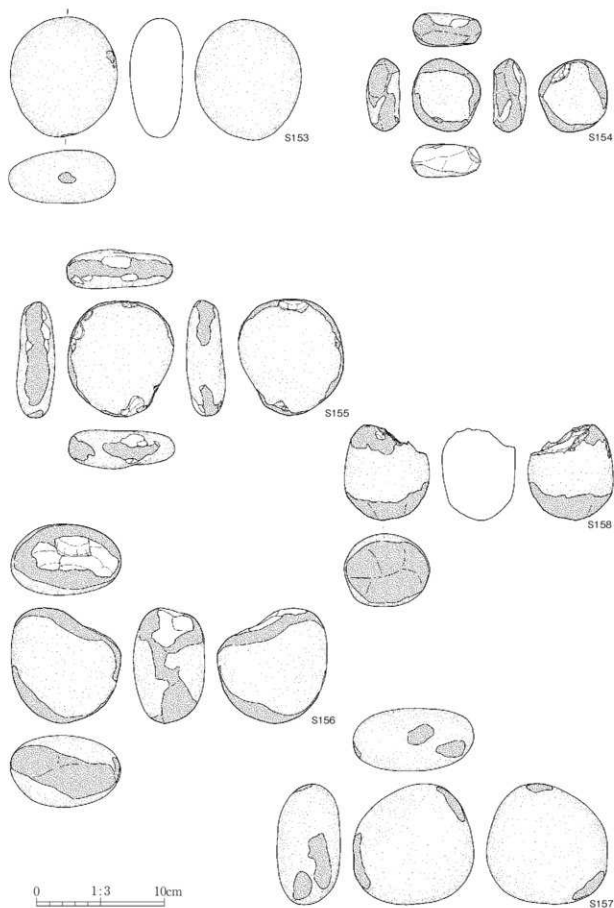
0 1:3 10cm



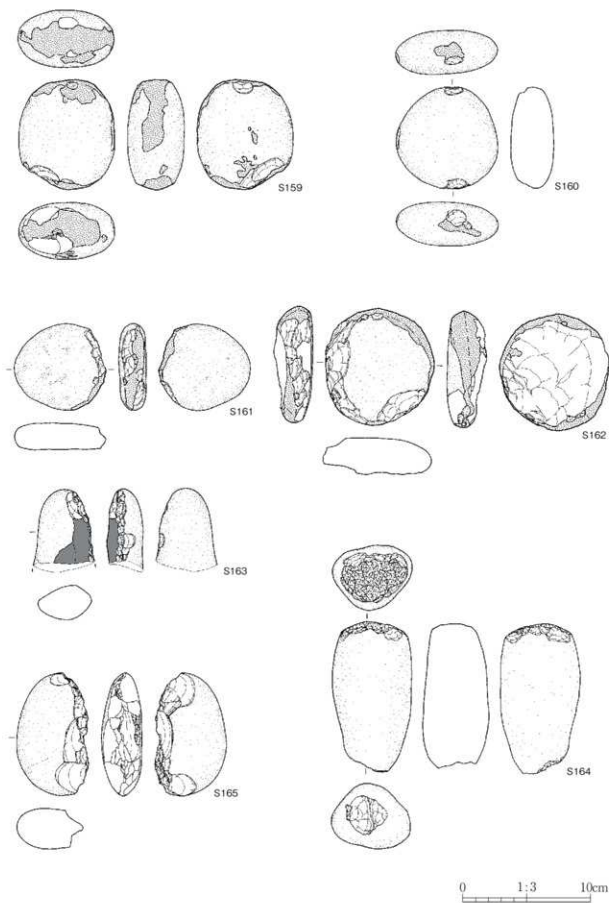
第115図 出土遺物(39)



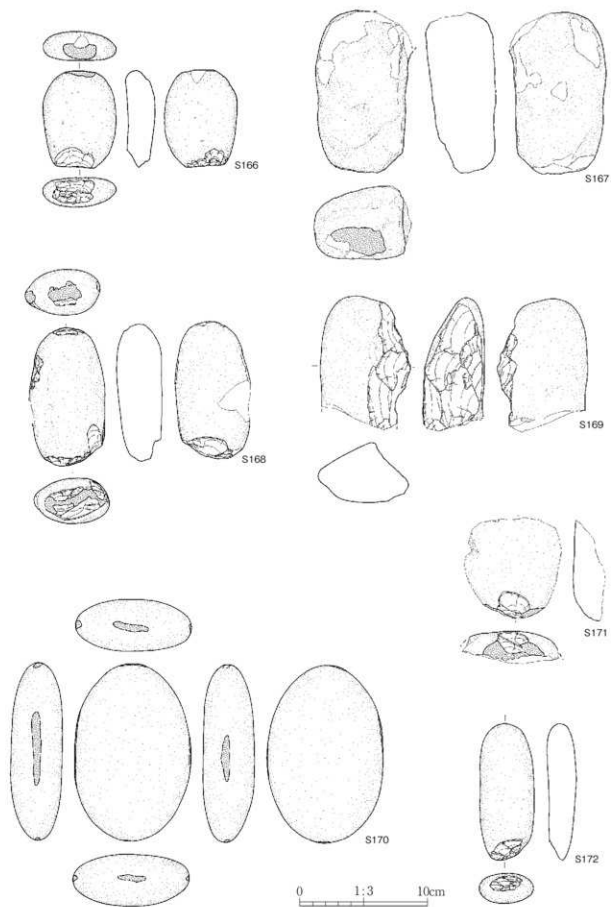
第116図 出土遺物(40)



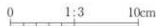
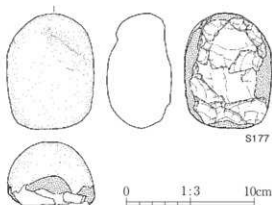
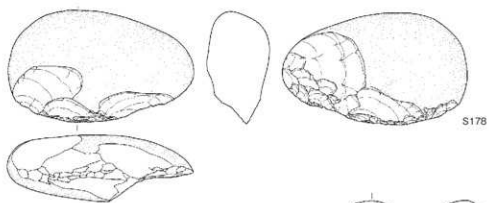
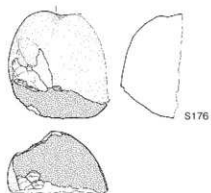
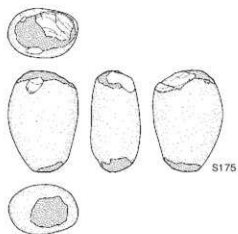
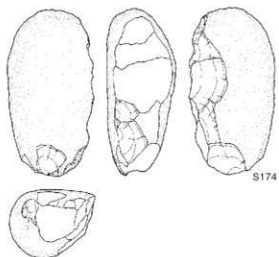
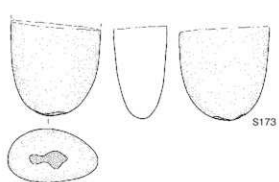
第117図 出土遺物(41)



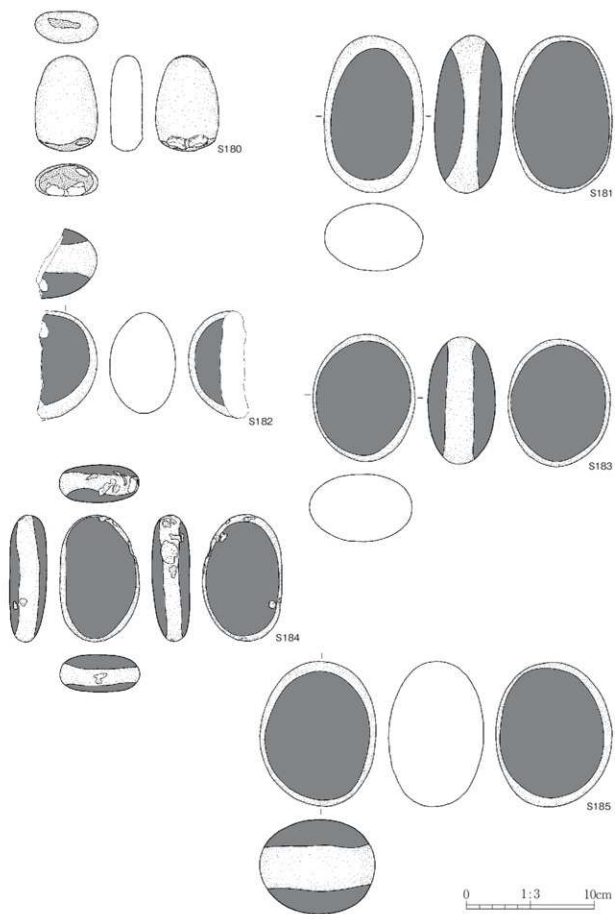
第118回 出土遺物(42)



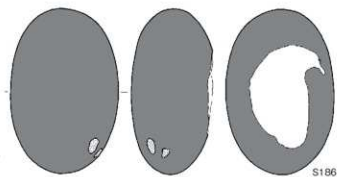
第119団 出土遺物(43)



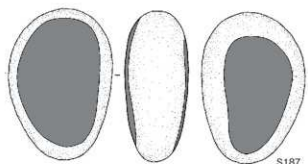
第120回 出土遺物(44)



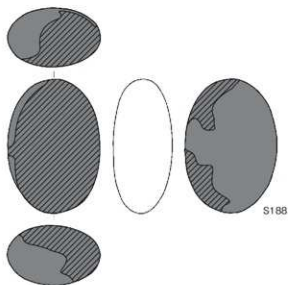
第121図 出土遺物(45)



S186



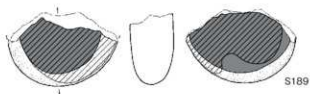
S187



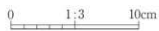
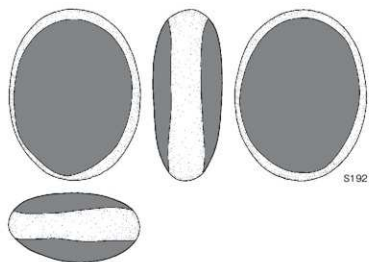
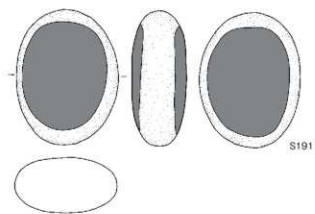
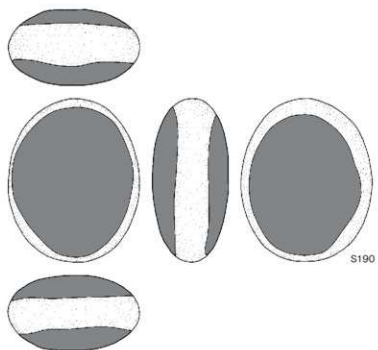
S188

 スス付蓋

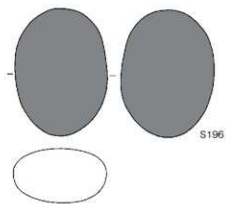
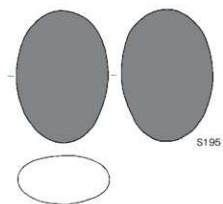
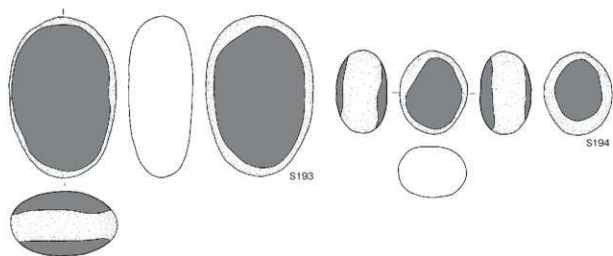
0 1:3 10cm



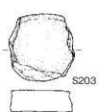
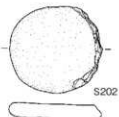
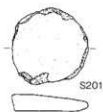
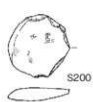
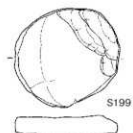
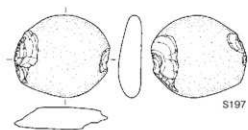
S189



第123回 出土遺物(47)

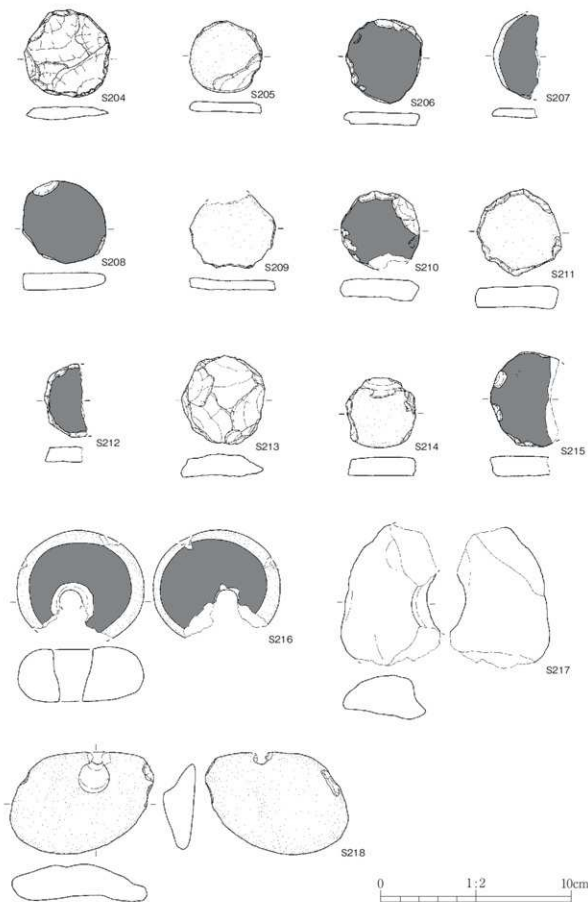


0 1:3 10cm

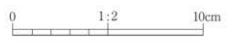
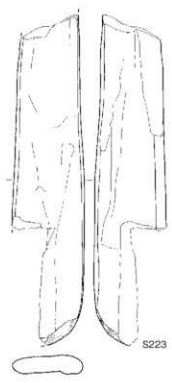
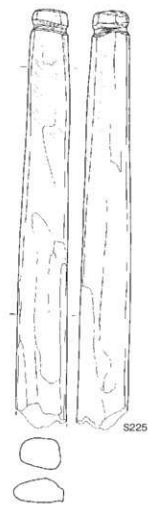
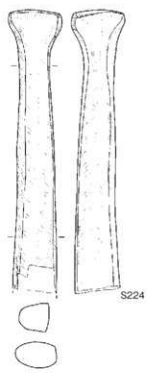
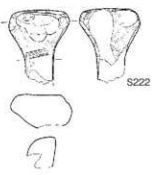
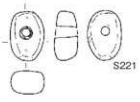


0 1:2 10cm

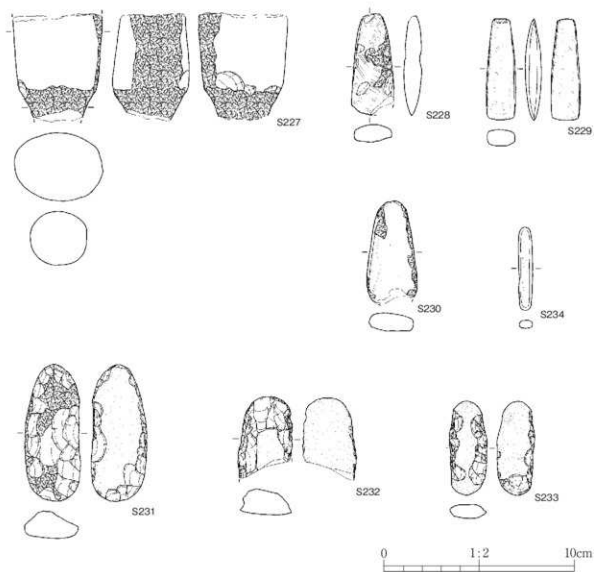
第124図 出土遺物(48)



第125図 出土遺物(49)



第126团 出土遺物(50)



第3表 土器観察表

No.	国産	写真	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	施文・器体	分類	時期
1	77	54	29号集石, I A12	深鉢	胴	貝殻線文		A	早期
2	77	54	46号集石 横出面	深鉢	口	波状口縁に沿う貝殻線文, 胴部は目紋		A	早期
3	77	54	I A11 樽形部-IV層	深鉢	胴	貝殻線文(縦に3条や斜交などランダムな施文)		A	早期
4	77	54	I A17p II層?	深鉢	口-胴	貝殻線文		A	早期
5	77	54	I A17p II層?	深鉢	胴?	貝殻線文		A	早期
6	77	54	I A19c III-IV層	深鉢	底	貝殻文(裏面)		A	早期
7	77	54	42号集石 横出面	深鉢	口	顔部付環文, 線文(底)	丸, B	前期	
8	77	54	I A5g 整地層2下層褐色土	深鉢	口	矢直, 線文, 人, 車輪線条体	丸, B, 丸, B	早期未～前期初	
9	77	54	6号集石 横出面	小型深鉢	口	単部→器体上部1条	L, R	C	中期未～後期初?
10	77	54	7号集石 横出面	小型深鉢	口	単部→器体上部2条	L, R	C	中期未～後期初?
11	77	54	7号集石 クラリーニング時	小型深鉢	口	口縁と胴部を区線で区画	無施文?	C	後期
12	77	54	7号集石	小型深鉢	口	小波状口縁, 平行波線	無施文?	C	後期末?
13	77	54	8号集石	小型深鉢	口	単部→器体上部1条	L, R?	C	中期未～後期初?
14	77	54	26号集石 クラリーニング時	付付鉢	胴-胴	胴部→連続する円形刺突2列	無施文?	C	中期未～後期初
15	77	54	28号集石 横出面	深鉢	胴	単部→連続する円形刺突2列	無施文?	C	中期未～後期初?
16	77	54	I A18 樽形部-IV層	深鉢	口	単部→口縁部の上側に器体上部1条	L, R	C	中期未～後期初?
17	77	54	I A12b トレンチ II層	深鉢	口-胴	顔部付環文(平行波線), 内外面アタフ	無施文?	C	中未～後期初
18	77	54	生文遺トレンチN o 9	深鉢	胴	胴部→口内面, 内外面アタフ	L, R	C	後期初頭
19	77	54	I A11 整地層2下層褐色土	深鉢	胴	胴部を狭い円形刺突列, 単部	L, R	I	後期初
20	77	54	I A13 層位不明	吊手土器	口	単部→環状文, 人, 文, 口縁上突起に上から刺突	L, R?	I	後期初～前期
21	77	54	I号石 埋土	深鉢	口	山口部, 環状文→波状口縁, 波線付ノコ線	L, R?	I	中未～後期初
22	77	54	I号石P2-ベルト内 埋土(65と同一)	深鉢	口	山口部, 環状文, 環状文, 環状文→環状文の円形刺突列	無施文?	I	中未～後期初
23	77	54	6号土坑 埋土(19と同一)	深鉢	口	山口部, 環状文, 環状文→環状文の円形刺突列	無施文?	I	中未～後期初
24	77	54	17号土坑 埋土	鉢	口	単部→平行波線, ボタン状突起に十字形刺突, 口縁上部に刺突	L, R	I	中未～後期初
25	77	54	34号土坑	鉢	口	山口部, 環状文, 環状文に単部→円形刺突, 口縁上部に刺突	L, R?	I	中未～後期初
26	77	54	29号集石 横出面	深鉢	口	前向き山口部, 刺突のあるボタン状突起, 波線付ノコ線, 内面アタフ	L, R?	I	中未～後期初
27	77	54	29号集石 横出面	深鉢	胴	顔部刺突, 環状文→ノコ線, 単部の円形刺突列, 内面アタフ	L, R + 丸, L	I	中未～後期初
28	77	54	52号集石	深鉢	口	胴部→単部(波線内縁部?)	L, R	I	中未～後期初
29	77	54	I A7	深鉢	口	波状口縁, 環状文→波線による方形刺突文(円形に環状文)	L, R	I	中未～後期初
30	78	54	I A8g 整地層2下層褐色土	深鉢	口	平行波線(文の間の突起波線), 内面ミダキ	L, R	I	後期初
31	78	54	I A11b II層	深鉢	口	口縁部(器体上部), 矢直, 波線の線取り	L, R	I	後期初?
32	78	54	I号土 埋土	深鉢	胴	S字状人, 環文	L, R	I	後期初～前期
33	78	54	I号土ベルト内 埋土	小型深鉢	口	小波状口縁, 単部→環状文	L, R	I	後期初
34	78	54	I号土ベルト内 埋土	深鉢	口	前向き山口部, 単部→環状文, ボタン状突起, 波線付ノコ線	L, R	I	後期初～前期
35	78	54	4号集石 横出面	大型壺	胴	環状文, 内外面アタフ多い	L, R	I	後期初～前期
36	78	54	19号集石下層土坑 埋土	鉢	胴	環状文, 内面アタフ	L, R	I	後期初～前期
37	78	54	20号集石下層土坑 埋土	深鉢	口-胴	山口部, 単部→人, 環文, 胴部刺突, 内面アタフ	L, R	I	後期初
38	78	54	26号集石 横出面	深鉢	口	波状口縁, 環状文による渦文	L, R	I	後期初
39	78	54	27号集石 横出面	深鉢	口	波状口縁, 環状文による渦文, 内面アタフ	L, R	I	後期初
40	78	54	42号集石下層土坑 埋土	深鉢	口	環状文と三角列(区画), ボタン状の円文, 内面ミダキ	L, R	I	後期初
41	78	54	I A4f 整地層2下層褐色土	深鉢	口	小波状口縁, 単部→口縁部に沿う波状文	L, R	I	後期初～前期
42	78	54	I A5g 整地層2下層褐色土	深鉢	口	波状口縁に沿う区画文, 内外面アタフ	L, R?	I	後期初～前期
43	78	54	I A10 整地層2下層褐色土	鉢	口-底	平行波線, 胴部中央に刺突, 波線に刺突	L, R	I	後期初
44	78	54	I A9b 褐色土上層	大型壺	胴	環状文による区画文, 内外面ミダキ	L, R	I	後期初
45	78	54	I A9g 整地層2下層褐色土	大型壺	口	環状文, 突起に上下左右から突起, 赤色顔料付文, ミダキ	L, R	I	後期初
46	78	54	2号集石 横出面	深鉢	口	S字状人, 環文, 内外面アタフ	?	II	中未～後期初～前期
47	78	55	I A9g 内帯石列付台	吊手土器	略定形	単部→人, 環文, 胴部2段に穿孔突起, 胴部下層ミダキ	丸	II	中未～後期初～前期
48	78	55	6号集石 横出面	深鉢	口	波線3条, 内外面アタフ多い	L, R	II	中未～後期初～前期
49	78	55	58号集石	小型深鉢	口	平行波線, 内外面ミダキ	L, R	II	中未～後期初～前期
50	78	55	59号集石 横出面	壺	胴	平行波線	L, R	II	中未～後期初～前期
51	78	55	I A8j I～II層	深鉢	口-胴	山口部, 環状文(内帯的?)による区画文	L, R	II	中未～後期初
52	78	55	I A9b 埋土トレンチ	深鉢	口	山口部, 環状文, 環状文に単部刺突, ボタン状	L, R	II	中未～後期初～前期
53	78	55	I A11b III-IV層	鉢	口	環状文, 突起に上から刺突, 人, 環文	L, R	II	後期初～前期
54	79	55	I号土 前期クラリーニング時	深鉢	胴	環状文, 環状文に単部, 方形区画文	L, R	II	中未～後期初～前期
55	79	55	I号土 前期埋土	深鉢	胴	単部→方形区画文?	L, R	II	後期初～前期
56	79	55	I号土 前期埋土	小型深鉢	口	波線付ノコ線による人, 環文	無施文?	II	後期初～前期
57	79	55	18号土坑 埋土	鉢	口	単部→連続する人, 環文	無施文?	II	後期初～前期
58	79	55	24号土坑 埋土(中位)	壺	胴	平行波線(三角文), 内面ミダキ	L, R	II	後期初～前期
59	79	55	24号土坑	深鉢	口	山口部, 単部→平行波線, 環状文, 内面ミダキ	L, R	II	後期初～前期
60	79	55	25号土坑 埋土	深鉢	口	単部→波線による区画文	L, R	II	後期初～前期
61	79	55	24号土坑	深鉢	胴	人, 環文	L, R	II	後期初～前期
62	79	55	25号土坑	深鉢	口	単部, 口縁部の無文帯と一部方形区画文?	L, R	II	後期初～前期
63	79	55	4号集石 クラリーニング時	深鉢	口-胴	単部→方形区画文	L, R?	II	後期初～前期
64	79	55	4号集石 横出面	深鉢	口	無施文→平行波線, 環状文(横)	無施文?	II	後期初～前期
65	79	55	4号集石 横出面	深鉢	口	無施文→三角文→環状文	無施文?	II	後期初～前期
66	79	55	4号集石下層土坑 埋土, I A91b少	小型深鉢	口-胴	口縁部4段, 人, 環文	L, R	II	後期初～前期
67	79	55	5号集石	深鉢	口	平行波線, 内面ミダキ	L, R	II	後期初～前期
68	79	55	6号集石 横出面	鉢	口	単部→区画文	L, R	II	後期初～前期
69	79	55	7号集石 横出面	吊手土器	口	上下方向の穿孔突起, 波線付ノコ線	無施文?	II	後期初～前期
70	79	55	7号集石 横出面	深鉢	胴	人, 環文, 内面アタフ	L, R	II	後期初～前期
71	79	55	7号集石 横出面(クラリーニング時)	深鉢	口-胴	波状口縁, 環状文, 内面アタフ	L, R	II	後期初～前期
72	79	55	7号集石, I A9b, III-IV層ほか	深鉢	口-胴	車輪線条体, 内面アタフ, 口縁部に環状文	無施文?	II	後期初～前期
73	79	55	8号集石 横出面	深鉢	口	環状文(内帯的), 内面ミダキ	L, R?	II	後期初～前期

No.	図号	写真	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	施文・施体	分類	時期
74	79	55	8号集石下塚土坑	漆土	胴	単部→区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
75	79	55	9号集石 横出面	漆土	胴	単部→区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
76	79	55	12号集石下塚土坑	漆土	胴	単部→区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
77	79	55	13号集石 横出面	漆土	口	単部→区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
78	79	55	16号集石 横出面	漆土	口	山形口縁(上半部分に突起)、単部→三角文	L.区	Ⅲ	後期前→前
79	79	55	18号集石	漆土	口	平行沈線	L.区	Ⅲ	後期前→前
79	79	55	18号集石	漆土	胴	人型文、内面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
80	79	55	19号集石 クラマーニング跡	漆土	胴	単部→人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
81	79	55	20号集石 横出面	漆土	口	単部→隆沈線、隆線上に単部、口縁から垂下する突起	L.区	Ⅲ	後期前→前
82	79	55	20号集石 横出面	小型漆器	胴	単部→人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
83	79	55	20号集石 横出面	小型漆器	胴	無部?→人型文	無施文	Ⅲ	後期前→前
84	79	55	20号集石 横出面	漆土	底	隆沈線による方形区画、内外面アバテ	L.区	Ⅲ	後期前→前
85	79	55	20号集石下塚土坑	漆土	口	波状口縁、山形突起、単部→口縁に沿う平行沈線	R.L.?	Ⅲ	後期前→前
86	80	55	24号集石	漆土	口	山形口縁とそれに沿う平行沈線、単部→人型文	L.R.?	Ⅲ	後期前→前
87	80	55	24号集石 横出面	漆土	胴	単部→二溝文	L.区	Ⅲ	後期前→前
88	80	55	24号集石 横出面	漆土	胴	巴状人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
89	80	55	24号集石下塚土坑	漆土	胴	単部→人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
90	80	55	24号集石下塚土坑	漆土	胴	単部→人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
91	80	55	25号集石 横出面	漆土	胴	単部→三角文	L.区	Ⅲ	後期前→前
92	80	55	26号集石 横出面	漆土	口	単部→平行沈線(区画文)	L.区	Ⅲ	後期前→前
93	80	55	26号集石 横出面	漆土	口	波状口縁、単部→連続人型文	R.L.?	Ⅲ	後期前→前
94	80	56	27号集石 横出面	小型漆器	胴	隆沈線と方形区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
95	80	56	29号集石 横出面	漆土	胴	風状人型文、赤色顔料付着	L.区	Ⅲ	後期前→前
96	80	56	30号集石	漆土	口	山形口縁、単部→巴状人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
97	80	56	40号集石	漆土	口	単部→山形突起、隆沈線、帯部	L.区	Ⅲ	後期前→前
98	80	56	41号集石 横出面	漆土	口	小波状口縁、口縁上に沈線、単部→平行沈線	L.区	Ⅲ	後期前→前
99	80	56	42号集石 横出面	漆土	胴	単部→隆沈線による渦文	L.区	Ⅲ	後期前→前
100	80	56	43号集石	漆土	胴	隆沈線	L.区	Ⅲ	後期前→前
101	80	56	45号集石 横出面	漆土	口	無部→沈線と突起、突起部口縁上から斜突	無施文	Ⅲ	後期前→前
102	80	56	47号集石 横出面	漆土	胴	単部→方形区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
103	80	56	53号集石 横出面	漆土	口	隆沈線、隆線上に単部	R.L.?	Ⅲ	後期前→前
104	80	56	53号集石 横出面	漆土	胴	無部→隆沈線、方形区画文	無施文	Ⅲ	後期前→前
105	80	56	55号集石 横出面	漆土	胴	単部→人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
106	80	56	56号集石	漆土	胴	単部→方形区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
107	80	56	58号集石 横出面(土坑)	小型漆器	口→胴	隆沈線による区画文、内面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
108	80	56	59号集石下塚土坑	漆土	口	山形口縁、単部→隆沈線、隆線上に単部	L.区	Ⅲ	後期前→前
109	80	56	内帯17 整地層2下層褐色土→I層	漆土	底	口→底 隆沈線の隆線上に方形区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
110	80	56	2号集石	漆土	口	三角区画文、内外面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
111	81	56	10号内帯埋没、1A27整地層2内1ほか	漆土	口→底	巴状人型文、内面アバテ	L.区	Ⅲ	後期前→前
112	81	56	1A3e Ⅱ層	小型漆器	口	平行沈線の交差部分に突起、外面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
113	81	56	1A3e Ⅱ層	切取窓	口→胴	巴状人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
114	81	56	1A4e-5e	吊手土器	胴	巴状人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
115	81	56	1A4e-5e	漆土	口	波状口縁、単部→平行沈線、區画区画文?、内面アバテ	R.L.	Ⅲ	後期前→前
116	81	56	1A4e-5e	漆土	口	単部→沈線による区画文	R.L.	Ⅲ	後期前→前
117	81	57	1A4e-5e(土坑) Ⅱ→Ⅲ層上面	漆土	口	波状口縁、帯部(平行沈線)、内面アバテ	R.L.	Ⅲ	後期前→前
118	81	57	1A5e Ⅱ層相馬土面→整地層中	漆土	口→底	平行沈線による区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
119	81	57	1A5e 整地層2下層褐色土	漆土	胴	無部→波状人型文?	無施文	Ⅲ	後期前→前
120	81	57	1A5e 整地層2下層褐色土	小型漆器	口	山形突起、波状口縁、無部→口縁に沿う平行沈線	無施文	Ⅲ	後期前→前
121	81	57	1A5e 整地層2下層褐色土	漆土	底	隆沈線による方形区画文、内外面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
122	81	57	1A6e 整地層2下層褐色土	漆土	口	山形突起、単部→それに沿う沈線	L.区	Ⅲ	後期前→前
123	82	57	1A6e 整地層2下層褐色土	漆土	口	波状口縁、巴状人型文、内面アバテ	L.区	Ⅲ	後期前→前
124	82	57	1A6e-7e 整地層2下層褐色土上1ほか	吊手土器	口→底	内帯5号方形区画文、内面アバテ、口縁部突起と胴部7平部に尖突突起	L.区	Ⅲ	後期前→前
125	82	57	1A7e 整地層2中	漆土	口	隆沈線による区画文、内面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
126	82	57	1A7e 整地層2下層褐色土	小型漆器	胴	隆沈線による区画文、内面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
127	82	57	1A7e 整地層2下層褐色土	漆土	口	単部→平行沈線、波状人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
128	82	57	1A8e 整地層2下層褐色土	漆土	口	隆沈線による区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
129	82	57	1A8e 内帯外側 整地層2内1ほか	漆土	口	小波状口縁、口縁上に尖突、隆沈線による区画文	L.区	Ⅲ	後期前→前
130	82	57	1A8e 整地層2下層褐色土	漆土	口	波状口縁に沿う区画文	R.L.	Ⅲ	後期前→前
131	82	57	1A9e 内帯内側整地層2下層褐色土	吊手土器	口→胴	突起した下から穿孔、単部→方形文、隆線上に単部隆文	R.L.	Ⅲ	後期前→前
132	82	57	1A9e 整地土2下層褐色土ほか	吊手土器	口	連続する人型文、突起した下から穿孔	L.区	Ⅲ	後期前→前
133	82	57	1A9e 横帯面→Ⅱ層	漆土	口	単部→平行沈線、隆沈線無文、内面アバテ	L.区	Ⅲ	後期前→前
134	82	57	1A9e 南北14' 整地層1-2内	漆土	口	小波状口縁、隆沈線による区画、隆線上に単部隆文	L.区	Ⅲ	後期前→前
135	82	57	1A9e 整地層2内	漆土	口	山形口縁、二溝文	無施文	Ⅲ	後期前→前
136	82	57	1A10e-10h 整地層内	大型漆器	胴	巴状人型文・6溝と同一?	L.区	Ⅲ	後期前→前
137	82	57	1A10e 南北13' 整地層2下	漆土	底	隆沈線、人型文突起	L.区	Ⅲ	後期前→前
138	82	57	1A10e 横帯面→Ⅱ層	漆土	底	隆沈線、隆線上に単部?	L.R.?	Ⅲ	後期前→前
139	82	57	1A10e 横帯面→Ⅱ層	漆土	口	隆沈線、隆線上に単部、内外面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
140	82	57	1A10e 整地層2内	漆土	口	山形口縁と沿う隆沈線、隆線上に単部、内外面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
141	82	57	1A10e Ⅱ層? 土部片集中箇所	漆土	口→底	巴状人型文、縦向き隆沈線、隆線上に単部、内面アバテ	L.区	Ⅲ	後期前→前
142	82	58	1A11e 整地層2下層褐色土	漆土	口	山形口縁、隆沈線、隆線上に単部、人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
143	82	58	1A11e 横帯面→Ⅱ層	小型漆器	口→胴	隆沈線による巴状人型文、内外面ミギキ	L.区	Ⅲ	後期前→前
144	83	58	1A11m Ⅱ→Ⅲ層	漆土	口	突起付山形口縁、無部→平行沈線、内面アバテ	L.区	Ⅲ	後期前→前
145	83	58	1A11m Ⅱ層	漆土	口	単部→平行沈線、隆線上に単部、内面アバテ	L.区	Ⅲ	後期前→前
146	83	58	1A12e 横帯面→Ⅱ層	漆土	口	単部→平行沈線、隆沈線、人型文	L.区	Ⅲ	後期前→前
147	83	58	1A13e Ⅱ層	漆土	口	山形口縁、単部→突起、平行沈線(隆沈線)を有	R.L.	Ⅲ	後期前→前
148	83	58	1A14e-5e号集石坑	漆土	口	区画文(連続的に突起)	L.区	Ⅲ	後期前→前

No.	国史	写本	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	地文・地体	分類	時期
149	83	58	1A16 帯状不明	漆器	口	山相口縁、単節→平行沈線(流沢人組文)	L.7	器	後期前
150	83	58	1A16	漆器	胴	三角区画文、内面アバタ	無地シ	器	後期前
151	83	58	1A151-161 壺類下	漆器	口	山相口縁、流沢区画	無地シ	器	後期前
152	83	58	4号住付巻 壺類前カリーニング時	漆器	口→胴	流沢文	器	器	後期前
153	83	58	40号集石 横出面	小型漆器	胴→底	流沢区画文	器	器	後期前
154	83	58	49号集石 横出面	漆器	口	山相口縁、無節→口縁に沿う平行沈線	無地シ	器	後期前
155	83	58	1A89 曲帯河石内 惣地帯2	器	肩	流沢文の方形区画文	器	器	後期前
156	83	58	1A90 壺石横出面	器	口	山相口縁、人組文、突起に上下方向穿孔	器	器	後期前
157	83	58	1A19	漆器	口	単節→平行沈線(人組文)	L.7?	器	後期前
158	83	58	1A186 壺類	漆器	口	単節→平行沈線(方形区画文)	L.7	器	後期前
159	83	58	1号住 東側埋土	漆器	胴	単節→方形区画文	L.7	器	後期前
160	83	58	1号住 西側埋土	小型漆器	胴	流沢で連結する人組文	器	器	後期前
161	83	58	1号住 西側埋土	器	肩	平行沈線、流沢文?	器	器	後期前
162	83	58	1号住 西側埋土	小型漆器	口	無節→方形区画文	無地シ	器	後期前
163	83	58	1号住 西側埋土	漆器	胴	単節→方形区画文	L.7	器	後期前
164	83	58	3号住 埋土下部、191,4号住	器	口→底	2条の沈線による三角文	器	器	後期前
165	83	58	3号住 埋土下部	漆器	胴	流沢、流沢の連結	器	器	後期前
166	83	58	5号住191	漆器	胴	平行沈線、外面赤色顔料付着?	器	器	後期前
167	83	58	5号住遺構上内 惣地帯2内	漆器	胴	流沢文?	器	器	後期前
168	83	58	17号土坑 埋土	小型漆器	胴	曲線文	器	器	後期前
169	83	58	22号土坑 埋土下位	漆	口	平行沈線	器	器	後期
170	83	58	26号土坑	漆	口	平行沈線	器	器	後期
171	83	58	26号土坑	漆器	口	山相口縁に沿う沈線	器	器	後期
172	83	58	34号土坑	小型漆器	口	平行沈線区画、外面側に浅い突起	器	器	後期前
173	83	58	1号集石 横出面	漆器	胴	人組文、内面アバタ	L.7	器	後期前
174	83	58	2号集石 横出面	小型漆器	口	平行沈線	L.7	器	後期前
175	83	58	3号集石 横出面	漆器	口	区画文	L.7	器	後期前
176	83	58	3号集石 横出面	小型漆器	口	平行沈線	器	器	後期前
177	83	58	3号集石 横出面	漆器	胴	区画文	L.7	器	後期前
178	83	58	3号集石	漆器	胴	人組文	L.7	器	後期前
179	83	58	4号集石	漆	胴	流沢文による区画文、内面アバタ	器	器	後期前
180	83	58	4号集石 横出面	漆	口	平行沈線、方形区画文、内外面アバタ	器	器	後期前
181	83	58	4号集石 下部土坑 埋土	漆器	口	流沢口縁、単節→平行沈線	L.7	器	後期前
182	83	58	5号集石	小型漆器	口	平行沈線	器	器	後期前
183	83	58	5号集石 横出面	小型漆器	口	平行沈線、人組文?	器	器	後期前
184	83	58	5号集石 横出面	漆器	胴	流沢区画、内外面アバタ多い	器	器	後期前
185	83	58	5号集石 クリーニング時	器?	胴	人組曲線文	器	器	後期前
186	83	58	6号集石下部土坑	漆器	胴	曲線文	器	器	後期前
187	83	58	7号集石 横出面	器	口	上下方向の穿孔突起、流沢	器	器	後期前
188	83	58	8号集石下部土坑 埋土	漆	胴	平行沈線、人組文	器	器	後期前
189	83	58	8号集石下部土坑 埋土	漆器	胴	人組文	器	器	後期前
190	84	59	9号集石 横出面	漆器	口	単節→平行沈線	無地シ	器	後期前
191	84	59	9号集石 横出面	漆	胴	平行沈線	器	器	後期前
192	84	59	9号集石	漆	胴	三角文	器	器	後期前
193	84	59	9号集石	漆器	口	小突起、単節→平行沈線	L.7	器	後期前
194	84	59	10号集石下部土坑 埋土	漆	口	流沢沈線、内外面ミダキ	器	器	後期前
195	84	59	11号集石	小型漆器	口	平行沈線3条	器	器	後期
196	84	59	13号集石 クリーニング時	漆器	口	平行沈線、人組文	器	器	後期前
197	84	59	18号集石、1A10 横帯面一壺類	漆	口	流沢口縁、無節→平行沈線、人組文?	無地シ	器	後期前
198	84	59	20号集石 横出面	漆	口	小突起口縁、平行沈線3条	器	器	後期前
199	84	59	20号集石 横出面	器	口(下→肩)	平行する流沢沈線、人組文、内外面ミダキ、動土痕跡	器	器	後期前
200	84	59	20号集石 横出面	漆器	胴	流沢3条(人組文)	器	器	後期前
201	84	59	20号集石 中壺	小型漆器	口	口縁に沿う沈線、ペンダツ付着	内凹置	器	後期前
202	84	59	20号集石 横出面	器	肩	横状把手の内面に流沢2条	器	器	後期前
203	84	59	22号集石 横出面	漆器	口	流沢口縁、単節?→肩に沿う沈線	器	器	後期前
204	84	59	22号集石 横出面	小型漆器	胴	連続する人組文、流沢文	器	器	後期前
205	84	59	25号集石 横出面(北側)	漆器	胴	流沢区画文	器	器	後期前
206	84	59	27号集石下部土坑 埋土	器	口→肩	平行沈線、内外面ミダキ	L.7	器	後期前
207	84	59	31-33号集石	小型漆器	口→胴	単節→口縁部部部部	L.7	器	後期前
208	84	59	31号集石	漆器	胴	流沢区画文	器	器	後期前
209	84	59	26号集石	漆器	口	平行沈線による区画文	器	器	後期前
210	84	59	40号集石下部土坑 埋土	漆	胴	単節→平行沈線	L.7	器	後期前
211	84	59	41号集石 横出面	器	口	単節→平行沈線、上下方向に穿孔のある突起	L.7	器	後期前
212	84	59	41号集石 上壺	小型漆器	口	平行沈線3条、ペンダツ付着	内凹置	器	後期前
213	84	59	42号集石 横出面	漆器	胴	単節→流沢区画文	L.7	器	後期前
214	84	59	44号集石 横出面	漆器	口	山相口縁、無節→口縁に沿う平行沈線	L.7	器	後期前
215	84	59	44号集石下部土坑 埋土	小型漆器	口	平行沈線	L.7	器	後期前
216	84	59	47号集石 横出面	漆器	口	単節→平行沈線	L.7	器	後期前
217	84	59	49号集石 横出面	漆	口	平行沈線、内面アバタ	器	器	後期前
218	84	59	49号集石 横出面	漆器	胴	平行沈線、内外面アバタ	?	器	後期前
219	84	59	50号集石 横出面	小型漆器	口	平行沈線、内外面ミダキ	器	器	後期前
220	84	59	50号集石 横出面	漆器	胴	流沢沈線、帯帯上に単節、内面アバタ	器	器	後期前
221	84	59	50号集石 横出面	漆器	胴	単節→平行沈線	L.7	器	後期
222	84	59	52号集石 横出面	漆	胴	流沢沈線、帯帯上に単節	L.7?	器	後期前
223	84	59	53号集石 横出面	漆器	胴	単節→人組文	L.7	器	後期前

No.	国史	写号	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	施文・施体	分類	時期	
221	84	59	50号集石 横出面	深鉢	側	単節→弧状区画文	L, R?	器小古	後期前→前	
225	84	59	56号集石 横出面	深鉢	側	無節→平行沈線	無	器小古	後期前→前	
226	84	59	56号集石 横出面	深鉢	側	無節→方型区画文	無節L?	器小古	後期前→前	
227	84	59	56号集石 横出面	深鉢	口	山形口縁上1/3程度, 単節→L字の平行沈線	L, R?	器小古	後期前→前	
228	84	59	56号集石 横出面	深鉢	側	単節→人組文, 外面ペンダラ付着	L, R?	器小古	後期前→前	
229	84	59	59号集石下部土塊 埋土	深鉢	側	単節→平行沈線3条	L, R?	器小古	後期前→前	
230	84	59	内筒口 整地層2下層褐色土→IV層	鉢	口	平行沈線, 内面アタテ	L, R?	器小古	後期前→前	
231	84	59	1号土層	深鉢	口	平行沈線	無	器小古	後期	
232	84	59	1号土層	深鉢	側	口	平行沈線	無	器小古	後期
233	84	59	19号土層	深鉢	側	人組文	L, R?	器小古	後期前→前?	
234	84	59	IVc2 埋土	深鉢	側	人組文	L, R?	器小古	後期前→前?	
235	84	59	4号底 底面付着	柳付土器	器中部	貫通孔	無	器小古	後期	
236	84	59	6号底 埋土	深鉢	側	区画文	L, R?	器小古	後期前→前	
237	84	59	6号底 埋土	深鉢	口	平行沈線	R, L	器小古	後期	
238	84	59	6号底 埋土	深鉢	側	弧状文	無	器小古	後期前→前	
239	84	59	11号底 埋土上位	深鉢	側	平行沈線	R, L?	器小古	後期前→前	
240	84	59	IA3e 皿層	器	側	平行沈線, 外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
241	84	59	IA3e前面部 皿層柳付	深鉢	口	単節→弧状区画文	無	器小古	後期前→前	
242	84	59	IA3E 1号焼土層位 部位不明?	鉢	口	波状口縁, 平行沈線, 内面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
243	84	59	IA3E 1号焼土層位 部位不明?	小型鉢	側	平行沈線による人組文, ニコチニア?	無	器小古	後期前→前	
244	84	59	IA3E 1号焼土層位 部位不明?	小型鉢	側	弧状文?内外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
245	84	59	IA4f 皿層柳付上面	小型鉢	口	波状区画(二角文?)	無	器小古	後期前→前	
246	84	59	IA4f 整地層2下層褐色土	深鉢	口	波状区画(平行沈線区画)	R, L	器小古	後期前→前	
247	84	59	IA4f 整地層2下層褐色土	鉢	口	単節→平行沈線(区画文)	L, R?	器小古	後期前→前	
248	84	59	IA6a 整地層2下層褐色土	鉢	口	口縁上部に凹形刺突, 沈線による溝巻文	無	器小古	後期前→前	
249	84	59	IA5E 整地層中	器	側	方型区画文?	無	器小古	後期前→前	
250	84	59	IA5E 整地層2下層褐色土	器	口	平行沈線, 弧状文?, 内面アタテ, 内外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
251	84	59	IA5E 整地層2下層褐色土	小型鉢	側	弧状文, 内外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前→前	
252	84	59	IA7f 整地層2下層褐色土下層	小型鉢	側→底	無文, 外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前→前	
253	84	59	IA7f 皿→IV層	深鉢	口	単節→波状区画文?, 内面アタテ	R, L	器小古	後期前→前	
254	84	59	IA7E 部位不明	深鉢	口	溝巻文	無	器小古	後期前→前	
255	84	59	IA7E 整地層2下層褐色土	深鉢	側	人組文(波状?)	L, R?	器小古	後期前→前	
256	84	59	IA8E 整地層2下層褐色土	鉢	側	単節→凹形刺突のある突起, 波状線, 内外面ペンダラ付着	L, R?	器小古	後期前→前	
257	84	59	IA8E-9a 整地層2下層褐色土ほか	深鉢	口→側	方型区画文	L, R?	器小古	後期前→前	
258	84	59	IA8E 整地層2下層褐色土	小型鉢	口	平行沈線, 内外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
259	84	59	IA9f 溝巻面→IV層	器	口	波状線, 人組文, 内外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前→前	
260	84	59	IA10e 内面 整地層2下層褐色土→IV層	深鉢	口	単節→平行沈線(区画文・弧状文?), 内面ミダキ	L, R?	器小古	後期前→前	
261	84	59	IA10e 内面 整地層2下層褐色土→IV層	器(手土器)	側	単節→方型区画文, 上下方内の穿孔突起	L, R?	器小古	後期前→前	
262	84	59	IA10E 溝巻面→IV層ほか	器	口	平行沈線, 内外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
263	84	59	IA10E 1号皿層	深鉢	口	単節→平行沈線, 区画文, 内外面ミダキ	R, L	器小古	後期前→前	
264	84	59	IA10E 溝巻面→IV層	深鉢	口	山形口縁と沿う波状線, 隆帯上に単節	L, R?	器小古	後期前→前	
265	84	59	IA10E 溝巻面→IV層	器	口	小波状口縁, 平行沈線3条, 内外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
266	84	59	IA10E 溝巻面→IV層	深鉢	口	縦い波状口縁, 単節→人組文, 隆帯上に無節刺突	無節L	器小古	後期前→前	
267	84	59	IA12E 皿層	深鉢	口	波状線, 単純刺突体(一辺斜削), 内外面アタテ	無	器小古	後期	
268	84	59	IA12E 皿層	鉢	側	単節→人組文(波状?)	L, R?	器小古	後期前→前	
269	84	59	IA12E 皿層	器	口	平行沈線3条, 内外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
270	84	59	IA12E 皿層	器(手土器)	側	穿孔突起, 平行沈線3条, 外面ペンダラ付着, 内外面ミダキ	無	器小古	後期前→前	
271	84	59	6号集石 クラリーニング時	深鉢	口	波状線, 口縁上部から穿孔	無	器小古	後期前	
272	84	59	6号集石, IA1a 整地層2下層褐色土ほか	小型深鉢	口→側	無節→連結する人組文	無節L	器小古	後期前	
273	84	59	14号土塊 埋土	深鉢	側	弧状文	無	器小古	後期前	
274	84	59	14号土塊 埋土	鉢	側	弧状文(環?)	無	器小古	後期前	
275	84	59	17号土塊 埋土	小型深鉢	口	波線による方型区画文	無	器小古	後期前	
276	84	59	17号土塊 埋土	鉢	口	平行沈線, 人組文, 内外面ミダキ, 外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前	
277	84	59	29号土塊	小型深鉢	口	平行沈線, 方型人組文, 外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前	
278	84	59	33号土塊	大型空器	側	方型区画文, 赤色顔料付着? (33aと同一)	無	器小古	後期前	
279	84	59	4号集石 クラリーニング時	小型深鉢	口	平行沈線, 人組文, 内外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前	
280	84	59	4号集石, IA9a	大形空器	口	連結する人組文, 波状線	無	器小古	後期前	
281	84	59	7号集石 横出面	深鉢	口	平行沈線, 内面アタテ	無	器小古	後期前→前	
282	84	59	7号集石 横出面	小型深鉢	口→側	連結する人組文	無	器小古	後期前→前	
283	84	59	9号集石	鉢	側	平行沈線, 人組文	無	器小古	後期前→前	
284	84	59	13号集石 横出面	器?	側	弧状区画文	無	器小古	後期前	
285	84	59	17号集石, IA10f 皿層	深鉢	口	波状口縁とL字の平行沈線	無	器小古	後期前	
286	84	59	19号集石 横出面	小型深鉢	口→側	波線, 凹状突起, 波線, 土粒層裏面	無	器小古	後期前	
287	84	59	23号集石下部土塊	鉢	口	平行沈線, 連結人組文?	無	器小古	後期前	
288	84	59	26号集石 横出面	深鉢	側	平行沈線(三角形文?)	無	器小古	後期前	
289	84	59	27号集石 横出面	深鉢	口	平行沈線(弧状文?)	無	器小古	後期前	
290	84	59	27号集石 横出面	小型深鉢	側	連結する人組文	無	器小古	後期前	
291	84	59	28号集石 横出面	深鉢	側	平行沈線(三角形文?)	無	器小古	後期前	
292	84	59	29号集石 横出面	深鉢	側	弧状区画文	無	器小古	後期前	
293	84	59	41号集石 横出面	小型深鉢	口	人組文, 内外面ミダキ	無	器小古	後期前	
294	84	59	41号集石 横出面	深鉢	口	波状口縁, 平行沈線	無	器小古	後期前	
295	84	59	45号集石	小型深鉢	側	平行沈線3条, 人組文, 外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前	
296	84	59	45号集石	鉢	口	平行沈線, 弧状文, 突起波線, 外面ペンダラ付着	無	器小古	後期前	
297	84	59	46号集石 横出面	深鉢	側	人組文?	無	器小古	後期前	
298	84	59	47号集石 横出面	器	側	連結する人組文	無	器小古	後期前	

No.	国史	写16	出土地点	器種	部位	文様の特徴ほか	施文・施体	分類	時期
299	86	60	68号集石 横山面	深鉢	側	単色→人組文,内面アタテ		D	後期前→前
300	86	60	50号集石 横山面	深鉢	側	単色		D	後期前
301	86	60	52号集石 横山面	深鉢	口	山口内縁に沿う平行沈線,肩部から下がる突起,区画文	L, R	D	後期前
302	86	60	52号集石 横山面	小型深鉢	側	區画文(横)		D	後期前
303	86	60	59号集石下部土坑 埋土	大型壺	側	方角区画文,赤色顔付付着? (68と同一)		D	後期前
304	86	60	内帯 壺地層2下層褐色土	深鉢	側	透ける人組文,内面アタテ		D	後期前
305	86	60	19号空堀内土器	深鉢	口	流状人組文		D	後期前遺
306	86	60	IA3a 1号焼土周土 層位不明	深鉢	口	山口内縁,単色→流状文(縦)		D	後期前
307	86	60	IA4a-5e	壺	口	内外面ミギキ,人組文		D	後期前
308	86	60	IA4a-5e	吊手土器	口	突起した下方の穿孔,流状区画文		D	後期前
309	86	60	IA4a-5e	壺	肩	流状沈線,透ける人組文?,赤色顔付付着		D	後期前
310	86	60	IA4f Ⅱ-壺層	深鉢小壺	側	透ける人組文?		D	後期前
311	86	60	IA6g-7g 壺地層2下層褐色土ほか	鉢	口一底	平行沈線による区画文,口縁に尖孔突起		D	後期前
312	86	60	IA6g-7gほか 壺地層2下層褐色土ほか	壺	口一側	縦筋状の流状文,内外面ミギキ		D	後期前→前
313	86	60	IA7f 壺地層2下層褐色土	小型鉢	口一側	透ける人組文		D	後期前
314	87	60	IA7f 壺地層2内ほか	吊手土器	口一側	透ける人組文,口内面と側面に尖孔突起		D	後期前
315	87	60	IA7b 壺地層2上面	壺	肩	流状文(縦・横)		D	後期前
316	87	60	IA7j 壺地層2下層褐色土	壺	口一側	横状把手,内面アタテ		D	後期前
317	87	60	IA7k 壺地層2下層褐色土	壺	口下	方角区画文,外面ペンダラ付着		D	後期前
318	87	60	IA7k 壺地層2下層褐色土	深鉢	口	山口内縁(口縁上部穿孔),口縁に沿う沈線,内外面ミギキ		D	後期前→前
319	87	60	IA7k Ⅱ層中	壺	側	平行沈線,流状文,内外面ミギキ,外面アタテ		D	後期前→前
320	87	60	IA7k Ⅱ層中	壺	側	区画文,内外面ミギキ		D	後期前→前
321	87	60	IA8f 内帯内側褐色土	深鉢	口	流状沈線,流状文(縦)		D	後期前
322	87	60	IA8b 壺地層2下層褐色土	深鉢	口	流状沈線,流状文(縦)		D	後期前
323	87	60	IA8j Ⅱ-壺層	小型深鉢	口一側	平行沈線,流状文?		D	後期前→前
324	87	60	IA8j Ⅱ層中クワリニク時	深鉢	口	小流状沈線,流状文(縦)		D	後期前
325	87	60	IA8k 前見状土層褐色土内	鉢小壺	側	区画文		D	後期前→前
326	87	60	IA9g 内帯レキ様面	小型鉢	口一側	内外面ミギキ,人組文		D	後期前
327	87	60	IA9a-9c 壺地層2下層褐色土ほか	吊手土器	口一側	透ける人組文,突起した上下から穿孔		D	後期前
328	87	60	IA9a 壺地層2下層褐色土	吊手土器	口	口縁上から穿孔,沈線による区画文		D	後期前
329	87	60	IA9f 横帯面→Ⅱ層	深鉢	口	山口内縁,流状線による人組文,内外面ミギキ		D	後期前→前
330	87	60	IA9g 壺地層2下層褐色土	小型鉢	口	平行沈線3条,外面ペンダラ付着		D	後期前
331	87	60	IA9h 横帯面→Ⅱ層	小型壺	側	流状区画文,外面ペンダラ付着		D	後期前
332	87	60	IA9k 横帯面→Ⅱ層上面	深鉢	口	単色→平行沈線,方角区画文	L, R	D	後期前→前
333	87	60	IA9k	付行鉢	底	人組文?		D	後期前
334	87	60	IA9b-10h 壺地層2内ほか	鉢	口一底	流状沈線,側面に吊手突起,区画文,区画文		D	後期前
335	87	60	IA10a 壺地層2	壺	側	透ける人組文,内外ペンダラ付着		D	後期前
336	87	60	IA10b レンチ東西方向 壺地層2下	壺	口一側	透ける人組文		D	後期前
337	87	60	IA10c 壺地層2下層褐色土	小型鉢	側	流状文,内外面ペンダラ付着		D	後期前
338	87	60	IA10k 横帯面→Ⅱ層	小型鉢	口	平行沈線,人組文?,内外面ミギキ		D	後期前
339	87	60	IA11j 壺地層2下層褐色土	小型鉢	側	透ける人組文		D	後期前
340	87	60	IA11k-20c-22号石土 Ⅱ層	深鉢	口	山口内縁,人組文		D	後期前
341	87	60	IA11k 横帯面→Ⅱ層	深鉢	口	山口内縁,平行沈線(2角文?)		D	後期前
342	87	60	IA11i 横帯面→Ⅱ層	深鉢	口	山口内縁に沿う沈線区画文3条,区画文		D	後期前
343	87	60	IA11m Ⅱ層	大型壺	肩	流状文(横),外面ミギキ		D	後期前
344	87	60	IA12i 横帯面→Ⅱ層	深鉢	口	平行沈線,人組文		D	後期前
345	87	60	IA13b Ⅱ-壺層上	鉢	口	流状沈線,平行沈線区画文,内面アタテ		D	後期前
346	87	60	IA13k 壺地層2下層褐色土	壺?	口	平行沈線3条,人組文,外面ペンダラ付着,内面アタテ		D	後期前
347	87	60	IA13m Ⅱ層	深鉢	口	山口内縁,平行沈線,区画文		D	後期前
348	88	60	地点不明	深鉢	側	流状文(縦)		D	後期前
349	88	60	22号石土 横山面	深鉢	側	3条の沈線による人組文,内外面アタテ		V	後期前
350	88	60	24号石土下部土坑 埋土	深鉢	側	沈線による3条の帯状文,内外面アタテ		V	後期前
351	88	60	IA13 Ⅱ層中位	深鉢	側	平行沈線3条による人組文		V	後期前
352	88	60	ⅡA1m Ⅱ層	深鉢	側一底	磨消線文(曲線文?),縦代文	L, R	V	後期前
353	88	60	3号集石 クワリニク時	付行鉢	底	底面付行鉢,平行沈線文,412と同一個体小	L, R	V	後期前
354	88	60	IA8g 壺地層2内	鉢	側一底	底面付行鉢,平行沈線文,114と同一個体小	L, R	V	後期前
355	88	60	IA11k 横帯面→Ⅱ層	小型鉢	口	肩部の磨消線文,内面ナテ		V	後期前
356	88	60	IA17j Ⅱ層	深鉢	口	沈線に沿う流線突起,横山面,内面アタテ	R, L?	V	後期前
357	88	60	19号空堀石土	深鉢	側	前部流状文		R, L	後生後期上
358	88	60	IA6f 壺地層2	壺	口	単色(上?)→流線(交互突起,内面縁上)に単色(上),流(流線縁部)	R, L-L, R	後生後期	
359	88	60	IA7g 壺地層2下層褐色土	壺	口	単色(上?)→流線(交互突起,内面縁上)に単色(上),流(上)	R, L-L, R	後生後期	
360	88	60	IA7j	壺	口	単色(上?)→流線(交互突起,内面縁上)に単色(上),流(上)	R, L-L, R	後生後期	
361	88	60	IA8g 内帯外側 壺地層2下層褐色土	小型壺	口	小流状沈線,交互突起	R, L	後生後期	
362	88	60	IA8g内帯心付 壺地層1~2	壺	側	平行沈線間に交互突起	R, L	後生後期	
363	88	60	IA8b 壺地層2	深鉢	口	口縁上にも単色縁文,平行沈線間に交互突起(2列)	L, R	後生後期	
364	88	60	IA9g 壺地層2	壺	口	単色→交互突起,口縁上に単色縁文	R, L	後生後期	
365	88	60	IA9k 壺地層2	小型壺	口	山口内縁,単色→沈線間に交互突起2列	R, L	後生後期	
366	88	60	IA9g 壺地層2	壺	口	交互突起,口縁上に単色縁文	R, L	後生後期	
367	88	60	IA9g 内帯外側壺地層2下層褐色土ほか	壺	口	流状沈線に小突起,単色→交互突起,流(流線)	R, L	後生後期	
368	88	60	1号住 東照様土	鉢	口	折り流し口縁		F	後期
369	88	60	22号土坑 下部, IA17k Ⅱ-Ⅱ層	深鉢	口	無文,内面ナテ		F	後期
370	88	60	6号石土 横山面	鉢	口	無文,内外面ミギキ		F	後期
371	88	60	8号集石, IA9k 横帯面→Ⅱ層	小型深鉢	口一側	無文,無文		F	後期前
372	88	60	25号石土 横山面(北側)	小型鉢	口	無文,小突起		F	後期前

IV 検出遺構と出土遺物

No.	図号	写真	出土地点	器種	部分	文様の特徴ほか	出土状況	分類	時期
373	88	62	28号集石 横出面	小型深鉢	口一製	無文		F	後期
374	89	62	1号住 西組埋土・P3	深鉢	胴一底	単部,内面アバシ		R.L	G 後期
375	89	62	1号住,14-32号土坑埋土ほか	深鉢	口一底	大さきして,はねの狭い折り返し口縁,単部		R.L	G 後期
376	89	62	1号住跡 埋土	深鉢	口	単部		L.R	G 後期
377	89	62	1号住跡,14号土坑 埋土	深鉢	口一製	単輪縁条体,内面ナデ		無彫L	G 後期
378	89	62	2号住 埋土	深鉢	底	石目			G 後期(推定?)
379	89	62	3号住 東組埋土	深鉢	口	単部		L.R	G 後期
380	89	62	5号住 西組埋土	深鉢	口	単部		L.R	G 後期
381	89	62	6号土坑 埋土	深鉢	口	無彫		無彫L	G 後期
382	89	62	19号土坑 埋土	深鉢	口	単部?内面アバシ		R.L?	G 後期
383	90	63	23号土坑 埋土・底面直上	深鉢	胴	単部		L.R・R.L	G 後期
384	90	63	29号土坑	深鉢	胴	単輪縁条体(胴口状縁条文),内面アバシ		無彫L	G 後期
385	90	63	1号埋設土器	深鉢	口一底	折り返し口縁,単部,内面アバシ		L.R	G 後期
386	90	63	2号埋設土器	深鉢	口一製	単輪縁条体,内面ナデ,縁幅み狭		無彫L	G 後期
387	91	63	4号埋設土器	深鉢	口一底	単輪縁条体,上半部にスス付着,内面ナデ		無彫L	G 後期
388	91	63	8号号跡	深鉢	口	単部		R.L	G 後期
389	91	63	9号跡 埋土上へ中位	深鉢	胴	単輪縁条体,内面ナデ		無彫L	G 後期
390	91	63	1号集石 クリーニング跡	深鉢	口	口縁部肥厚,単部		R.L	G 後期
391	91	63	1号集石 横出面	深鉢	口	折り返し口縁		G	後期
392	91	63	2号集石 横出面	深鉢	口	折り返し口縁,内面アバシ		L.R	G 後期
393	91	64	2号集石 横出面	深鉢	口	単部,内外面アバシ		L.R	G 後期
394	91	64	2号集石 横出面	深鉢	口	単部,内面アバシ		R.L	G 後期
395	91	64	3号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	単部,内面アバシ		L.R	G 後期
396	91	64	3号集石	小型深鉢	口	単輪縁条体,内面ナデ		L.R	G 後期
397	91	64	3号集石 クリーニング跡	深鉢	胴	折り返し口縁		L.R	G 後期
398	91	64	4号集石 横出面,1A9	深鉢	口一製	折り返し口縁,単輪縁条体(胴口状縁条文),内面アバシ		無彫L	G 後期
399	91	64	4号集石 横出面	深鉢	口	単輪縁条体(胴口状縁条文),内面アバシ		L.R	G 後期
400	91	64	7号集石 横出面	深鉢	口	折り返し口縁→単部		L.R	G 後期
401	91	64	11号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	単輪縁条体(底)		L.R	G 後期
402	91	64	11号集石下部土坑 埋土	小型深鉢	口	単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
403	91	64	11号集石下部土坑 埋土	小型深鉢	口	単輪縁条体(底)		L.R	G 後期
404	91	64	13号集石 クリーニング跡	小型深鉢	口	単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
405	91	64	19号集石 クリーニング跡	鉢	口	短径広底,単輪縁条体(底)		無彫L	G 後期
406	91	64	23号集石下部土坑	小型深鉢	口	単輪縁条体(底)		無彫L	G 後期
407	91	64	23号集石下部土坑	深鉢	口	折り返し口縁,無彫(口縁部と胴部は別写別添文)		L.R	G 後期
408	91	64	25号集石	深鉢	口	単部		L.R	G 後期
409	91	64	25号集石 横出面(北側)	深鉢	胴	単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
410	91	64	29号集石	深鉢	口	単輪縁条体(胴口状縁条文),内面アバシ		無彫L	G 後期
411	91	64	41号集石 横出面	小型深鉢	口	単輪縁条体		無彫L	G 後期
412	91	64	45号集石 横出面	小型深鉢	口	単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
413	91	64	45号集石 横出面	深鉢	口	単輪縁条体,内面アバシ		無彫L	G 後期
414	91	64	48号集石 横出面	深鉢	口	単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
415	91	64	52号集石 横出面	深鉢	口	単輪縁条体,内面アバシ		L.R	G 後期
416	92	64	53号集石 横出面	深鉢	口	折り返し口縁,単部		L.R	G 後期
417	92	64	54号集石	小型深鉢	口	単輪縁条体,内面アバシ		無彫L	G 後期
418	92	64	58号集石	小型深鉢	口	単部		R.L	G 後期
419	92	64	59号集石 横出面	小型深鉢	口	単輪縁条体,内面アバシ		無彫L	G 後期
420	92	64	59号集石下部土坑 埋土	深鉢	口	単部,内面アバシ		L.R	G 後期
421	92	64	1911 埋土	小型深鉢	胴	単輪縁条体,内面ナデ		無彫L	G 後期
422	92	64	1A3e-30-4e Ⅱ層相当地	鉢	胴一底	単輪縁条体,内面アバシ		無彫L	G 後期
423	92	64	1A3e-30-4e Ⅱ層相当地	小型深鉢	口	単輪縁条体,内面ナデ		無彫L	G 後期
424	92	64	1A3e-4e Ⅱ層相当地	小型深鉢	胴一底	単部,内面アバシ		R.L	G 後期
425	92	64	1A3e-4e Ⅱ層相当地	深鉢	口一製	単輪縁条体(胴口状縁条文),内面アバシ		無彫L	G 後期
426	92	64	1A3e 1号焼土崗辺 部位不明?	深鉢	口	折り返し口縁,単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
427	92	64	1A3e-5e	深鉢	口一製	単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
428	92	64	1A3e-5e	小型深鉢	口	単輪縁条体(口内面断面二角形ノ字キ)		無彫L	G 後期
429	92	64	1A3eほか	深鉢	口一製	折り返し口縁,単輪縁条体(口内面と胴部は別写別添)		無彫L	G 後期
430	92	64	1A47	深鉢	口	折り返し口縁,単輪縁条体		無彫L	G 後期
431	92	65	1A47 Ⅱ一Ⅱ層	深鉢	口一製	単部,内面ノ字キ		L.R	G 後期
432	92	65	1A6b-6 惣地層2ノ層褐色土	深鉢	口	単輪縁条体(胴口状縁条文)		L.L?	G 後期
433	92	65	1A7f-8 18g 惣地層2ノ層褐色土	小型深鉢	口一	単輪縁条体→平行沈線ノ条		無彫L	G 後期
434	93	65	1A8b	小型深鉢	口一製	折り返し口縁,単部		L.R	G 後期
435	93	65	1A8b 惣地層2ノ層褐色土ほか	小型深鉢	口一底	単部,底面に縁ノ4稜		L.R	G 後期
436	93	65	1A8b 惣地層2ノ層褐色土ほか	深鉢	口一製	単部,蓋上に縁が深い		R.L	G 後期
437	93	65	1A8b 惣地層2ノ層褐色土ほか	深鉢	口一製	単部,内外面アバシ		L.R	G 後期
438	93	65	1A9c-9e 石河橋田面ほか	深鉢	口一製	単部		L.R	G 後期
439	93	65	1A12b 横塚南一Ⅱ層	鉢	口一製	単輪縁条体(胴口状縁条文)		無彫L	G 後期
440	93	65	1A12b-14b 横塚南一Ⅱ層	深鉢	口一底	単輪縁条体(胴口状縁条文),内面アバシ		無彫L	G 後期
441	93	65	1A12b	深鉢	口	小径折口縁,単輪縁条体		無彫L	G 後期
442	93	65	1A12b-19b Ⅱ一Ⅱ層	小型深鉢	口	小径折口縁,単部		L.R	G 後期
443	93	65	1A19a-19f Ⅱ層	深鉢	口	平行沈線→単輪縁条体,内面ナデ		無彫L	G 後期
444	94	65	ⅡA1m Ⅱ層	深鉢	口一製	単輪縁条体		無彫L	G 後期
445	94	66	ⅡB9f付込 Ⅱ一Ⅱ層上	深鉢	口一底	上半無彫L,下半単部L,折り返し口縁		無彫L+L.R	G 後期
446	94	66	ⅡB9f付込 Ⅱ一Ⅱ層上	深鉢	口一製	折り返し口縁,単部,内面アバシ		L.R	G 後期
447	94	66	ⅡB9f付込 Ⅱ一Ⅱ層上	深鉢	口一底	単部,内面アバシ		L.R	G 後期

第4表 土製品観察表

No.	国産	写真	出土地点	種類	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	文様等
C1	95	67	1A5g 整地層2下層褐色土	土塊	板状	4.4	5.85	1.25	27.7	
C2	95	67	1A5g 内帯内側褐色土	土塊	板状	6.55	5.25	2.3	33.0	
C3	95	67	1A10g 内帯内側褐色土	土塊	板状	5.69	2.69	1.2	17.8	
C4	95	67	1A10g 内帯内側整地層2下層褐色土上層	土塊	板状	4.39	4.19	1.65	21.0	
C5	95	67	1A6g Ⅱ層褐色土	土塊?		4.25	2.89	1.05	11.0	
C6	95	67	58号集石	磨石土製品		2.90	2.80		7.75	
C7	95	67	1号位 Ⅱ	磨石土製品		4.35	3.05		10.51	
C8	95	67	1A5g	磨石土製品		5.55	4.70		22.96	
C9	95	67	1A4f	磨石土製品		5.49	4.10		35.44	
C10	95	67	1A3a-6a Ⅱ層粗石	磨石土製品		2.90	2.30		3.66	
C11	95	67	1A4f	磨石土製品	空孔品	3.40	2.60		9.64	
C12	95	67	1A5f 整地層2下層褐色土上層	磨石土製品	空孔品	5.00	3.80		28.75	
C13	95	67	1A6g 整地層2下層褐色土上層	磨石土製品		2.75	2.30		3.21	
C14	95	67	1A7b 1号位土付	磨石土製品		3.80	2.30		9.16	
C15	95	67	1A8g 内帯内側 整地層2内	磨石土製品		2.40	2.60		2.60	
C16	95	67	1A8f 整地層1上層	磨石土製品		3.90	2.30		6.59	
C17	96	67	1A10f 横帯面-右層	磨石土製品		5.55	3.40		22.64	
C18	96	67	1A10b 横帯面-右層	磨石土製品	空孔品	5.60	3.70		36.60	
C19	96	67	1A11f Ⅱ-右層	磨石土製品		4.10	2.85		6.06	
C20	96	67	整地層2下層褐色土層	磨石土製品		5.45	3.20		18.21	
C21	96	67	2号集石	ニチユア	背底	器底260			48.34	縦断面のニチユア
C22	96	67	2号集石(ツラギナ型)	ニチユア	口一側	器底235	口径42		4.60	ベンダ付着
C23	96	67	3号集石 整地層2下層褐色土	ニチユア	側一底	器底243			29.43	
C24	96	67	3号集石	ニチユア	側一底	器底350			4.92	
C25	96	67	6号集石	ニチユア	側一底	器底190	底径96		8.40	
C26	96	67	7号集石 整地層2下層褐色土	ニチユア	口一底	器底520	口径850	底径240	39.14	
C27	96	67	内帯 整地層2上層	ニチユア	口?	器底240			13.00	
C28	96	67	24号集石	ニチユア	側一底	器底195	底径195		14.60	
C29	96	67	24号土塊 埋土下段	ニチユア	側一底	器底400	底径75		20.29	
C30	96	68	1A5f-8a	ニチユア	空孔品	器底2450	口径650		底径240	48.34
C31	96	68	1A5g	ニチユア	側一底	器底450	口径60	底径440	21.10	
C32	96	68	1A3a Ⅱ層粗石	ニチユア	口一側	器底335			6.41	
C33	96	68	1A5g	ニチユア	底面	器底230	底径330		19.36	
C34	96	68	Ⅱ層土製品No.1	ニチユア	側一底	器底500	底径350		35.97	
C35	96	68	1A7f 整地層2内	ニチユア	側一底	器底130	底径130		3.05	磨小品
C36	96	68	1A7b 整地層2下層褐色土下層	ニチユア	側一底	器底510			41.16	磨品欠損
C37	96	68	1A8f 内帯内側	ニチユア	側一底	器底130			3.35	
C38	96	68	1A11f Ⅱ-右層上層	ニチユア	口一側	器底240	口径640		8.50	
C39	97	68	1A14b Ⅱ下-右層	ニチユア	側一底	器底270	底径400		36.19	底面に穿孔2つ、底面外側に2つ
C40	97	68	1A5g 整地層2下層褐色土	ニチユア	側一底	器底290	底径420		60.70	底面に穿孔4つ
C41	97	68	1A12b Ⅱ層	ニチユア	底面	器底660	底径34		6.69	底面に穿孔1つ
C42	97	68	地心-部位不明	ニチユア	底面	器底200	底径300		36.19	底面に穿孔2つ、底面外側に2つ
C43	97	68	2号集石	土製円盤	完	3.40	3.80	0.75	10.80	完形
C44	97	68	6号集石	土製円盤	完	2.80	2.85	0.60	5.70	完形
C45	97	68	11号集石下段土塊 埋土	土製円盤	完	3.40	3.55	0.7	11.80	完形
C46	97	68	23号集石下段土塊内 埋土	土製円盤	完	4.30	4.40	0.65	15.52	完形
C47	97	68	27号集石	土製円盤	完	3.00	3.20	0.65	9.20	完形
C48	97	68	58号集石	土製円盤	完	3.60	3.80	0.65	9.94	完形
C49	97	68	59号集石	土製円盤	完	3.35	3.50	0.5	8.48	完形
C50	97	68	1号位 トレンチ南西端埋土	土製円盤	欠	4.10	-	0.6	10.88	欠
C51	97	68	1号位 埋土	土製円盤	欠	4.65	-	0.8	15.22	欠
C52	97	68	5号位 横断面	土製円盤	完	3.40	3.60	0.70	11.20	完形
C53	97	68	15号土塊 埋土	土製円盤	完	3.20	3.60	0.70	10.57	完形
C54	97	68	18号土塊 埋土	土製円盤	欠	4.40	-	0.9	16.80	欠
C55	97	68	25号土塊 埋土	土製円盤	完	3.70	3.80	0.6	10.47	完形
C56	97	68	3号位 埋土中段	土製円盤	完	3.40	3.70	0.80	12.96	完形
C57	97	68	内帯内側1A5g 整地層2下層褐色土	土製円盤	完	3.90	4.10	0.70	13.99	完形
C58	97	68	内帯内側1A5g 整地層2内	土製円盤	完	4.40	4.40	0.60	16.86	完形
C59	97	68	1A3a Ⅱ層粗石	土製円盤	完	3.20	3.40	0.70	8.99	完形
C60	97	68	1A3a-6a	土製円盤	完	3.60	3.80	0.65	12.62	完形
C61	97	68	1A3a-6a	土製円盤	完	5.30	4.50	1.10	21.54	完形
C62	97	68	1A3a-5a-5f	土製円盤	完	3.80	3.90	0.60	14.49	完形
C63	98	68	1A3a-5a-5f	土製円盤	完	3.55	3.70	0.80	11.93	完形
C64	98	68	1A5g 整地層2下層褐色土	土製円盤	欠	4.20	-	0.7	8.29	欠
C65	98	68	1A5g 整地層2下層褐色土	土製円盤	完	4.15	4.70	0.85	20.20	完形
C66	98	68	1A5g 部位不明	土製円盤	完	3.75	4.05	0.80	14.75	完形
C67	98	68	1A6f 整地層2下層褐色土	土製円盤	欠	4.10	-	0.60	9.40	欠
C68	98	69	1A6g 整地層1	土製円盤	欠	3.40	-	0.75	4.70	欠
C69	98	69	1A6b 整地層2下段	土製円盤	完	4.00	4.10	0.6	13.80	完形
C70	98	69	1A6b 整地層2下層褐色土	土製円盤	欠	4.50	-	0.95	20.05	欠
C71	98	69	1A6b-6a Ⅱ-右層上	土製円盤	完	2.90	3.40	0.70	8.50	完形
C72	98	69	1A7f 整地層2下層褐色土	土製円盤	完	3.70	3.90	0.75	12.40	完形
C73	98	69	1A7f 整地層2下層褐色土-右層	土製円盤	完	2.60	3.15	0.5	6.60	完形

No.	図版	写真	出土地点	種類	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	支線号	
C74	98	69	I A7	整地層2内	土製内腹	欠	0.78	-	0.70	7.30	欠
C75	98	69	I A7g	Ⅱ-Ⅰ層	土製内腹	完	370	390	0.75	13.80	完形
C76	98	69	I A7g	整地層2下層褐色土	土製内腹	欠	2.40	-	0.70	7.40	欠
C77	98	69	I A7h	整地層2下層褐色土下層	土製内腹	完	450	465	0.95	21.20	完形
C78	98	69	I A7h	整地層2内径砂礫山面	土製内腹	完	375	4.40	0.70	13.97	完形
C79	98	69	I A7i	Ⅱ層	土製内腹	欠	0.30	-	0.10	0.25	欠
C80	98	69	I A7k	整地層2下層褐色土	土製内腹	完	205	400	0.75	15.00	完形
C81	98	69	I A7h	整地層2下層褐色土	土製内腹	欠	3.65	-	0.10	4.50	欠
C82	98	69	I A8g	整地層2下層褐色土-Ⅰ層	土製内腹	完	320	325	0.75	10.98	完形
C83	98	69	I A8g	整地層2内	土製内腹	完	330	3.40	0.60	9.60	完形
C84	98	69	I A8h	3号集石洞窟 整地層2下層褐色土	土製内腹	欠	3.8	-	0.80	11.97	欠
C85	98	69	I A8h	9号地上部層 整地層2下層褐色土	土製内腹	完	350	415	0.80	12.33	完形
C86	98	69	I A8h	整地層2下層褐色土	土製内腹	完	365	400	0.90	13.04	完形
C87	98	69	I A8h	整地層2下層褐色土	土製内腹	完	290	330	0.5	10.01	完形
C88	99	69	I A8h	整地層2下層褐色土・クリーニング跡	土製内腹	欠	390	-	0.50	9.03	欠
C89	99	69	I A8h	Ⅱ層	土製内腹	完	345	380	0.80	12.91	完形
C90	99	69	I A8h	Ⅰ層クリーニング跡	土製内腹	欠	450	-	0.80	13.51	欠
C91	99	69	I A8h	整地層1中2	土製内腹	完	425	4.40	0.60	18.28	完形
C92	99	69	I A8g	整地層2	土製内腹	完	370	395	0.6	11.05	完形
C93	99	69	I A8h	整地層2	土製内腹	完	325	330	0.55	10.00	完形
C94	99	69	I A8h	Ⅱ層柱内	土製内腹	完	455	470	1.00	10.56	完形
C95	99	69	I A8h	整地層2下層褐色土	土製内腹	完	410	415	0.90	19.90	完形
C96	99	69	I A8h	整地層2下層褐色土	土製内腹	欠	335	-	0.90	14.04	欠
C97	99	69	I A8h	整地層2下層褐色土	土製内腹	完	425	450	0.95	18.84	完形
C98	99	69	I A8h	整地層2下層褐色土	土製内腹	欠	4.45	-	0.70	11.54	欠
C99	99	69	I A9i	構築面-Ⅰ層	土製内腹	完	3.45	3.80	0.7	10.62	完形
C100	99	69	I A9i	構築面-Ⅰ層	土製内腹	欠	350	-	0.65	7.42	欠
C101	99	69	I A9i	構築面-Ⅰ層	土製内腹	欠	355	-	0.55	9.15	欠
C102	99	69	I A9i	構築面-Ⅰ層	土製内腹	欠	430	-	0.60	6.72	欠
C103	99	69	I A9k	Ⅱ層	土製内腹	完	380	400	0.60	13.80	完形
C104	99	69	I A9k	構築面-Ⅰ層	土製内腹	完	300	320	0.80	8.18	完形
C105	99	69	I A9k	構築面褐色土-Ⅰ層	土製内腹	完	290	320	0.75	7.92	完形
C106	99	69	I A9k	整地層2下層褐色土	土製内腹	欠	450	-	0.9	10.98	欠
C107	99	69	I A10g	整地層1内	土製内腹	完	320	320	0.70	10.98	完形
C108	99	70	I A10g	整地層2下層褐色土	土製内腹	完	370	375	0.65	17.02	完形
C109	99	70	I A10g	整地層褐色土<4>ト	土製内腹	欠	410	-	0.80	12.10	欠
C110	99	70	I A10g	整地層2	土製内腹	完	325	295	0.5	6.15	完形
C111	99	70	I A10g	整地層2下層褐色土	土製内腹	完	370	395	0.85	15.24	完形
C112	99	70	I A10g	整地層2下層褐色土	土製内腹	欠	420	-	0.55	9.90	欠
C113	100	70	I A10k	Ⅱ層	土製内腹	完	385	400	0.85	13.16	完形
C114	100	70	I A10k	構築面-Ⅰ層	土製内腹	完	330	355	0.80	12.27	完形
C115	100	70	I A11c	構築面-Ⅰ層	土製内腹	完	4.40	4.45	0.70	15.74	完形
C116	100	70	I A11m	Ⅱ層	土製内腹	完	370	370	0.75	12.62	完形
C117	100	70	I A12a	Ⅱ層	土製内腹	完	350	360	0.70	11.75	完形
C118	100	70	I A12a	構築面-Ⅰ層	土製内腹	欠	310	315	0.50	6.67	完形
C119	100	70	I A12a	Ⅱ-Ⅰ層	土製内腹	欠	330	-	0.45	5.55	欠
C120	100	70	I A12a	Ⅱ-Ⅰ層クリーニング跡	土製内腹	完	380	395	0.85	12.80	完形
C121	100	70	I A13	Ⅱ-Ⅰ層上面	土製内腹	完	315	375	0.70	11.06	完形
C122	100	70	I A13m	Ⅱ層	土製内腹	完	350	370	0.7	12.50	完形
C123	100	70	I A14m	Ⅱ層	土製内腹	完	375	380	0.50	11.10	完形
C124	100	70	I A16	Ⅱ層	土製内腹	完	3.45	3.50	0.8	11.43	完形
C125	100	70	I A12a付注	Ⅱ層	土製内腹	欠	3.60	-	0.60	7.84	完形
C126	100	70	I A12a付注	Ⅱ層	土製内腹	完	4.30	4.40	0.75	20.98	完形
C127	100	70	I A12a付注	Ⅱ層	土製内腹	完	3.10	3.20	0.50	6.60	完形
C128	100	70	I A12a付注	Ⅱ層焼朽	土製内腹	完	4.70	5.00	1.05	26.83	完形
C129	100	70	I A3e-4e	Ⅱ層	瓦片	18	11.7	1.1	181	焼完形	
C130	100	70	I A8g	整地層2下層褐色土	磚・灰土製品	325	69	0.85	1.58	完形	
C131	100	70	7号集石	不明土製品	不明土製品	480	200	1.15	6.09	完形	
C132	100	70	I A8g	整地層2内	不明土製品	高さ290	底径15.30		27.70	中央	

第5表 石器・石製品観察表

No.	国産/洋産	出土地点	層位	器種	石種・産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	
S1	101	71	15層上段	石鏃	頁岩 中年代 北上山地	330	150	080	277	西島有希	
S2	101	71	14層上段	押土	頁岩 中年代 北上山地	180	115	040	062	西島有希	
S3	101	71	20層上段	押土層	頁岩 中年代 北上山地	(235)	115	040	088	西島有希	
S4	101	71	1A3e-ae	押土	頁岩 中年代 北上山地	325	155	085	331	西島有希	
S5	101	71	1A5f	野地層下層	頁岩	(255)	125	090	106	西島有希	
S6	101	71	1A5e	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	245	130	040	060	西島有希	
S7	101	71	1A7a	野地層下層	頁岩	(245)	110	040	090	西島有希	
S8	101	71	1A7a	野地層下層	頁岩 中年代 北上山地	120	105	030	070	西島有希	
S9	101	71	1A10a	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	(170)	115	030	052	西島有希	
S10	101	71	1A17	1層	頁岩 中年代 北上山地	(200)	135	055	102	西島有希	
S11	101	71	1A5e	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	350	200	075	310	西島有希	
S12	101	71	1A9e	野地層下段褐色土	頁岩 中年代 北上山地	245	165	035	070	西島有希	
S13	101	71	1A11g	野地層下段褐色土層	頁岩 中年代 北上山地	460	230	065	487	西島有希	
S14	101	71	1A18	1層中層	頁岩 中年代 北上山地	350	150	040	140	西島有希	
S15	101	71	1A8a	野地層下段褐色土	頁岩 中年代 北上山地	(330)	145	060	248	西島有希	
S16	101	71	1A14	1層下層上	頁岩 中年代 北上山地	(225)	200	060	309	西島有希	
S17	101	71	1A14	1層下層上	頁岩 中年代 北上山地	240	150	045	150	西島有希	
S18	101	71	1A3e	1層(野地層中)	頁岩 中年代 北上山地	200	135	050	130	西島有希	
S19	101	71	44層赤石	石腕	頁岩 中年代 北上山地	480	225	130	916	野見	
S20	101	71	1男仔	トナシナ骨 西側埋土	頁岩 中年代 北上山地	275	110	030	106		
S21	101	71	6層赤石	最終少リニクア骨	頁岩 中年代 北上山地	450	130	110	480		
S22	101	71	1男仔	押土層	頁岩 中年代 北上山地	400	100	060	214		
S23	101	71	1A3e-ae	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	(340)	(105)	085	287		
S24	101	71	1A8a	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	360	130	110	370		
S25	101	71	地点不明	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	410	110	090	360		
S26	102	71	35層赤石	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	390	180	100	610		
S27	102	71	1A3e-ae	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	390	180	110	347		
S28	102	71	27層赤石	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	275	125	085	213	野見	
S29	102	71	1A9f(野地層)	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	310	190	080	310	野見	
S30	102	71	1A5e	野地層下段褐色土	頁岩 中年代 北上山地	305	175	080	280	野見	
S31	102	71	1A5e	野地層下段褐色土	頁岩 中年代 北上山地	310	215	075	320	野見	
S32	102	71	1A5f	野地層下段褐色土	頁岩 中年代 北上山地	230	150	080	174	野見	
S33	102	71	5層赤石	野地層中間層(浸透付)	頁岩 中年代 北上山地	265	155	075	319	野見	
S34	102	71	40層赤石	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	330	155	060	156	野見	
S35	102	71	1A5f	野地層下段褐色土	頁岩 中年代 北上山地	420	200	050	390	野見	
S36	102	71	1A5e	野地層下段褐色土	頁岩 中年代 北上山地	350	130	070	337	野見	
S37	102	71	1A12a	1層中層上	頁岩 中年代 北上山地	310	185	110	428	野見	
S38	102	71	1男仔	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	530	435	160	2520	野見	
S39	102	71	14層上段	埋没層	頁岩 中年代 北上山地	275	230	090	654		
S40	102	71	1A3e-ae	1層埋没層	頁岩 中年代 北上山地	610	635	200	6650		
S41	102	71	1A3e	1層(埋没層上)	埋没層	840	785	210	9270		
S42	103	71	1A3e-ae	埋没層	頁岩 中年代 北上山地	480	210	130	3010		
S43	103	71	1A5e	1層埋没層	頁岩 中年代 北上山地	450	210	130	3120		
S44	103	72	1A5f	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	460	440	130	1350		
S45	103	72	1A5f	野地層中間層	頁岩 中年代 北上山地	300	230	100	532		
S46	103	72	1A7f	1層埋没層上	埋没層	450	370	105	1550		
S47	103	72	1A5f	野地層中間層	埋没層	640	435	220	3490		
S48	103	72	1A7a	野地層下段褐色土	埋没層	760	500	150	5010		
S49	103	72	1A5e	野地層下段褐色土	埋没層	360	260	100	891		
S50	103	72	1A7a	野地層下段褐色土	埋没層	505	280	130	1020		
S51	103	72	1A8a	野地層下段褐色土	埋没層	590	250	105	3910		
S52	103	72	1A9e	1層埋没層	頁岩 中年代 北上山地	515	400	185	3430		
S53	103	72	1A9e	1層埋没層	頁岩 中年代 北上山地	280	230	080	450		
S54	103	72	1A10a	野地層中間層	埋没層	(360)	(200)	120	674		
S55	104	72	1A13a	埋没層	頁岩 中年代 北上山地	1110	500	190	9550		
S56	104	72	1A13a	埋没層	頁岩 中年代 北上山地	800	785	160	8210		
S57	104	72	9層赤石	層上層埋没層	埋没層	(385)	320	100	2200		
S58	104	72	1男仔	SI	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	675	410	230	9829	5(埋没)
S59	104	72	1男仔	SI	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	745	395	160	3182	5(埋没)
S60	104	72	2男仔	SI	鎌状石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	800	360	255	11415	5(埋没)
S61	104	72	4男仔	埋没層下	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	880	470	295	20160	5(埋没)
S62	104	72	5層赤石	野地層中間層	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	890	590	285	25855	1-2(埋没)
S63	105	72	25層上	埋没層上	石斧	頁岩 中年代 北上山地	765	325	120	3841	5(埋没)
S64	105	72	1A5e	野地層下段褐色土	石斧	頁岩 中年代 北上山地	1240	390	210	34670	5(埋没)
S65	105	72	1A5f	野地層下段褐色土	石斧	頁岩 中年代 北上山地	995	295	170	7180	5(埋没)
S66	105	73	1A8	内層 野地層下層(埋没)	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	950	(470)	270	19846	1-2(埋没)
S67	105	73	1A8	内層 野地層下層(埋没)	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(480)	(450)	(245)	6896	1-2(埋没)
S68	105	73	1A8	内層 野地層下層(埋没)	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	740	330	135	5115	5(埋没)
S69	105	73	1A8	内層 野地層下層(埋没)	石斧	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(765)	(415)	(385)	13233	1-2(埋没)
S70	105	73	11層赤石	1層下層埋没層中	石斧-木製品	(750)	465	310	36550	1(埋没)	
S71	105	73	20層赤石	石斧-木製品	石斧	1320	635	420	50068	1(埋没)	
S72	105	73	9層上段(埋没層)	石斧-木製品	石斧	(800)	(880)	(570)	44460	1(埋没)	
S73	106	73	30層赤石	石斧-木製品	石斧	(910)	(630)	(390)	32780	1(埋没)	
S74	106	73	1A7b	埋没層上層	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	1645	725	575	79960	1(埋没)
S75	106	73	1A3e-ae	埋没層下層	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(630)	(495)	(280)	12620	1(埋没)
S76	106	73	1A6b	野地層下段褐色土	石斧-木製品	頁岩 中年代(埋没)	890	430	150	7720	1(埋没)
S77	106	73	1A8	内層 野地層下層(埋没)	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	790	360	145	6783	1(埋没)
S78	106	73	1A9f	埋没層上層	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(580)	(400)	(250)	7110	1(埋没)
S79	106	73	1A9f	野地層下段褐色土	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(935)	(680)	(630)	45070	1(埋没)
S80	106	73	1A9f	野地層下段褐色土	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(800)	(620)	(385)	34720	1(埋没)
S81	106	73	20層赤石	野地層下層埋没層	石斧-木製品	(550)	(415)	260	7080	1(埋没)	
S82	106	74	1A15	1層下層上	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	660	(510)	(275)	32280	1(埋没)
S83	107	74	1A15	1層下層上	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	1380	630	425	40720	1(埋没)
S84	107	74	1A6g	1層下層	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(730)	(575)	(400)	22150	1-2(埋没)
S85	107	74	1A9g	埋没層上層	石斧-木製品	花崗閃緑岩 中年代(埋没)	(540)	(335)	22010	1-2(埋没)	

No.	図面	内容	出土層位	層位	質 種	石種・産地	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備 考
S86	107	74	I A17b	Ⅱ層	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1335	629	438	82070	1～2段層
S87	107	74	I A17b	Ⅱ層中	石芥未製品	セシ型 中年代白登紀 北上山地	1740	630	2463	19410	1～2段層
S88	107	74	不明	不明	石芥未製品	砂笥 中年代 北上山地	6880	1600	460	19540	1～2段層
S89	107	74	I A9g	整地層下暗褐色土	石芥未製品	ホムフラスコ 中年代豊成中年代白登紀成土山地	1710	615	305	33220	1～2段層
S90	107	74	I A5g	Ⅱ層	石芥未製品	セシ型 中年代白登紀 北上山地	5540	1430	3140	9270	2段層
S91	108	74	I A4f	Ⅱ層下段	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1730	615	3330	22460	2段層
S92	108	74	I A5g	Ⅱ層下段	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	940	655	1450	6750	2段層
S93	108	74	I A10f	楕圓形不明	石芥未製品	アイキヤト 中年代白登紀 整地層	955	490	305	18670	2段層
S94	108	74	I A13m	Ⅱ層	石芥未製品	アイキヤト 中年代白登紀 整地層	10085	3635	5560	6770	2段層
S95	108	74	I A13b	楕圓形不明	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1250	610	440	36660	2段層
S96	108	74	I A15p	Ⅱ層	石芥未製品	セシ型 中年代白登紀 北上山地	6870	570	8495	36590	2段層
S97	108	75	I A18m	Ⅱ層暗褐色土	石芥未製品	砂笥 中年代 北上山地	1190	575	340	27770	2段層
S98	108	75	ⅡA5f	Ⅱ層	石芥未製品	セシ型 中年代白登紀 北上山地	790	1480	1435	20840	2段層
S99	109	75	I A4f	Ⅱ層下段	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1430	440	280	38770	3段層
S100	109	75	I A4g	暗褐色土	石芥未製品(原土)	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1420	490	360	35350	3段層
S101	109	75	I A10gDh	整地層下暗褐色土	石芥未製品(原土)	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1365	510	300	20060	3段層
S102	109	75	I A13c	Ⅱ層	石芥未製品	セシ型 中年代白登紀 北上山地	920	1485	1280	18770	3段層
S103	109	75	不明	不明	石芥未製品	花崗岩質 中年代白登紀 北上山地	420	350	260	4900	3段層
S104	109	75	不明	不明	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	570	1425	1330	11680	3段層
S105	109	75	I 4号集石	Ⅱ層下段	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	560	1480	260	6546	3～4段層
S106	109	75	I A6g	Ⅱ層下段	石芥未製品	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1060	1455	300	29670	4段層
S107	109	75	I A9g	整地層下暗褐色土	石芥未製品	セシ型 中年代白登紀 北上山地	1210	390	245	17380	4段層
S108	110	75	I A13b	Ⅱ層	半円形扁平石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1050	960	1435	61880	
S109	110	75	I A18m	Ⅱ層	半円形扁平石	花崗岩質 中年代白登紀 北上山地	770	580	315	19750	
S110	110	75	I 2号集石	Ⅱ層	硯石	砂笥 中年代白登紀-新石器代第三 入船野-野田野	3260	1790	900	52813	
S111	110	75	I 5号集石	Ⅱ層	硯石	砂笥 中年代白登紀-新石器代第三 入船野-野田野	670	645	1470	18580	
S112	110	75	I 5号集石	Ⅱ層	硯石	砂笥 中年代白登紀-新石器代第三 入船野-野田野	2780	1620	4490	20870	
S113	111	76	I 5号集石	Ⅱ層	硯石	砂笥 中年代白登紀-新石器代第三 入船野-野田野	2470	1480	1150	40920	
S114	111	76	I A11m	Ⅱ-Ⅲ層	花崗岩	花崗岩 中年代白登紀 北上山地	1740	1320	810	23290	
S115	111	76	I A7f	Ⅰ-Ⅱ層	介石	花崗岩質 中年代白登紀 北上山地	3030	2170	880	100550	
S116	111	76	I A3e-4e	Ⅱ層	円石	砂笥 中年代白登紀-新石器代第三 入船野-野田野	1090	1010	690	6680	
S117	112	76	I 3号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	600	650	245	17750	崩片
S118	112	76	I 3号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	590	635	265	18335	崩片
S119	112	76	I 7号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	765	645	430	31110	崩片
S120	112	76	I 9号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	5680	1380	1250	4780	崩片
S121	112	76	I 25号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	735	590	570	36230	崩片
S122	112	77	I 30号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	760	640	285	25935	崩片
S123	112	77	I 32号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	590	510	290	16810	崩片
S124	112	77	I 36号集石	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	710	590	425	30743	崩片
S125	112	77	I 内寄	Ⅱ層	硯石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	610	620	280	24580	崩片
S126	113	77	I 6号上段	Ⅱ層	礫石	I A10f 中年代白登紀 北上山地	10110	770	1470	28810	崩片
S127	113	77	I 9号上段	Ⅱ層	木製片	砂笥 中年代 北上山地	655	580	290	15420	崩片
S128	113	77	I 25号上段	Ⅱ層	礫石	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	700	685	330	27790	崩片
S129	113	77	I A3e	Ⅱ層	砂笥	砂笥 中年代 北上山地	855	720	440	22710	崩片
S130	113	77	I A3e-4e	Ⅱ層	砂笥	砂笥 中年代 北上山地	910	670	430	36660	崩片
S131	113	77	I A5f	Ⅱ層	花崗岩	花崗岩質 中年代白登紀 北上山地	1090	835	465	27630	崩片
S132	113	78	I A6g	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	865	725	435	42870	崩片
S133	114	78	I A6f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	800	730	465	36910	崩片
S134	114	78	I A7f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	810	655	270	39040	崩片
S135	114	78	I A7f	Ⅱ層	砂笥	砂笥 中年代 北上山地	1285	935	550	94840	崩片
S136	114	78	I A8f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1100	790	350	86590	崩片
S137	114	78	I A8f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	865	790	465	40360	崩片
S138	114	78	I A9g	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	740	730	310	34100	崩片
S139	115	78	I A9f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1025	835	495	79230	崩片
S140	115	79	I A10f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	860	750	440	49070	崩片
S141	115	79	I A10f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	610	600	290	36370	崩片
S142	115	79	I A11m	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	840	655	325	28660	崩片
S143	115	79	I A11m	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	690	680	440	24160	崩片
S144	115	79	I A13b	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	775	665	440	39170	崩片
S145	115	79	I A13b	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	825	680	295	32100	崩片
S146	115	79	I A13b	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	640	630	255	18480	崩片
S147	116	79	I A13b	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	680	555	500	25650	崩片
S148	116	79	I A13b	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1125	1020	520	10740	崩片
S149	116	80	I A15k	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1005	730	440	60410	崩片
S150	116	80	I A15k	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	1160	925	450	80450	崩片
S151	116	80	I A15k	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	680	500	285	13820	崩片
S152	116	80	I A15m	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	795	780	570	59070	崩片
S153	117	80	I A16f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	950	840	420	59110	崩片
S154	117	80	I A16f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	575	540	280	10480	崩片
S155	117	80	I A16p	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	915	835	305	40740	崩片
S156	117	80	I A17p	Ⅱ層(黒色土)	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	915	870	540	70300	崩片
S157	117	81	I A18f	Ⅱ層	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	955	930	500	81470	崩片
S158	117	81	I A19f	Ⅱ層暗褐色土	花崗岩	楕圓形扁平 中年代白登紀 北上山地	750	670	575	80390	崩片
S159	118	81	ⅡA1m	Ⅱ層(黒色土)中段	砂笥	砂笥 中年代 北上山地	870	740	450	44840	崩片

No.	図例	図号	地上地質	層位	岩種	石種・産地	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	備考
S160	118	81	1A15m		銀行・礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	800	600	3.45	36060	銀行
S161	118	81	Ⅲ層砂		礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	720	480	2.13	30270	銀行
S162	118	81	1A3m付砂		礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	825	865	3.13	40250	銀行
S163	118	81	砂質礫石		礫石	ビンゴ 中年代白砂紀 北上山地	660	448	2.82	11780	銀行
S164	118	81	2号礫石		礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	1180	625	5.70	69030	銀行
S165	118	81	9号土混層出露	Ⅲ層中砂	礫石	菅原 中年代 北上山地	965	580	3.20	32040	銀行
S166	119	81	2号土混層	Ⅲ層中砂	礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	720	575	2.30	38895	銀行
S167	119	82	1A3m		礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1220	765	5.86	79440	銀行
S168	119	82	1A3m		礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	1090	590	3.60	48540	銀行
S169	119	82	1A3m	Ⅲ層粗石	礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	1060	715	4.80	50300	銀行
S170	119	82	1A3m	Ⅲ層(深褐色土)	礫石・礫石	砂岩 中年代 北上山地	1385	915	4.10	77100	銀行
S171	119	82	1A7m	Ⅰ層礫石	礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	800	760	7.25	57170	銀行
S172	119	82	1A12m	Ⅲ層土	礫石	ビンゴ 中年代白砂紀 北上山地	1075	425	2.35	17460	銀行
S173	120	82	1A14m	Ⅲ層土	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	750	770	4.80	32410	銀行
S174	120	82	1A15m	Ⅲ層	礫石	菅原 中年代 北上山地	1320	680	5.45	67210	銀行
S175	120	82	1A15m		礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	800	520	3.96	32390	銀行
S176	120	83	1A15m		礫石	安山岩 新元代礫紀 奥山山地	850	790	4.66	39620	銀行
S177	120	83	1A15m	Ⅲ層	礫石	安山岩 新元代礫紀 奥山山地	910	690	5.29	47550	銀行
S178	120	83	1A16m	Ⅰ層礫石	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1470	885	5.29	96300	銀行
S179	120	83	1A16m	Ⅰ層下層土	礫石・礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	790	665	3.45	17330	銀行
S180	121	83	Ⅲ層付砂	礫石出露	礫石	礫石混入の石 中年代白砂紀 北上山地	750	500	2.25	38740	銀行
S181	121	83	1号礫石	床面	礫石	アズキヤド 中年代白砂紀 奥山山地	1220	780	5.30	75603	
S182	121	83	7号礫石		礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	850	480	3.50	21580	
S183	121	83	9号土混層出露	木根付土	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1005	810	5.25	60165	
S184	121	83	1A6m	Ⅰ層礫石	礫石(礫石)	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	800	630	2.95	28540	
S185	121	83	1A5m	砂地層下層褐色土中	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1140	950	7.30	11810	
S186	122	84	1A5m	砂地層下層褐色土中	礫石・礫石	砂岩 中年代 北上山地	1200	825	6.50	106470	
S187	122	84	1A6m	砂地層中層	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1195	820	5.00	60640	
S188	122	84	1A6m		礫石(スズク)	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1025	720	4.45	39590	
S189	122	84	1A8m		礫石(スズク)	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	6870	3360	3.30	22280	
S190	122	84	1A8m	Ⅰ層礫石	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1290	1030	6.00	116100	
S191	123	84	1A9m	暗褐色土上面	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1060	805	4.40	54550	
S192	123	84	1A12m		礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1245	1025	5.45	123840	
S193	123	85	1A14m	Ⅰ層下層土	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1265	830	5.10	60330	
S194	124	85	1A18m	Ⅲ層	礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	650	535	4.05	26170	
S195	124	85	Ⅲ層砂		礫石	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	1040	725	3.85	40640	
S196	124	85	1A8m	Ⅲ層下層	礫石	ビンゴ 中年代白砂紀(中年代白砂紀)北上山地	1075	835	4.20	46700	
S197	124	85	1号礫石		礫石	0&7フラスコ 中年代白砂紀(中年代白砂紀)北上山地	505	485	1.20	25446	変形
S198	124	85	2号礫石		礫石(礫石)	0&7フラスコ 中年代白砂紀(中年代白砂紀)北上山地	420	390	0.80	2040	変形
S199	124	85	2号礫石+33号土混		礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	525	525	1.10	1795	変形
S200	124	85	12号礫石		礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	220	220	0.70	740	変形
S201	124	85	13号礫石		礫石(礫石)	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	410	410	0.90	1980	変形
S202	124	85	13号礫石		礫石(礫石)	砂岩 中年代 北上山地	490	460	1.00	2853	変形
S203	124	85	1A3m	砂地層Ⅰ層	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	350	320	1.20	1860	変形
S204	125	85	1A3m	砂地層Ⅰ層	礫石(礫石)	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	470	420	0.70	2810	変形
S205	125	85	1A5m	砂地層2号暗褐色土	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	280	280	0.60	983	変形
S206	125	85	1A6m	砂地層2号暗褐色土	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	445	405	0.75	1065	変形
S207	125	85	1A6m	砂地層2号暗褐色土	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	450	220	0.85	562	1号欠
S208	125	85	1A7m	砂地層2号暗褐色土	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	440	425	0.65	1882	変形
S209	125	85	1A7m	砂地層2号暗褐色土	礫石(礫石)	アズキヤド 中年代白砂紀 奥山山地	455	290	0.65	1465	石割
S210	125	85	1A8m	砂地層2号暗褐色土	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	420	410	1.10	1349	暗変形
S211	125	85	1A8m	砂地層2号暗褐色土	礫石(礫石)	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	460	420	1.20	2586	変形
S212	125	85	1A9m	砂地層Ⅰ層上部	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	2060	1230	0.80	754	1号欠
S213	125	85	1A10m	赤石混層出露	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	420	440	1.25	2522	変形
S214	125	85	1A10m	礫石混層Ⅰ層	礫石(礫石)	0&7フラスコ 中年代白砂紀(中年代白砂紀)北上山地	370	370	1.00	3922	変形
S215	125	85	1A17m	Ⅲ層褐色土中	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	500	360	1.10	3113	1号欠
S216	125	85	13号礫石	赤石混層	花岡岩 中年代白砂紀 北上山地	675	570	3.00	11270	取付有り	
S217	125	85	1号礫石		赤石混層	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	745	625	2.45	4757	1号欠
S218	125	85	9号土混層		赤石混層	ビンゴ 中年代白砂紀 北上山地	760	480	2.70	11050	変形
S219	126	86	1A7m	砂地層2号暗褐色土	赤石混層	新元代 中年代白砂紀 北上山地	5610	320	4.80	6902	1号欠
S220	126	86	1A5m	砂地層2号暗褐色土	赤石混層	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	1420	330	1.15	1212	2号欠
S221	126	86	1A11m	砂地層Ⅰ層	礫石(礫石)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	260	180	1.25	1983	変形
S222	126	86	1A9m	礫石混層Ⅰ層	石割	菅原 中年代 北上山地	390	320	1.85	2534	丸面礫石
S223	126	86	1A10m	礫石混層Ⅰ層	石割	新元代 中年代白砂紀(新元代白砂紀)北上山地	1225	1360	1.80	2962	上下欠
S224	126	86	1A10m	礫石混層Ⅰ層	石割	0&7フラスコ 中年代白砂紀(中年代白砂紀)北上山地	1495	2985	1.55	961	1号欠
S225	126	86	13号礫石		石割	0&7フラスコ 中年代白砂紀(中年代白砂紀)北上山地	3210	270	140	15259	1号欠
S226	126	86	1A8m	砂地層2号暗褐色土	石割(石割)	新元代 中年代白砂紀-新元代白砂紀 Ⅲ層礫石・礫石	785	360	1.50	6483	上下欠
S227	127	86	不明	不明	石割	ビンゴ 中年代白砂紀 北上山地	570	475	4.65	18202	上下欠
S228	127	86	1A7m	礫石混層Ⅰ層	石割(石割)	新元代 中年代白砂紀(新元代白砂紀)北上山地	1490	2225	1.05	1416	1号欠
S229	127	86	1A12m	礫石混層Ⅰ層	石割	新元代 中年代白砂紀 北上山地	525	155	0.65	1160	1号欠
S230	127	86	6号礫石	7号土混層(Ⅰ層)	石割(石割)	ビンゴ 中年代白砂紀 北上山地	5460	270	0.95	2169	3号欠
S231	127	86	1A9m	砂地層2号暗褐色土	石割(石割)	新元代 中年代白砂紀 北上山地	725	295	1.45	4650	1号欠
S232	127	86	1A12m	Ⅲ層	石割(石割)	菅原 中年代 北上山地	435	285	1.90	3010	1号欠
S233	127	86	1A12m	砂地層2号暗褐色土	石割(石割)	菅原 中年代 北上山地	1495	290	0.80	1092	1号欠
S234	127	86	7号土混層	Ⅲ層土	礫石(礫石)	新元代 中年代 北上山地	440	970	9.50	246	変形

V 自然科学分析

1 平成26年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

西平内 I 遺跡は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内(北緯40°25'38"、東経141°40'45")に所在する。測定対象試料は、焼土や土坑、整地層等から出土した炭化物10点である(表1)。

試料の時期は、いずれも縄文時代後期初頭から前葉及びそれ以前と推定されている。ただし、試料1、2については、表土下10~20cmから出土し、上位からの混入の可能性も指摘される。また、試料8~10は、整地層1の中(8と10は上面から5cm下、9は上面から7cm下)より採取された。

(2) 測定の意義

遺構の年代を把握する。

(3) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- 1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- 2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- 3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- 4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

(6) 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

10点の測定結果には、明らかな年代差が認められる。このため、以下では推定される時期より新しい年代を示し、一部は上位から混入した可能性も指摘される試料1~3、8~10と、推定される時期に整合する結果となった試料4~7の2つに分けて記述する。

1) 試料1~3、8~10の年代

試料1の ^{14}C 年代は $80 \pm 20\text{yrBP}$ 、2は $180 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、1が1700~1916cal AD、2が1668~1950cal ADの間に各々複数の範囲で示され、さらに新しい年代となる可能性がある (表2下の注参照)。近世以降に相当し (佐原2005)、縄文時代後期初頭から前葉及びそれ以前とする推定よりも大幅に新しい年代となった。このため、調査所見として指摘されているように、

上位から新しい炭化物が混入した可能性を考慮する必要がある。

試料3の ^{14}C 年代は $870 \pm 20\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は1156~1215cal ADの範囲で示され、古代末から中世初頭頃に相当し (佐原2005)、これも推定より新しい年代が示された。

試料8~10は整地層1内から採取された試料で、 ^{14}C 年代は8が $1640 \pm 20\text{yrBP}$ 、9が $990 \pm 20\text{yrBP}$ 、10が $2790 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、8が386~426cal ADの範囲、9が999~1118cal ADの間に3つの範囲、10が976~904cal BCの範囲で示され、8は古墳時代中期頃、9は平安時代後半頃、10は縄文時代晩期中葉頃に相当する (小林編2008、佐原2005)。同じ層内から出土したにも関わらず、3点の間には大きな年代差があり、整地層1の表土下から浅い箇所で採取され、上位からの混入の可能性が指摘される試料1も合わせれば、さらに大きな年代の変異が認められることになる。整地層1の年代については、これらの年代値を手がかりにしながら、周辺の状況も考慮して層の形成過程を吟味し、判断する必要がある。

2) 試料4~7の年代

試料4~7の ^{14}C 年代は、 $3640 \pm 30\text{yrBP}$ (試料7) から $3610 \pm 30\text{yrBP}$ (試料6) の間にあり、すべて誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致する。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い7が2031~1956cal ADの範囲、最も新しい6が2020~1933cal ADの間に2つの範囲で示される。いずれも縄文時代後期前葉頃に相当し (小林編2008)、推定される時期の範囲内である。

以上、試料10点の測定結果を検討した。これらの試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- 佐原 廣 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, ウェルナー・シュタインハウス監修, 奈良文化財研究所編集, 日本の考古学上, ドイツ展記念概説, 学生社, 14-19
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (‰)
IAAA-141005	1	3号焼土 整地層1内	炭化物	AAA	-27.63 ± 0.56	80 ± 20	98.99 ± 0.28
IAAA-141006	2	2号焼土内	炭化物	AAA	-24.13 ± 0.25	180 ± 20	97.78 ± 0.28
IAAA-141007	3	5号焼土付近 整地層2上面	炭化物	AAA	-28.34 ± 0.52	870 ± 20	89.69 ± 0.28
IAAA-141008	4	6号焼土 整地層2上面	炭化物	AAA	-24.70 ± 0.60	3630 ± 30	63.66 ± 0.22
IAAA-141009	5	内帯SI4付近 遺構埋土	炭化物	AAA	-24.19 ± 0.40	3630 ± 30	63.61 ± 0.22
IAAA-141010	6	2号焼土下砂礫層 焼土内	炭化物	AaA	-25.20 ± 0.53	3610 ± 30	63.80 ± 0.21
IAAA-141011	7	7号土坑 埋土中位	炭化物	AaA	-26.70 ± 0.52	3640 ± 30	63.58 ± 0.21
IAAA-141386	8	整地層1内 上面から5cm下	炭化物	AaA	-26.14 ± 0.55	1640 ± 20	81.54 ± 0.25
IAAA-141387	9	整地層1内 上面から7cm下	炭化物	AaA	-24.63 ± 0.49	990 ± 20	88.37 ± 0.26
IAAA-141388	10	整地層1内 上面から5cm下	炭化物	AAA	-25.06 ± 0.62	2790 ± 30	70.67 ± 0.23

[#6764.6849]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (‰)			
IAAA-141005	120 ± 20	98.46 ± 0.26	81 ± 22	1700calAD - 1720calAD (18.5%)* 1818calAD - 1833calAD (13.0%)* 1880calAD - 1916calAD (36.7%)*	1694calAD - 1728calAD (24.8%)* 1812calAD - 1919calAD (70.6%)*
IAAA-141006	170 ± 20	97.96 ± 0.28	180 ± 22	1668calAD - 1681calAD (14.1%)* 1738calAD - 1755calAD (15.4%)* 1762calAD - 1782calAD (21.3%)* 1798calAD - 1803calAD (4.3%)* 1937calAD - 1950calAD (13.1%)*	1661calAD - 1690calAD (18.4%)* 1728calAD - 1810calAD (56.0%)* 1925calAD - ... (20.9%)*
IAAA-141007	930 ± 20	89.08 ± 0.26	874 ± 24	1156calAD - 1215calAD (68.2%)	1047calAD - 1088calAD (16.0%) 1122calAD - 1139calAD (3.7%) 1148calAD - 1222calAD (75.8%)
IAAA-141008	3,620 ± 30	63.70 ± 0.21	3,627 ± 27	2026calBC - 1951calBC (68.2%)	2121calBC - 2094calBC (5.3%) 2042calBC - 1907calBC (90.1%)
IAAA-141009	3,620 ± 30	63.72 ± 0.21	3,633 ± 27	2029calBC - 1954calBC (68.2%)	2127calBC - 2090calBC (9.0%) 2045calBC - 1917calBC (86.4%)
IAAA-141010	3,610 ± 20	63.77 ± 0.20	3,610 ± 26	2020calBC - 1993calBC (22.8%) 1983calBC - 1933calBC (45.4%)	2031calBC - 1896calBC (95.4%)
IAAA-141011	3,670 ± 20	63.36 ± 0.20	3,637 ± 26	2031calBC - 1956calBC (68.2%)	2129calBC - 2089calBC (10.9%) 2046calBC - 1923calBC (84.5%)
IAAA-141386	1,660 ± 20	81.35 ± 0.23	1,639 ± 24	386calAD - 426calAD (68.2%)	342calAD - 433calAD (84.1%) 490calAD - 532calAD (11.3%)
IAAA-141387	990 ± 20	88.43 ± 0.25	993 ± 23	999calAD - 1002calAD (1.9%) 1012calAD - 1043calAD (67.5%) 1106calAD - 1118calAD (8.8%)	990calAD - 1049calAD (71.7%) 1085calAD - 1125calAD (19.2%) 1137calAD - 1150calAD (4.5%)
IAAA-141388	2,790 ± 20	70.66 ± 0.21	2,788 ± 26	976calBC - 904calBC (68.2%)	1008calBC - 892calBC (88.9%) 878calBC - 848calBC (6.5%)

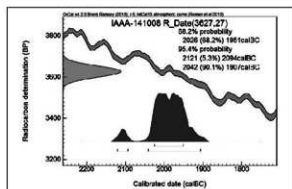
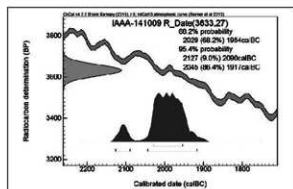
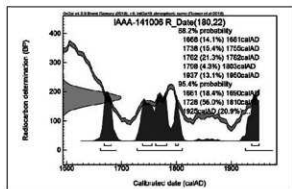
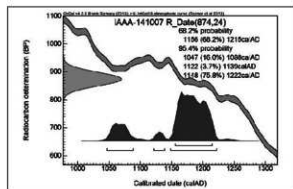
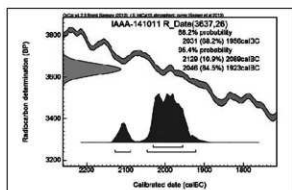
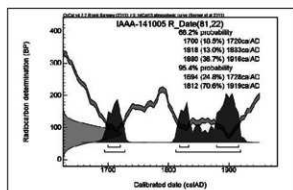
[参考値]

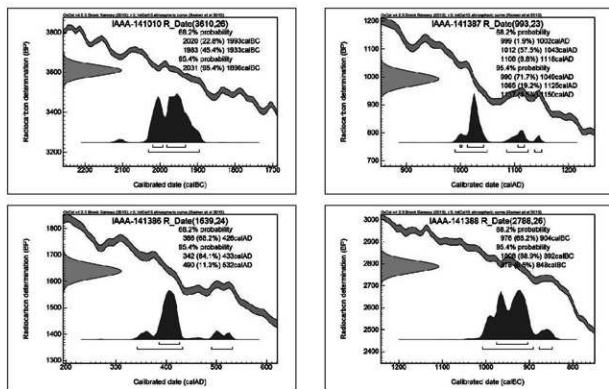
*Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

**Warning! Date probably out of range

(これらの警告は較正プログラムOxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。*、**の順にその可能性が高くなる。)





〔図版〕 暦年較正年代グラフ (参考)

2 平成27年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

西平内 I 遺跡は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割(北緯40°25'38"、東経141°40'45")に所在する。測定対象試料は、堅穴状遺構、柱穴、土坑から出土した炭化物10点である(表1)。いずれも縄文時代後期前葉頃と推定されている。

2~5、文献は省略

(6) 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料10点のうち⑤を除く9点の¹⁴C年代は、3930±30yrBP(試料⑥)から3670±30yrBP(試料⑦)の間にまとまる。暦年較正年代(1σ)は、最も古い⑥が2473~2349cal BCの間に3つの範囲、最も新しい⑦が2129~1981cal BCの間に3つの範囲で示され、全体として縄文時代後期初頭から前葉頃に相当する(小林編2008)。推定される時期におおむね一致するか、若干古いと見られる。

試料⑤の¹⁴C年代は900±20yrBP、暦年較正年代(1σ)は1046~1167cal ADの間に3つの範囲で示され、推定される時期より大幅に新しい値となっている。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果(δ¹³C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C(‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-151922	①	1号堅穴状遺構 埋土	炭化物	AAA	-26.48 ± 0.25	3,770 ± 30	62.53 ± 0.22
IAAA-151923	②	P007(柱穴) 埋土中位	炭化物	AAA	-28.20 ± 0.26	3,720 ± 30	62.93 ± 0.23
IAAA-151924	③	14号土坑 埋土中位	炭化物	AAA	-27.36 ± 0.29	3,800 ± 30	62.29 ± 0.23
IAAA-151925	④	15号土坑 埋土	炭化物	AAA	-26.38 ± 0.24	3,780 ± 30	62.47 ± 0.22
IAAA-151926	⑤	18号土坑 埋土中位	炭化物	AAA	-26.92 ± 0.28	900 ± 20	89.36 ± 0.28
IAAA-151927	⑥	21号土坑 埋土	炭化物	AaA	-29.74 ± 0.29	3,900 ± 30	61.34 ± 0.21
IAAA-151928	⑦	24号土坑 底面直上	炭化物	AAA	-27.51 ± 0.25	3,670 ± 30	63.35 ± 0.21
IAAA-151929	⑧	25号土坑 埋土底面近く	炭化物	AAA	-29.51 ± 0.26	3,730 ± 30	62.86 ± 0.21
IAAA-151930	⑨	26号土坑 埋土上位	炭化物	AAA	-25.56 ± 0.30	3,700 ± 30	63.10 ± 0.20
IAAA-151931	⑩	34号土坑	炭化物	AAA	-25.42 ± 0.28	3,730 ± 30	62.83 ± 0.22

[#7665]

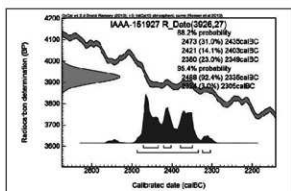
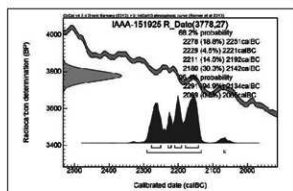
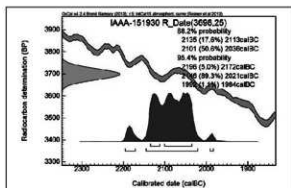
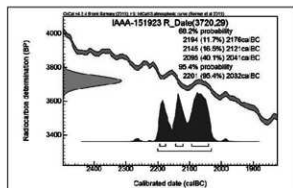
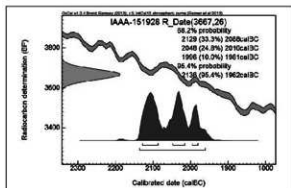
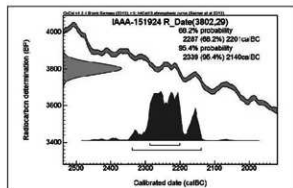
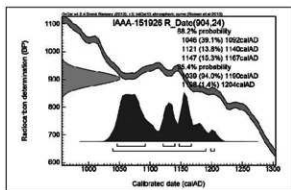
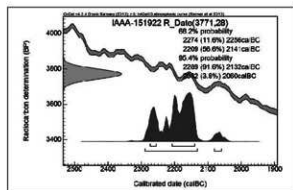
表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

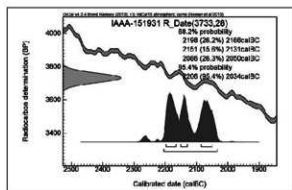
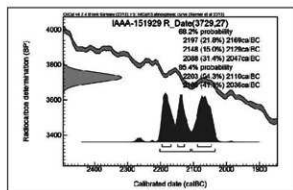
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-151922	3.800 \pm 30	62.35 \pm 0.22	3,771 \pm 28	2274calBC - 2256calBC (11.6%) 2209calBC - 2141calBC (56.6%)	2289calBC - 2132calBC (91.6%) 2082calBC - 2060calBC (3.8%)
IAAA-151923	3.770 \pm 30	62.52 \pm 0.23	3,720 \pm 29	2194calBC - 2176calBC (11.7%) 2145calBC - 2121calBC (16.5%) 2095calBC - 2041calBC (40.1%)	2201calBC - 2032calBC (95.4%)
IAAA-151924	3.840 \pm 30	61.99 \pm 0.22	3,802 \pm 29	2287calBC - 2201calBC (68.2%)	2339calBC - 2140calBC (95.4%)
IAAA-151925	3.800 \pm 30	62.30 \pm 0.21	3,778 \pm 27	2278calBC - 2251calBC (18.8%) 2229calBC - 2221calBC (4.5%) 2211calBC - 2192calBC (14.5%) 2180calBC - 2142calBC (30.3%)	2291calBC - 2134calBC (94.9%) 2069calBC - 2065calBC (0.5%)
IAAA-151926	940 \pm 20	89.01 \pm 0.27	904 \pm 24	1046calAD - 1092calAD (9.1%) 1121calAD - 1140calAD (13.8%) 1147calAD - 1167calAD (15.3%)	1039calAD - 1190calAD (94.0%) 1198calAD - 1204calAD (1.4%)
IAAA-151927	4.000 \pm 30	60.74 \pm 0.20	3,926 \pm 27	2473calBC - 2435calBC (31.0%) 2421calBC - 2403calBC (14.1%) 2380calBC - 2349calBC (23.0%)	2488calBC - 2335calBC (92.4%) 2324calBC - 2305calBC (3.0%)
IAAA-151928	3.710 \pm 30	63.02 \pm 0.20	3,667 \pm 26	2129calBC - 2088calBC (33.3%) 2048calBC - 2016calBC (24.8%) 1996calBC - 1981calBC (10.0%)	2136calBC - 1962calBC (95.4%)

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-151929	3.800 \pm 30	62.28 \pm 0.21	3,729 \pm 27	2197calBC - 2169calBC (21.8%) 2148calBC - 2129calBC (15.0%) 2088calBC - 2047calBC (31.4%)	2203calBC - 2110calBC (54.3%) 2105calBC - 2036calBC (41.1%)
IAAA-151930	3.710 \pm 20	63.03 \pm 0.19	3,698 \pm 25	2135calBC - 2113calBC (17.6%) 2101calBC - 2036calBC (50.6%)	2196calBC - 2172calBC (5.0%) 2146calBC - 2021calBC (89.3%) 1992calBC - 1984calBC (1.1%)
IAAA-151931	3.740 \pm 30	62.78 \pm 0.22	3,733 \pm 28	2198calBC - 2166calBC (26.2%) 2151calBC - 2131calBC (15.6%) 2086calBC - 2050calBC (26.3%)	2206calBC - 2034calBC (95.4%)

[参考値]





〔図版〕 暦年較正年代グラフ (参考)

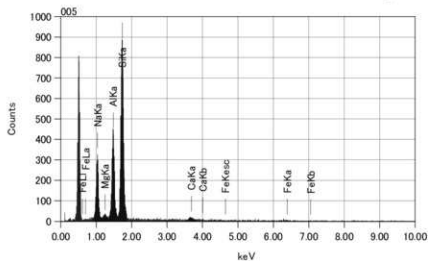
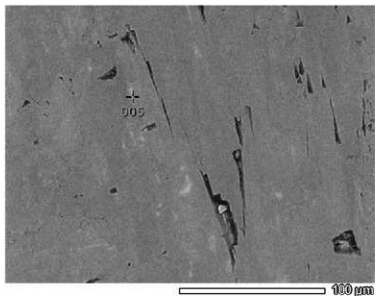
3 ヒスイ製垂飾品の鑑定結果

資料の半定量化学分析について

使用した機械	分析走査電子顕微鏡(SEM-EDS)に日本電子製 エネルギー分散型エックス線スペクトロメーターをつけた走査型電子顕微鏡 JSM-6510LV
分析条件	低真空モード
炭素蒸着	なし
加速電圧	15 kV
分析時間(リアルタイム)	120秒
ワーキングディスタンス	10mm
分析範囲	面分析 0.25mm×0.2mm
施設名	糸魚川市フォッサマグナミュージアム
分析年月日	2015年12月13日
分析者	宮島 宏(館長補佐)

視野010

1/1



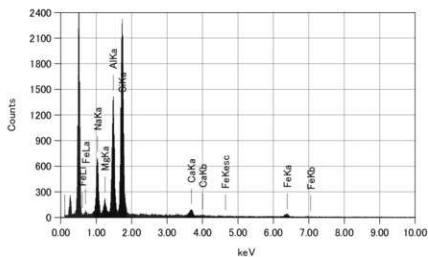
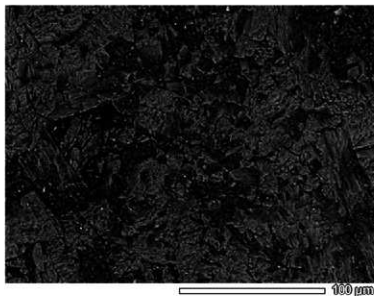
ZAF法 簡易定量分析(酸化物)
 フィッティング係数 : 0.5168
 全酸素数 : 6.0

元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		47.51						
Na	1.041	10.44	0.77	15.06	Na2O	14.08	0.92	20.3306
Mg	1.253	0.43	0.91	1.18	MgO	0.72	0.04	0.6967
Al	1.486	12.00	1.04	14.74	Al2O3	22.67	0.90	22.1682
Si	1.739	28.55	1.37	67.39	SiO2	61.07	2.05	54.3012
Ca	3.690	0.76	1.77	1.26	CaO	1.07	0.04	1.8598
Fe	6.398	0.31	4.65	0.37	FeO	0.40	0.01	0.6434
合計		100.00		100.00		100.00	3.96	

タイトル : IMG1
 装置 : 6510 (LA)
 加速電圧 : 15.00 kV
 倍率 : x 500
 測定日時 : 2014/02/08
 画素数 : 1024 x 768

測定条件 : 6510 (LA)
 装置名 : 15.0 kV
 加速電圧 : 15.00 kV
 照射電流 : 0.18625 nA
 PHAモード : T4
 経過時間 : 54.41 sec
 有効時間 : 35.61 sec
 デッドタイム : 34 %
 計数率 : 4602 cps
 エネルギー範囲 : 0 - 20 keV

西平内I遺跡石製品



タイトル	: IMG1
装置	: 6510 (LA)
加速電圧	: 15.00 kV
倍率	: x 500
測定日時	: 2015/12/13
画素数	: 1024 x 768

測定条件	: 6510 (LA)
装置名	: 15.0 kV
加速電圧	: 0.18625 nA
照射電流	: T4
PHAモード	: T4
経過時間	: 257.47 sec
有効時間	: 120.00 sec
デッドタイム	: 53 %
計数率	: 7837 cps
エネルギー範囲	: 0 - 20 keV

ZAF法 簡易定量分析(酸化物)
フィッティング係数: 0.5338

全酸素数: 6.0

元素	(keV)	質量%	誤差%	モル%	化合物	質量%	カチオン数	K
O		46.63						
Na	1.041	8.02	0.87	11.66	Na2O	10.81	0.72	15.0964
Mg	1.253	1.52	0.99	4.17	MeO	2.52	0.13	2.4598
Al	1.486	13.66	1.14	16.91	Al2O3	25.81	1.04	25.0499
Si	1.739	25.96	1.52	61.74	SiO2	55.53	1.89	48.4986
Ca	3.690	1.54	1.92	2.57	CaO	2.16	0.08	3.7751
Fe	6.398	2.47	5.06	2.95	FeO	3.18	0.09	5.1202
合計		100.00		100.00		100.00	3.94	

Ⅵ 総 括

1 調査経過のまとめ

野外調査1年目、縄文時代後期初頭から前葉の配石遺構群とそれに囲まれたように存在する2枚の整地層を確認し、当初は「配石遺構に囲まれた整地された広場」と報告した。この中央広場と思われた整地層を除去したところ、弧を描く石の列が現れはじめ、周辺の状況から直径25m前後の弧状をなすものと想定した。このことにより検出された配石遺構群は、石の集合体からなる外側のもの(外帯)と、整地層下から見つかった内側の石列(内帯)という二重構造をなすことが明らかとなった。出土遺物には、当該期の土器や土偶、鐸形・土製円盤、ミニチュア土器、焼けた粘土塊など、祭祀に関わるものが目立ち、石器では未製品を含む石斧の出土点数が多いという特徴が見られた。

2年目は、墓と考えた外帯の配石遺構毎の精査と、その内側に弧状に巡る内帯の性格を明らかにすべく調査を実施した。前者では、配石遺構の下部に埋葬施設とも思われる土坑を伴うものと、それを伴わずに礫が掘えられた凹みが複数認められるだけの二種が存在することが判明したが、墓とする根拠は得られなかった。一方、内帯の内側からは柱穴状の小土坑が2つ見つかっただけで、これもその性格に関わるものは得られなかった。この調査では、内帯の石列よりも確実に古い堅穴住居が複数棟検出され、配石遺構構築以前から構築時、それ以降の整地造成作業という一連の動きを追うことが出来た。

2 各種遺物の出土状況

調査で出土した土器の時期は、古い方から縄文時代早期中葉の貝殻文土器、縄文中期末～後期、主体となる後期初頭～前葉のいわゆる十腰内1式前後、弥生時代後期赤穴式だけである。既述のとおり、配石遺構群の時期である後期初頭から前葉期のものが大半を占める。その器種には深鉢形、壺形、浅鉢形などがあり、浅鉢や壺形土器には釣手(吊手)がつくものが比較的多く見受けられる。

土器以外の遺物の出土分布は第128～130図に示したとおりである。土偶をはじめ、鐸形土製品・土製円盤、ミニチュア土器、焼けた粘土塊などが、石製品では、石刀や石剣類、石製円盤などが出土した。中でも、ミニチュア土器には、胴部下端から底部外面にかけて小さな孔が通されているものがあり、特殊な用途が想定される。また、調査終盤には遺構外からではあったが、ヒスイ製の有孔垂飾品も1点出土し、これが副葬品であった可能性もあろう。このように、祭祀に関連すると言われる遺物が目立つ一方で、石斧や製作途中と思われる未製品、さらにその製作工具であろう敲石の出土点数が多かったことも特徴の一つであった。未製品には、石斧製作工程の各段階のものが見られることから、一連の石斧製作に関わる場であったと考えられよう。近年この地区に増加した発掘調査により、県境を跨いでこの周辺の縄文時代後期の遺跡にも石斧製作を思わせる遺跡が存在することが分かってきている。

また、調査開始当初は余り気にかけていなかったが、おぼしき程度の大きさの小礫が多く出土していた。いかにも海水で入念に洗われたこれらの石は、調査1年目の途中から意識され、2年目の調査では小判形をした土坑中から大量に発見されるに至った。形状は墓とも思える遺構である。このことに関連して、焼けた粘土の塊も出土した。大きさは先述の小石に近い。粘土の質がきめ細かく、触る

と柔らかめの感触を持つものとかかりかりに固いものがある（写真図版70）。小礫ほど多くの出土を見ないが、これらも祭祀に関連した遺物と考えている。

ここで、祭祀関連遺物の特徴を他の同種の遺跡と比較して述べる。土製円盤が多いことは上述したとおりだが、三角状土製品は見られない。土偶も数えるほどで、岩偶は出土していない。赤色顔料が付着する土器片も多数あったが、外帯の配石遺構群からの出土が特别多いというわけでない、などが挙げられる。

3 配石遺構群構成礫の石質

平成26・27年度調査とも、配石遺構群の内帯・外帯すべての礫について、野外調査時に外部機関による石質鑑定を行った。構成礫の総数は845個、うち内帯の構成礫は180個、外帯は665個で、石質は下記に記載したA～Sの19種がある。

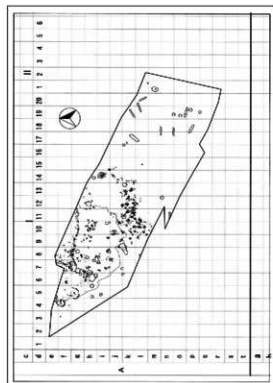
- A 砂岩
- B 花崗岩
- C 花崗閃緑岩
- D 閃緑岩
- E 玢岩（ひんがん）
- F デイサイト
- G 斑欄岩（はんれいがん）
- H ホルンフェルス
- I チャート類
- J 角閃石玢岩
- K 凝灰岩
- L 頁岩類
- M ベグマタイト
- N アブライト
- O 石英斑岩
- P 花崗斑岩
- Q 蛇紋岩
- R 斑岩
- S 溶結凝灰岩

外帯→665個中不明33個 対象632個17種

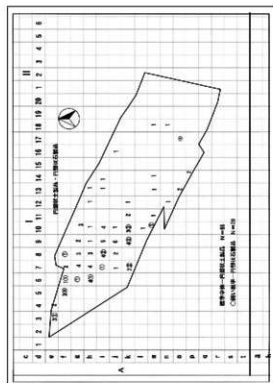
A：233個 B：106個 C：150個 D：7個 E：7個 F：29個 G：17個 H：8個
I：2個 J：2個 K：4個 L：8個 M：1個 N：52個 O：4個 P：1個
Q：1個 R：0個 S：0個

内帯→180個中不明11個 対象169個17種

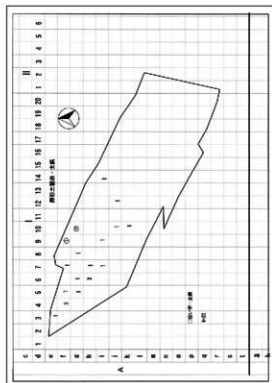
A：2個 B：118個 C：16個 D：1個 E：5個 F：7個 G：2個 H：2個
I：2個 J：1個 K：0個 L：1個 M：3個 N：0個 O：1個 P：6個
Q：0個 R：1個 S：1個



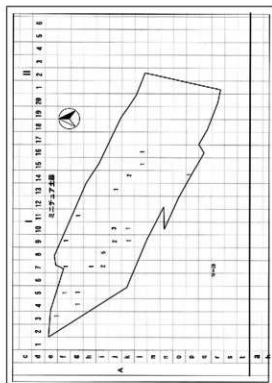
全体図



土器・石器出土

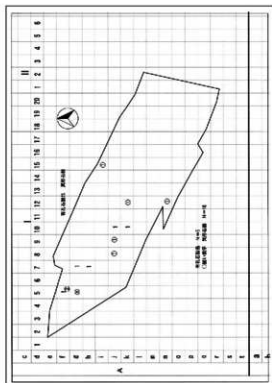
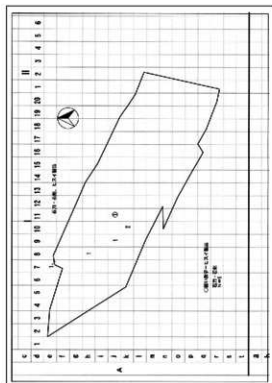
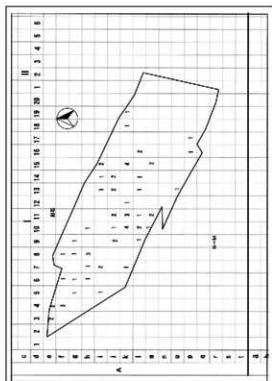
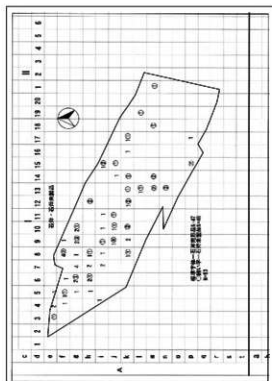


鐙形土製品・土器

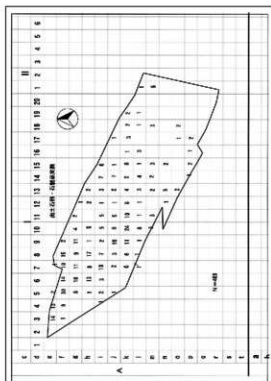
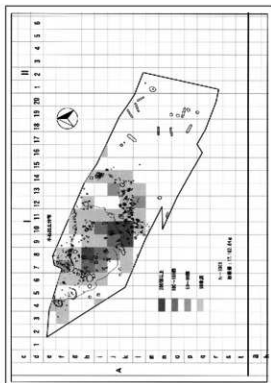
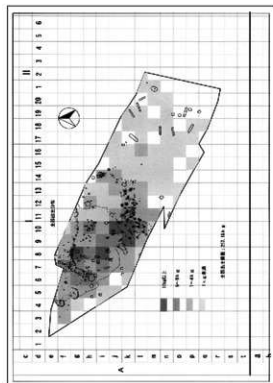


ミニチュア土器

第128図 遺物毎の出土分布(1)



第129図 遺物毎の出土分布(2)



第130図 遺物毎の出土分布(3)

まとめると、砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩の3種で625個、全体の78%を占め、構成礫のほとんどは海岸を含むこの周辺地域から調達した石が使われていたことが判明した。外帯では、礫の集合体の中に円礫ないし亜円礫が全体の1～2割程度混ざ込まれるような傾向が見られ、特に海岸付近から持ち込まれたと思われる小礫が目立つ。内帯ではそれがあまり見当たらず花崗岩が主となるが、その割合は全体の65%と高い。

4 遺構の重複関係とその内容

巻末の附図に遺構配置図を掲載した。地形的に見ると調査区の中央部はほぼ平坦で、南側に向けて緩やかな傾斜を持つが、配石遺構の外帯はこの平坦部から斜面地にかけて広がり、南東部に集中している。一方、内帯は調査区北側の整地層2枚の下から検出され、その内帯と外帯の間の空間には、竪穴住居や掘立柱建物、土坑、炉跡などが2年目の調査で確認された。中には、内帯よりも確実に古い竪穴住居（5号住居）が存在するなど、注目される重複関係も見られる。これらの遺構群のうち、いくつかをよく観察すると、全体の配置としては、弧状ないし環状をなす可能性が有ることが分かる。内帯とした石列の描く曲線、外帯の集石群の広がり、整地層の残る範囲、掘立柱建物の軸方向とそれらが向く方向。いずれをとっても「環」が意識され、まだ北側の調査区域外にそれぞれの遺構の広がりがあることが予想される。これにあたらぬ遺構としては、陥し穴状遺構と土坑群がある。前者は、調査区東側の埋没沢側に位置するものが大半で、配石遺構群のあるこの空間とは一線を画する。後者は不規則に配置されるように見えるが、部分的に見れば直線状に見えない部分がないわけではない。

ここで、調査で認識できた遺構群の重複事例についてまとめておく。あくまでも、遺構の間での切り合いを見るものであり、ここでは年代測定の結果はこれに反映させていない。初年度の調査開始当初、表土掘削を行っていた際に黄色土が表土直下に現れたが、これが整地層1であった。もっと下から出てくるはずの土であったためとりあえずこの面を残したが、本遺跡ではこれが2番目に新しい遺構となる。最も新しい遺構は、この上面で検出した焼土遺構2基である。よって、この整地層1の下から見つかった遺構のすべてはこれよりも確実に古い。整地層1が各種遺構を覆う範囲は、根尾状の平坦部とそこから西側ないし南側の肩部を廻り、最も標高の高い場所にある58号集石付近まで広がる。この整地層1に被覆されるか否かは、新旧を判断するひとつの目安となろうが、これに覆われる集石と覆われない集石があることについては、それが施された時期の差を示すものとはならない。

さて、ここに既述以外の直接切り合いがあって重複関係が判明している遺構について挙げてみる。

- ① 5号住居は内帯の石列よりも古い。
- ② 1号住居に重複する14号土坑群は住居より新しい。
- ③ 3号掘立柱建物は8号炉跡（周溝を伴う住居の炉とみて）より新しい。

上記①から③について、①は住居が内帯に付属するトゲ状の石列下にあることから、②は重複する箇所を断面観察から、③は住居の周溝と掘立柱建物を構成する柱穴との断面観察から判断した。これらをまとめてみると、概ね(1)～(4)のような大まかな流れが掴めるのではないかと。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) 竪穴住居跡の構築・廃棄 (2) 土坑群の構築 (3) 配石遺構の構築・掘立柱建物の構築 (4) 整地土で被覆する造成工事 |
|---|

これに、測定した¹⁴C実年代を当てはめてみる。

・ 竪穴住居跡構築と廃棄→縄文時代後期初頭
・ 土坑群の構築→縄文時代後期初頭から前葉
・ 配石遺構の構築・掘立柱建物の構築→縄文時代後期初頭から前葉
・ 整地土で被覆する造成工事→縄文時代晩期中葉か古墳時代中期か平安時代後半かあるいは現代ということになる。このような新旧関係と年代観からも、突如としてこの地に配石遺構がつくられる訳ではなく、それ以前にベースとなる集落が存在していたことが窺える。

繰り返しになるが、石斧とその未製品、製作工具であるハンマーが数多く見つかっている。剥離・整形→敲打→研磨という製作工程それぞれに属する段階のものが見られ、ここに石器製作工房が存在した可能性は高い。単純に、配石遺構が構築される以前の集落が石器製作に関わっていたと考えたが、根拠はない。また、単独の遺構として精査した炉跡が複数あったが、配石遺構群と同時期のものと考えべきか、あるいはそれ以前の集落の竪穴住居に付属する炉なのかの判断できなかった。住居の何らかの痕跡との組み合わせ、例えば、前述した8号炉跡と住居跡の周溝という明確なパターンがこの他には認められなかった。

最後に、内帯の石列と外帯の集石群についてであるが、これらが同時存在するかしないかは遺跡の内容を語る上で重要な問題である。

- ① 多くの人々の手によって、まず内帯の石列が環状に出来上がる。
 - ② この目標物を目指し、周辺に石の集合体をつくる。これは一斉に出来るわけではなく、徐々に増えていく。あたかも寺院の墓地区画がそうなるかのよう。
 - ③ 内帯である環状の石列周辺には、だんだんと外側の輪、外帯ができる。自然発生的な増え方であり、きちんとした環状はなさない。
 - ④ 最後は役割を終らせるためか、あるいは人々の目につかないようにするためか、これを覆いつくす必要が生じ、大土木工事を再度行った。但し、いつ誰が行ったかはわからない。
- といった、①～④のような経過を辿ったものと考えたい。

本遺跡が「太平洋側初の大規模配石遺構群」であることはほぼ確かであろうし、「配石遺構を覆う整地層」についても事例の少ない新たな成果であった。北東北に突如起こったであろう縄文時代後期初頭から前葉にかけての大きな出来事は、人々の生活に大きな変化をもたらしたことは想像に難くない。単純に「冷涼な気候」であったこともその要因の一つと考えられようが、実際はもっと複雑な状況ではなかったのか。

今回確認された配石遺構のうち、内帯のすべてと外帯の代表的な集石5基については、将来の移設・復元に備えるべく最新の三次元計測を行って、詳細な図面の作製およびデータの保管をしている。また、これらを構成した礎については旧角の浜小学校に保管し、洋野町教育委員会が管理していることを付け加えて、報告を締めくくりたい。

参考・引用文献

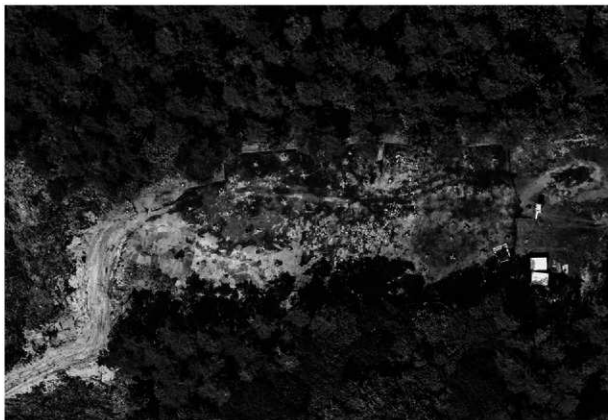
- 青森市教育委員会 1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書 第30集
- 青森県教育委員会 1984 『一ノ渡遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第79集
- 青森県教育委員会 2016 『平太摩遺跡・大草里遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第572集
- 秋田県教育委員会 1990 『西山地区農免費道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ 高屋船跡』 秋田県埋蔵文化財調査報告書 第198集
- 一戸町教育委員会 1993 『御所野遺跡Ⅰ-縄文時代中期の大集落跡』 一戸町埋蔵文化財調査報告書第32集
- 岩手県文化振興事業団 2001 『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
- 岩手県文化振興事業団 2011 『大平野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第576集
- 岩手県文化振興事業団 2013 『宇田沢田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第604集
- 鹿角市教育委員会 2010 『特別史跡 大湯環状列石ガイドブック』
- 北秋田市教育委員会 2011 『史跡伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書』 北秋田市埋蔵文化財調査報告書 第13集
- 北上市教育委員会 1969 『北上市稲瀬町榎山道路緊急調査報告書』 北上市文化財調査報告書 第7集
- 五所川原市教育委員会 2014 『五月菫遺跡の発掘調査成果について』『平成25年度五所川原市文化財講演会レジュメ』五所川原市教育委員会文化スポーツ課13湊発掘調査室
- 滝沢村教育委員会 1991 『湯舟沢Ⅱ遺跡-ストーンサークルの調査概要』
- 平川市教育委員会 2007 『大師森遺跡発掘調査報告書』 平川市埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 田野畑村教育委員会 2001 『館石野Ⅰ遺跡-縄文時代後期の列石遺構の調査』 田野畑村文化財調査報告書 第14集
- 種市町教育委員会 2005 『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ<角沢・伝吉・平内・麦沢(建沢)地区>』 種市町埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 種市町教育委員会 2004 『種市町立歴史民俗資料館収蔵資料図録Ⅰ考古編』 種市町立歴史民俗資料館
- 東和町教育委員会 2004 『清水屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書-縄文編』 東和町文化財調査報告書 第34集
- 平川市教育委員会 2007 『大師森遺跡発掘調査報告書』 平川市埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 森町教育委員会 2008 『鷺ノ木遺跡』 森町埋蔵文化財調査報告書 第14集
- 洋野町教育委員会 2013 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 陸前高田市教育委員会 1992 『門前貝塚』 陸前高田市文化財調査報告書 第16集
- 秋元信夫 1990 『環状列石と建物跡』『よねしろ考古』第6号 よねしろ考古学研究会
- 阿部昭典 2008 『縄文後期集落の形成と環状列石』『縄文時代の社会変動論』未完成考古学叢書6 (株)UM Promotion
- 阿部昭典 2008 『文化変化と縄文社会の変容-縄文時代中期から後期への変動-』『縄文時代の社会変動論』未完成考古学叢書6 (株)UM Promotion
- 阿部昭典 2014 『東北北部の環状列石と縄文後期社会』『平成26年度春季特別展 縄文! 岩手10000年のたび』大坂府立弥生文化博物館
- 榎本剛治 2005 『秋田県における湯舟沢A式土器の検討』『北奥の考古学』 葛西勲先生還暦記念論文集刊行会
- 榎本剛治 2008 『十腰内Ⅰ式土器』『総覧縄文土器』小林達雄編 (株)UM Promotion
- 鈴木克彦 1998 『東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・4』『縄文時代』9号
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣
- 鈴木克彦ほか 2008 『日本のストーンサークル』『季刊考古学』第101号 雄山閣
- 葛西勲ほか 2003 『切断面形土器(切断面土器)の研究』『市史研究青森』第6号
- 加納 博 1998 『環状列石に見る縄文人の美学(1997)-大湯型と小牧野型』『石にひかれて-噴火・地震から「どじょっこの頃」まで-』 秋田文化出版
- 熊谷常正 2004 『岩手県北部の配石遺構』『岩手考古学会第31回大会レジュメ』

- 児玉大成 2013 「小牧野遺跡-円形劇場を思わせる環状列石の広場」『別冊太陽』212 平凡社
- 小林 克 2014 「東北部縄紋時代祭祀・儀礼遺構のシンボリズムとその変遷-「性的原理」と「擬似的住居」-」『古代 第133号』P1~38 早稲田大学考古学会
- 鈴木克彦ほか 2008 「日本のストーンサークル」『季刊考古学第101号』雄山閣
- 滝本学 2005 「青森県における縄文時代の組石石棺墓について」『北奥の考古学』葛西勲先生選啓記念論文集刊行会
- 千田政弘 2013 「平内Ⅱ発掘調査報告書-町有地整備に伴う遺跡発掘調査」洋野町埋蔵文化財調査報告書 第1集 洋野町教育委員会
- 成田滋彦 1989 「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観4 後期・晩期・続縄文』小学館
- 古屋敷則雄 2005 「環状列石の設計図を求めて」『北奥の考古学』葛西勲先生選啓記念論文集刊行会
- 三浦孝一ほか 1999 「北日本における縄文時代の墓制資料集」南北海道考古学情報交換会・第20回記念シンポジウム実行委員会
- 山口義伸 2005 「大師森遺跡の立地環境について」『北奥の考古学』葛西勲先生選啓記念論文集刊行会

写 真 图 版



遺跡遠景（南上空から）



遺跡近景（直上から）



配石墓群全景（南東から）



調査区全景（南東から）

写真図版2 調査区近景



基本層序



整地層の堆積



整地層南北西A-A' (西から)

写真図版3 基本層序・整地層の堆積(1)



整地層東西ベルトD-D' 西側 (南から)



整地層東西ベルトD-D' 中央部 (南から)



整地層南北ベルト中央B-B' (西から)



整地層南北ベルト東C-C' (東から)



整地層東西ベルトD-D' 北面 (西から)



木根下の整地層堆積状況 (西から)



5号集石を覆う整地層 (東から)



内帯にかかる整地層の堆積 (西から)



1号土坑 全景 (西から)



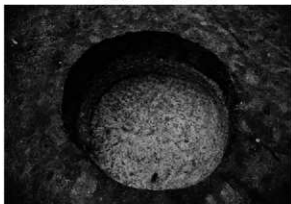
2号土坑 全景 (南西から)



1号土坑 埋土 (北から)



2号土坑 埋土 (西から)



3号土坑 全景 (南東から)



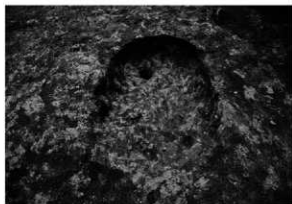
4号土坑 全景 (南東から)



3号土坑 埋土 (東から)



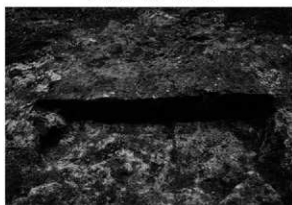
4号土坑 埋土 (東から)



5号土坑 全景 (南から)



6号土坑 全景 (南西から)



5号土坑 埋土 (南から)



6号土坑 埋土 (南から)



7号土坑 全景 (西から)



8号土坑 全景 (南東から)



7号土坑 埋土 (西から)



8号土坑 埋土 (東から)

写真図版 6 5～8号土坑



9号土坑 全景 (北西から)



10号土坑 全景 (南東から)



9号土坑 埋土 (南から)



10号土坑 埋土 (東から)



11号土坑 全景 (東から)



12号土坑 全景 (北から)



11号土坑 埋土 (北から)



12号土坑 埋土 (北から)



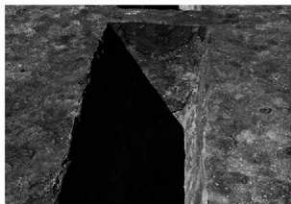
1号陥し穴 全景 (西から)



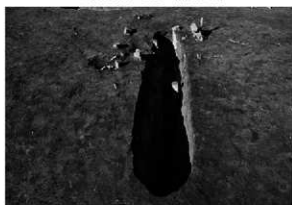
2号陥し穴 全景 (西から)



1号陥し穴 埋土 (南西から)



2号陥し穴 埋土 (東から)



3号陥し穴 全景 (東から)



4号陥し穴 全景 (北西から)



3号陥し穴 埋土 (東から)



4号陥し穴 埋土 (南東から)



5号陥し穴 全景 (南西から)



6号陥し穴 全景 (西から)



5号陥し穴 埋土 (東から)



6号陥し穴 埋土 (南西から)



7号陥し穴 全景 (西から)



8号陥し穴 全景 (東から)



7号陥し穴 埋土 (東から)



8号陥し穴 検出 (南西から)



9号陥し穴 全景 (東から)



10号陥し穴 全景 (北から)



9号陥し穴 埋土 (北東から)



10号陥し穴 埋土 (南東から)



11号陥し穴 全景 (東から)



12号陥し穴 全景 (南西から)



11号陥し穴 埋土 (南西から)



12号陥し穴 埋土 (南西から)



13号陥し穴 全景 (東から)



14号陥し穴 全景 (東から)



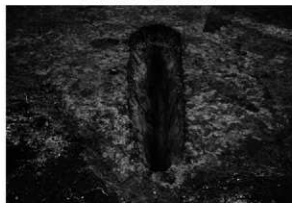
13号陥し穴 埋土 (西から)



14号陥し穴 埋土 (西から)



15号陥し穴 全景 (北から)



16号陥し穴 全景 (南東から)



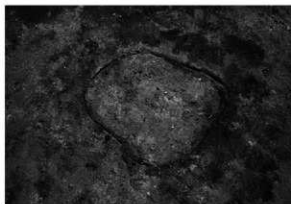
15号陥し穴 埋土 (南から)



16号陥し穴 埋土 (東から)



1号埋設土器 検出 (西から)



1号焼土遺構 検出 (西から)



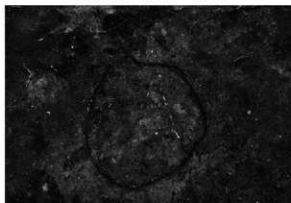
1号埋設土器 断ち割り (南西から)



1号焼土遺構 断ち割り (西から)



2号焼土遺構 検出 (西から)



3号焼土遺構 検出 (北西から)

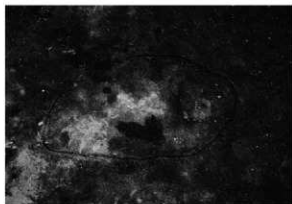


2号焼土遺構 断ち割り (東から)

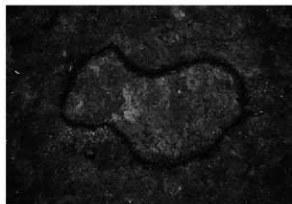


3号焼土遺構 断ち割り (北東から)

写真図版12 1号埋設土器、1～3号焼土遺構



4号焼土遺構 検出 (南西から)



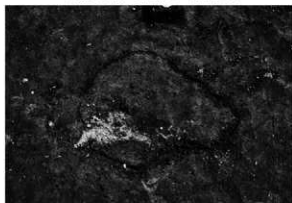
5号焼土遺構 検出 (南から)



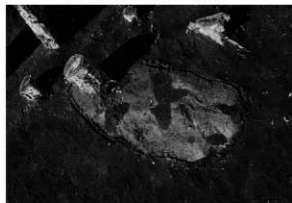
4号焼土遺構 断ち割り (北西から)



5号焼土遺構 断ち割り (南から)



6号焼土遺構 検出 (北から)



7号焼土遺構 検出 (東から)



6号焼土遺構 断ち割り (南から)



7号焼土遺構 断ち割り (東から)



調査区近景（東上空から） ※左上は隔上岳（種市岳）



内帯全景（東から）



内帯全景 (東から)



外帯の検出状況1 (東から)



平成27年度 現地公開の様子



同 検出状況2 (西から)



岩手・青森県境付近の海岸



1号竪穴住居跡 全景 (南から)



1号竪穴住居跡 埋土 (北から)



炉跡 全景 (南西から)



炉跡 断ち割り (西から)

写真図版16 1号竪穴住居跡



2号竪穴住居跡 全景 (北から)



2号竪穴住居跡 埋土 (西から)



炉跡 全景 (北から)



炉跡 断ち割り (西から)



3号竪穴住居跡 全景 (南から)



3号竪穴住居跡 埋土 (南西から)



炉跡 全景 (南東から)



炉跡 断ち割り (南東から)

写真図版18 3号竪穴住居跡



4号竪穴住居跡 全景 (南東から)



4号竪穴住居跡 埋土 (南から)



遺物出土状況1 (壺形土器)



遺物出土状況2 (石斧)



5号竪穴住居跡 全景 (南西から)



5号竪穴住居跡 埋土 (東から)



炉跡 断ち割り (南西から)



作業風景1



1号竪穴状遺構 全景 (南から)



1号竪穴状遺構 埋土 (西から)



作業風景 2



作業風景 3



13号土坑 全景 (西から)



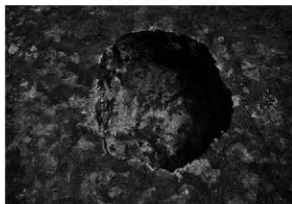
14号土坑 全景 (南西から)



13号土坑 埋土 (西から)



14号土坑 埋土 (西から)



15号土坑 全景 (南から)



16号土坑 全景 (東から)



15号土坑 埋土 (東から)



16号土坑 埋土 (東から)



17号土坑 全景 (東から)



18号土坑 全景 (南東から)



17号土坑 埋土 (東から)



18号土坑 埋土 (東から)



19号土坑 全景 (東から)



20号土坑 全景 (東から)



19号土坑 埋土 (北東から)



20号土坑 埋土 (東から)



21号土坑 全景 (南から)



21号土坑 遺物出土状況



21号土坑 埋土 (南から)



作業風景 4



22号土坑 全景 (南から)



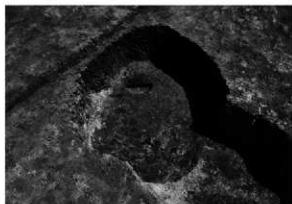
22号土坑 遺物(石斧)出土状況



22号土坑 埋土 (西から)



作業風景 5



23号土坑 全景 (南西から)



24号土坑 全景 (西から)



23号土坑 埋土 (西から)



24号土坑 埋土下位 (西から)



25号土坑 全景 (北から)



26号土坑 全景 (東から)



25号土坑 埋土 (東から)



26号土坑 埋土 (東から)



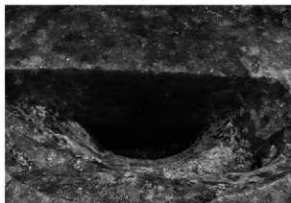
27号土坑 全景 (南から)



28号土坑 全景 (東から)



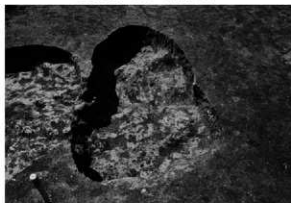
27号土坑 埋土 (東から)



28号土坑 埋土 (北東から)



29号土坑 全景 (南から)



30号土坑 全景 (北から)



29号土坑 埋土 (南から)



30号土坑 埋土 (東から)



31号土坑 全景 (北から)



32号土坑 全景 (北から)



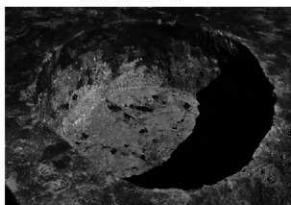
31号土坑 埋土 (西から)



32号土坑 埋土 (東から)



33号土坑 全景 (北から)



34号土坑 全景 (南から)



33号土坑 埋土 (東から)



34号土坑 埋土 (南東から)



35号土坑 全景 (東から)



36号土坑 埋土 (南東から)



35号土坑 埋土 (東から)



37号土坑 全景 (北西)



1号炉跡 検出 (南から)



2号炉跡 検出 (北から)



1号炉跡 断ち割り (西から)



2号炉跡 断ち割り (西から)



3号炉跡 検出 (北西から)



4号炉跡 検出 (北西から)



3号炉跡 断ち割り (北西から)



4号炉跡 断ち割り (南西から)



5号炉跡 検出 (南西から)



6号炉跡 検出(北から)



5号炉跡 断ち割り (南から)



6号炉跡 断ち割り (東から)



7号炉跡 断ち割り (東から)



8号炉跡 検出 (東から)



作業風景 7



8号炉跡 断ち割り (西から)



9号炉跡 検出 (北西から)



10号炉跡 検出 (北東から)



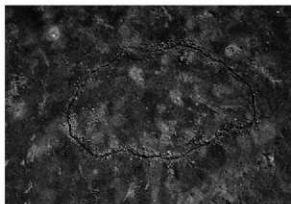
9号炉跡 断ち割り (北から)



10号炉跡 断ち割り (北から)



8号焼土遺構 検出 (南から)



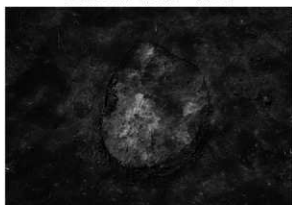
9号焼土遺構 検出 (北から)



8号焼土遺構 断ち割り (南から)



9号焼土遺構 断ち割り (南から)



10号焼土遺構 検出 (北から)



11号焼土遺構 検出 (南から)



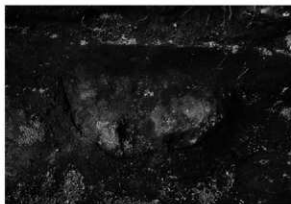
10号焼土遺構 断ち割り (西から)



11号焼土遺構 断ち割り (北から)



12号焼土遺構 検出 (南から)



13号焼土遺構 検出 (東から)



12号焼土遺構 断ち割り (西から)



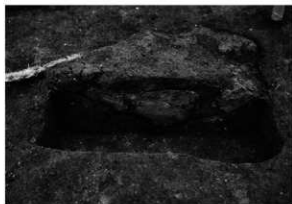
13号焼土遺構 断ち割り (東から)



14号焼土遺構 検出 (東から)



2号埋設土器 検出 (上から)



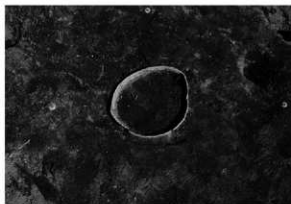
14号焼土 断ち割り (南西から)



2号埋設土器 断ち割り (南西から)



3号埋設土器 検出 (南から)



4号埋設土器 検出 (南から)



3号埋設土器 断ち割り (南東から)



4号埋設土器 断ち割り (南から)



西遠方に爾上岳・折爪岳を望む (北東から)



1・2号掘立柱建物跡 全景 (西から)



P001埋土 (東から)



P005埋土 (東から)



P009埋土 (東から)



P002埋土 (南から)

写真図版34 1・2号掘立柱建物跡



P003埋土 (南東から)



P006埋土 (東から)



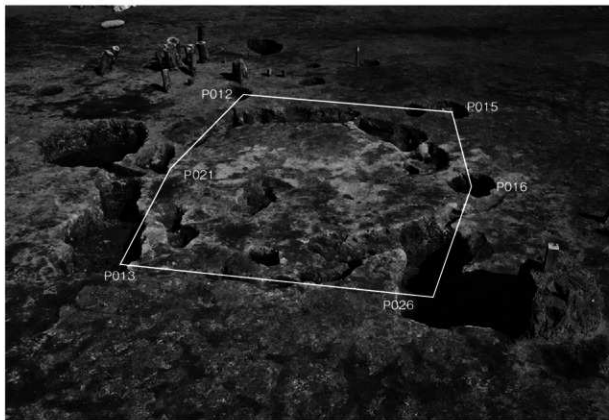
P004埋土 (南から)



P007埋土 (東から)



現地公開の様子



3号掘立柱建物跡 全景 (南から)



P012埋土 (東から)



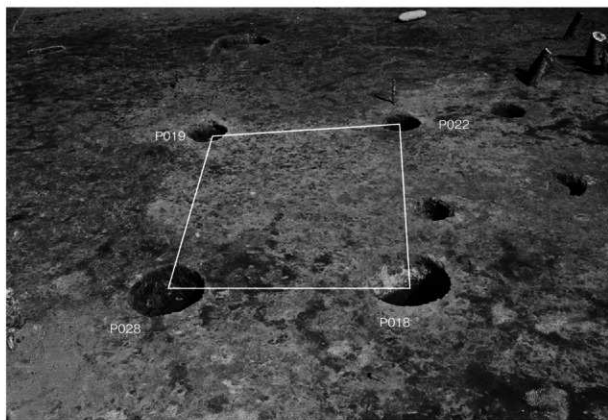
P016埋土 (東から)



P013埋土 (南から)



P026埋土 (南から)



4号掘立柱建物跡 全景 (南から)



P018埋土 (北から)



P022埋土 (東から)



P019埋土 (西から)



P028埋土 (東から)

写真図版37 4号掘立柱建物跡



1号集石 検出 (南から)



2号集石 検出 (南から)



2号集石 礫の掘り方 (南から)



2号集石 断ち割り (南から)



3号集石 検出 (南から)



4号集石 検出 (南から)



3号集石 礫の掘り方 (南から)



4号集石 断ち割り (西から)



5号集石 検出 (南から)



6号集石 検出 (南から)



5号集石 断ち割り (東から)



6号集石 断ち割り (南から)



6号集石下部土坑 埋土 (南から)



7号集石 検出 (南から)



6号集石下部土坑 全景 (南から)



7号集石下部土坑 全景 (南から)



8号集石 検出 (南から)



8号集石下部土坑 全景 (南から)



8号集石 断ち割り (南から)



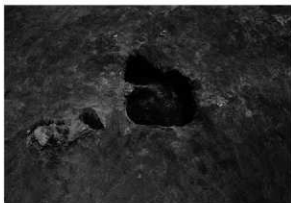
作業風景 8



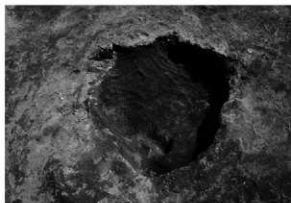
9号集石 検出 (南から)



10号集石 検出 (南から)



9号集石 検除去後掘り方 (南から)



10号集石下部土坑 全景 (南東から)



11号集石 検出 (南から)



12号集石 検出 (南から)



11号集石下部土坑 全景 (西から)



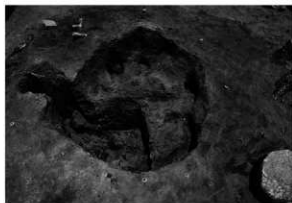
12号集石下部土坑内の壕 (東から)



12号集石下部土坑 全景 (南から)



13号集石 検出 (南から)



13号集石下部土坑 全景 (南から)



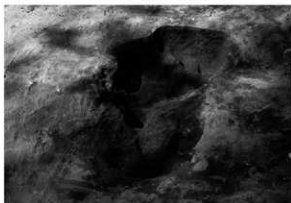
13号集石下部土坑 埋土 (西から)



14号集石 検出 (南から)



15号集石 検出 (南から)



15号集石下部土坑 全景 (南から)



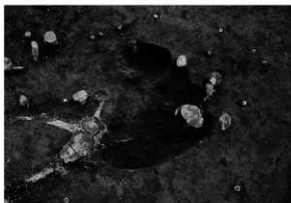
17号集石 検出 (南から)



16号集石 検出 (南から)



17号集石 断ち割り (南から)



16号集石下部土坑 全景 (南から)



17号集石下部土坑 全景 (南から)



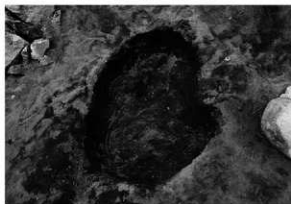
18号集石 検出 (南から)



20号集石 検出 (南から)



19号集石 検出 (南から)



20号集石下部土坑 全景 (南から)



21号集石 検出 (南から)



22号集石 検出 (南から)



作業風景9



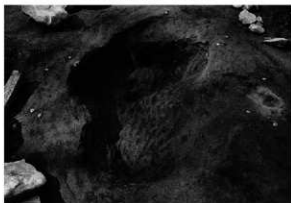
22号集石下部土坑 全景 (南から)



23号集石 検出 (南から)



24号集石 検出 (南から)



23号集石下部土坑 全景 (南から)



24号集石下部土坑 全景 (南から)



25号集石 検出 (南から)



26号集石 検出 (南から)



25号集石下部土坑 全景 (南東から)



作業風景10



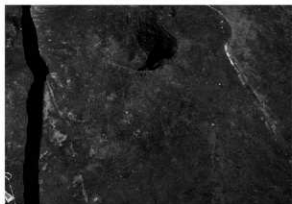
27号集石-1・2 検出 (南から)



28号集石 検出 (南から)



27号集石下部土坑 全景 (南から)



28号集石下部土坑 全景 (南から)



29号集石 検出 (南から)



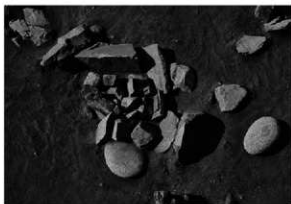
30号集石 検出 (南から)



29号集石下部土坑 全景 (南から)



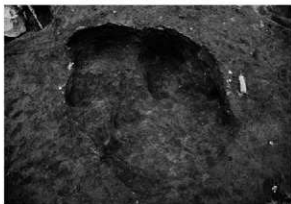
30号集石下部土坑 全景 (南から)



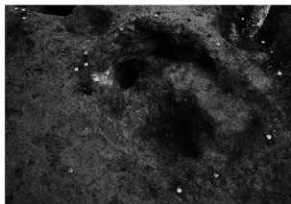
31号集石 検出 (南から)



32号集石 検出 (南から)



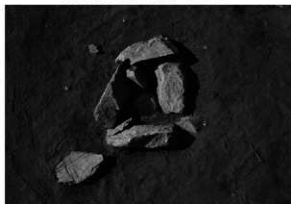
31号集石下部土坑 全景 (南から)



32号集石下部土坑 全景 (南から)



33号集石-1・2 検出 (南から)



34号集石 検出 (南から)



33号集石-1・2下部土坑 全景 (南から)



34号集石下部土坑 全景 (南から)



35号集石 検出 (南から)



36号集石-1・2 検出 (南から)



作業風景11



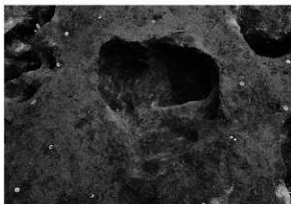
36号集石-1・2下部土坑 全景 (南から)



37号集石 検出 (南から)



38号集石 検出 (南から)



37号集石下部土坑 全景 (南から)



38号集石下部土坑 全景 (南から)



39号集石 検出 (南から)



40号集石 検出 (南から)



39号集石下部土坑 全景 (南から)



40号集石下部土坑 全景 (南から)



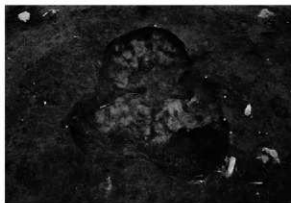
41号集石 検出 (南から)



42号集石 検出 (南から)



実測作業



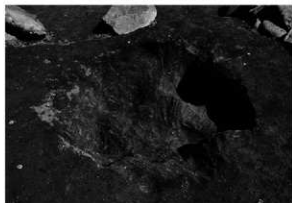
42号集石下部土坑 全景 (南から)



43号集石 検出 (南から)



44号集石 検出 (南から)



43号集石下部土坑 全景 (南から)



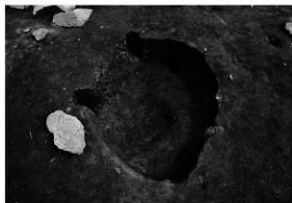
44号集石 断ち割り (南から)



44号集石 断ち割り (西から)



45号集石 検出 (南から)



44号集石下部土坑 全景 (南から)



45号集石下部土坑 全景 (南から)



46号集石 検出 (西から)



47号集石下部土坑 全景(南から)



47号集石 検出 (南から)



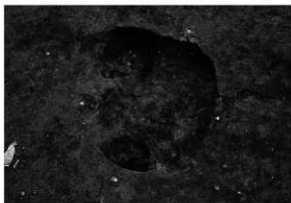
49号集石 検出 (南から)



48号集石 検出 (南から)



49号集石 断ち割り (南から)



48号集石下部土坑 全景 (南から)



49号集石下部土坑 全景 (南から)



50号集石 検出 (南から)



52号集石 検出 (南から)



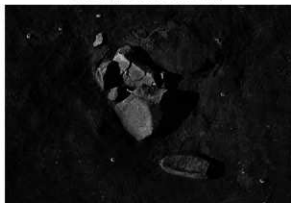
51号集石 検出 (南から)



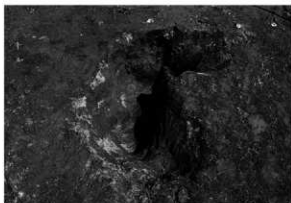
平成26年度の現地説明会の様子



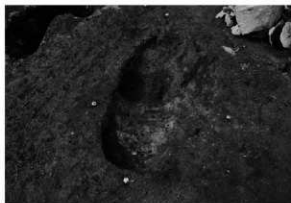
53号集石 検出 (南から)



54号集石 検出 (南から)



53号集石 様子の振り方 (南から)



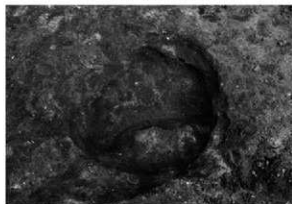
54号集石下部土坑 全景 (南から)



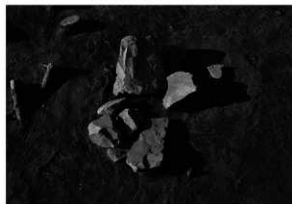
55号集石 検出 (南から)



56号集石 検出 (南から)



55号集石下部土坑 全景 (南から)



57号集石 検出 (南から)



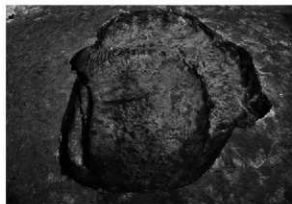
58号集石 検出 (南から)



58号集石下部土坑 埋土 (南東から)



58号集石 礎の振り方 (南から)



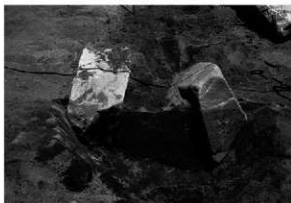
58号集石下部土坑 全景 (南から)



59号集石 全景 (南西から)



59号集石下部土坑 全景 (南から)



59号集石 断ち割り (南から)



石剣出土状況 1



石剣出土状況 2



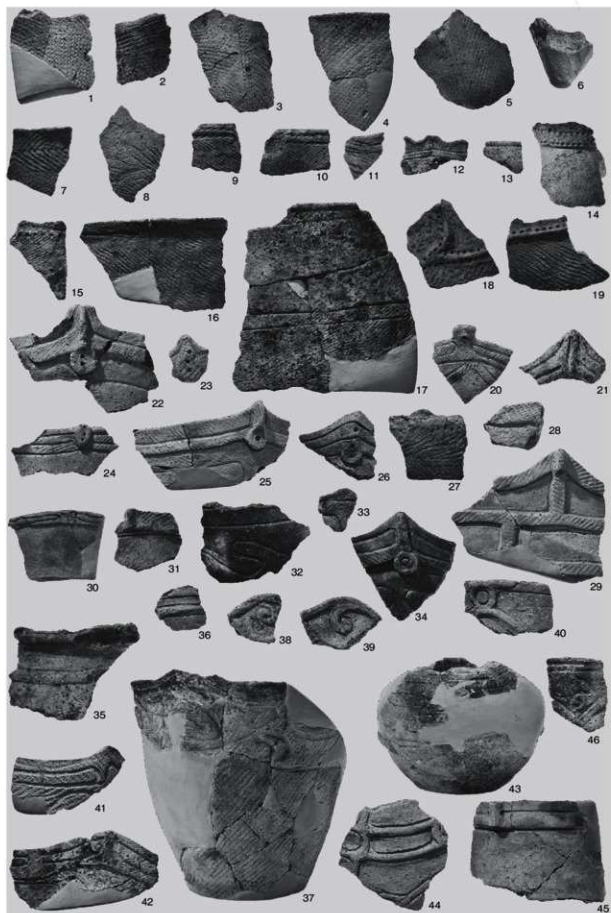
土器出土状況 1



土器出土状況 2 (1号住居跡床面出土)



土器出土状況 3



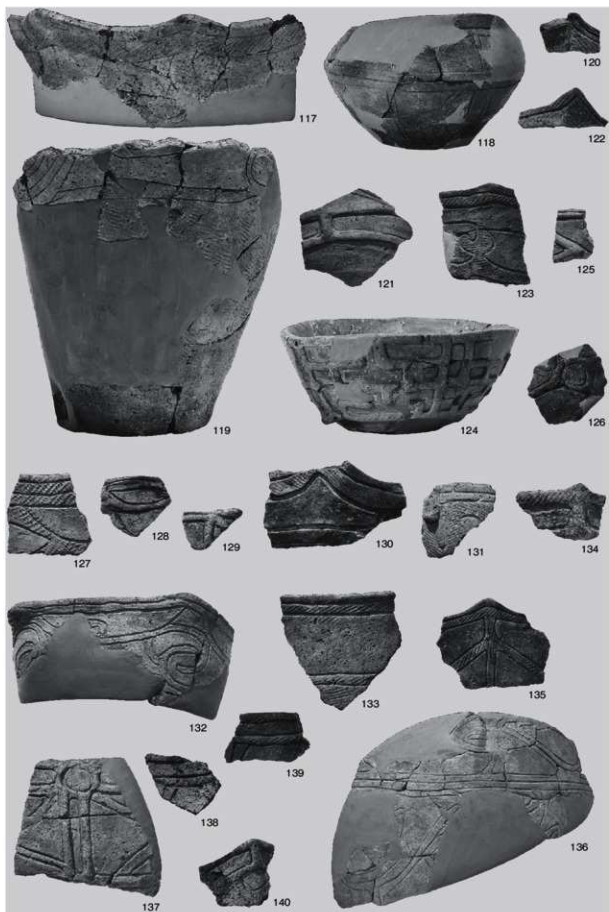
写真图版54 出土遺物(1)



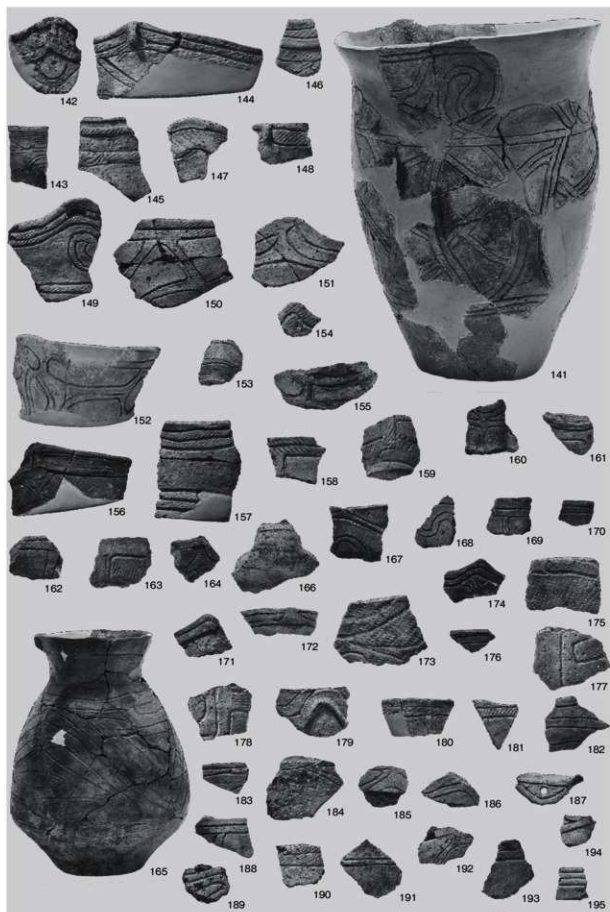
写真図版55 出土遺物(2)



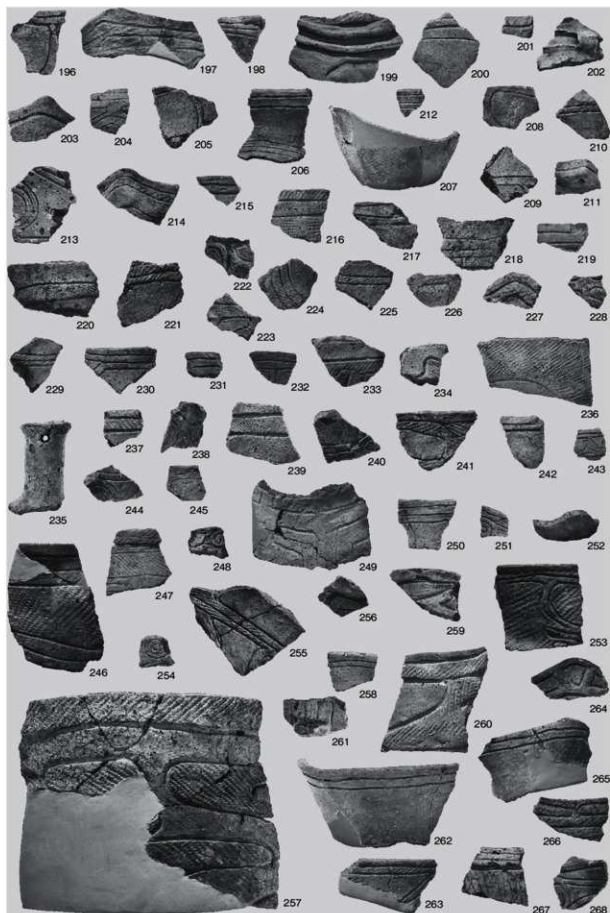
写真図版56 出土遺物(3)



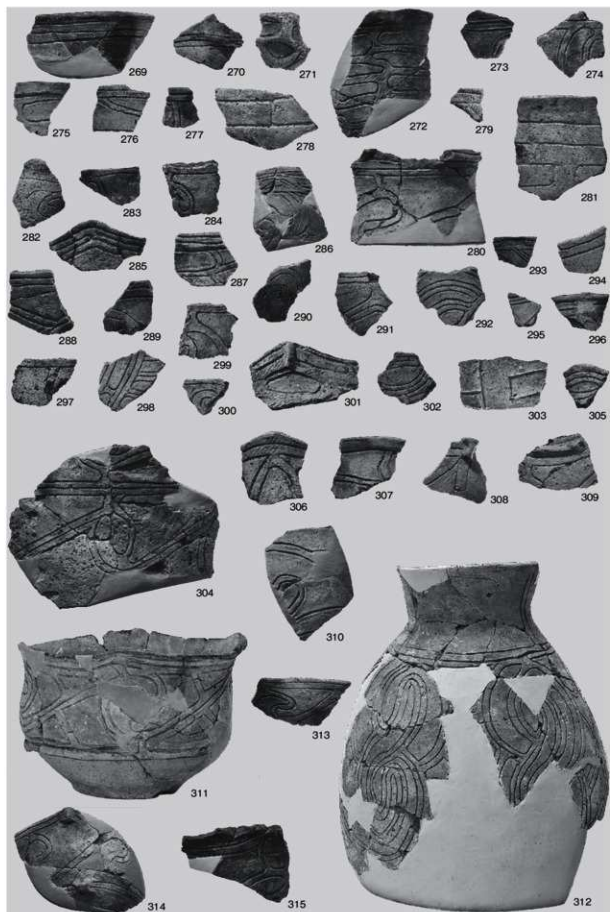
写真図版57 出土遺物(4)



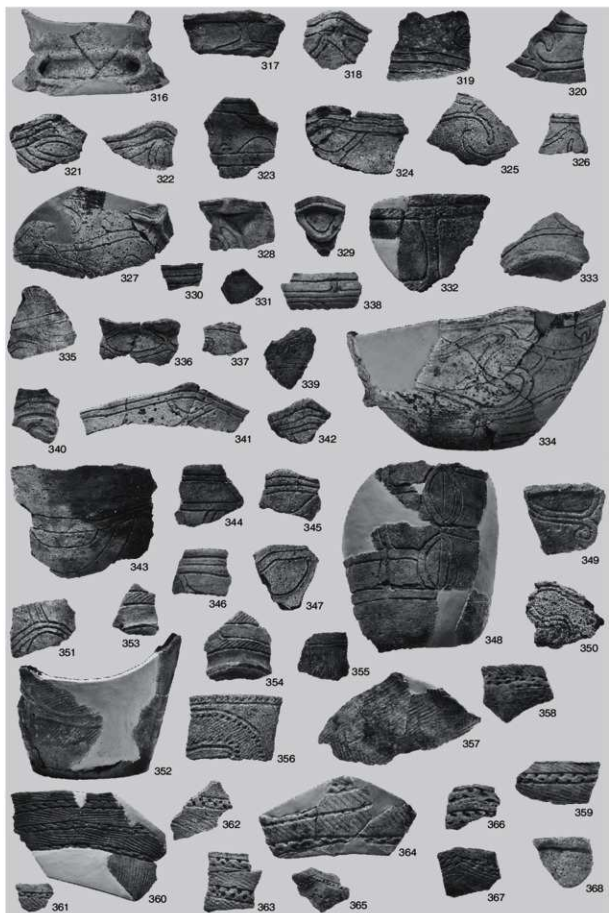
写真図版58 出土遺物(5)



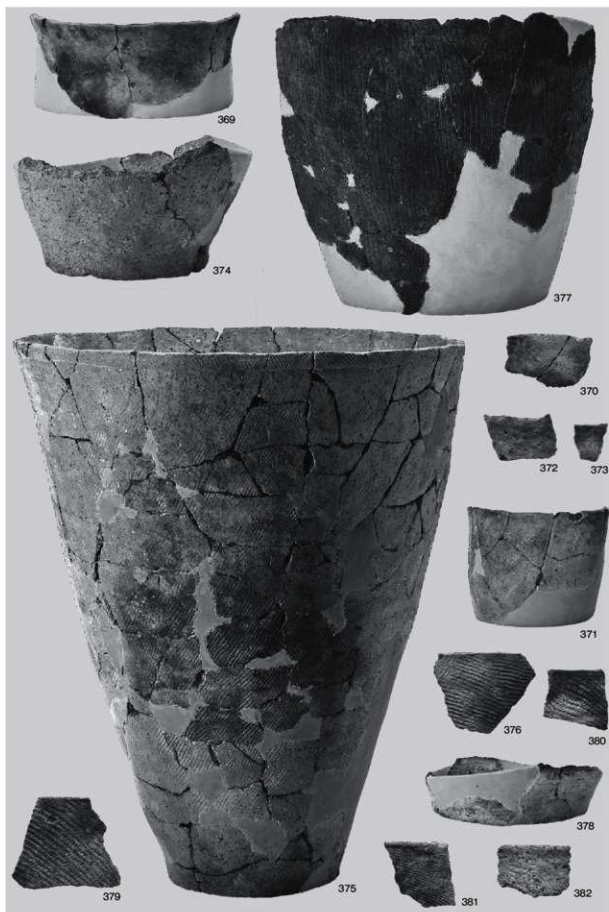
写真図版59 出土遺物(6)



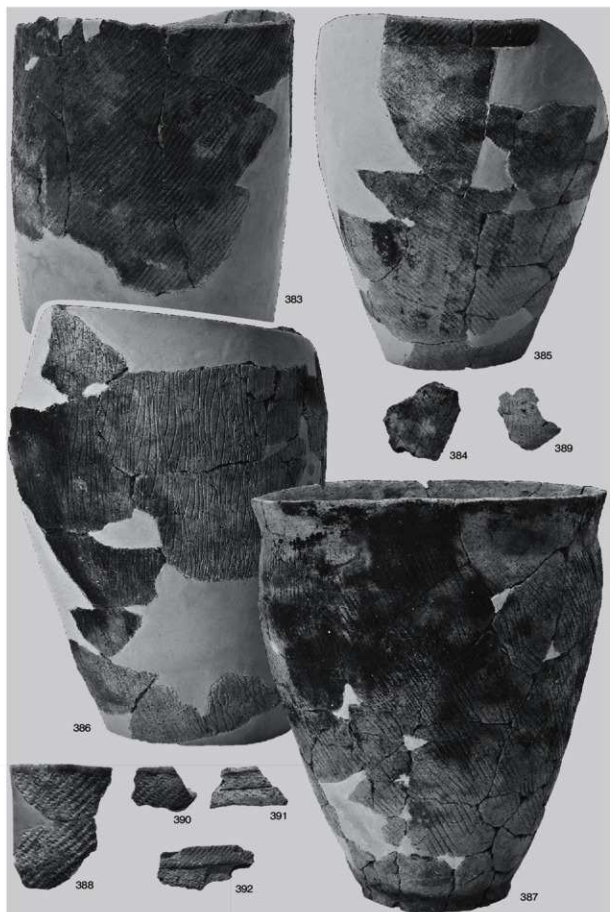
写真図版60 出土遺物(7)



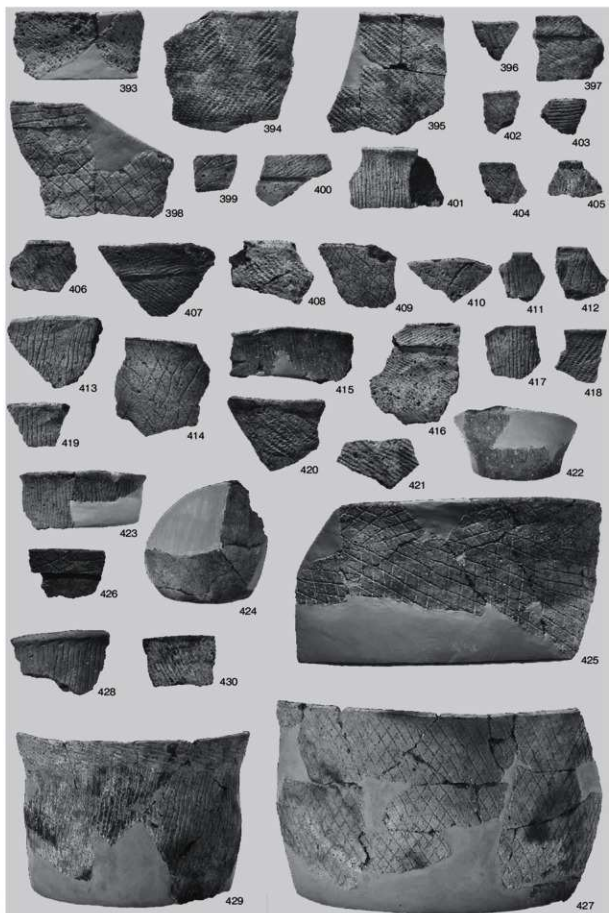
写真図版61 出土遺物(8)



写真図版62 出土遺物(9)



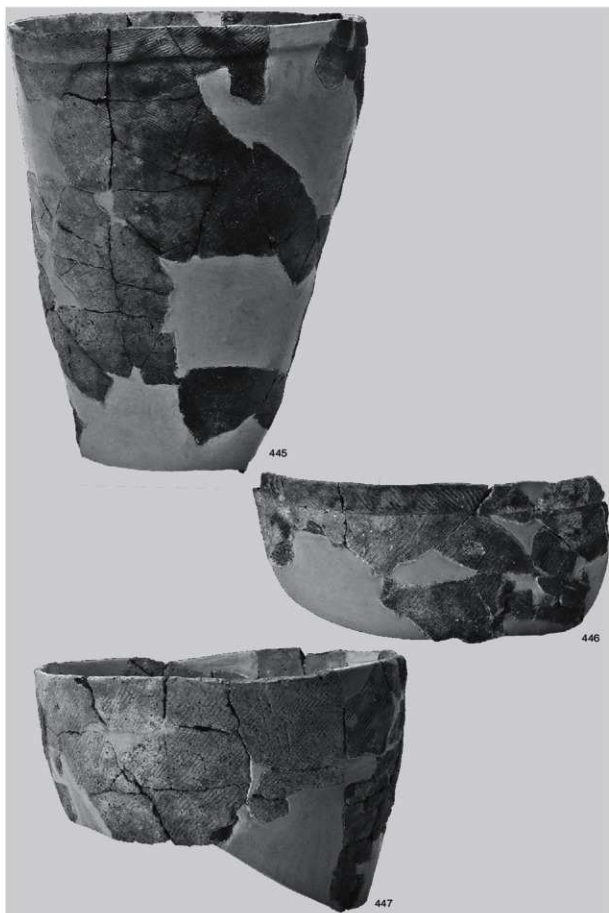
写真図版63 出土遺物(10)



写真図版64 出土遺物(11)



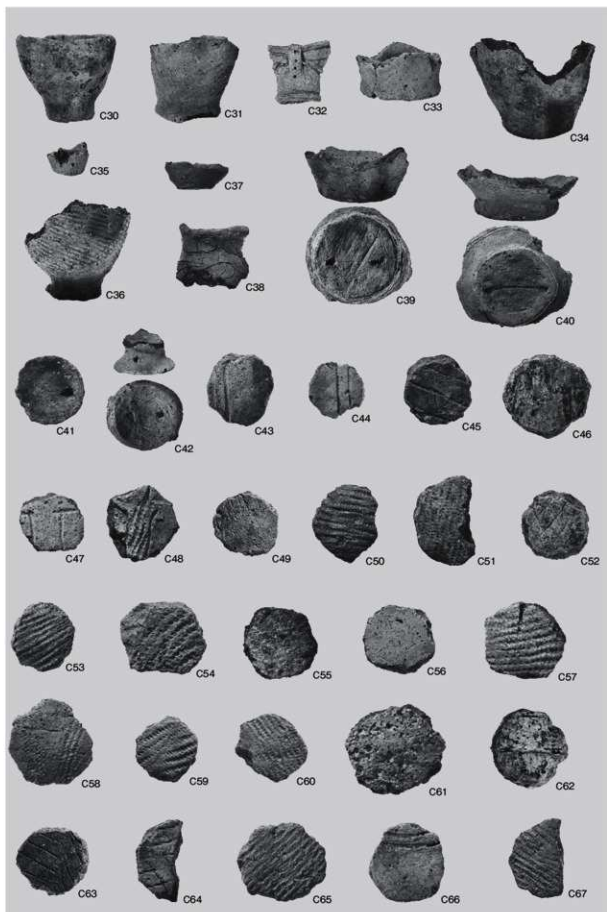
写真図版65 出土遺物(12)



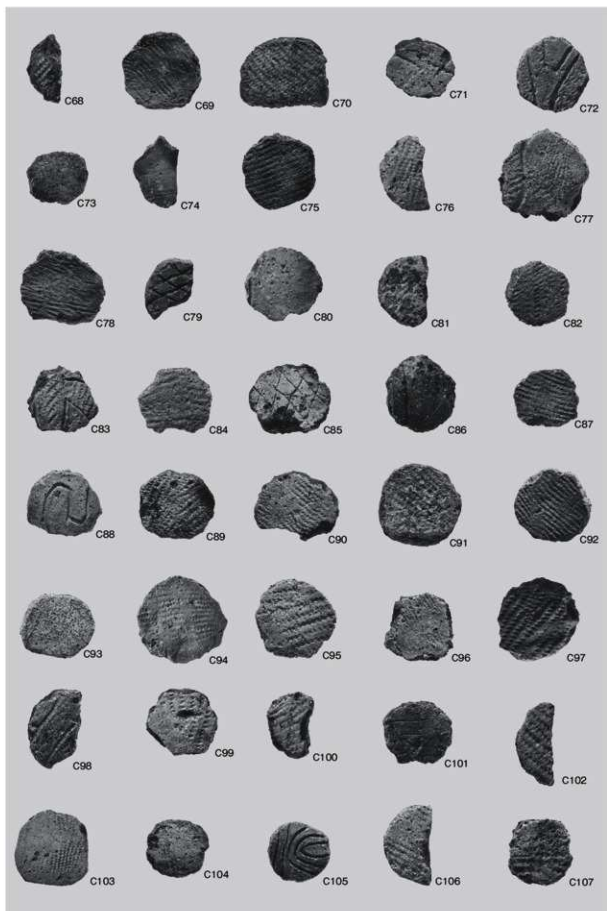
写真図版66 出土遺物(13)



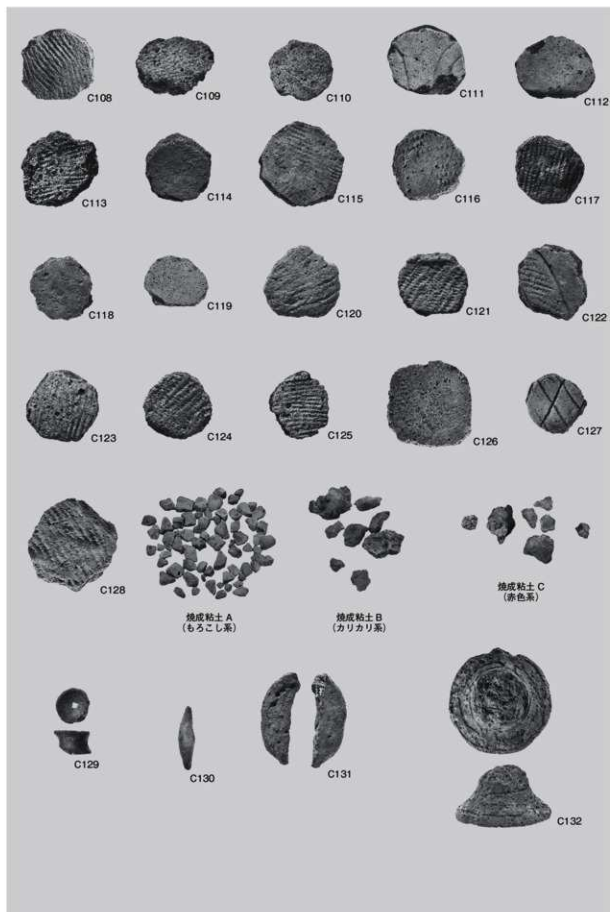
写真図版67 出土遺物(14)



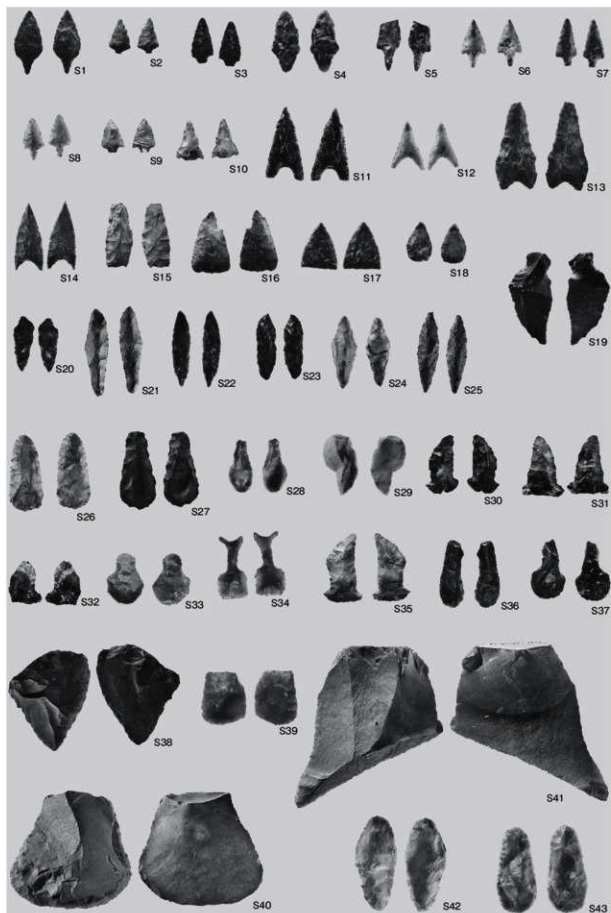
写真図版68 出土遺物(15)



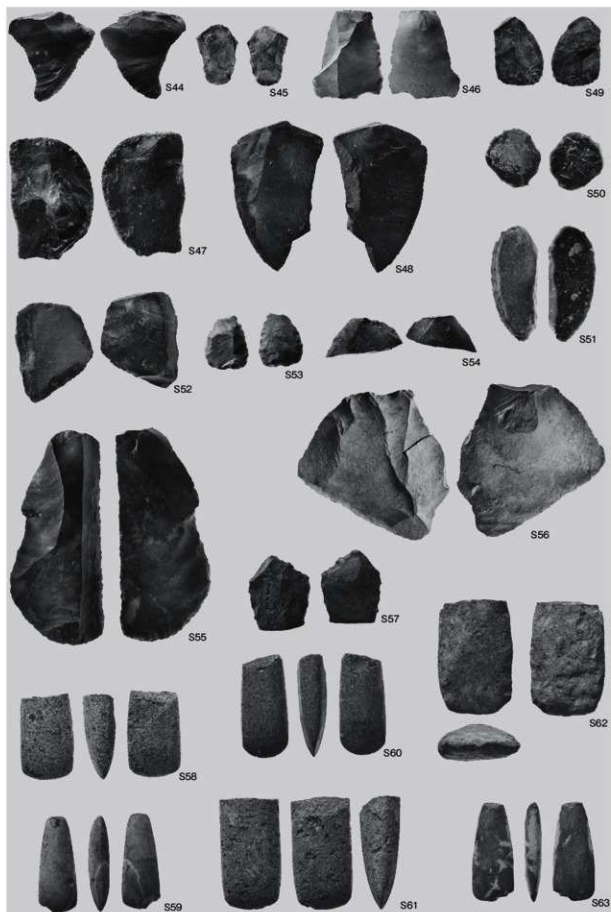
写真図版69 出土遺物(16)



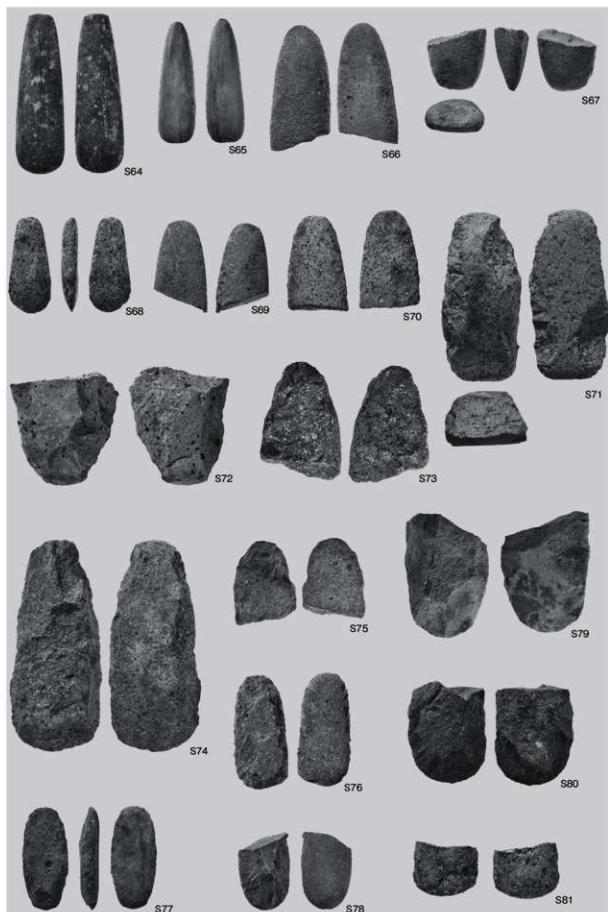
写真図版70 出土遺物(17)



写真図版71 出土遺物(18)



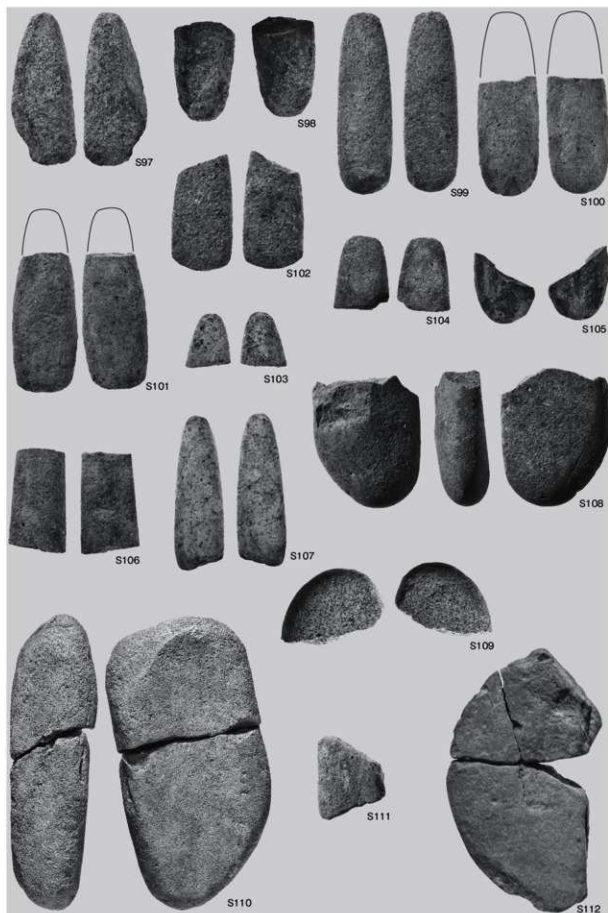
写真図版72 出土遺物(19)



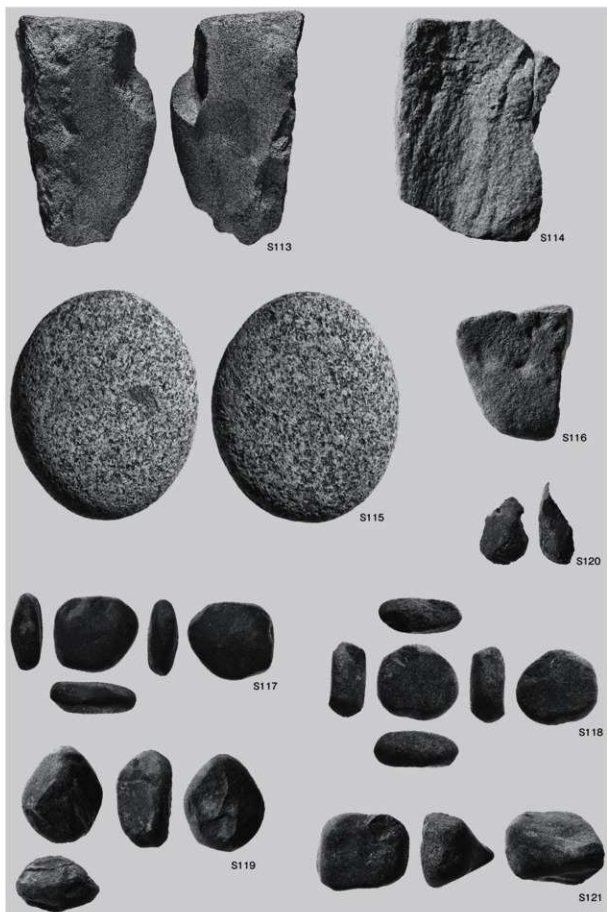
写真図版73 出土遺物(20)



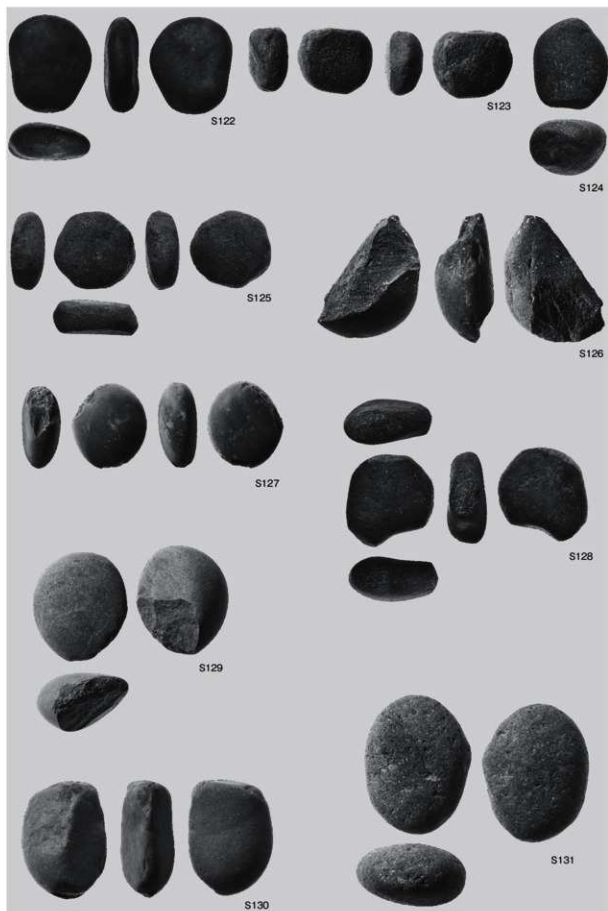
写真図版74 出土遺物(21)



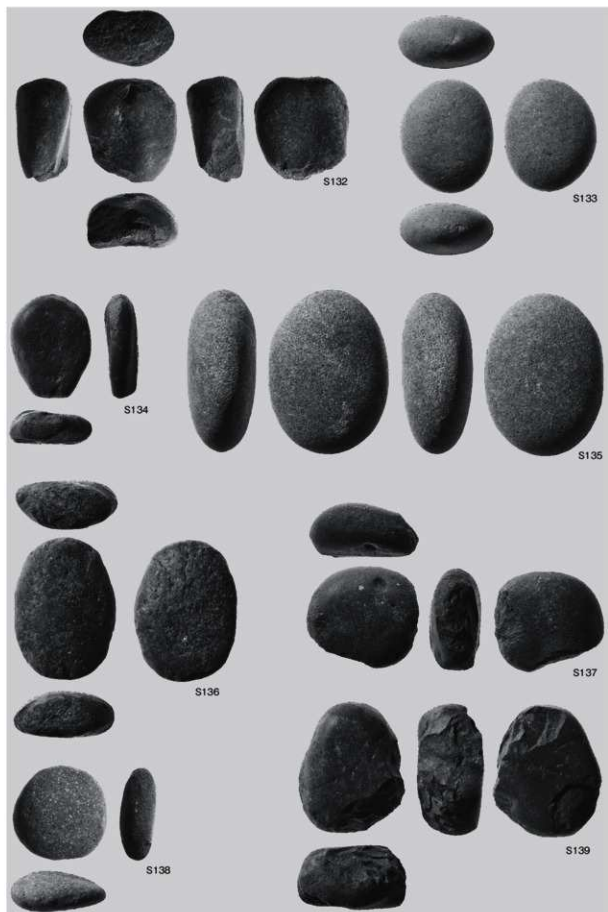
写真図版75 出土遺物(22)



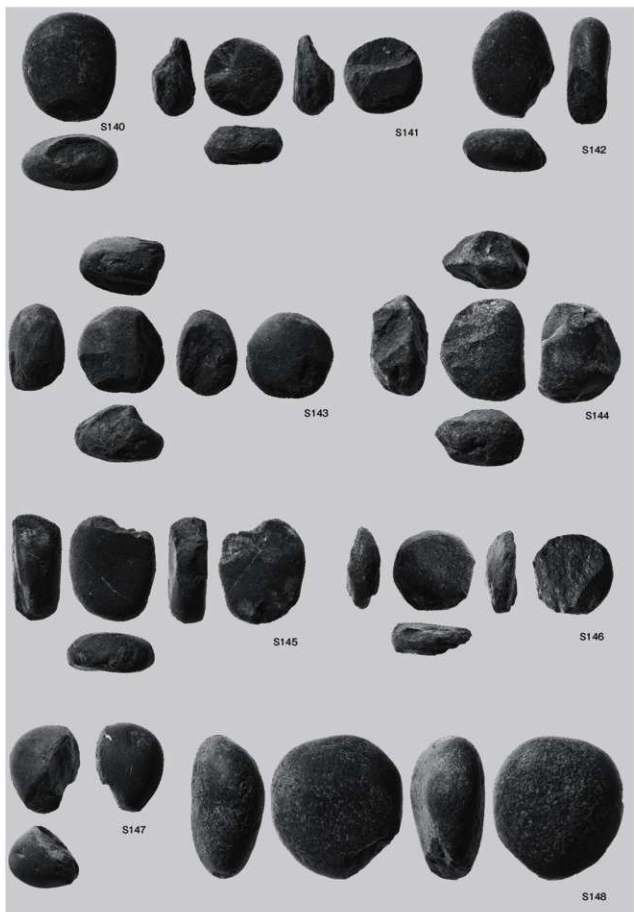
写真図版76 出土遺物(23)



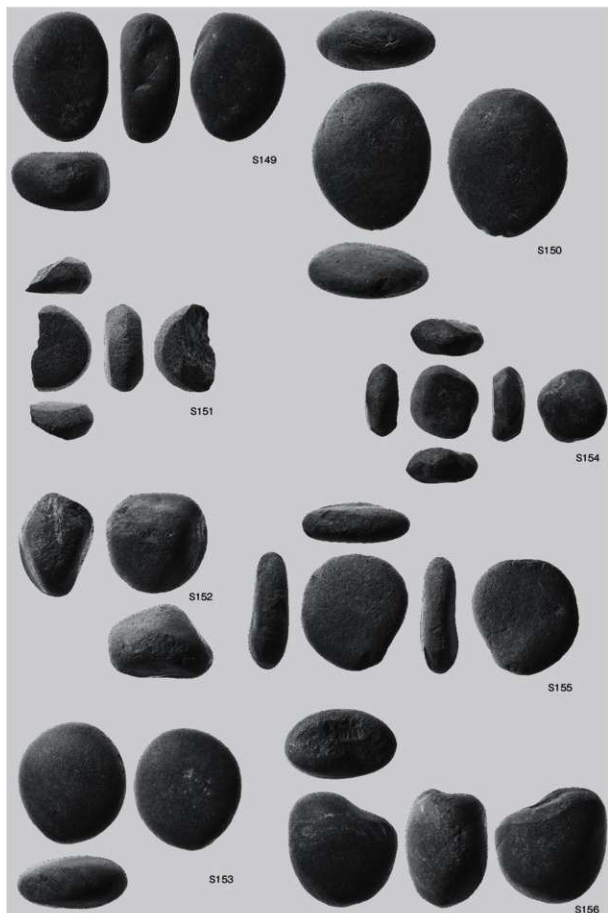
写真図版77 出土遺物(24)



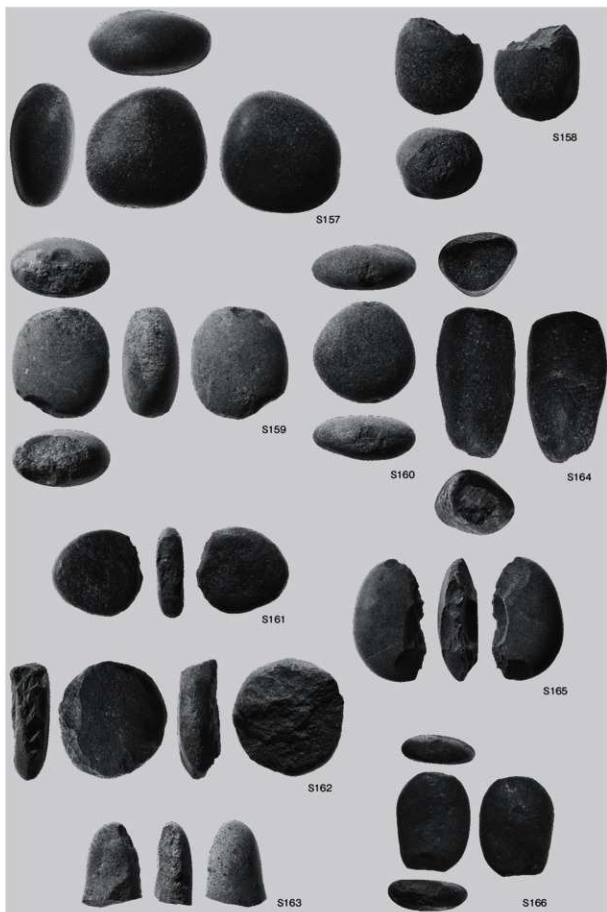
写真図版78 出土遺物(25)



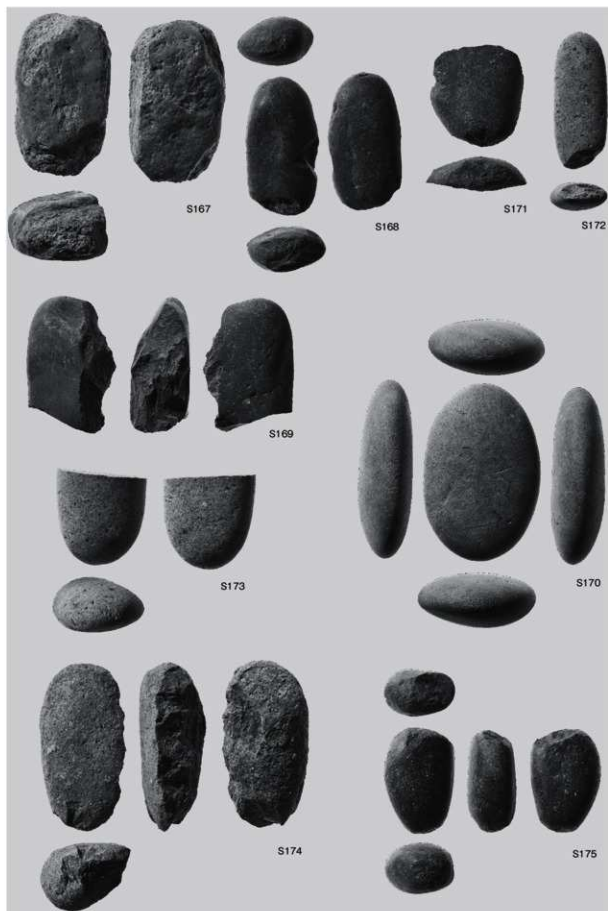
写真図版79 出土遺物(26)



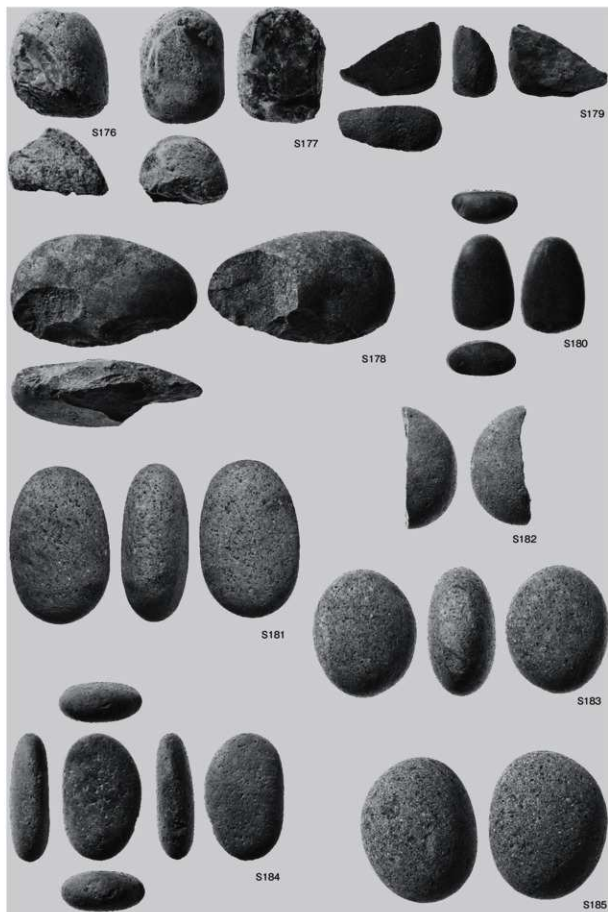
写真図版80 出土遺物(27)



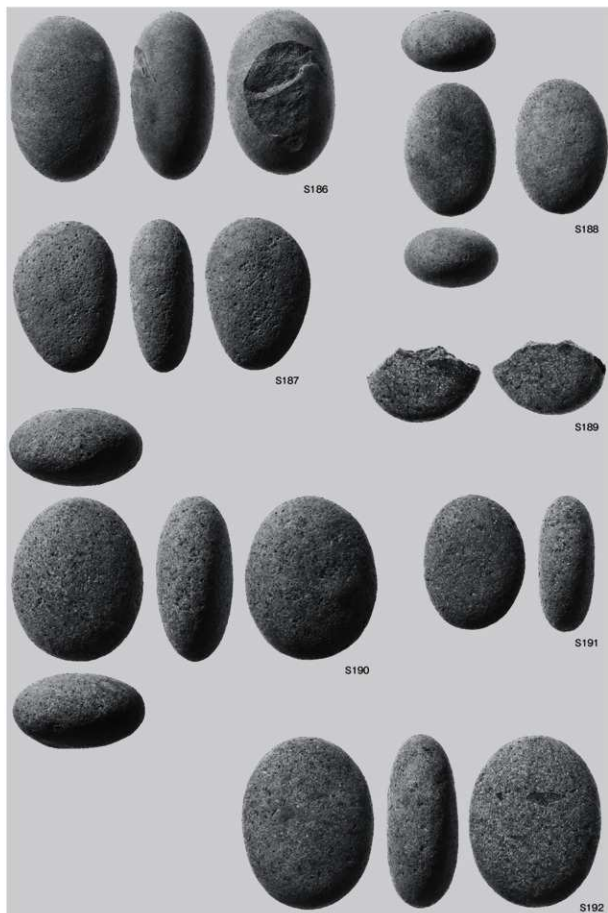
写真図版81 出土遺物(28)



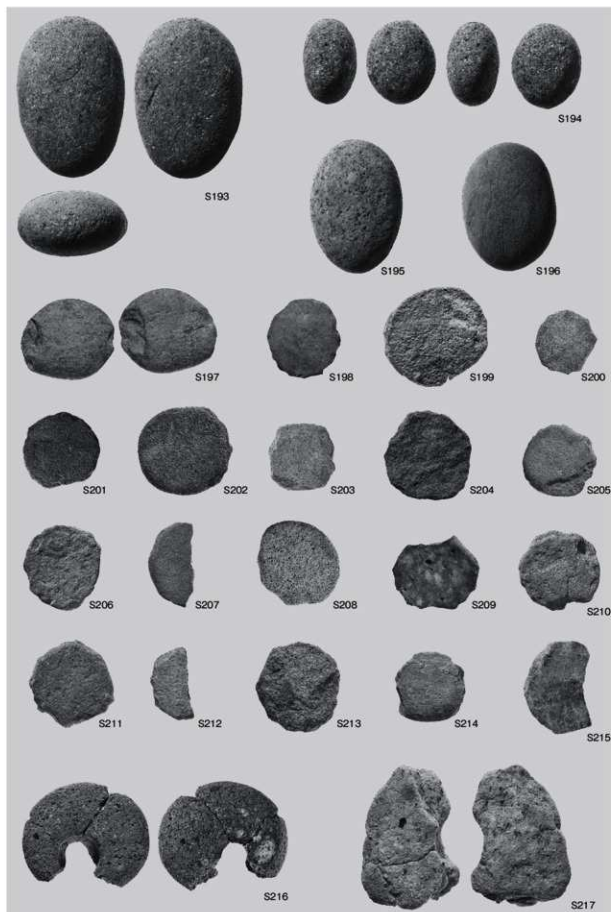
写真図版82 出土遺物(29)



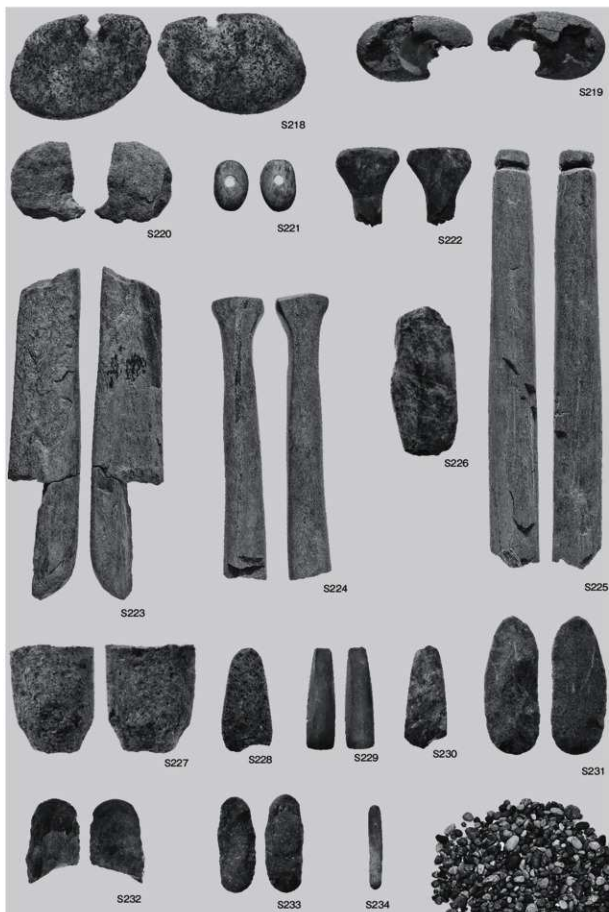
写真図版83 出土遺物(30)



写真図版84 出土遺物(31)



写真図版85 出土遺物(32)



写真図版86 出土遺物(33)

報告書抄録

ふりがな	にしひらないいせきはつつちょうさほうこくしょ							
書名	西平内I遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第673集							
編著者名	濱田宏・宮内勝巳・藤田崇志・川村均							
調査機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2017年3月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしひらないいせきはつ 西平内I遺跡	いわてけんくわのへつち 岩手県九戸郡 洋野町植木市第 37地割地内	03507	IF480041	39度 31分 23秒	141度 55分 44秒	2014.06.02 ～ 2014.11.28 2015.04.20 ～ 2015.10.02	5,500㎡	三陸沿岸 道路道路 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
西平内I遺跡	散布地	縄文時代 後期 初頭～前 葉	竪穴住居跡 5棟 竪穴状遺構 1棟 掘立柱建物跡 5棟 陥し穴状遺構 16基 土坑 37基 焼土遺構 14基 炉跡 10基 埋設土器 4基 柱穴 10個 配石遺構(外帯集石群)62基 配石遺構(内帯石列)1基 整地層 2枚			縄文土器 (早・前・ 後期)、石 器、土・ 石製品	石斧の製作に関わ る集落でもあった。	
		弥生時代				弥生土器 (後期)		
要約	岩手県九戸郡洋野町に所在する本遺跡からは、縄文時代後期初頭から前葉の配石遺構群と2枚の整地層を確認し、さらにその整地層の下からは直径25m前後の弧状をなす石列を検出した。また、これらは複数の石の集合体からなる外側のものと、整地層下の内側に弧状に巡る石列という二重構造をなすことが判明した。出土遺物には、当該期の土器や土偶、鐙形・円盤状の土製品、ミニチュア土器、焼けた粘土塊など、祭祀に関わるものが目立ち、石器では未製品を含む石斧の出土点数がきわめて多いという特徴が見られた。2年目の調査では、内帯の石列よりも確実に古い竪穴住居が複数棟確認され、配石遺構構築以前から構築時までの様相が明らかとなり、貴重な成果となった。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

西平内 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成29年3月10日

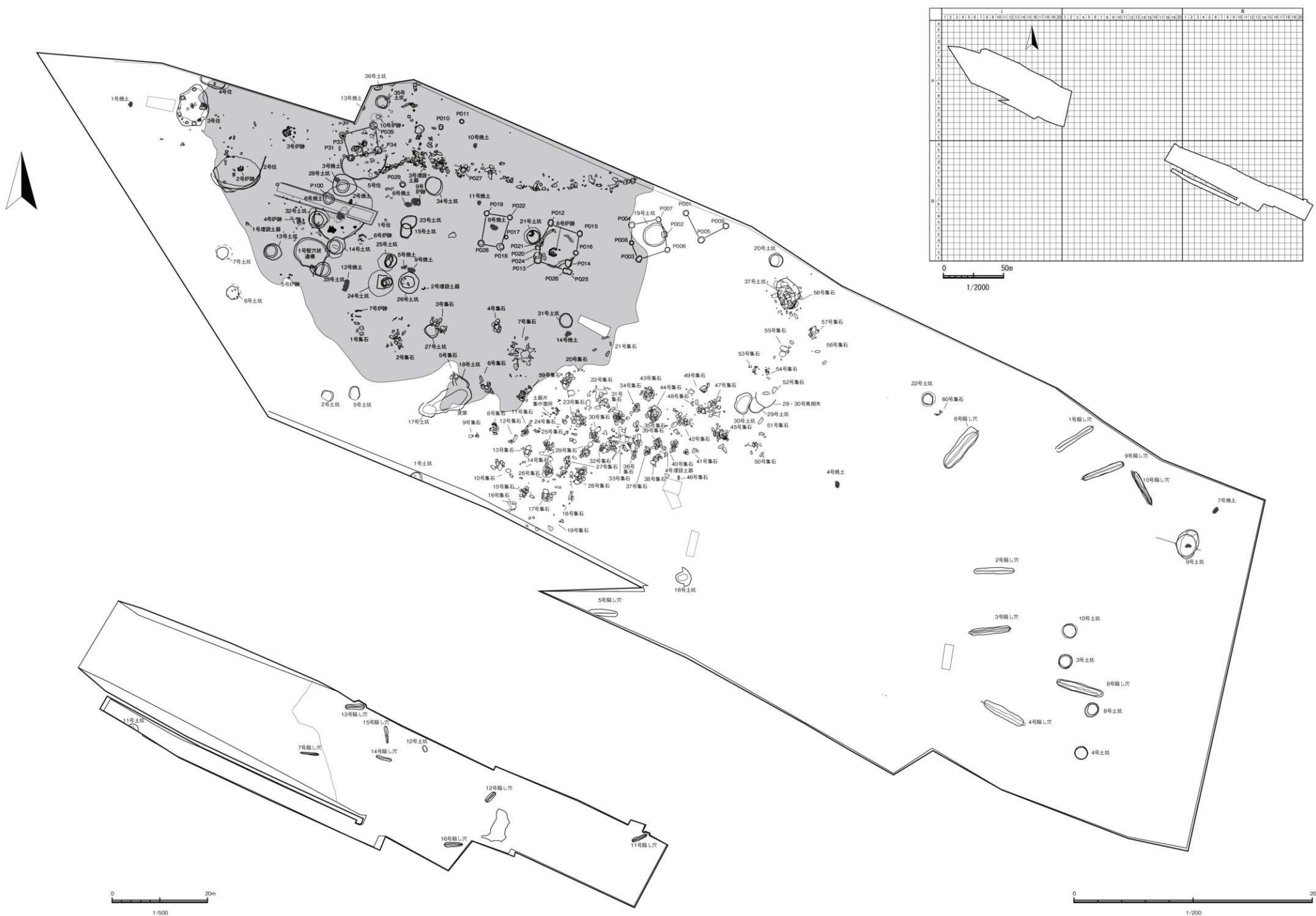
発行 平成29年3月17日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001

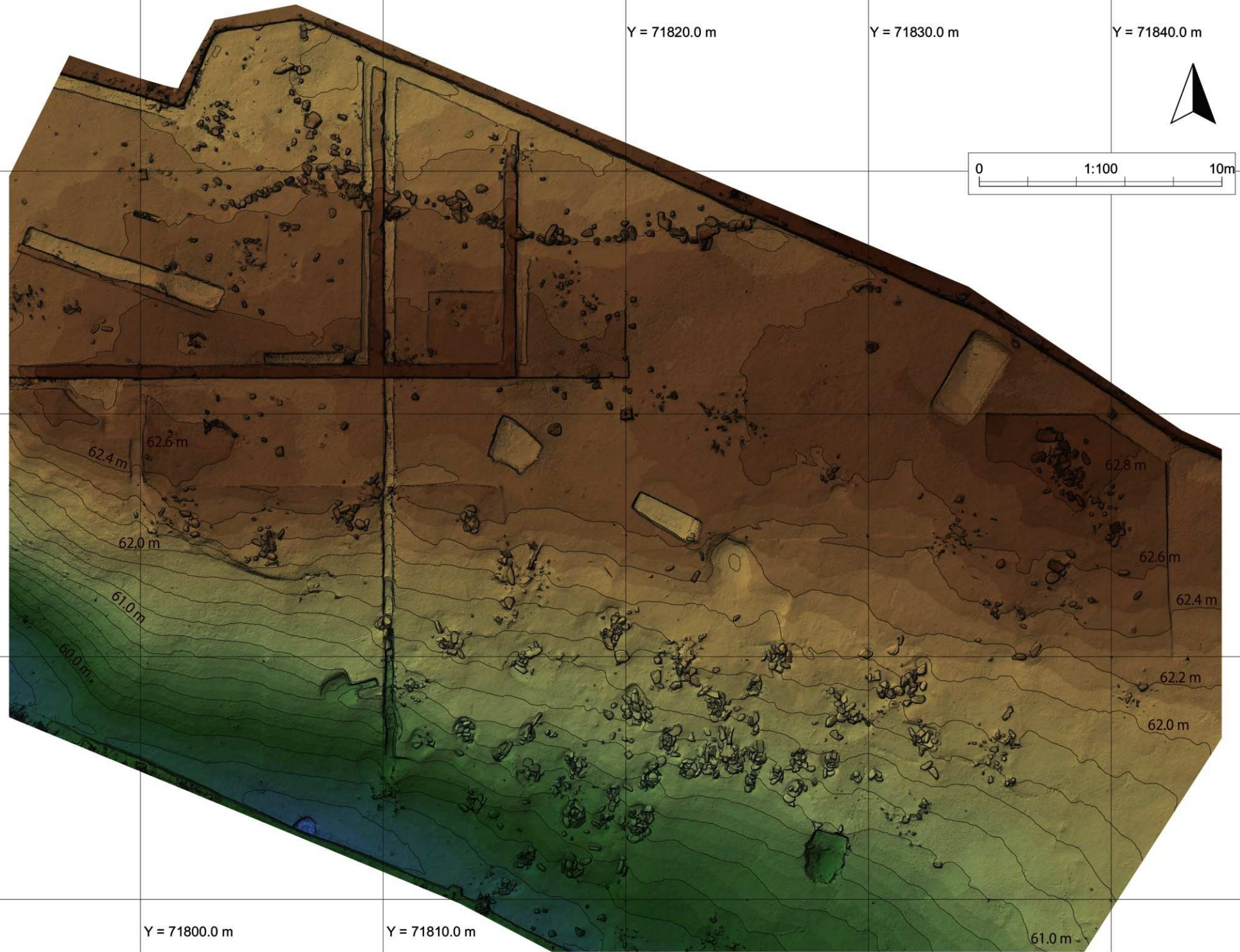
発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号
電話 (0193) 71-1716

(公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235

印刷 (株)杜陵印刷
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ二丁目22番地50号
電話 (019) 641-8000



付図1 遺構配置図



Y = 71790.0 m

Y = 71800.0 m

Y = 71810.0 m

61.0 m

付図2 立体遺構図

